国 衙 中 割 遺 跡

－九十九地区生涯学習センター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2018

群馬県安中市教育委員会

国 衙 中 割 遺 跡

－九十九地区生涯学習センター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2018

群馬県安中市教育委員会

国衙中割遺跡　遠景（東から）

H－20 号住居址
鹿形土製品と祭祀関連遺物

H－11 号住居址　墨書土器・風字硯

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、妙義山の東麓に広がる緑豊かな田園都市です。市内を流れる碓氷川とその支流によって形成された河岸段丘上には、悠久の昔から私たちの祖先が残した遺跡が数多く存在しています。また古来より交通の要として栄え、古代律令制下の官道である東山道、近世の中山道、そして近代にはアプト式鉄道に代表される鉄道施設等、多くの歴史遺産を有しています。これらの遺産は国民共有の財産であり、後世へ正しく伝えることが私たちの責任であると考えます。

今回報告する「国衙中割遺跡」は、安中市松井田町国衙地区にあり、碓氷川の支流である九十九川と増田川に挟まれた細野原丘陵上に位置しています。細野原丘陵は、市北西部に位置する剣の峰から南東に延びる丘陵で、本遺跡が位置する一帯は比較的なだらかな台地状を呈し、その多くが水田や畑地等の農地として利用されています。

また「国衙」と言う地名からも、古代よりこの地が松井田地区の中心地域として、人々の生活の舞台となっていたようで、歴史遺産も多く存在しています。

「国衙中割遺跡」の調査は九十九地区生涯学習センター建設事業に先立ち実施いたしました。発掘調査により古墳時代と平安時代の村の跡が確認されました。

古墳時代は６世紀から７世紀の住居址などが７棟、平安時代は９世紀から 10 世紀の住居址などが 14 棟検出されました。遺物も土器を中心に多くが出土しました。注目されるものとしては、古墳時代の住居址からシカの形をした土製品が出土しています。

このように今回の調査により、国衙地区の古墳時代と平安時代の歴史に、新たな１ページを加えることができました。このように調査を一つ一つ積み重ね、歴史を正しく記録して後世に伝えていくことが重要な責務といえます。調査した遺跡は元の姿に戻すことができません。本報告書が国衙地区を始め安中市域の歴史を解明する一助となり、幅広く活用されることを願います。

最後に、調査に参加していただいた皆様、報告書刊行にご協力・ご指導をいただいた多くの方々に厚く御礼を申し上げ、序といたします。

平成３０年３月

安中市教育委員会
教育長　桑　原　幸　正

例　言

1　本書は、安中市が実施した九十九地区生涯学習センター建設事業に伴い、平成26年度より安中市教育委員会が発掘調査及び資料整理を実施した、国衙中割遺跡（こくがなかわりいせき）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　調査地は群馬県安中市国衙字中割１１５－１他である。遺跡名は国衙中割遺跡（こくがなかわりいせき）（遺跡略号Ｋ８）、調査面積は約732㎡である。

3　発掘調査・資料整理は、安中市教育委員会と安中市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係主事菅原達彦の指導のもと、有限会社毛野考古学研究所 日沖剛史・有山径世が実施した。

4　発掘調査は平成27年１月５日より平成27年３月31日まで、資料整理は平成28年度から29年度の間断続的に実施した。

5　本書の編集は有限会社毛野考古学研究所 有山径世 が行った。執筆は第１章を安中市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係主幹 千田茂雄が、他を有限会社毛野考古学研究所 有山径世が担当した。

6　発掘調査における資料、出土遺物は一括して安中市教育委員会で保管している。

7　発掘調査・資料整理及び本書の作成にあたり、以下の方々に各種ご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。（順不同・敬称略）

有限会社毛野考古学研究所　株式会社飯沼組　株式会社アクティオ　神戸聖語　三浦京子

8　調査組織

平成26年度

安中市教育委員会事務局

教育長：桑原幸正

教育部長：田村昌俊

文化財保護課長　須藤　朗

埋蔵文化財係長（主幹・文化財保護主事）　千田茂雄（事務総括）

　主査　瀧川仲男

　主査（文化財保護主事）井上愼也

　主事（文化財保護主事）菅原達彦（調査担当）

　行政事務嘱託　壁　伸明

平成28年度

安中市教育委員会事務局

教育長：桑原幸正

教育部長：田村昌俊

文化財保護課長　須藤　朗

埋蔵文化財係長（主幹・文化財保護主事）　千田茂雄（事務総括）

　主査　小川知哉

　主査（文化財保護主事）井上愼也

　主事（文化財保護主事）菅原達彦（整理担当）

平成29年度

安中市教育委員会事務局

教育長：桑原幸正

教育部長：田中秀雄

文化財保護課長　大竹将夫

埋蔵文化財係長（主幹・文化財保護主事）　千田茂雄（事務総括・整理担当）

主査　小川知哉

主査（文化財保護主事）井上愼也

主事　壁　崇志

9　発掘調査・資料整理従事者

発掘調査　生駒朝男、今井保美、岩井英雄、岩坂康男、上原　上、鬼形栄子、染谷綾子、多胡榮夫、多胡わぐり、萩原治枝、湯本久江

資料整理　鬼形敦子（整理作業総括、遺物実測）、廣上良枝（遺物実測）、中里徳子（遺物実測）、鬼形栄子、染谷綾子、磯　洋子、大塚規子、小野澤絹子、瀬尾則子、竹中美保子、田村健志、山下奈邦子、渡辺博子

凡　例

1　遺構図中の方位記号は磁北を表している。座標系は世界測地系を使用した。

2　遺構実測図は1/40を基本とし、全体図は1/200とした。

3　遺物実測図は1/4を基本とし、土製品・石製品・鉄製品は1/1・1/2・1/3・1/8とした。

4　遺物実測図中の断面黒塗りは須恵器の還元焔焼成を、トーンは以下の意味を表している。

灰釉　緑釉　黒色処理　羽口・鉄滓ガラス質

羽口熱変色　鉄滓サビ

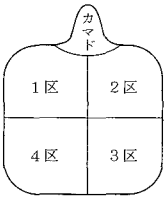
5　本文および表中等で記す火山降下物の名称は、以下の略号を用いている。

浅間A軽石（1783年）：As-A、浅間B軽石（1108年）：As-B、

浅間C軽石（3世紀後葉～末葉）：As-C、浅間板鼻黄色軽石層：As-YP

6　遺構名の略号には、竪穴住居址：H、溝：M、土坑：Dを用いている。

7　竪穴住居址の遺物取り上げは竪穴を4分割にして行い、カマドは別として扱った。分割方法はカマドを上に設定し、カマドの左側を1区とし、時計回りに1～4区と呼称した。



8　遺物観察表内の（　）は復元推定値を、＜　＞は残存値を表している。

9　遺構土層および土器の色調観察は『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修　2006）に従った。

10　遺物番号は、実測図・観察表・写真図版ともに共通である。

11　本書掲載の第1図は安中市発行1/2,500「安中市都市計画基本図」、第2図は国土交通省国土地理院発行1/25,000「松井田」「三ノ倉」を使用した。

目　　次

巻頭写真
序
例言
凡例
目次

第１章　調査に至る経過 …… 1
第２章　調査の方法と経過 …… 2
　第１節　調査の方法 …… 2
　第２節　調査の経過 …… 2
第３章　遺跡の位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第４章　基本層序 …… 7
第５章　遺構と遺物 …… 7
　第１節　概要 …… 7
　第２節　古墳時代 …… 10
　　（１）竪穴住居址 …… 10
　　（２）土坑 …… 38
　第３節　平安時代 …… 38
　　（１）竪穴住居址 …… 38
　第４節　中世 …… 70
　　（１）溝 …… 70
　　（２）土坑 …… 74
　第５節　遺構外出土遺物 …… 76
第６章　成果と問題点 …… 79
写真図版
発掘調査報告書抄録

挿図目次

第１図　調査区位置図…… 1
第２図　周辺の遺跡位置図…… 4
第３図　基本層序…… 7
第４図　全体図…… 8
第５図　グリッド遺物出土状況図…… 9
第６図　Ｈ－７号住居址（１）…… 10
第７図　Ｈ－７号住居址（２）…… 11
第８図　Ｈ－７号住居址出土遺物…… 12
第９図　Ｈ－８号住居址（１）…… 14
第10図　Ｈ－８号住居址（２）…… 15
第11図　Ｈ－８号住居址出土遺物（１）…… 15
第12図　Ｈ－８号住居址出土遺物（２）…… 16
第13図　Ｈ－８号住居址出土遺物（３）…… 17
第14図　Ｈ－８号住居址出土遺物（４）…… 18
第15図　Ｈ－９ａ号住居址出土遺物…… 23
第16図　Ｈ－９ａ号住居址（１）…… 24
第17図　Ｈ－９ａ号住居址（２）…… 25
第18図　Ｈ－９ｂ号住居址（１）…… 27
第19図　Ｈ－９ｂ号住居址（２）…… 28
第20図　Ｈ－９ｂ号住居址出土遺物…… 28
第21図　Ｈ-10号住居址出土遺物…… 29
第22図　Ｈ-10号住居址…… 30
第23図　Ｈ-13号住居址（１）…… 32
第24図　Ｈ-13号住居址（２）…… 33
第25図　Ｈ-13号住居址出土遺物（１）…… 33
第26図　Ｈ-13号住居址出土遺物（２）…… 34
第27図　Ｈ-20・21号住居址（１）…… 36
第28図　Ｈ-20・21号住居址（２）…… 37
第29図　Ｈ-20号住居址出土遺物…… 37
第30図　Ｄ－７号土坑…… 38
第31図　Ｈ－１号住居址出土遺物…… 38
第32図　Ｈ－１号住居址…… 39
第33図　Ｈ－２号住居址…… 40
第34図　Ｈ－２号住居址出土遺物…… 41
第35図　Ｈ－３号住居址…… 43
第36図　Ｈ－３号住居址出土遺物…… 44
第37図　Ｈ－４号住居址…… 46
第38図　Ｈ－４号住居址出土遺物…… 47
第39図　Ｈ－５号住居址…… 49
第40図　Ｈ－５号住居址出土遺物…… 50
第41図　Ｈ-11号住居址出土遺物（１）…… 51
第42図　Ｈ-11号住居址…… 52
第43図　Ｈ-11号住居址出土遺物（２）…… 53
第44図　Ｈ-12号住居址…… 55
第45図　Ｈ-12号住居址出土遺物…… 56
第46図　Ｈ-14号住居址…… 57
第47図　Ｈ-14号住居址出土遺物（１）…… 57
第48図　Ｈ-14号住居址出土遺物（２）…… 58
第49図　Ｈ-15号住居址…… 59
第50図　Ｈ-15号住居址出土遺物…… 60
第51図　Ｈ-16号住居址…… 61
第52図　Ｈ-16号住居址出土遺物…… 61
第53図　Ｈ-17号住居址…… 63
第54図　Ｈ-17号住居址出土遺物…… 63
第55図　Ｈ-18号住居址…… 64
第56図　Ｈ-18号住居址出土遺物…… 65
第57図　Ｈ-19号住居址…… 66
第58図　Ｈ-19号住居址出土遺物…… 67
第59図　Ｈ-21号住居址出土遺物…… 69
第60図　Ｍ－１号溝出土遺物…… 70
第61図　Ｍ－１・６号溝…… 71
第62図　Ｍ－２～５・７・９・10号溝…… 72
第63図　Ｍ－８・11号溝…… 73
第64図　Ｄ－１～６号土坑…… 75
第65図　遺構外出土遺物…… 77
第66図　古墳時代の土器群…… 81
第67図　螺旋状暗文の黒色土器…… 82
第68図　古代の土器群…… 83
第69図　鹿意匠の土製品…… 85

表目次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 5
第２表　Ｈ－７号住居址出土遺物観察表 …… 12
第３表　Ｈ－８号住居址出土遺物観察表（１） …… 19
第４表　Ｈ－８号住居址出土遺物観察表（２） …… 20
第５表　Ｈ－８号住居址出土遺物観察表（３） …… 21
第６表　Ｈ－８号住居址出土遺物観察表（４） …… 22
第７表　Ｈ－９ａ号住居址出土遺物観察表（１） …… 23
第８表　Ｈ－９ａ号住居址出土遺物観察表（２） …… 26
第９表　Ｈ－９ｂ号住居址出土遺物観察表（１） …… 28
第10表　Ｈ－９ｂ号住居址出土遺物観察表（２） …… 29
第11表　Ｈ-10号住居址出土遺物観察表 …… 31
第12表　Ｈ-13号住居址出土遺物観察表（１） …… 34
第13表　Ｈ-13号住居址出土遺物観察表（２） …… 35
第14表　Ｈ-20号住居址出土遺物観察表 …… 37
第15表　Ｈ－１号住居址出土遺物観察表 …… 39
第16表　Ｈ－２号住居址出土遺物観察表 …… 42
第17表　Ｈ－３号住居址出土遺物観察表（１） …… 44
第18表　Ｈ－３号住居址出土遺物観察表（２） …… 45
第19表　Ｈ－４号住居址出土遺物観察表（１） …… 45
第20表　Ｈ－４号住居址出土遺物観察表（２） …… 48
第21表　Ｈ－５号住居址出土遺物観察表（１） …… 48
第22表　Ｈ－５号住居址出土遺物観察表（２） …… 50
第23表　Ｈ－５号住居址出土遺物観察表（３） …… 51
第24表　Ｈ-11号住居址出土遺物観察表 …… 54
第25表　Ｈ-12号住居址出土遺物観察表 …… 56
第26表　Ｈ-14号住居址出土遺物観察表 …… 58
第27表　Ｈ-15号住居址出土遺物観察表 …… 59
第28表　Ｈ-16号住居址出土遺物観察表 …… 62
第29表　Ｈ-17号住居址出土遺物観察表 …… 62
第30表　Ｈ-18号住居址出土遺物観察表 …… 65
第31表　Ｈ-19号住居址出土遺物観察表 …… 68
第32表　Ｈ-21号住居址出土遺物観察表 …… 69
第33表　Ｍ－１号溝出土遺物観察表 …… 70
第34表　遺構外出土遺物観察表（１） …… 78
第35表　遺構外出土遺物観察表（２） …… 79

写真図版目次

PL. 1　国衙中割遺跡 全景
PL. 2　Ｈ－７号住居址 完掘状況
Ｈ－７号住居址 遺物出土状況
Ｈ－７号住居址 カマド完掘状況
Ｈ－８号住居址 遺物出土状況
Ｈ－８号住居址 カマド完掘状況
PL. 3　Ｈ－８号住居址 完掘状況
Ｈ－８号住居址 遺物出土状況
Ｈ－８号住居址 遺物出土状況
Ｈ－８号住居址 遺物出土状況
Ｈ－８号住居址 Ｐ－５遺物出土状況
PL. 4　Ｈ－９ａ・９ｂ号住居址 完掘状況
Ｈ－９ａ・９ｂ号住居址 遺物出土状況
Ｈ-10号住居址 遺物出土状況
Ｈ-10号住居址 カマド完掘状況
Ｈ-10号住居址 完掘状況
PL. 5　Ｈ-10号住居址 遺物出土状況
Ｈ-10号住居址 遺物出土状況
Ｈ-13号住居址 完掘状況
Ｈ-13号住居址 カマド完掘状況
Ｈ-13号住居址 カマド遺物出土状況
PL. 6　Ｈ-13号住居址 遺物出土状況
Ｈ-13号住居址 遺物出土状況
Ｈ-20号住居址 遺物出土状況
Ｈ-20号住居址 遺物出土状況
Ｈ-20号住居址 遺物出土状況
Ｈ-20号住居址 遺物出土状況
Ｈ-20号住居址 カマド完掘状況
PL. 7　Ｈ-20号住居址 完掘状況
Ｈ－１号住居址 完掘状況
Ｈ－２号住居址 カマド完掘状況
Ｈ－２号住居址 カマド遺物出土状況
PL. 8　Ｈ－２号住居址 遺物出土状況
Ｈ－３号住居址 完掘状況
Ｈ－３号住居址 カマド完掘状況
Ｈ－４号住居址 カマド遺物出土状況
PL. 8　Ｈ－４号住居址 カマド完掘状況
PL. 9　Ｈ－４号住居址 完掘状況
Ｈ－５号住居址 完掘状況
Ｈ－５号住居址 カマド完掘状況
Ｈ-11号住居址 完掘状況
Ｈ-11号住居址 遺物出土状況
PL. 10　Ｈ-11号住居址 カマド礫出土状況
Ｈ-11号住居址 カマド完掘状況
Ｈ-11号住居址 カマド遺物出土状況
Ｈ-11号住居址 右袖内礫出土状況
Ｈ-11号住居址 遺物出土状況
PL. 11　Ｈ-12号住居址 完掘状況
Ｈ-14号住居址 完掘状況
Ｈ-14号住居址 Ｐ-1遺物出土状況
Ｈ-15号住居址 完掘状況
Ｈ-15号住居址 遺物出土状況
PL. 12　Ｈ-16号住居址 完掘状況
Ｈ-16号住居址 カマド完掘状況
Ｈ-17号住居址 完掘状況
Ｈ-17号住居址 カマド完掘状況
Ｈ-19号住居址 完掘状況
PL. 13　Ｈ-18号住居址 完掘状況
Ｈ-21号住居址 セクション
Ｄ－１号土坑 完掘状況
Ｄ－２号土坑 完掘状況
Ｄ－３号土坑 完掘状況
Ｄ－４号土坑 完掘状況
Ｄ－５号土坑 完掘状況
Ｄ－６号土坑 完掘状況
PL. 14　Ｄ－７号土坑 完掘状況
Ｍ－１号溝 完掘状況
Ｍ－２号溝 完掘状況
Ｍ－４号溝 完掘状況
Ｍ－３号溝 完掘状況
Ｍ－５号溝 完掘状況
Ｍ－６号溝 完掘状況
PL. 15　Ｍ－７号溝 完掘状況
Ｍ－８号溝 完掘状況
Ｍ－９号溝 完掘状況
Ｍ-10号溝 完掘状況
基本層序
調査状況 Ｈ－２号住居址
調査状況 Ｈ－７号住居址
調査状況 Ｈ-20号住居址
PL. 16　Ｈ－７号住居址出土遺物
Ｈ－８号住居址出土遺物（１）
PL. 17　Ｈ－８号住居址出土遺物（２）
PL. 18　Ｈ－８号住居址出土遺物（３）
PL. 19　Ｈ－９ａ号住居址出土遺物
Ｈ－９ｂ号住居址出土遺物（１）
PL. 20　Ｈ－９ｂ号住居址出土遺物（２）
Ｈ-10号住居址出土遺物
Ｈ-13号住居址出土遺物（１）
PL. 21　Ｈ-13号住居址出土遺物（２）
Ｈ-20・Ｈ－１・Ｈ－２号住居址
出土遺物
PL. 22　Ｈ－３・Ｈ－４号住居址出土遺物
Ｈ－５号住居址出土遺物（１）
PL. 23　Ｈ－５号住居址出土遺物（２）
Ｈ-11号住居址出土遺物
Ｈ-12号住居址出土遺物（１）
PL. 24　Ｈ-12号住居址出土遺物（２）
Ｈ-14・Ｈ-15・Ｈ-16・
Ｈ-17号住居址出土遺物
PL. 25　Ｈ-18・Ｈ-19・Ｈ-21号住居址
出土遺物
PL. 26　Ｍ－１号溝出土遺物
遺構外出土遺物
墨書赤外線写真

第１章　調査に至る経過

平成 25 年 10 月、安中市文化センターより九十九地区生涯学習センター建設事業の実施に伴う埋蔵文化財の照会があった。事業地内は埋蔵文化財包蔵地内にあることから、事業実施に先立ち埋蔵文化財の取り扱いについて事前協議を実施する必要のある旨を安中市文化センターへ伝えた。

その後、安中市文化センターと市教育委員会の間で文化財保護のための協議を行った。協議においては、文化財保護のための計画変更をも含め再三にわたり行われた。しかし、計画変更を行っても埋蔵文化財への影響は避けられないことから、当初の計画どおり事業を実施することとなった。そのため、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。

第１図　調査区位置図

第２章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

本遺跡の登録番号は安中市遺跡№U 88 である。昭和 60 年度の町道国衙・朝日線改良工事に先立ち実施された発掘調査で、縄文時代から平安時代の複合遺跡であることがすでに判明している。

発掘調査　重機による表土掘削後、ジョレンを用いて人力による遺構検出作業を行った。当初の遺構確認面は As-B 一次堆積層下の黒褐色土で、遺構の検出が困難であった。そのため、まずは調査区全域をカバーするようにグリッドを設定し、散在する遺物を取り上げることとした（第１面）。グリッドは４ｍ×４ｍで、北から南へＡ・Ｂ・Ｃ…Ｋ、西から東へ１・２・３・４と表し、北西角をグリッドの呼称とした。調査区北角を基準としたグリッドのため、座標軸とグリッド軸は一致しておらず、国家座標（世界測地系）へも取り付けていない任意のものである。遺物取り上げ後に、重機により約 25 ㎝下の竪穴住居址を確認できる面まで下げて調査を行った（第２面）。しかし、この面でも捉えきれない遺構があり、第２面の調査後に再び重機で約 30 ㎝下げ最終確認を行った（第３面）。

遺構の調査に際し、安中市教育委員会では通常、竪穴住居址について「分層 16 分割法」を用い遺物を取り上げるが、今回の調査では土層観察用の十字ベルトを基にして４分割で取り上げた。溝は適宜土層観察用ベルトを設定し、土坑は半截した。図面・写真による記録は、土層断面・遺物出土状況・完掘状況等の各段階において行った。遺構図は縮尺 1/20 を基本とし、平面図は光波を用い、土層断面図は手実測で測量した。写真は 35 ㎜のカラーおよびモノクロフィルムで撮影した。作業進捗状況等の記録用にはデジタルカメラを適宜用いた。航空写真はファントムにて撮影した。

資料整理　遺物の注記には次の略記号を使用した。遺跡名→Ｋ８、竪穴住居址→Ｈ、土坑→Ｄ、溝→Ｍである。接合にはセメダインＣを、復元にはエポキシ樹脂を使用した。遺物実測は原寸で行い、須恵器等の破片については拓本を用いた。遺物写真はニコンデジタル一眼レフＤ 750 で撮影した。図面トレースについては、遺構図は Adobe IllustrtorCS2、遺物図はロットリングによる手トレースで行った。遺物写真の加工には Photoshop6.0、報告書の編集には Adobe InDesignCS2 を用いた。

第２節　調査の経過

発掘調査　試掘調査は平成 26 年 12 月２日から同年 12 月４日に行われた。調査区内に３本のトレンチを設定して確認したところ、古代の住居址、中世の溝・土坑および、縄文時代～古代の遺物が多数検出された。この結果を受け、平成 27 年１月５日から同年３月 31 日にかけて本調査を実施した。第１節に記したように３面にわたる調査となった。第１面は１月５日～ 22 日にかけて遺物取り上げとＭ－１号溝の調査、第２面は１月 23 日～２月 20 日にかけてＨ－１～6号住居址、Ｍ－２～ 11 号溝、Ｄ－１～6号土坑の調査、第３面は２月 23 日～３月 31 日にかけてＨ－７～ 21 号住居址、Ｄ－７号土坑の調査を行った。

資料整理　発掘調査の終了後、平成 30 年３月 31 日まで断続的に実施した。安中市教育委員会にて遺物の洗浄・注記、接合・復元、実測・拓本および、遺構の図面修正・トレース・図版作成まで行った後に、㈲毛野考古学研究所にて遺物の写真撮影・加工・図版作成、遺物実測図および拓本の修正、遺物実測図トレース・図版作成、原稿執筆、報告書の編集作業を行った。

第３章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

安中市は関東平野の周辺部である群馬県西部に位置する。市の北西部から南西部にかけては、本県と長野県境を分かつ標高 1000m を超える山々が連なっている。この付近からは数多くの小河川が流出しており、これらは合流を重ねつつ市東部の平野へと至る。これらの河川のうち、比較的大規模なものが碓氷川とその支流の九十九川、九十九川の支流の増田川である。この３河川は、北西から南東方向へ並行するように流下している。各河川の間には河岸段丘が発達し、分水嶺となる丘陵が河川に並走して延びている。各丘陵は北側から、増田川左岸の長者久保・上野丘陵、増田川と九十九川に挟まれた細野原丘陵、九十九川と碓氷川に挟まれた松井田丘陵となる。

本遺跡が立地するのは細野原丘陵の末端部であり、九十九川の左岸段丘上にあたる。細野原丘陵は、剣の峰（1429.6m）から南東に延びる松井田丘陵より霧積ダム東方付近で分岐し、高戸谷山（739.3m）を経て増田川・九十九川の合流点へと続く丘陵である。丘陵上は標高 500m 付近以下より、なだらかな台地状を呈するようになる。そして、増田川と九十九川の合流点が近づく標高 250m 付近以下になると、地形はいっそうなだらかとなる。九十九川左岸の段丘面は、低位段丘面は水田、中位段丘面は住宅地・水田・畑地、上位段丘面は畑地として主に利用されている。

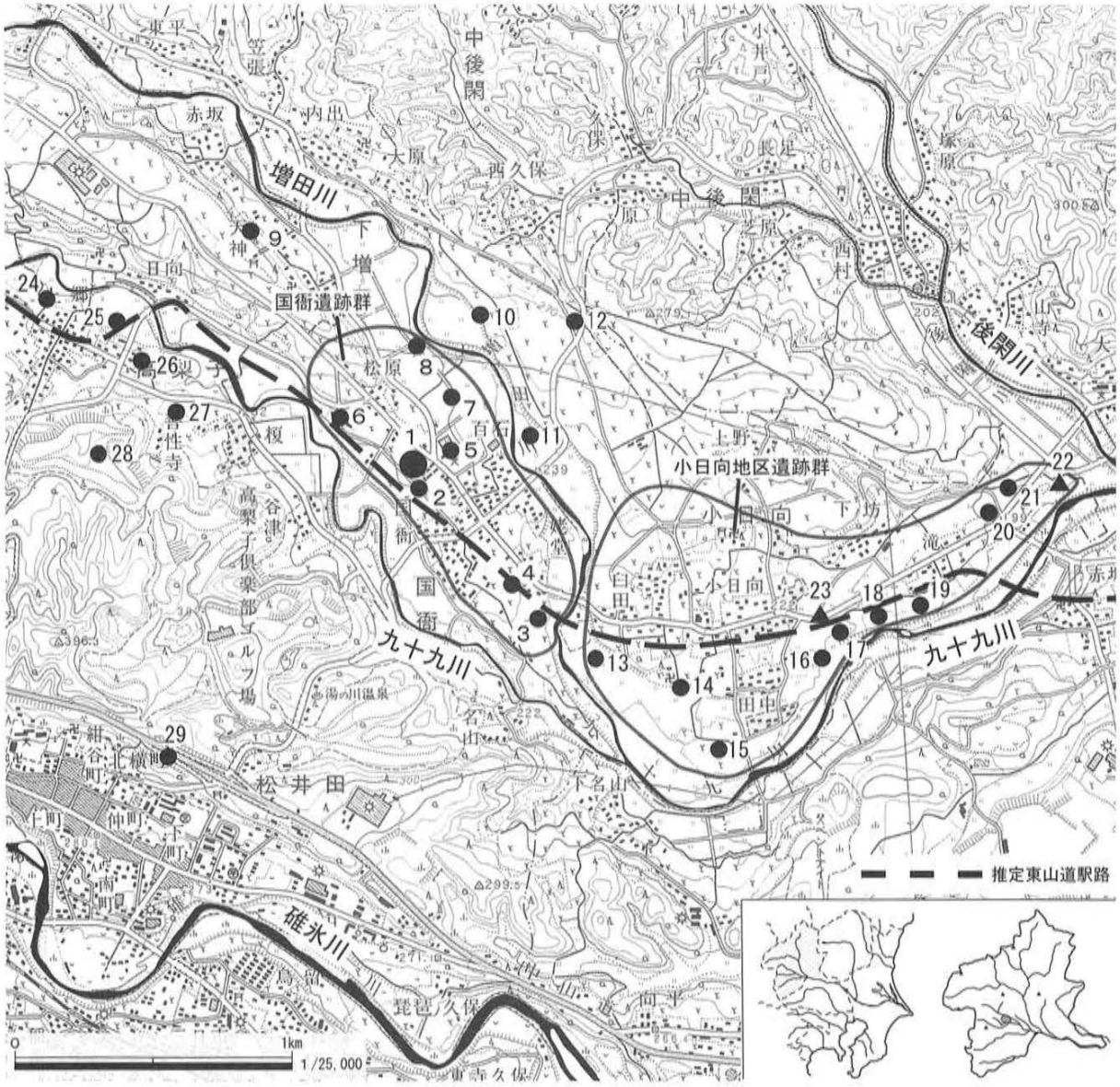
本遺跡は、この中位段丘面の国衙地内に位置する。調査区内の標高は北東隅で 250.18m を測り、北東から南西側へのごくゆるやかな傾斜をもっている。遺跡の南西には松井田丘陵越しに妙義山が偉容を示し、西には浅間山、北西から西にかけては長野県境の山々を一望できる。

第２節　歴史的環境

本遺跡（１）は国衙遺跡群を構成する遺跡のひとつである。国衙遺跡群ではこれまでに国衙遺跡群Ⅱ（２）、国衙下辻遺跡（３）、国衙下辻Ⅱ遺跡（４）、下増田松原遺跡（５）、国衙森浦・朝日遺跡（６）、下増田下田中遺跡（７）、下増田上田中遺跡（８）などが調査されている。ここでは本遺跡群の主体をなす縄文時代～奈良・平安時代を中心に、周辺の遺跡について概観する。

縄文時代　前期に集落が確認され始め、下増田松原遺跡で諸磯式期の竪穴住居址、増田川左岸の長者久保・上野丘陵上に位置する下増田下原遺跡（12）および、九十九川右岸に位置する高梨子三次郎遺跡（28）で関山式期の竪穴住居址が検出されている。中期加曽利Ｅ式期には国衙遺跡群Ⅱで埋甕、下増田上田中遺跡で柄鏡形敷石住居址が検出されている。本遺跡群の東方に展開する小日向地区遺跡群においても、小日向壱丁田Ⅱ遺跡（17）で加曽利Ｅ式期の列石が検出されている。後期には、国衙遺跡群Ⅱで称名寺式期の伏甕、小日向田中西遺跡（15）で堀之内式期～加曽利Ｂ式期の敷石住居址が検出されている。また、国衙森浦・朝日遺跡では遺構は認められないものの、前期から後期の遺物が一定量出土し、本遺跡の北西に位置する下増田天神原遺跡（９）では三角壔形土製品が採集されている。

弥生時代　中期後半の栗林Ⅱ式期以降に遺構が検出され始める。栗林Ⅱ式期の竪穴住居址は国衙遺跡群Ⅱ・国衙下辻遺跡・小日向遠地谷戸遺跡（20）で数棟検出されるのみであり、小規模な集落であったと推測される。国衙下辻遺跡の竪穴住居址からは独鈷石状石器が出土している。これは長野県善光寺平



第２図　周辺の遺跡位置図

周辺地域の遺跡出土のものと酷似しており、当該期における両地域の交流を示唆するものである。続く後期樽式期になると、大規模な集落が営まれるようになる。本遺跡群では国衙遺跡群Ⅱ・国衙下辻Ⅱ遺跡で数棟の竪穴住居址を検出するに留まるが、小日向地区遺跡群においては小日向田中遺跡（16）・小日向壱丁田Ⅱ遺跡（17）・小日向壱丁田遺跡（18）・小日向瀧遺跡（19）・小日向遠地谷戸遺跡で計178棟にも及ぶ竪穴住居址が検出されている。なお、当該期の墓制については不明な点が多いが、小日向田中西遺跡で後期の礫床墓が１基検出されている。

古墳時代　弥生時代後期の大集落は古墳時代に入ると姿を消す。前期には小規模な集落が小日向上新浜遺跡（13）・小日向田中遺跡・小日向瀧遺跡・小日向遠地谷戸遺跡および、九十九川右岸の高梨子森下遺跡（24）で確認される。５世紀前半は国衙下辻遺跡で竪穴住居址１棟を確認するのみである。５世紀後半に入ると再び大規模な集落が営まれるようになる。国衙下辻遺跡・小日向田中西遺跡・小日向遠丸遺跡（21）・高梨子森下遺跡などがあり、これらの集落は６世紀～７世紀前半まで継続していく。６

No.	遺跡名	所在地	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	備考	参考文献
1	国衙中割遺跡	安中市松井田町国衙 115-1 他	＊		◎	◎	△		本書報告遺跡	
2	国衙遺跡群Ⅱ	安中市松井田町国衙 40 他	△	◎	◎	◎			弥生・平安時代集落	1
3	国衙下辻遺跡	安中市松井田町国衙 329 他	＊	○	◎	＊	△		弥生・古墳時代集落、古墳１（１号古墳：５c 末～６初ヵ）	2
4	国衙下辻Ⅱ遺跡	安中市松井田町国衙 348 他	＊	◎	◎	＊	△	△	弥生・古墳時代集落	3
5	下増田松原遺跡	安中市松井田町下増田 447-1 他	○		＊	＊			縄文時代集落	4
6	国衙森浦・朝日遺跡	安中市松井田町国衙 21-1 他	＊	○	○	○			昭和 59 ～ 60 年松井田町教育委員会調査	
7	下増田下田中遺跡	安中市松井田町下増田甲 360 他	○		○	○			平成６年松井田町教育委員会調査	
8	下増田上田中遺跡	安中市松井田町下増田 554 他	○		◎	○			縄文・平安時代集落、古墳２（１号古墳：円墳・６c 前・Ｔ字形石室、２号古墳：円墳・６c 前・無袖形石室）	5
9	下増田天神原遺跡	安中市松井田町下増田 996 他	△			○			縄文時代集石、平安時代集落	6
10	下増田十二平遺跡	安中市松井田町下増田 2599 他				○			平成８年松井田町教育委員会調査	
11	下増田百石遺跡	安中市松井田町下増田 2763 他			○				平成５年松井田町教育委員会調査	
12	下増田下原遺跡	安中市松井田町下増田 2674-1 他	○			◎			縄文・奈良・平安時代集落	7
13	小日向上新浜遺跡	安中市松井田町小日向 522 他			◎				古墳時代集落	8
14	小日向白山遺跡	安中市松井田町小日向 456 他			◎	◎			古墳・平安時代集落	8
15	小日向田中西遺跡	安中市松井田町小日向 259 他	○	○	◎	◎			縄文・古墳・奈良・平安時代集落、弥生礫床墓１	8
16	小日向田中遺跡	安中市松井田町小日向 116 他		◎	◎				弥生・古墳時代集落、古墳１（権現塚古墳：６c 前）	8
17	小日向壱丁田Ⅱ遺跡	安中市松井田町小日向 842 他	△	◎	◎				縄文列石、弥生・古墳時代集落、古墳４	8
18	小日向壱丁田遺跡	安中市松井田町小日向 821 他		◎	◎	△			弥生時代集落、古墳周溝１	8
19	小日向瀧遺跡	安中市松井田町小日向 943-3 他		◎	◎	△			弥生時代集落、古墳２（１号古墳：５c 末、２号古墳：不明）	8
20	小日向遠地谷戸遺跡	安中市松井田町小日向 1155-1 他		◎	◎				弥生・古墳時代集落	8・9
21	小日向遠丸遺跡	安中市松井田町小日向 1252 他	＊	＊	◎				古墳時代集落	8
22	天皇塚遺跡	安中市松井田町小日向 1188 他			◎				形象埴輪（馬・人物等）出土・６c 前ヵ	8
23	琴平山古墳	安中市松井田町小日向 857 他			◎				前方後円墳・６c 初～前・石見型盾出土	8
24	高梨子森下遺跡	安中市松井田町高梨子 409 他	△		◎	◎			古墳・平安時代集落	10
25	高梨子柳下遺跡	安中市松井田町高梨子 447-1 他				○			As-B 下水田	10
26	高梨子八木田遺跡	安中市松井田町八木田		＊	＊	＊			遺跡散布地	
27	高梨子中貝戸遺跡	安中市松井田町高梨子字中貝戸		＊		＊			遺物散布地	
28	高梨子三次郎遺跡	安中市松井田町高梨子甲 1117 他	○			◎	△	＊	縄文・奈良・平安時代集落	11
29	愛宕山遺跡	安中市松井田町松井田 1058 他	＊	＊	◎	◎		＊	古墳～平安時代集落（萬年通寶出土）	12

◎：大規模な遺跡（集落址・古墳等）　○：中規模な遺跡（住居址・土坑等）
△：小規模な遺跡（土坑・溝等）　＊：遺物が出土した遺跡

第１表　周辺の遺跡一覧表

（参考文献）

1 『国衙遺跡群Ⅱ』1992　松井田町教育委員会
2 『国衙下辻遺跡』2010　安中市教育委員会
3 『国衙下辻Ⅱ遺跡』2014　安中市教育委員会
4 『下増田松原遺跡』2006　松井田町教育委員会
5 『下増田上田中遺跡』2012　安中市教育委員会
6 『下増田天神原遺跡』1993　松井田町埋蔵文化財調査会
7 『下増田下原遺跡』2001　松井田町下増田下原遺跡調査会
8 『小日向地区遺跡群』2010　安中市教育委員会
9 『小日向遠地谷戸遺跡』1994　松井田町教育委員会
10 『高梨子地区遺跡群』2008　安中市教育委員会
11 『高梨子三次郎遺跡』1998　松井田町埋蔵文化財調査会
12 『愛宕山遺跡』2000　群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

世紀代に新たに形成される集落としては国衙遺跡群Ⅱ・小日向白山遺跡（14）・小日向遠地谷戸遺跡がある。本遺跡でも６世紀および７世紀後半の竪穴住居址が検出されている。

古墳については、国衙遺跡群と小日向地区遺跡群で多数の存在が確認されている。国衙遺跡群では、国衙下辻遺跡で５世紀末～６世紀初頭に比定される国衙下辻１号古墳の周堀を調査している。下増田上田中遺跡では「Ｔ字形石室」を有する６世紀初頭の下増田上田中１号古墳があり、その隣りに「無袖形石室」を有する６世紀前半の下増田上田中２号古墳が所在する。小日向地区遺跡群では全体で10基の古墳が調査されている。５世紀末の小日向瀧１号古墳、６世紀前半と推測される天皇塚古墳（22）、小日向田中遺跡に所在する６世紀前半の権現塚古墳、古墳後期の小日向瀧２号古墳などがある。国衙下辻１号古墳および小日向瀧１号古墳は、九十九川流域においては最古級のものと考えられおり、本流域の古墳出現期を検討していく上で重要な資料である。また、琴平山古墳（23）は６世紀初頭～前半の前方後円墳で、全長50ｍ強を測り、安中市内においては築瀬二子塚古墳に次ぐ規模を誇る。築瀬二子塚古墳は碓氷川左岸の安中台地に位置し、安中市域に初めて登場した６世紀初頭の大型前方後円墳である。加えて、群馬県地域で最初に横穴式石室を採用した古墳でもある。規模は群馬県地域で当時としては最大級に属する。７世紀になると、本遺跡の北東方向にある秋間丘陵に古墳が形成される。同地では７～８世紀にかけて須恵器・瓦を生産する窯が操業されるようになり、秋間丘陵の古墳はこの集団との関係で捉えることができるだろう。

奈良・平安時代に入っても引き続き集落が営まれるが、古墳時代後期のような大規模な集落は確認されない。奈良時代の集落は九十九川右岸に集中し、本遺跡の立地する九十九川左岸には少ない傾向がみられる。８世紀の竪穴住居址は下増田下原遺跡・小日向田中西遺跡・高梨子森下遺跡・高梨子三次郎遺跡で数棟ずつ検出されている。９～10世紀の集落は、国衙遺跡群Ⅱ・下増田上田中遺跡・下増田下原遺跡・小日向白山遺跡・小日向田中西遺跡・高梨子森下遺跡・高梨子三次郎遺跡などで確認されている。本遺跡でも９世紀後半～10世紀初頭および、10世紀後半の竪穴住居址が検出されている。なお、11世紀の竪穴住居址は高梨子森下遺跡で１棟を確認している。また、九十九川の南に対峙する松井田丘陵上に位置する愛宕山遺跡（29）は、７世紀後半～９世紀初頭の小規模集落であるが、９世紀初頭の焼失家屋から鋸・鑿・鎌・斧・小刀・紡錘車などの鉄製品、腰帯具、萬年通寶、石製品、木製品、布、建築部材など非常に良好な資料が出土していることで特筆される。

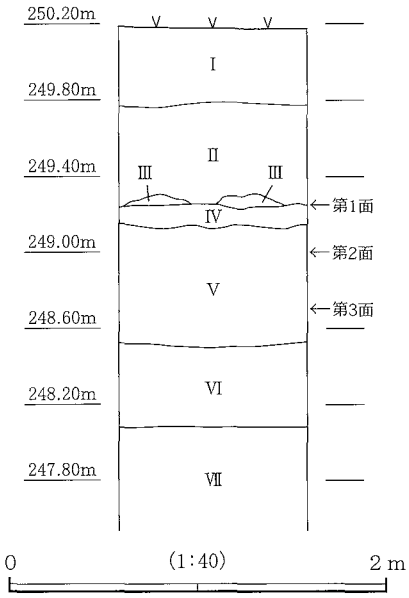
この時期の生産遺跡としては、国衙遺跡群ⅡでAs-B下の畝状遺構が、高梨子柳下遺跡（25）でAs-B下の水田址が検出されている。高梨子柳下遺跡の水田址は九十九川右岸の緩やかな北斜面上に位置し、地形の制約を受けた比較的小区画なものである。九十九川上流方向より上位段丘下に沿うような大規模な溝も検出され、As-B下水田への導入路の可能性が指摘されている。

国衙地区周辺は「国衙」という官衙に関連した地名であることや、古代律令体制期の官道である東山道駅路の推定ルートであることから従来より注目を集めてきた。これまでに官衙に関連する遺構は検出されていないが、本遺跡および国衙遺跡群Ⅱで布目瓦が出土していることを記しておきたい。東山道駅路については九十九川沿いに造られ、本遺跡の南側を通過していたと考えられている。国衙遺跡群Ⅱの調査原因となった町道国衙・朝日線にその可能性が求められたが、東山道駅路と判断される遺構は検出されなかった。ただし、国衙下辻遺跡において顕著な硬化面を有するAs-B混土層が、現農道下に数百ｍにわたって検出された。現存する地割りと併せると、中世以降の道路の可能性が高いと考えられる。

第４章　基本層序

基本層序は調査区北東隅の東面で観察した。大きく以下の７層に分層される(第３図、ＰＬ．15)。遺構確認は、第１面をⅣ層上面、第２面をⅣ層上面より 25 cm下の面、第３面をさらに 30 cm下の面で行った。

Ⅰ層　暗褐色土7.5YR3/3:現耕作土。As-Aを多量に含む。しまり・粘性弱い。
Ⅱ層　黒色土 7.5YR2/1：As-B を多量に含む。しまり・粘性弱い。
Ⅲ層　As-B 一次堆積層
Ⅳ層　黒褐色土 7.5YR3/1:白色粒(As-C ヵ)・黄橙色粒(As-YP)を少量含む。しまり・粘性ややあり。
Ⅴ層　黒褐色土 7.5YR3/1:白色粒を多量、黄橙色粒（As-YP）を少量含む。しまりあり、粘性ややあり。
Ⅵ層　灰黄褐色土 10YR4/2：白色粒・黄橙色粒（As-YP)・同ブロックを多量に含む。しまり硬い、粘性ややあり。
Ⅶ層　明褐色土 7.5YR5/8：しまり硬い、粘性ややあり。ローム層。



第３図　基本層序

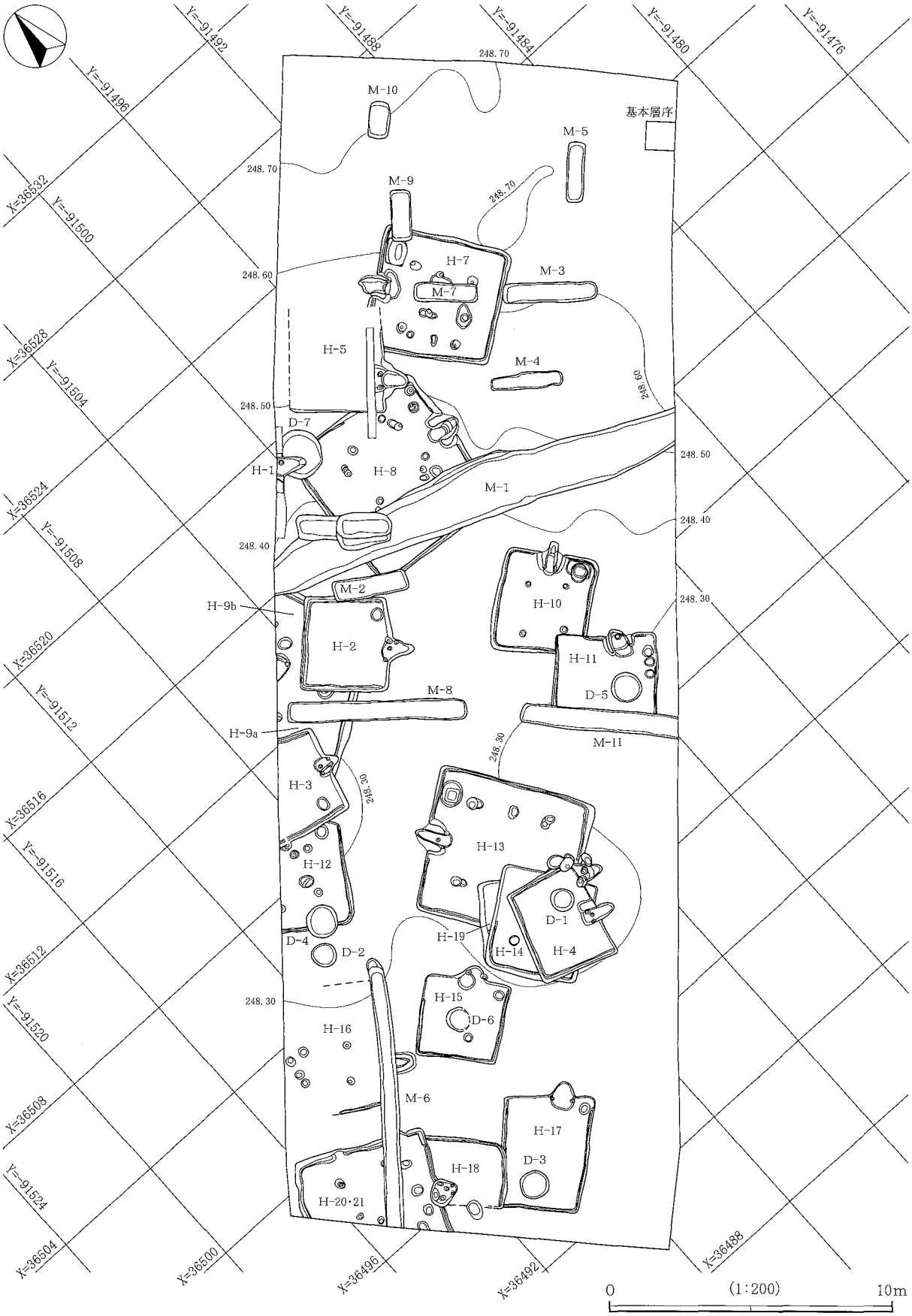
第５章　遺構と遺物

第１節　概要

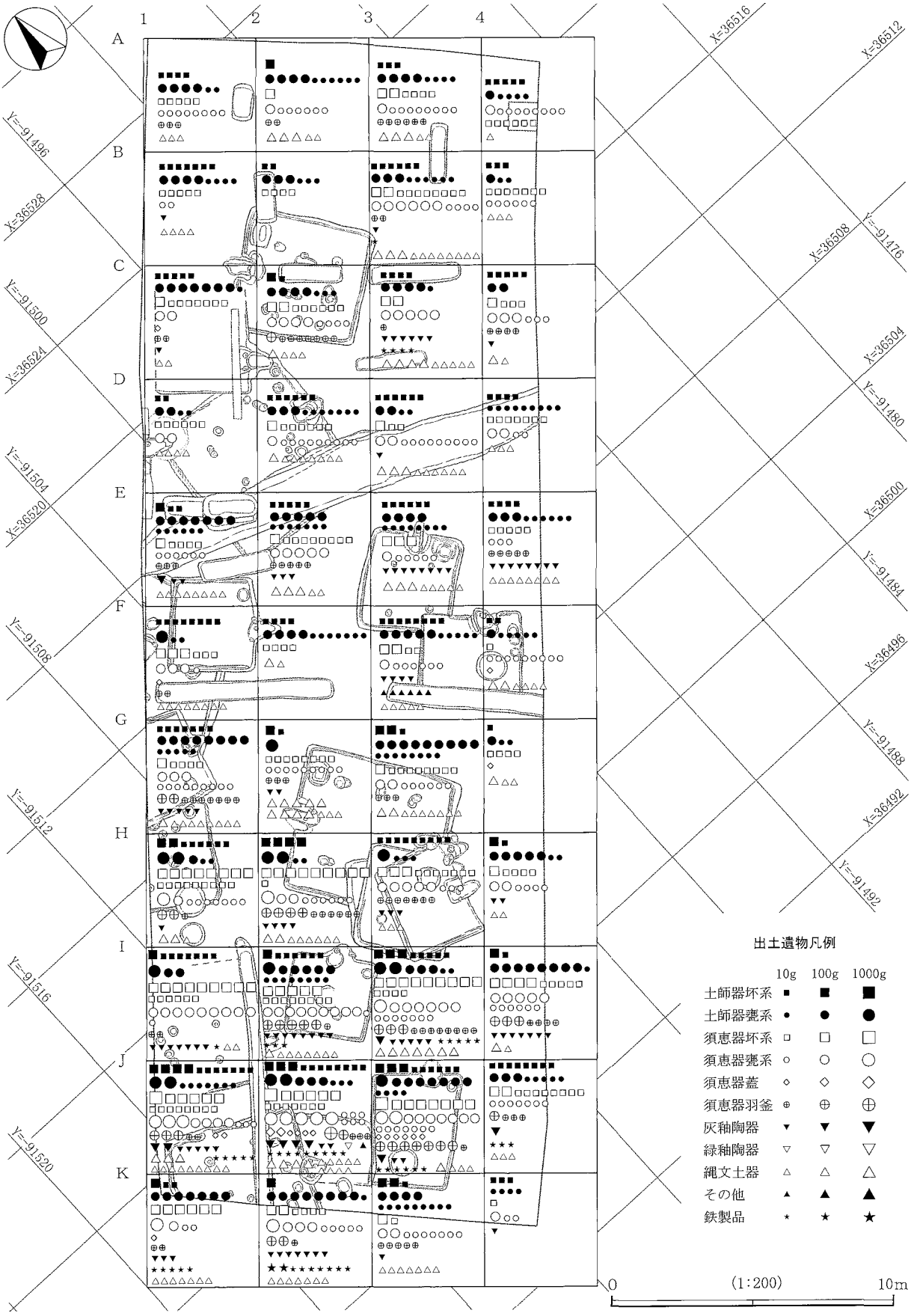
国衙中割遺跡は、九十九川左岸の中位段丘面に営まれた集落遺跡である。検出された遺構は、竪穴住居址 21 棟、溝 11 条、土坑７基である。なお、Ｈ－６号住居址については、発掘調査段階でＨ－５号住居址と同一遺構であることが判明していたため、資料整理時に欠番とした。

竪穴住居址の時期は古墳時代後期と平安時代の２時期に大別される。古墳時代は６世紀初頭が１棟(Ｈ－７号住居址)、６世紀中頃が１棟（Ｈ－9a 号住居址)、６世紀後半が３棟（Ｈ-10・13・20 号住居址)、７世紀後半が２棟（Ｈ－８・9b 号住居址）である。特筆されるのはＨ-20 号住居址より出土した鹿形土製品で、石製模造品の破片とともに床面直上で出土した。平安時代は９世紀後半が１棟（Ｈ-12 号住居址)、９世紀末～ 10 世紀初頭が１棟（Ｈ-21 号住居址)、10 世紀後半が 12 棟（Ｈ－１～５・11・14 ～ 19 号住居址）である。出土土器には土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器があり、須恵器坏・碗の中には墨書が数点認められる（Ｈ－３・11・19・21 号住居址)。土器以外では砥石、鉄製品、羽口、鉄滓などがみられ、Ｈ-11 号住居址からは風字硯が出土している。

溝および土坑は基本的に中世の帰属と考えられ、Ｄ－７号土坑のみ古墳時代と推測される。遺構外出土の遺物は、竪穴住居址に比する時期のものが多い。鉄滓の出土が目立ち、住居址から羽口が出土していることを併せると、周辺に小鍛治遺構が存在する可能性が指摘される。また、小破片ではあるが銅製品も確認されている。それ以外の時期では、縄文時代後期中葉の加曽利Ｂ式期に比定される深鉢の突起、７世紀末～８世紀の上野地域に特徴的な技法をもつ須恵器、布目圧痕のある平瓦がある。


Y=-91492
Y=-91488
Y=-91484
Y=-91480
Y=-91476
Y=-91496
Y=-91500
Y=-91504
Y=-91508
Y=-91512
Y=-91516
Y=-91520
Y=-91524
X=36532
X=36528
X=36524
X=36520
X=36516
X=36512
X=36508
X=36504
X=36500
X=36496
X=36492
X=36488
248.70
248.60
248.50
248.40
248.30
M-10
M-5
M-9
M-7
M-3
M-4
M-1
M-2
M-8
M-11
M-6
H-7
H-5
H-8
H-1
D-7
H-9b
H-2
H-10
H-11
D-5
H-9a
H-3
H-12
H-13
D-1
H-4
H-14
H-19
D-4
D-2
H-15
D-6
H-16
H-17
D-3
H-18
H-20・21
基本層序
0
(1:200)
10m

第４図　全体図



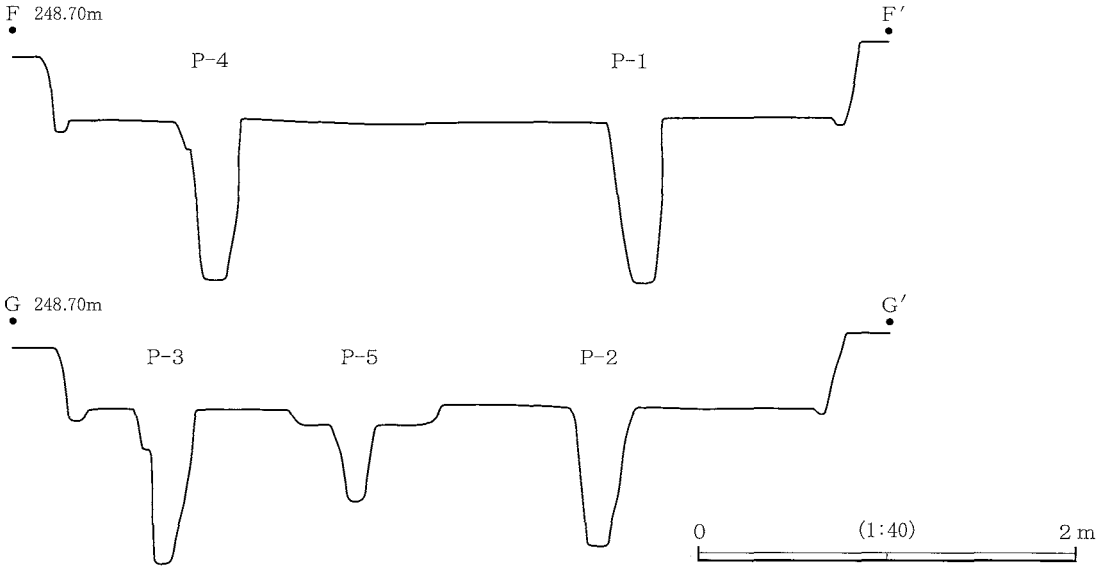
第５図　グリッド遺物出土状況図

第２節　古墳時代

（１）竪穴住居址

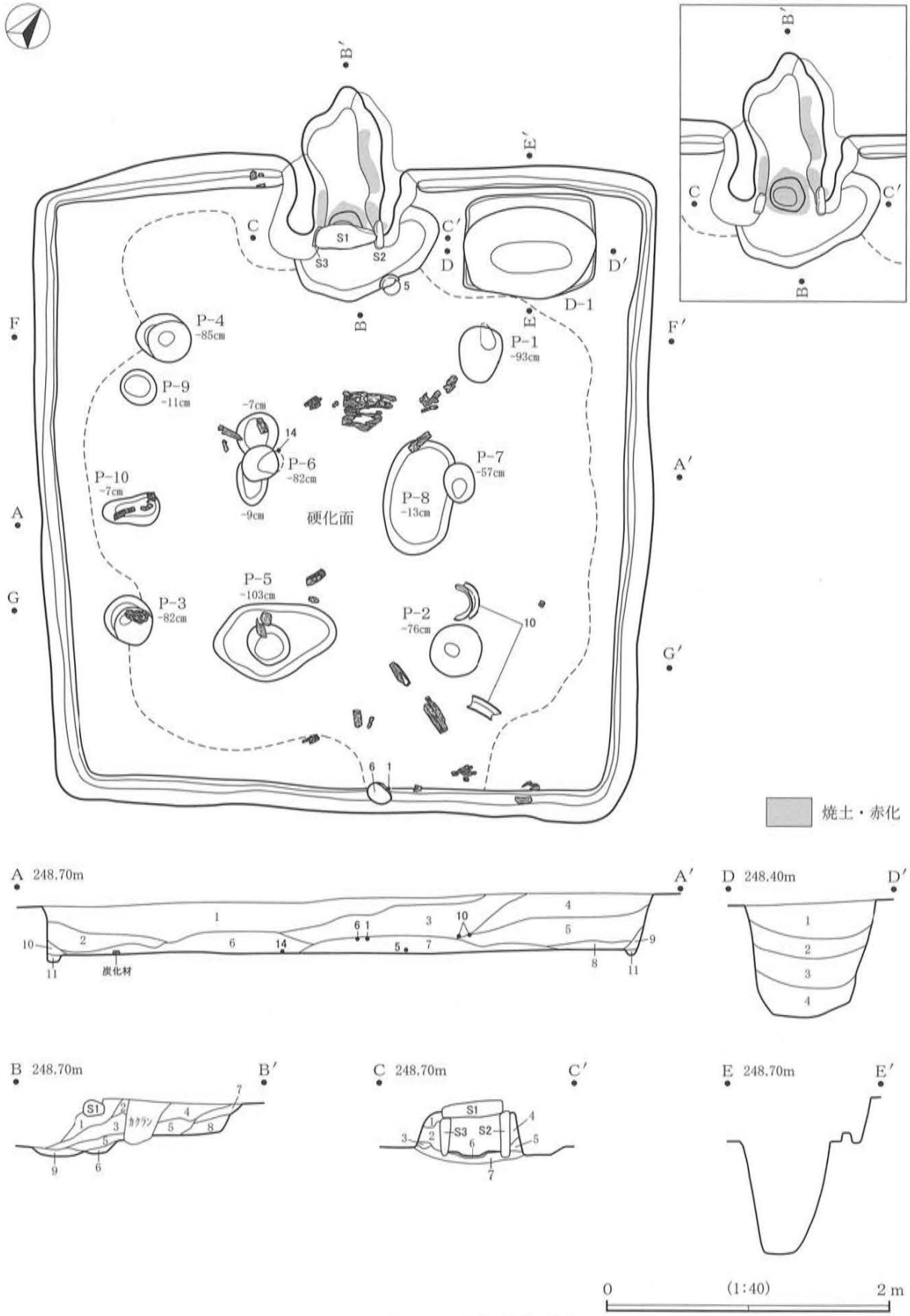
①Ｈ－７号住居址（第６・７・８図、第２表、PL. ２・16）

位置　Ｂ－１～2、Ｃ－１～2グリッド。　**重複**　Ｈ－５号住居址およびＭ－７・９号溝と重複する。新旧関係は古い方から本遺構＜Ｈ－５号住居址＜Ｍ－７・９号溝となる。　**平面形態**　方形。　**規模**　長軸 4.38 m×短軸 4.34 m×深さ 0.41 m。　**主軸方位**　Ｎ -38°　－Ｗ。　**覆土**　自然堆積と推測される。AS-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。覆土下層から床面直上にかけて炭化材が多数出土する。　**カマド**　北西壁の中央に位置する。全長 1.16 m。焚口部の鳥居状石組みと袖が残存する。

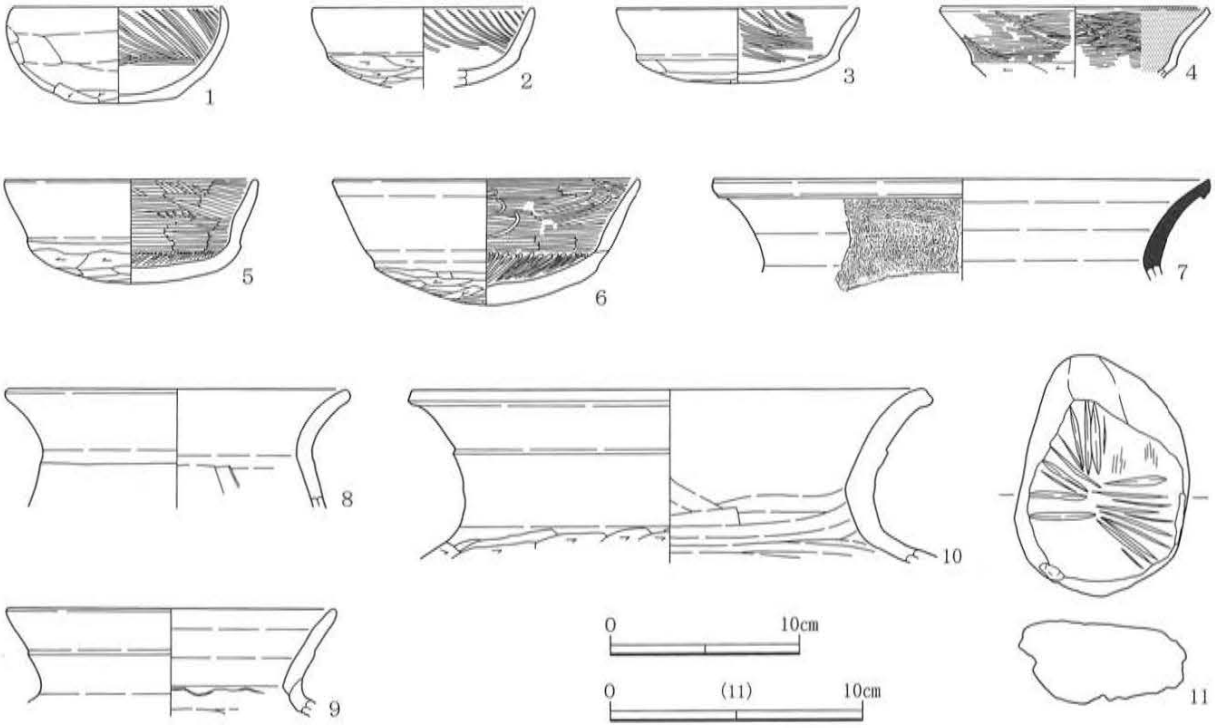


遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物	備考
Ｈ－７住	1	黒色土層7.5YR2/1	やや弱い	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を少量含む。	
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。	
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。	
	4	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。	
	5	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを多量、炭化物粒を少量含む。	
	6	黒褐色土層7.5YR2/2	ややあり	ややあり	炭化物を多量、白色粒・As-YPを少量、焼土を微量含む。	
	7	黒褐色土層7.5YR2/2	ややあり	ややあり	焼土・炭化物を多量、白色粒・As-YPを少量含む。	
	8	黒色土層7.5YR2/1	あり	ややあり	炭化物・白色粒・As-YPを少量含む。	
	9	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を微量含む。	
	10	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を微量含む。	
	11	黒褐色土層7.5YR3/1	弱い	ややあり	褐色土を多量、白色粒を少量、炭化物粒を微量含む。	
カマド B-B′	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、焼土を少量、炭化物粒を微量含む。	
	2	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、焼土を微量含む。	
	3	灰褐色土層7.5YR4/2	ややあり	ややあり	焼土を多量、黄橙色土・炭化物粒を少量含む。	
	4	黄橙色土層7.5YR8/8	あり	ややあり	焼土を微量、黒褐色土を少量含む。	
	5	褐色土層7.5YR4/6	ややあり	ややあり	焼土を大量、黄橙色土・炭化物粒を少量含む。	
	6	褐色土層7.5YR4/6	ややあり	ややあり	焼土・炭化材粒を少量含む。	
	7	明黄褐色土層10YR6/8	あり	ややあり	黒褐色土・焼土を少量含む。	
	8	明黄褐色土層10YR6/8	あり	ややあり	焼土を中量、黒褐色土を少量含む。	
	9	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土・炭化物粒を少量含む。	
カマド C-C′	1	黄橙色土層7.5YR8/8	あり	ややあり	黒褐色土を中量、白色粒を少量含む。	
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	黄橙色土を中量、白色粒を少量含む。	
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・白色粒を少量含む。	
	4	黄橙色土層7.5YR8/8	あり	ややあり	黒褐色土を多量、焼土・白色粒を少量含む。	
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を中量、白色粒を少量含む。	
	6	赤色焼土層10R4/6	弱い	弱い		カマド掘り方
	7	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土を中量、白色粒を少量含む。	カマド掘り方
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/2	やや弱い	ややあり	焼土・黄橙色土を多量、炭化物粒を少量含む。	
	2	黒褐色土層7.5YR2/2	やや弱い	ややあり	黄橙色土を中量、焼土・炭化物粒を少量含む。	
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	黄橙色土を少量、焼土・炭化物粒を微量含む。	種子１点出土
	4	黒色土層7.5YR2/1	やや弱い	ややあり	黄橙色土を多量、焼土・炭化物粒を少量含む。	

第６図　Ｈ－７号住居址（1）


B′
E′
C
C′
D
D′
S1
S2
S3
5
D-1
B
E
F
F′
P-4
-85cm
P-1
-93cm
P-9
-11cm
-7cm
14
P-6
-82cm
-9cm
P-7
-57cm
P-8
-13cm
P-10
-7cm
A
A′
硬化面
P-5
-103cm
P-3
-82cm
P-2
-76cm
10
G
G′
6
1
焼土・赤化
A 248.70m
A′
炭化材
D 248.40m
D′
B 248.70m
B′
カクラン
C 248.70m
C′
E 248.70m
E′
0
(1:40)
2 m

第7図　H－7号住居址（2）



第８図　Ｈ－７号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	No.5、 3区	口径 11.2 底径 － 器高 5.1	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。 内面 ヨコナデの後、口縁部～体部上位に放射状のミガキ。
2	土師器 坏	1区	口径 (11.8) 底径 － 器高 〈4.2〉	①普通 ②橙色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部～体部 1/4	外面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面 ヨコナデの後、口縁部に放射状のミガキ。
3	土師器 坏	3区	口径 (13.0) 底径 － 器高 4.0	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色粒、褐色粒 ④ 1/5	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 ヨコナデの後、口縁部に放射状のミガキ。
4	土師器 坏	3・4区	口径 (14.5) 底径 － 器高 〈3.7〉	①良好 ②明赤褐色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部～体部上位 1/5	外面 口縁部ヨコナデの後、横・斜方向のミガキ。体部ヘラケズリ。 内面 ヨコナデの後、横・斜方向のミガキ。 内面に黒色処理。
5	土師器 坏	No.1	口径 (13.4) 底径 － 器高 5.5	①良好 ②明赤褐色 ③白色粒、黒色粒、小礫 ④口縁部 1/2 欠損	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 ヨコナデの後、口縁部に横方向のミガキ、底面に一方向のミガキ。
6	土師器 坏	No.4	口径 16.4 底径 － 器高 6.6	①良好 ②明赤褐色 ③白色粒、褐色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 ヨコナデの後、口縁部に横方向のミガキ、底面に∩状のミガキ。
7	須恵器 甕	C3グリッド 2面	口径 (26.4) 底径 － 器高 〈5.3〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部 1/12	外面 ロクロナデ。口縁部上位に５本１単位の櫛歯状工具による波状文。 内面 ロクロナデ。
8	土師器 甕	2区	口径 (18.3) 底径 － 器高 〈6.2〉	①普通 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面 口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナデ。 外面胴部は器表面剥離。
9	土師器 壺	2区	口径 (17.5) 底径 － 器高 〈5.6〉	①良好 ②浅黄橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部 1/5	外面 口縁部ヨコナデ。 内面 口縁部ヨコナデ。頸部横方向のヘラナデ。
10	土師器 壺	No.2・3	口径 27.8 底径 － 器高 〈8.9〉	①良好 ②橙色 ③片岩、白色粒、黒色粒 ④口縁部～胴部上位	外面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。頸部～胴部上位に横方向のヘラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量（cm，g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
11	砥石	3区	①長さ 9.6、幅 7.1、厚さ 3.2、重量 175.38 ②軽石 ③完形 ④上面を砥面として使用		
12	薦編石	3区	①長さ 12.15、幅 5.30、厚さ 3.13、重量 302.03 ②安山岩 ③完形 ④－ ⑤写真のみ		
13	種子	D-1	①長さ 2.2、幅 1.5、厚さ 1.25、重量 1.02 ②モモ ③一部欠損 ④－ ⑤写真のみ		
14	種子	No.6	①長さ 2.1、幅 1.3、厚さ 1.05、重量 0.50 ②モモ ③一部欠損 ④－ ⑤写真のみ		

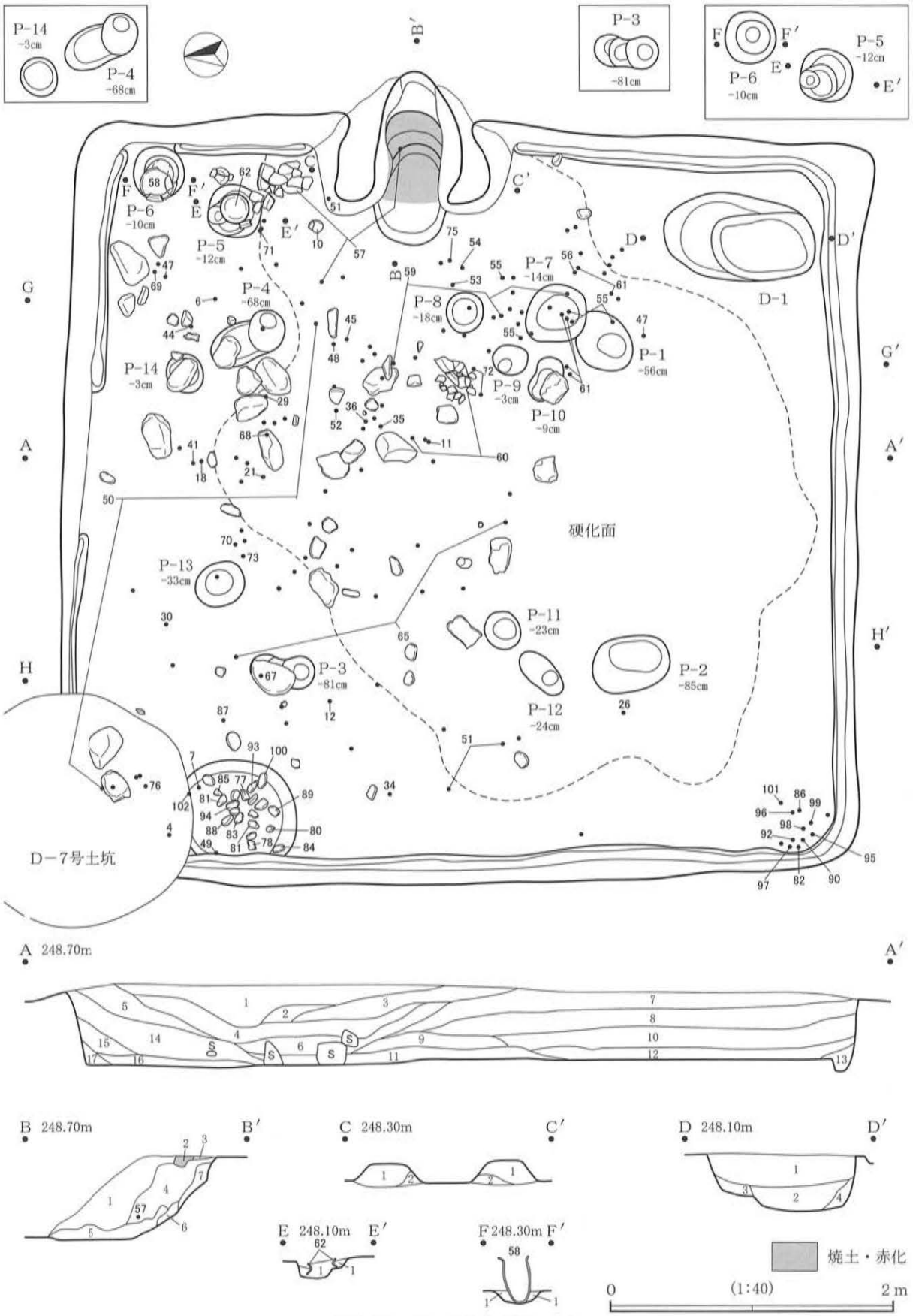
第２表　Ｈ－７号住居址出土遺物観察表

焚口部は幅36㎝、高さ28㎝を測る。袖石には両側面の平らな厚さ6㎝の安山岩を使用している。S2は取り上げ時に割れるほど、非常に脆くなっていた。袖構築土には黄橙色粘質土と黒褐色土の混土が用いられ、下部が黒褐色土主体、上部が黄橙色粘質土主体となる。内壁および火床面は焼土化が顕著である。燃焼の中央に小ピット（径25×23㎝、深さ4㎝）が検出される。　**柱穴**　主柱穴を4基検出した。P－1は径38×32㎝、深さ93㎝、P－2は径37×36㎝、深さ76㎝、P－3は径35×32㎝、深さ82㎝、P－4は40×32㎝、深さ85㎝を測る。　**貯蔵穴**　カマドの右側に位置する（D－1）。平面形は楕円形を呈し、径95×64㎝、深さ82㎝を測る。一回り外側には長方形の浅い窪みが検出され、蓋の痕跡と推測される。　**ピット**　6基を検出した（P－5～10）。このうち、P－5～7は深さ57～103㎝で主柱穴と同程度の深さをもち、P－2と併せると方形に組むことができる。このことから、先にP－2・5～7を主柱穴とする小形の竪穴があり、その後P－1～4を主柱穴とする竪穴に拡張したものと推測される。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。南東壁下に幅狭い硬化面がみられ、出入り口部分と推測される。貼床で黒褐色土を主体とする。　**壁溝**　全周する。幅6～10㎝、深さ3～5㎝。　**遺物**　土師器坏・甕・壺、須恵器甕、砥石、薦編石、炭化種子などが出土した。概ね覆土中層～下層で、出土量は少ない。5の坏はカマドの手前に位置する。口縁部が半分欠けていたが、床から3㎝上、正位の状態で出土した。13の種子は貯蔵穴下層から、14の種子はP－6脇の床面直上から出土した。　**時期**　6世紀第1四半期と推定される。　**備考**　焼失住居。P－3の上面から炭化材が出土しており、柱を除去した後に火をかけたと推測される。

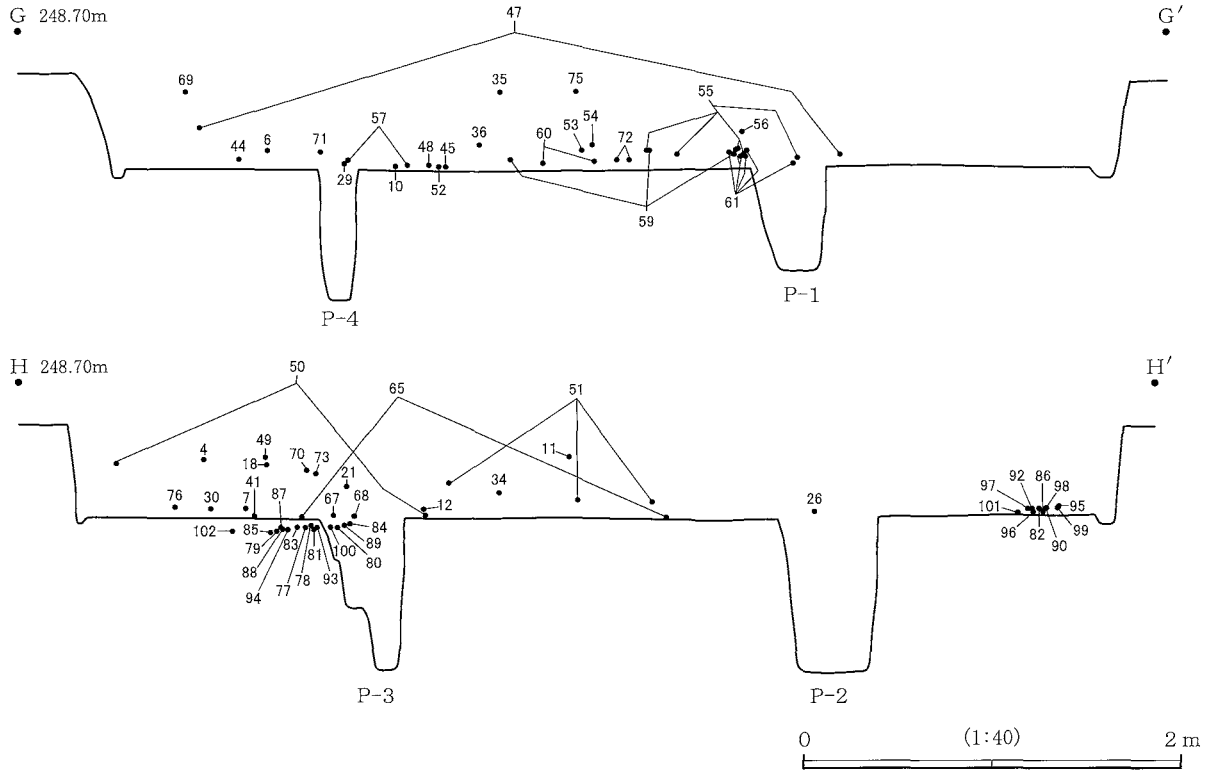
②H－8号住居址（第9～14図、第3～6表、PL. 2・3・16～18）

位置　C～E－1～2グリッド。　**重複**　H－5号住居址、M－1・2号溝、D－7号土坑と重複する。新旧関係は古い方からD－7号土坑＜本遺構＜H－5号住居址＜M－1・2号溝となる。　**平面形態**　南北にやや長い横長長方形。　**規模**　長軸5.39m×短軸4.99m×深さ0.57m。　**主軸方位**　N－94°－E。

覆土　自然堆積と推測される。白色粒・黄橙色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　東壁の北寄りに位置する。全長1.22m。袖が残存しており、構築土には黄色ローム土と黒褐色土の混土が用いられる。火床面は焼土化が顕著である。　**柱穴**　主柱穴を4基検出した。P－1は径47×37㎝、深さ56㎝、P－2は径57×39㎝、深さ85㎝、P－3は45×23㎝、深さ81㎝、P－4は56×29㎝、深さ68㎝を測る。　**貯蔵穴**　カマドの右側に位置する（D－1）。平面形は楕円形を呈し、径107×59㎝、深さ38㎝を測る。　**ピット**　9基を検出した（P－5～13）。P－5・6はカマドの左脇に位置する。P－5からは土師器甕（62）の口縁部が正位で出土し、土器台としての使用が推測される。P－6には土師器長胴甕（58）が正位で据えられていた。底部が半分ほど欠けており、東から西へやや傾いた状態であった。外面にススと、内面に明瞭なコゲが付着しており、カマドで使用された甕と推測される。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。貼床で黒褐色土を主体とする。　**壁溝**　全周するが、北壁中央部および東壁北隅で途切れる。幅5～11㎝、深さ3～7㎝。　**遺物**　土師器坏・高坏・甕・壺、須恵器坏・蓋・高坏・瓶・甕・壺・平瓶・提瓶、鉄製品、薦編石などが多量に出土した。薦編石は竪穴の南西隅と北西隅の大きく2ヵ所にまとまっていた。南西隅は概ね床面直上、北西隅は床面より6㎝ほど浅く窪む範囲から出土した。床面直上の遺物としては、カマド左脇に位置する逆位の土師器坏（10）、横位の土師器甕（57）がある。24の土師器鉢は内底面に布目圧痕が認められる。鉄製品は刀子や鉄鏃などである。　**時期**　7世紀第3四半期と推定される。

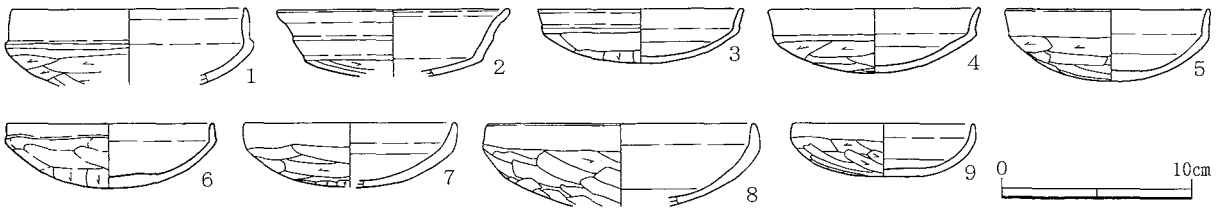

P-14
-3cm
P-4
-68cm
P-3
-81cm
P-5
-12cm
P-6
-10cm
P-7
-14cm
P-8
-18cm
P-9
-3cm
P-10
-9cm
P-1
-56cm
P-11
-23cm
P-12
-24cm
P-2
-85cm
P-13
-33cm
D-1
硬化面
D-7号土坑
A 248.70m
B 248.70m
C 248.30m
D 248.10m
E 248.10m
F 248.30m
焼土・赤化
0
(1:40)
2 m

第9図　H－8号住居址（1）

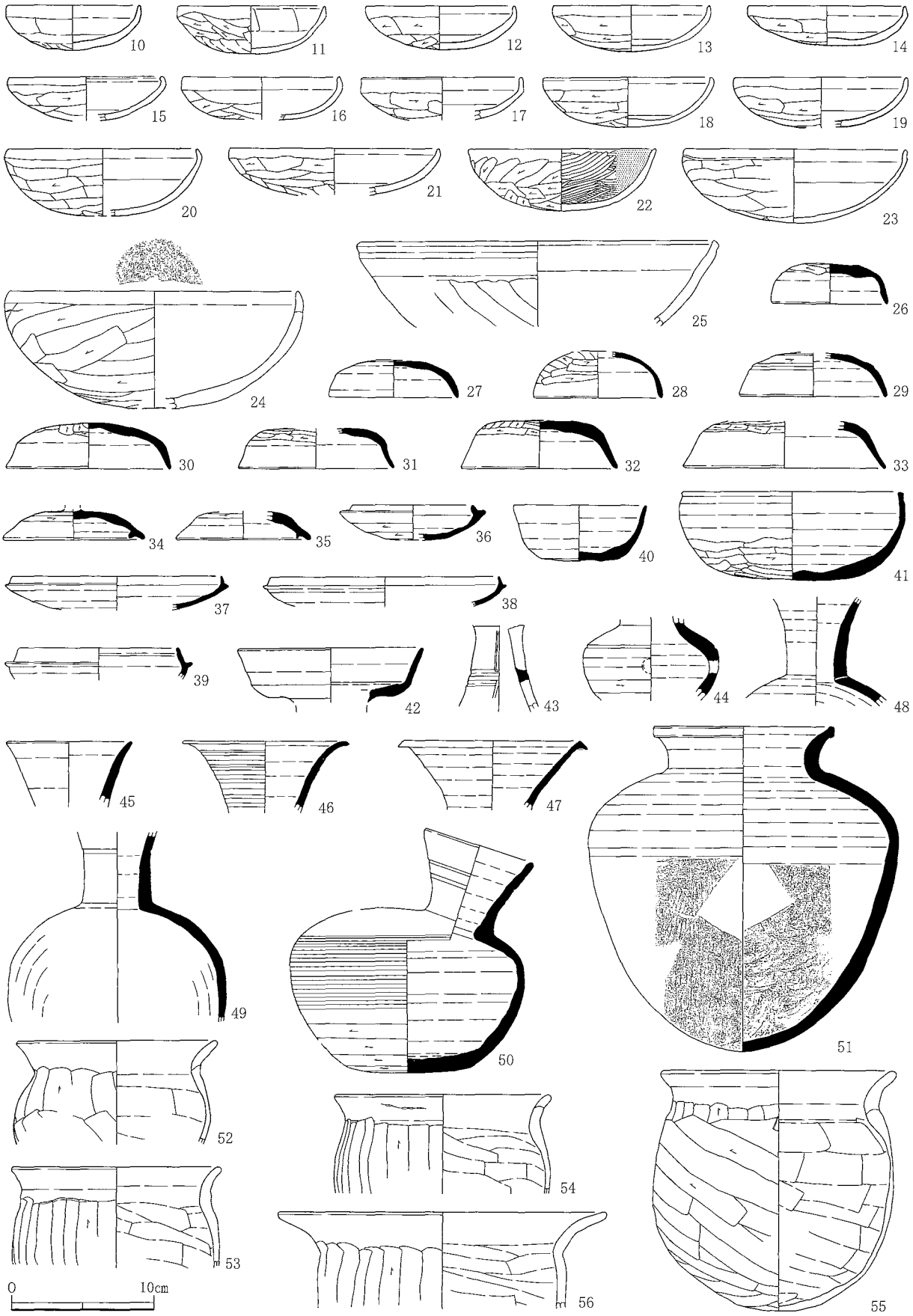


遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－8住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、白色粒を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒・白色粒を少量、As-YPを微量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量、炭化物粒を微量含む。
	6	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒を中量、白色粒・As-YPを少量含む。
	7	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を少量含む。
	8	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を中量含む。
	9	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を中量、炭化物粒・白色粒を少量含む。
	10	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・白色粒・炭化物粒を少量含む。
	11	黒色土層10YR2/1	あり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を少量含む。
	12	黒色土層10YR2/1	ややあり	ややあり	炭化物粒を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
	13	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	白色粒・炭化物粒を少量含む。
	14	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	15	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を中量、白色粒・炭化物粒を微量含む。
	16	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を少量、白色粒・炭化物粒を微量含む。
	17	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・炭化物粒を少量含む。
カマド B-B′	1	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、炭化物粒を中量、白色粒・焼土を少量含む。
	2	橙色焼土層2.5YR6/8	なし	なし	
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、白色粒を少量含む。
	4	にぶい橙色土層7.5YR6/4	あり	ややあり	焼土・黒褐色土を中量含む。
	5	褐色土層7.5YR4/3	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土を多量、炭化物粒を少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	にぶい橙色土を多量、焼土・炭化物粒を少量含む。
	7	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、黄橙色粒を少量含む。
カマド C-C′	1	黄色ローム層2.5Y8/8	硬い	ややあり	黒褐色土・白色粒を中量含む。
	2	橙色土層2.5YR6/6	硬い	ややあり	白色粒を中量、黒褐色土を少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を多量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	褐色土を多量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	褐色土・As-YPを少量含む。
P-5・6	1	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	As-YPを少量含む。

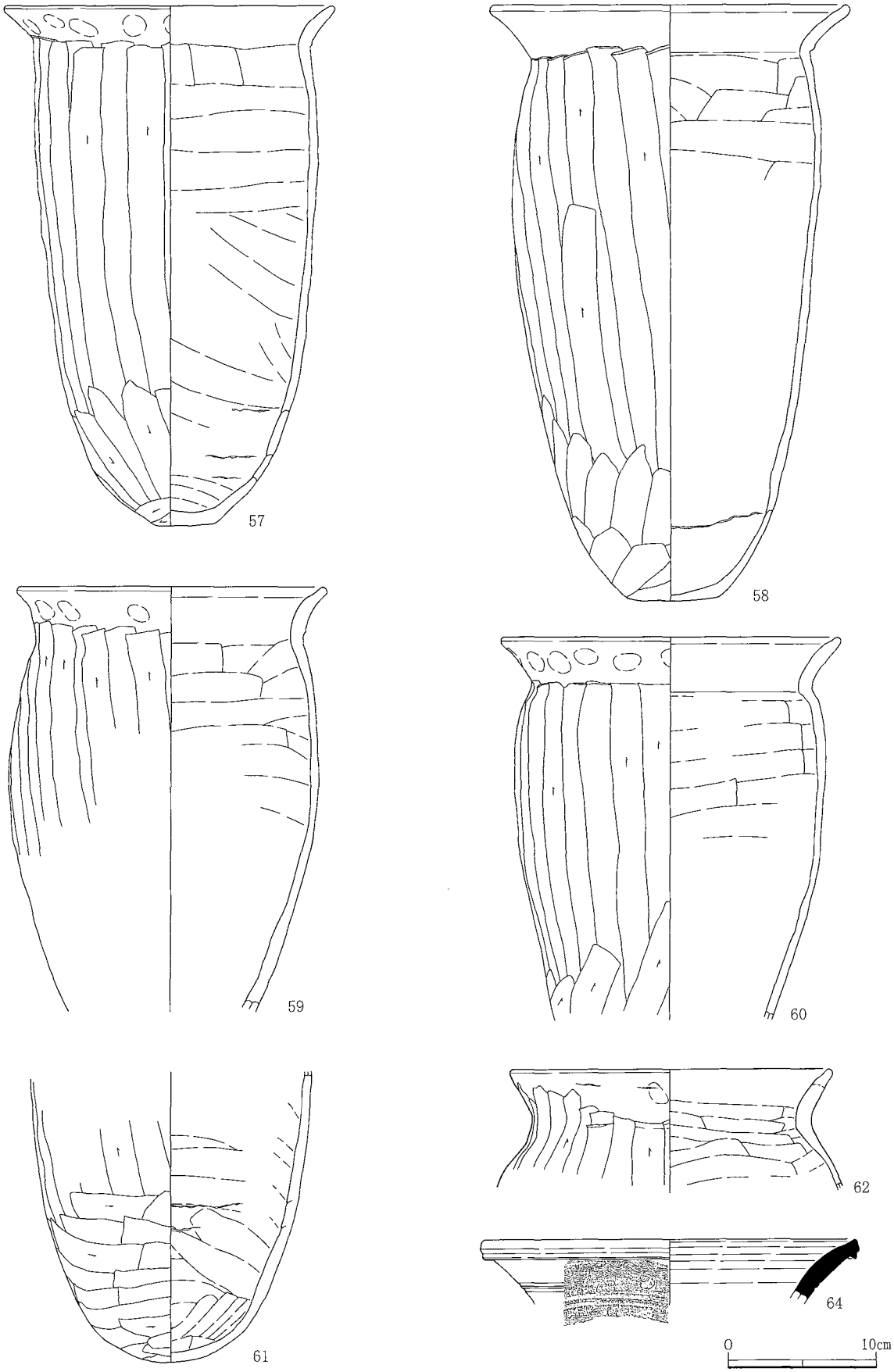
第10図　H－8号住居址（2）



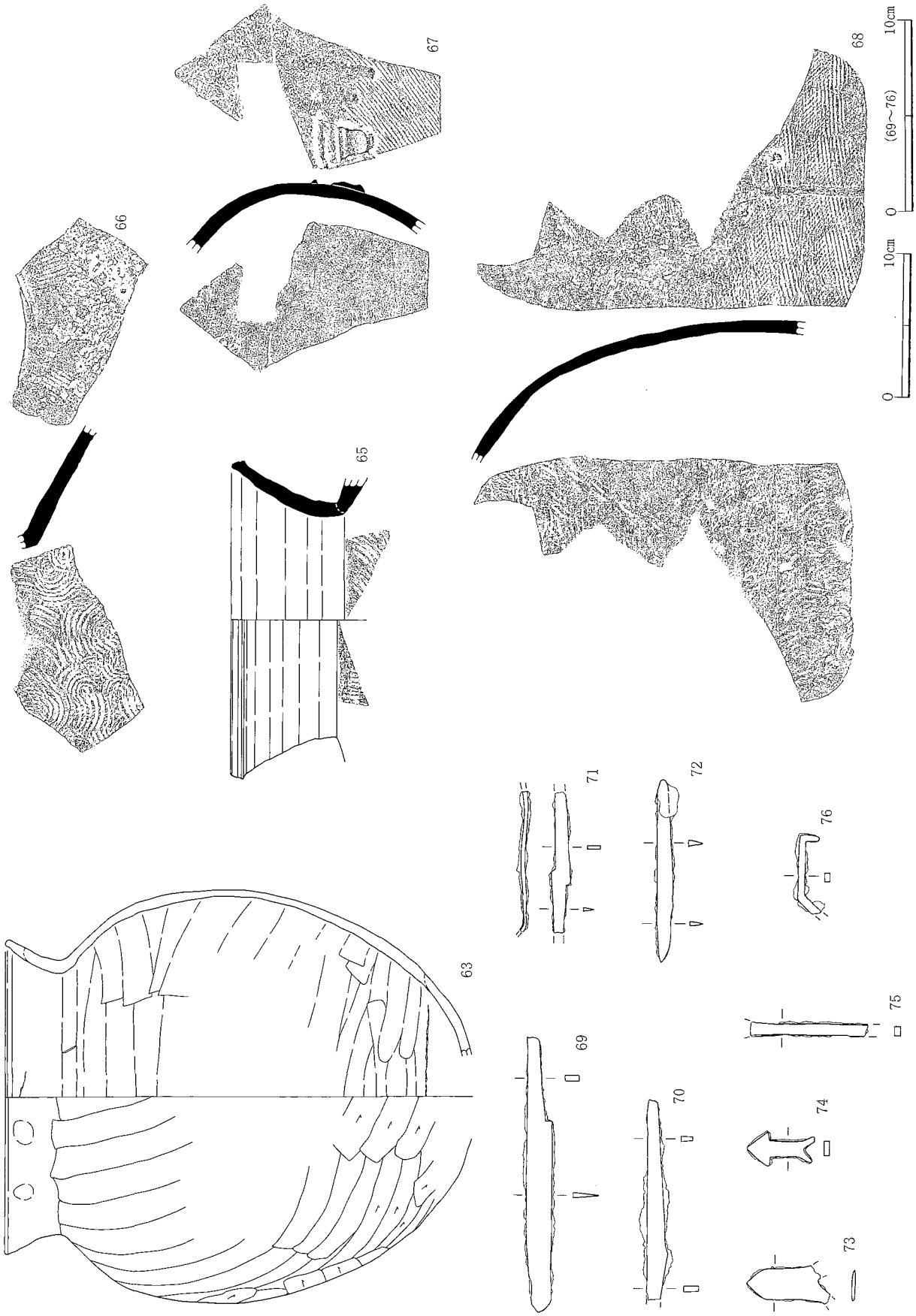
第11図　H－8号住居址出土遺物（1）



第12図　H－8号住居址出土遺物（2）



第13図　H－8号住居址出土遺物（3）



第 14 図　H－8号住居址出土遺物（4）

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	3・4区	口径 (12.6) 底径 — 器高 〈4.0〉	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④口縁部～体部 1/5	外面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。
2	土師器 坏	1・4区	口径 (12.4) 底径 — 器高 〈3.5〉	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。
3	土師器 坏	4区	口径 10.9 底径 — 器高 2.8	①良好 ②橙色 ③白色粒、褐色粒 ④ 3/4	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
4	土師器 坏	No.22、 4区	口径 11.3 底径 — 器高 3.4	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
5	土師器 坏	1・4区	口径 10.9 底径 — 器高 3.8	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④底部 1/2 欠損	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
6	土師器 坏	No.115、 1区	口径 11.0 底径 — 器高 3.4	①良好 ②にぶい橙色 ③角閃石、白色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ→体部上位ナデ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
7	土師器 坏	No.23	口径 (11.3) 底径 — 器高 〈3.4〉	①良好 ②橙色 ③石英、白色粒、黒色粒 ④ 1/2	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。
8	土師器 坏	2区	口径 (14.2) 底径 — 器高 〈4.3〉	①良好 ②にぶい橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
9	土師器 坏	1区	口径 (9.7) 底径 — 器高 2.8	①良好 ②橙色 ③石英、白色粒、黒色粒 ④ 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
10	土師器 坏	No.136	口径 (9.5) 底径 — 器高 3.2	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④ 2/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
11	土師器 坏	No.54、 1区	口径 (10.5) 底径 — 器高 3.4	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色粒 ④ 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部ヘラナデ。 内面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。
12	土師器 坏	No.16、 4区	口径 (10.6) 底径 — 器高 3.1	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部 1/2 欠損	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
13	土師器 坏	2・4区	口径 11.0 底径 — 器高 3.3	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部 1/3 欠損	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
14	土師器 坏	4区	口径 (11.1) 底径 — 器高 2.8	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色粒 ④ 2/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
15	土師器 坏	3区	口径 (10.9) 底径 — 器高 〈3.1〉	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④ 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
16	土師器 坏	2区	口径 (11.2) 底径 — 器高 〈3.0〉	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④ 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
17	土師器 坏	4区	口径 (11.5) 底径 — 器高 〈3.0〉	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部 1/2	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
18	土師器 坏	No.32、 4区	口径 (12.0) 底径 — 器高 3.5	①良好 ②にぶい橙色 ③白色粒 ④ 1/2	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
19	土師器 坏	4区	口径 (12.3) 底径 — 器高 〈3.5〉	①普通 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④ 2/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
20	土師器 坏	1・4区	口径 (13.4) 底径 — 器高 〈4.7〉	①良好 ②橙色 ③石英、白色粒、黒色粒 ④ 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。
21	土師器 坏	No.36	口径 (15.0) 底径 — 器高 〈3.3〉	①良好 ②にぶい黄褐色 ③雲母、白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。
22	土師器 坏	2区	口径 13.3 底径 — 器高 4.3	①普通 ②にぶい黄褐色 ③石英、角閃石、白色粒 ④ 3/4	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部に横・斜方向のミガキ。底部に一方向のミガキ。 内面に黒色処理。
23	土師器 坏	1・4区	口径 (15.9) 底径 — 器高 5.2	①良好 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④ 1/2	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部上位ヨコナデ。体部下位～底部ヘラナデ。
24	土師器 鉢	2区	口径 (20.5) 底径 — 器高 〈8.2〉	①良好 ②橙色 ③角閃石、白色粒 ④ 1/4	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底面に布目圧痕。

第3表 H－8号住居址出土遺物観察表（1）

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
25	土師器 鉢	4区	口径 (25.7) 底径 — 器高 〈6.0〉	①普通 ②にぶい橙色 ③片岩、白色粒、褐色粒 ④口縁部～体部 1/8	外面 口縁部ヨコナデ。体部に斜方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面は摩耗。
26	須恵器 蓋	No.139	口径 (8.3) 底径 — 器高 2.8	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部 2/3 欠損	外面 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。 外面口縁部に自然釉付着。
27	須恵器 蓋	3・4区	口径 (9.1) 底径 — 器高 2.6	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④ 1/5	外面 ロクロナデ。天井部は回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
28	須恵器 蓋	4区	口径 9.2 底径 — 器高 〈3.3〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒、黒色粒 ④ 2/3	外面 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。 外面天井部に自然釉付着。
29	須恵器 蓋	No.129、 4区	口径 (10.4) 底径 — 器高 〈3.1〉	①還元焔 (やや軟質) ②灰色 ③白色粒 ④ 1/2	外面 ロクロナデ。天井部は回転ヘラケズリ。口縁部と天井部の境に横位沈線が1条めぐる。 内面 ロクロナデ。
30	須恵器 蓋	No.28、 3区	口径 11.6 底径 — 器高 3.2	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④ 2/3	外面 ロクロナデ。天井部は手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。 外面に自然釉が付着。
31	須恵器 蓋	1・4区	口径 (11.0) 底径 — 器高 2.8	①酸化焔気味 ②淡黄色 ③白色粒、小礫 ④ 1/4	外面 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
32	須恵器 蓋	4区	口径 (11.0) 底径 — 器高 3.3	①還元焔 (やや軟質) ②灰黄色 ③黒色粒 ④ 1/4	外面 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
33	須恵器 蓋	1・4区	口径 (14.4) 底径 — 器高 〈3.3〉	①酸化焔気味 ②にぶい黄橙色 ③黒色粒 ④ 1/3	外面 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
34	須恵器 蓋	No.13、 4区	口径 10.0 底径 — 器高 〈2.1〉	①還元焔 ②灰色 ③黒色粒 ④摘み・口縁部一部欠損	外面 ロクロナデ。天井部は回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。 外面に自然釉が付着。
35	須恵器 蓋	No.55	口径 (9.5) 底径 — 器高 〈2.9〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④ 1/3	外面 ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
36	須恵器 坏	No.127、 1・4区	口径 8.6 底径 — 器高 〈2.5〉	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒 ④ 3/4	外面 ロクロナデ。体部～底部回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。 たちあがりは内傾、受部はほぼ水平。
37	須恵器 坏	2区	口径 (14.9) 底径 — 器高 〈2.3〉	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 たちあがりは内傾、受部はほぼ水平。器厚は薄い。
38	須恵器 坏	1区、 カマド	口径 (16.3) 底径 — 器高 〈2.1〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/6	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 たちあがりは内傾、受部はほぼ水平。器厚は薄い。
39	須恵器 坏	1区	口径 (11.4) 底径 — 器高 〈2.2〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部 1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 たちあがりは内傾、受部はほぼ水平。
40	須恵器 坏	1・4区	口径 9.4 底径 — 器高 3.9	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/3 欠損	外面 ロクロナデ。底面ヘラ切り。 内面 ロクロナデ。
41	須恵器 鉢	No.33	口径 (15.8) 底径 — 器高 5.7	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒 ④ 1/3	外面 ロクロナデ。体部下位～底部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。 内面に自然釉が付着。
42	須恵器 高坏	1・4区	口径 (13.1) 底径 — 器高 〈3.8〉	①還元焔 (やや軟質) ②灰色 ③白色粒 ④坏部 1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
43	須恵器 高坏	4区	口径 — 底径 — 器高 〈6.1〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④脚部 1/2	外面 ロクロナデ。中位に横位沈線が2条めぐる。 内面 ロクロナデ。 横位沈線を挟んだ上下に方形の透孔。
44	須恵器 瓶	No.63	口径 — 底径 — 器高 〈5.9〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④体部 1/3	外面 ロクロナデの後、体部下半に回転ヘラケズリ。肩部に横位沈線が1条めぐる。 内面 ロクロナデ。 体部中位に円孔。肩部外面に自然釉が付着。
45	須恵器 壺	No.65、 1・2区	口径 8.9 底径 — 器高 〈4.6〉	①還元焔 (やや軟質) ②灰色 ③白色粒 ④口縁部のみ	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
46	須恵器 壺	3・4区	口径 (11.9) 底径 — 器高 〈5.1〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部 1/5	外面 ロクロナデの後、横方向のカキメ。 内面 ロクロナデ。
47	須恵器 壺	No.62・98、 1・4区	口径 (13.5) 底径 — 器高 〈4.9〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部 3/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
48	須恵器 提瓶	No.64、 2・3・4区	口径 — 底径 — 器高 〈7.6〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④頸部 2/3、肩部 1/5	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 頸部内面に自然釉が付着。

第4表 H－8号住居址出土遺物観察表 (2)

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
49	須恵器 提瓶	No.21、 1区	口径 ー 底径 ー 器高〈13.4〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④頸部～胴部上半 1/4	外面 ロクロナデ。頸部に横位沈線が1条めぐる。 内面 ロクロナデ。
50	須恵器 平瓶	No.26・112 3・4区	口径 (8.1) 底径 8.8 器高 17.1	①還元焔 ②灰色 ③石英、白色粒 ④口縁部 1/3、胴部 1/3、底部完形	外面 ロクロナデ。口縁部に横位沈線2条。胴部上半に横位カキメ。胴部下半～底部は右回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。円盤部は指ナデ。 口縁部直下の内底面に自然釉付着。
51	須恵器 甕	No.8・10・11・15・27・109、1・2・4区	口径 (12.8) 底径 ー 器高 22.8	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部 1/5、胴部 1/2、底部 3/4	外面 ロクロナデ。胴部下半～底部平行タタキ。 内面 ロクロナデ。胴部下半～底部同心円の当て具痕。
52	土師器 小形甕	No.61、 2・4区	口径 14.3 底径 ー 器高〈7.3〉	①普通 ②にぶい赤褐色 ③片岩、白色粒 ④口縁部～胴部上半 1/2	外面 口縁部ヨコナデ。胴部に縦方向→斜方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部に横方向のヘラナデ。
53	土師器 小形甕	No.74、 1・3区	口径 (14.8) 底径 ー 器高〈7.1〉	①普通 ②にぶい褐色 ③片岩、白色粒 ④口縁部～胴部上位 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に縦方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナデ。
54	土師器 小形甕	No.75、 2区	口径 (15.3) 底径 ー 器高〈7.0〉	①普通 ②にぶい褐色 ③片岩、白色粒 ④口縁部～胴部上位 1/3	外面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に縦方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナデ。
55	土師器 小形甕	No.79・86・93・94・97、1・2・4区	口径 16.7 底径 ー 器高 16.9	①普通 ②にぶい橙色 ③片岩、白色粒、黒色粒 ④1/2	外面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に縦方向のヘラケズリ→胴部中～下位に斜方向のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部に横方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。
56	土師器 甕	No.96	口径 (23.3) 底径 ー 器高〈6.8〉	①普通 ②にぶい橙色 ③片岩、白色粒、黒色粒 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に縦方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナデ。
57	土師器 甕	No.108・110・135、1・4区	口径 22.4 底径 3.7 器高 35.0	①良好 ②にぶい橙色 ③片岩、白色粒、褐色粒 ④2/3	外面 口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部縦方向、下端は斜方向のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部横・斜方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。
58	土師器 甕	No.138、 1区	口径 24.3 底径 (6.2) 器高 40.1	①良好 ②にぶい橙色 ③片岩、白色粒、褐色粒 ④底部 1/2 欠損	外面 口縁部ヨコナデ。胴部縦方向、下端は斜方向のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上～中位は横方向、下端は斜方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。
59	土師器 甕	No.70・82・91・122、2・4区	口径 (21.0) 底径 ー 器高〈28.6〉	①良好 ②にぶい赤褐色 ③片岩、石英、白色粒、褐色粒 ④口縁部 1/4、胴部 3/4	外面 口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部縦方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラナデ。
60	土師器 甕	No.124・130～134 2・4区	口径 23.0 底径 ー 器高〈25.8〉	①良好 ②にぶい黄橙色 ③片岩、石英、白色粒、褐色粒 ④口縁部完形、胴部 1/2	外面 口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部縦方向のヘラケズリ→下位斜方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラナデ。
61	土師器 甕	No.88・89・92・95・100・122、2区	口径 ー 底径 ー 器高〈19.5〉	①良好 ②橙色 ③片岩、石英、白色粒、褐色粒 ④胴部中位～底部 3/4	外面 胴部中位は縦方向→下位は横方向のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面 胴部横・斜方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。 外面胴部に粘土が付着。
62	土師器 甕	No.165	口径 21.8 底径 ー 器高〈8.2〉	①良好 ②にぶい橙色 ③雲母、石英、白色粒、褐色粒 ④口縁部～胴部上位	外面 口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部上位縦方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位横方向のヘラナデ。
63	土師器 壺	No.26・31・34・35・39・120・121、4区	口径 (22.0) 底径 ー 器高〈33.0〉	①良好 ②橙色 ③片岩、チャート、白色粒、褐色粒 ④口縁部 1/4、胴部 1/2	外面 口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部斜方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラナデ。
64	須恵器 甕	4区	口径 (25.7) 底径 ー 器高〈4.4〉	①還元焔 ②暗灰色 ③白色粒 ④口縁部 1/8	外面 ロクロナデ。2条の横位沈線を境とした上下に、11本1単位の櫛歯状工具による波状文を施文。 内面 ロクロナデ。
65	須恵器 甕	No.20・51、 4区	口径 (22.3) 底径 ー 器高〈9.5〉	①還元焔 ②灰色 ③黒色粒 ④口縁部～頸部 1/2	外面 口縁部ロクロナデ。胴部平行タタキ。 内面 口縁部ロクロナデ。胴部同心円の当て具痕。 外面胴部および内面口縁部に自然釉付着。
66	須恵器 甕	No.28	口径 ー 底径 ー 器高 ー	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④肩部破片	外面 平行タタキ。自然釉付着。 内面 同心円の当て具痕。
67	須恵器 甕	No.19、 H-4住	口径 ー 底径 ー 器高 ー	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④胴部破片	外面 平行タタキ→横方向のカキメ。 内面 横方向のヘラナデ。 外面に自然釉付着、蓋の口縁部破片が付着。
68	須恵器 横瓶ヵ	No.160、 1区、 掘り方	口径 ー 底径 ー 器高 ー	①還元焔 ②暗灰色 ③白色粒 ④胴部破片	外面 平行タタキを擬格子状に施した後、横方向のカキメ。 内面 同心円の当て具痕→横方向のヘラナデ。 外面に自然釉付着。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
69	鉄製品 刀子	No.1	①全長 15.7、鏃身長 10.1、鏃身幅 1.3、鏃身厚 0.2、茎長 5.6、茎幅 0.7、茎厚 0.3、重量 25.96 ②鉄製 ③ほぼ完形 ④ー		
70	鉄製品 刀子	No.2	①全長 10.7、茎長 7.9、茎幅 1.0、茎厚 0.25、重量 15.33 ②鉄製 ③茎部 ④ー		

第5表 H－8号住居址出土遺物観察表（3）

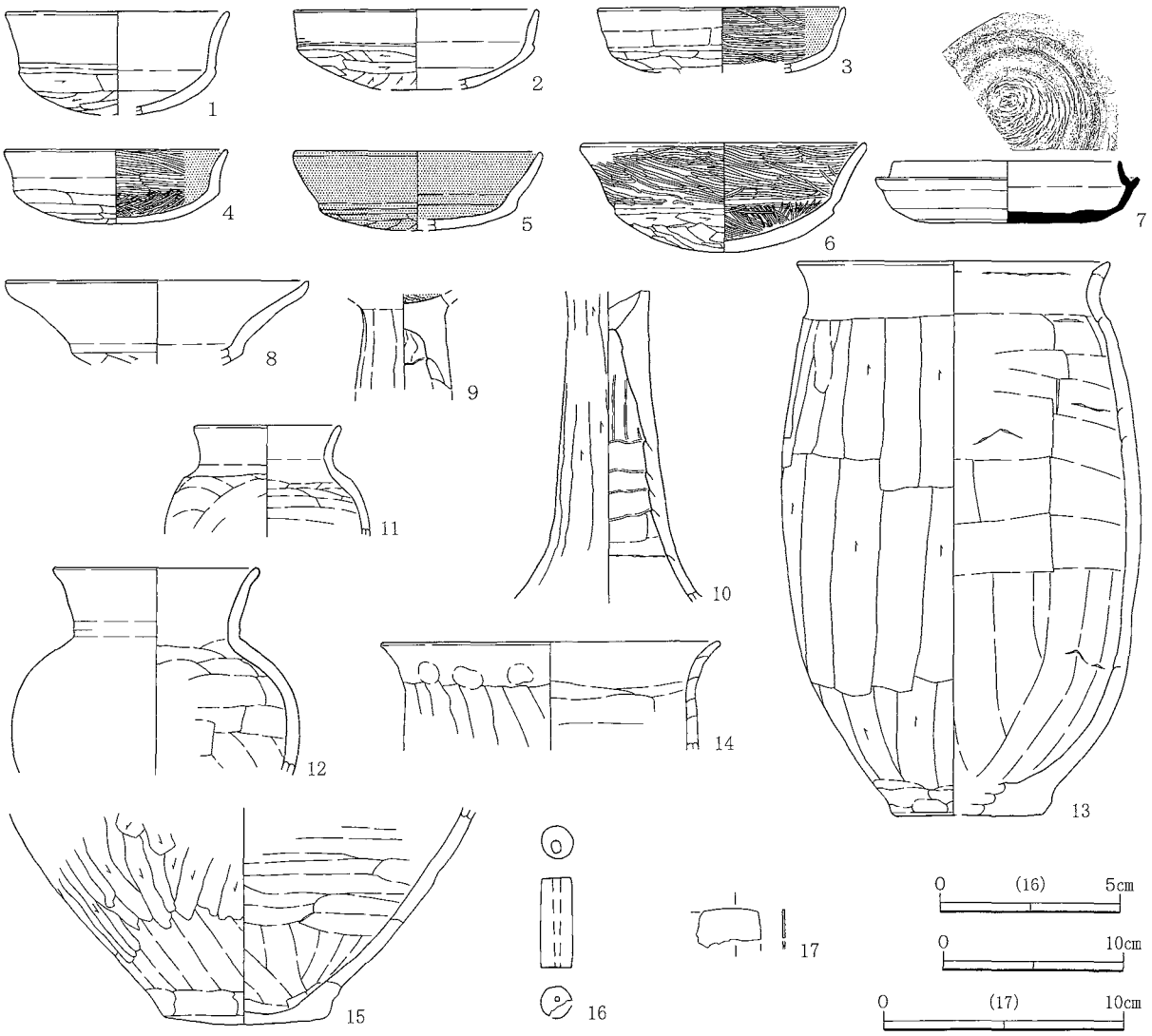
番号	器種	出土位置	①法量（cm．g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考
71	鉄製品 刀子	No.117	①長さ〈7.5〉、幅1.0、厚さ0.2、重量5.12　②鉄製　③両端部欠損　④刃部あり
72	鉄製品 刀子ヵ	No.5・6	①長さ9.7、幅0.8、厚さ0.3、重量9.38　②鉄製　③ほぼ完形　④刃部あり
73	鉄製品 鉄鏃	No.3	①鏃身長〈4.5〉、鏃身幅〈2.1〉、鏃身厚0.2、重量5.08　②鉄製　③鏃身部のみ、逆刺部欠損　④柳葉形
74	鉄製品 鉄鏃	1区	①鏃身長3.5、鏃身幅1.9、鏃身厚0.3、重量4.30　②鉄製　③鏃身部のみ　④－
75	鉄製品 鉄鏃	No.7	①茎長〈6.3〉、茎幅0.7、茎厚0.3、重量5.11　②鉄製　③茎部のみ、端部欠損　④断面長方形
76	鉄製品 不明	No.120	①長さ〈4.2〉、幅1.3、厚さ0.3、重量4.13　②鉄製　③端部欠損　④断面長方形
77	薦編石	No.155	①長さ8.27、幅5.35、厚さ3.27、重量182.93　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
78	薦編石	No.148	①長さ7.41、幅4.74、厚さ4.06、重量208.20　②流紋岩　③完形　④－　⑤写真のみ
79	薦編石	No.153	①長さ9.33、幅5.17、厚さ3.40、重量208.15　②流紋岩　③完形　④－　⑤写真のみ
80	薦編石	No.142	①長さ7.96、幅4.03、厚さ3.22、重量185.28　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
81	薦編石	No.146	①長さ8.69、幅5.42、厚さ3.44、重量177.06　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
82	薦編石	No.176	①長さ9.01、幅4.85、厚さ3.21、重量179.47　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
83	薦編石	No.149	①長さ8.91、幅5.51、厚さ2.03、重量153.38　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
84	薦編石	No.141	①長さ8.72、幅4.20、厚さ4.71、重量235.43　②砂岩　③完形　④－　⑤写真のみ
85	薦編石	No.159	①長さ10.59、幅5.46、厚さ2.47、重量174.78　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
86	薦編石	No.168	①長さ8.98、幅5.51、厚さ3.18、重量212.87　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
87	薦編石	No.179	①長さ9.31、幅3.98、厚さ2.48、重量137.57　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
88	薦編石	No.150	①長さ9.52、幅4.73、厚さ5.22、重量313.39　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
89	薦編石	No.143	①長さ8.84、幅5.64、厚さ4.50、重量268.67　②砂岩　③完形　④－　⑤写真のみ
90	薦編石	No.173	①長さ9.84、幅4.78、厚さ4.02、重量233.15　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
91	薦編石	2区	①長さ9.47、幅5.43、厚さ3.31、重量221.72　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
92	薦編石	No.174	①長さ9.51、幅4.59、厚さ3.56、重量192.04　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
93	薦編石	No.157	①長さ10.73、幅5.13、厚さ2.74、重量166.37　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
94	薦編石	No.152	①長さ9.99、幅5.87、厚さ2.57、重量165.29　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
95	薦編石	No.171	①長さ10.60、幅5.59、厚さ3.20、重量273.49　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
96	薦編石	No.167	①長さ11.12、幅6.39、厚さ4.25、重量371.01　②砂岩　③完形　④－　⑤写真のみ
97	薦編石	No.175	①長さ10.70、幅5.75、厚さ3.79、重量262.55　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
98	薦編石	No.172	①長さ10.60、幅5.61、厚さ4.40、重量339.41　②砂岩　③完形　④－　⑤写真のみ
99	薦編石	No.170	①長さ10.62、幅6.57、厚さ3.82、重量393.58　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
100	薦編石	No.158	①長さ11.10、幅5.52、厚さ3.49、重量295.80　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
101	薦編石	No.166	①長さ11.12、幅4.94、厚さ4.16、重量326.26　②砂岩　③完形　④－　⑤写真のみ
102	薦編石	No.178	①長さ12.15、幅6.02、厚さ5.33、重量510.62　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ
103	薦編石	2区	①長さ13.05、幅5.59、厚さ3.67、重量457.95　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ

第６表　Ｈ－８号住居址出土遺物観察表（4）

③Ｈ－9a 号住居址（第15～17図、第７・８表、PL. ４・19）

位置　Ｆ－1、Ｇ－1グリッド。　**重複**　Ｈ-2・３・９b 号住居址、Ｍ－８号溝と重複する。新旧関係は古い方から本遺構＜Ｈ－9b 号住居址＜Ｈ－２・３号住居址＜Ｍ－８号溝となる。　**平面形態**　北側が調査区外となり全容は不明である。　**規模**　長軸5.00ｍ×短軸2.84ｍ以上×深さ0.40ｍ。　**主軸方位**　Ｎ-57°－Ｅ。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　未検出。　**柱穴**　主柱穴を２基検出した。Ｐ－1は径56×55㎝、深さ95㎝、Ｐ－2は径51×34㎝、深さ77㎝を測る。　**貯蔵穴**　カマドの右側に位置する（Ｄ－1）。平面形は隅丸方形を呈し、下端の東側はオーバーハングする。径81×79㎝、深さ97㎝を測る。　**ピット**　１基を検出した（Ｐ－3）。径60×34㎝以上、深さ53㎝を測る。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特に竪穴中央部は強く硬化している。貼床で黒褐色土を主体とする。硬化部分は黄橙色土を主体とした黒褐色土との混土である。　**壁溝**　南・西壁下にめぐる。幅６～16㎝、深さ８～10㎝。　**遺物**　土師器坏・高坏・甕・壺、須恵器坏・蓋・甕・壺、管玉、鉄製品、薦編石などが多量に出土した。貯蔵穴の下層から土師器の坏（５）・小形壺（12）・甕（14）の破片が、Ｐ－1の最下層から土師器坏・高坏の破片が、

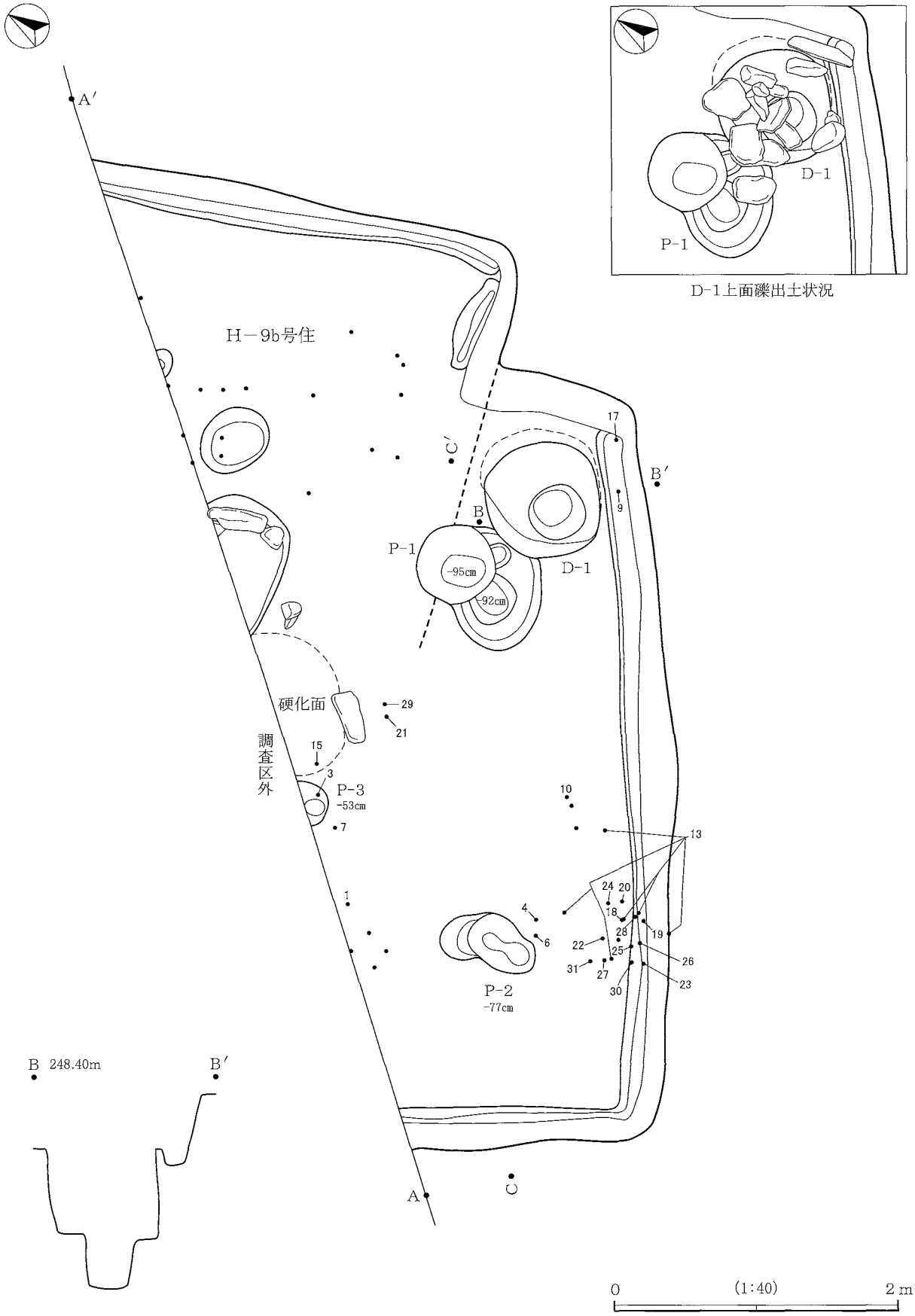
P－2の下層から土師器の坏（2）・高坏（8）の破片が出土した。16の管玉は4区下層の出土である。薦編石は概ね床面直上である。竪穴の南東隅、貯蔵穴の上からは、大振りの安山岩が上層から流れ込んだ状態で出土した。床面直上の遺物は1・3・6・7・15がある。　**時期**　6世紀中頃と推定される。



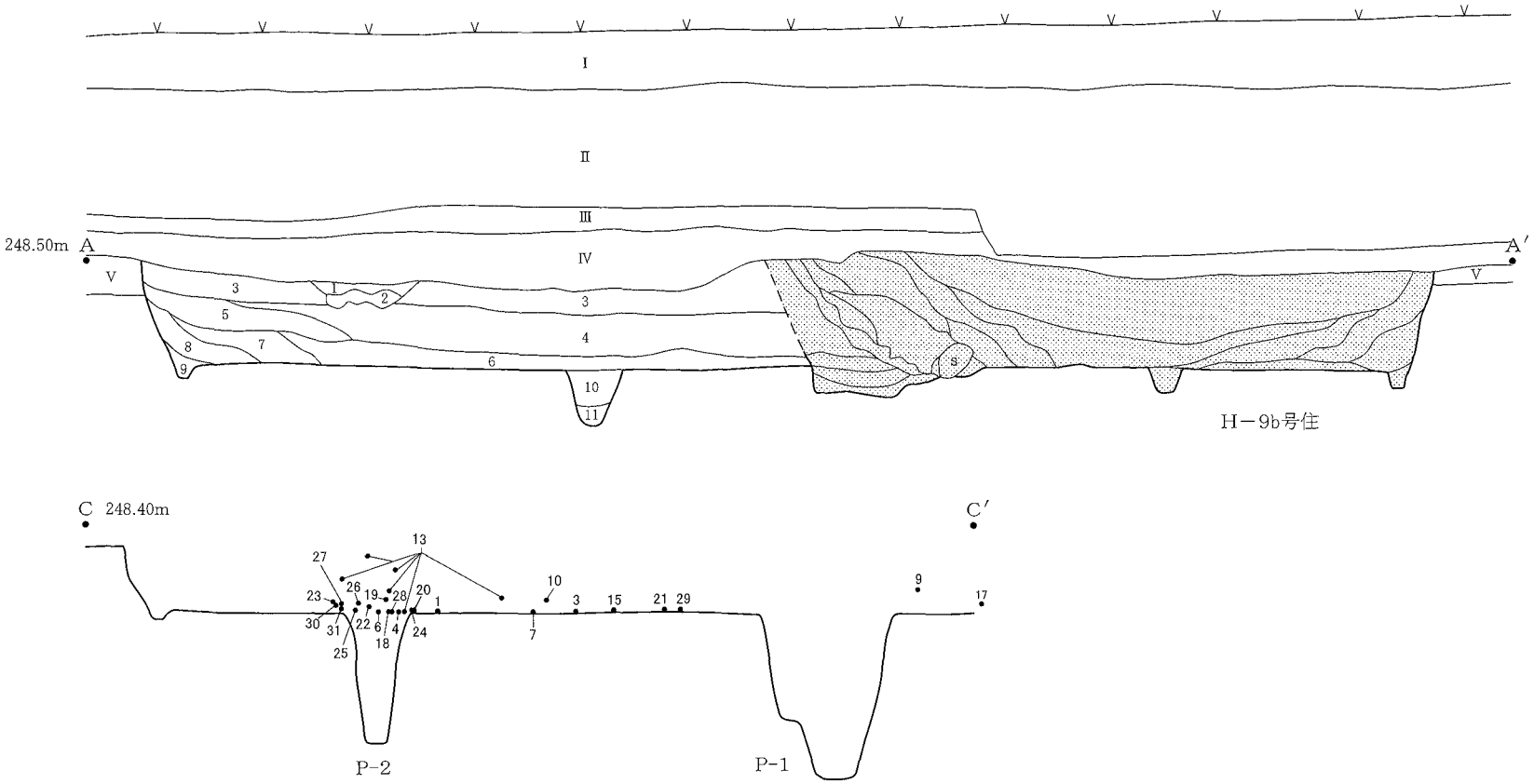
第15図　H－9a号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	No.17	口径（12.5） 底径　－ 器高〈5.7〉	①良好　②明褐色　③片岩、白色粒　④1/3	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。
2	土師器 坏	P-2下層	口径（13.7） 底径　－ 器高〈4.4〉	①良好　②明褐色　③白色粒、褐色粒　④口縁部～体部1/2	外面　口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。
3	土師器 坏	No.20	口径（14.0） 底径　－ 器高〈3.6〉	①良好　②橙色　③黒色粒、褐色粒　④口縁部～体部1/4	外面　口縁部ヨコナデ。体部へラナデ。 内面　口縁部～体部に横・斜方向のミガキ。 内面に黒色処理。
4	土師器 坏	No.7、1・4区、一括	口径（12.6） 底径　－ 器高　4.1	①良好　②橙色　③白色粒　④口縁部1/3欠損	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部横方向のミガキ。体部～底部に横・斜方向のミガキ。 内面に黒色処理。
5	土師器 坏	D-1	口径（13.8） 底径　－ 器高〈4.4〉	①良好　②にぶい褐色　③石英、白色粒　④2/3	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラナデ。 内外面に黒色処理。

第7表　H－9a号住居址出土遺物観察表（1）



第16図　H－9a号住居址（1）



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－9a住	Ⅰ	暗褐色土層7.5YR3/3	弱い	弱い	As-Aを多量含む。
	Ⅱ	暗褐色土層7.5YR3/3	弱い	弱い	As-B主体。
	Ⅲ	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	Ⅳ	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。
	Ⅴ	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色土を多量、As-YPを中量含む。
	1	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	橙色土を中量、白色粒を少量含む。
	2	橙色土層7.5YR7/6	やや弱い	ややあり	黒褐色土を少量、焼土を微量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YPを少量、炭化物粒・焼土を微量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YP・炭化物粒を少量、焼土を微量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	明黄褐色土を多量、白色粒・炭化物粒・焼土を少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	炭化物粒を多量、白色粒・As-YPを少量、焼土を微量含む。
	7	黒褐色土層7.5YR3/2	あり	ややあり	炭化物粒・白色粒を少量、As-YPを微量含む。
	8	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。
	9	黒色土層7.5YR2/1	やや弱い	ややあり	白色粒・炭化物粒・As-YPを少量含む。
	10	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。
	11	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。

0 (1:40) 2 m

第17図 H－9a号住居址（2）

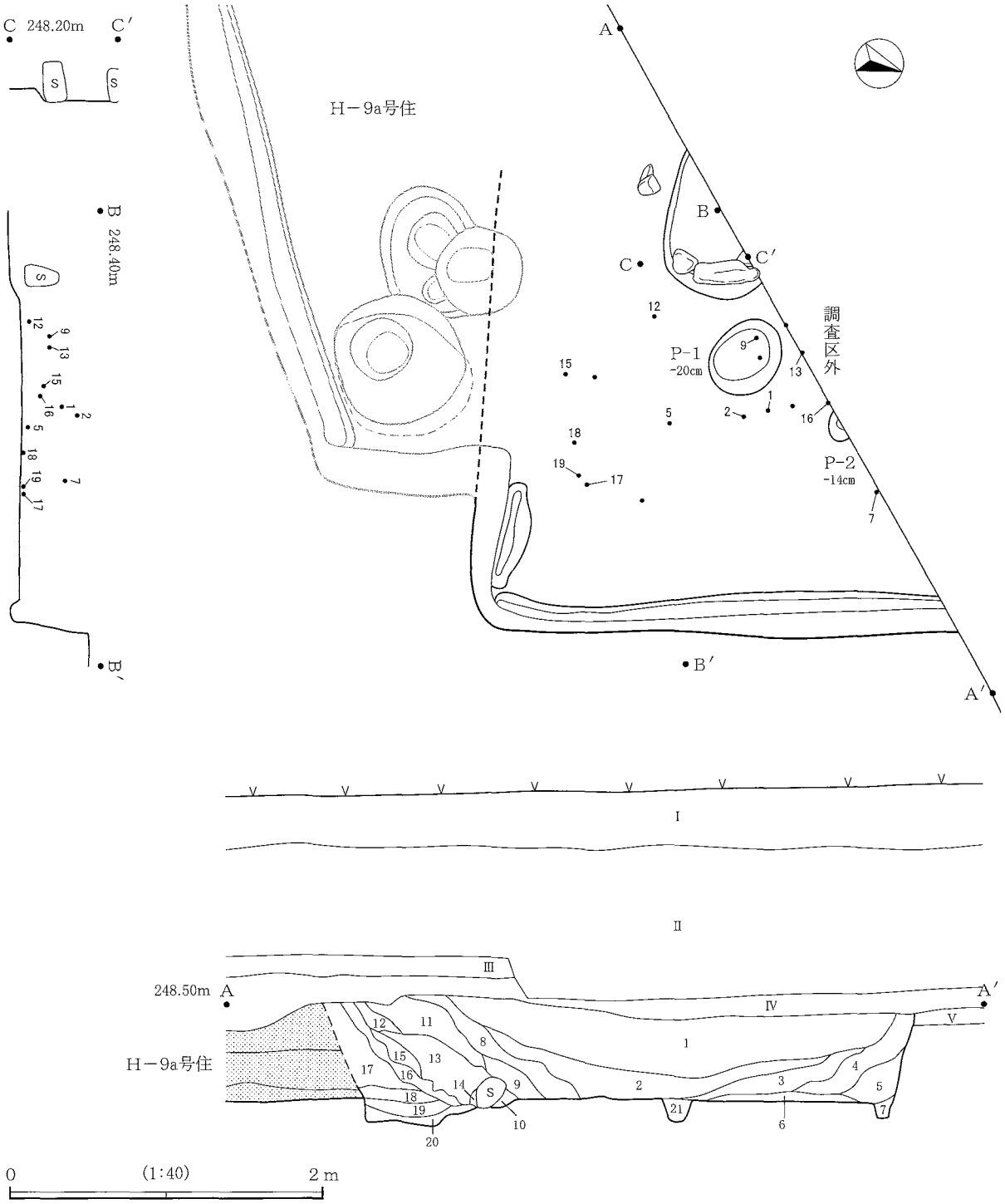
番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
6	土師器 坏	No.6・8・9、 一括	口径（16.0） 底径　－ 器高　6.0	①良好　②橙色　③白色粒、褐色粒　④口縁部 1/2 欠損	外面　口縁部ヨコナデ→斜方向のミガキ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ→横・斜方向のミガキ。体部～底部に横・斜方向のミガキ。
7	須恵器 坏	No.19	口径（12.8） 底径　－ 器高　3.4	①還元焔　②灰色　③白色粒 ④ 1/4	外面　ロクロナデ。体部下半～底部回転へラケズリ。 内面　ロクロナデ。底面に同心円の当て具痕。 たちあがりは内傾、受部は上方へのびる。
8	土師器 高坏	P-2 下層	口径（17.0） 底径　－ 器高〈4.6〉	①良好　②明黄褐色　③白色粒、黒色粒、褐色粒　④口縁部 1/8	外面　口縁部ヨコナデ。坏部へラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。坏底部へラナデ。
9	土師器 高坏	No.32	口径　－ 底径　－ 器高〈5.2〉	①良好　②にぶい黄褐色　③白色粒　④坏部底面～脚部上半	外面　脚部縦方向のへラナデ。 内面　坏部底面一方向のミガキ、黒色処理。脚部上位指ナデ。
10	土師器 高坏	No.11	口径　－ 底径　－ 器高〈17.1〉	①良好　②橙色　③片岩、石英、角閃石、白色粒　④脚部	外面　脚部縦方向のへラケズリ。 内面　脚部上半に縦方向のへラナデ、下半に横方向のへラナデ。
11	土師器 小形壺	一括	口径（8.2） 底径　－ 器高〈6.1〉	①良好　②にぶい黄褐色　③白色粒、褐色粒　④口縁部～胴部上半 1/3	外面　口縁部ヨコナデ。胴部斜方向のへラナデ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部横方向のへラナデ。
12	土師器 小形壺	D-1	口径（11.5） 底径　－ 器高〈11.4〉	①良好　②にぶい橙色　③チャート、白色粒、褐色粒　④口縁部～胴部上半 1/3	外面　口縁部ヨコナデ。胴部は摩耗のため不明。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部横・斜方向のへラナデ。
13	土師器 甕	No.1～4・8・9、4 区、 一括	口径（17.4） 底径（8.4） 器高 30.7	①良好　②橙色　③チャート、白色粒、褐色粒、黒色粒　④ 3/4	外面　口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のへラケズリ→下端横方向のへラナデ。底部へラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部下半縦方向のへラナデ→上半横方向のへラナデ。
14	土師器 甕	D-1	口径（19.0） 底径　－ 器高〈6.0〉	①良好　②にぶい黄橙色　③白色粒、黒色粒　④口縁部～胴部上位 1/7	外面　口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部上位に縦方向のへラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上位横方向のへラナデ。
15	土師器 甕	No.21、 1・2 区、 一括	口径　－ 底径　9.1 器高〈12.0〉	①良好　②にぶい黄橙色　③白色粒、褐色粒、小礫　④胴部下半～底部 2/3	外面　胴部下半斜方向のへラナデ→斜方向のへラケズリ、下端は横方向のへラナデ。底部ナデ。 内面　胴部下半斜方向→横方向のへラナデ。底部へラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量（cm．g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
16	石製品 管玉	4 区	①長さ 2.5、幅 0.9、厚さ 0.85、重量 3.31　②緑色凝灰岩　③一部欠損　④非常に丁寧な研磨。		
17	鉄製品 不明	No.54	①長さ〈1.6〉、幅〈2.8〉、厚さ 0.1、重量 1.89　②鉄製　③破片　④－		
18	薦編石	No.44	①長さ 12.15、幅 6.37、厚さ 4.91、重量 511.52　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
19	薦編石	No.43	①長さ 12.95、幅 6.55、厚さ 5.75、重量 694.50　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
20	薦編石	No.42	①長さ 12.12、幅 5.90、厚さ 6.44、重量 683.82　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
21	薦編石	No.35	①長さ 13.45、幅 6.20、厚さ 5.37、重量 654.43　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
22	薦編石	No.40	①長さ 13.60、幅 7.38、厚さ 5.78、重量 782.85　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
23	薦編石	No.38	①長さ 13.30、幅 7.43、厚さ 4.99、重量 738.02　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
24	薦編石	No.41	①長さ 14.23、幅 7.16、厚さ 6.27、重量 931.64　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
25	薦編石	No.46	①長さ 14.15、幅 8.48、厚さ 5.59、重量 793.61　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
26	薦編石	No.39	①長さ 14.38、幅 6.41、厚さ 5.04、重量 695.71　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
27	薦編石	No.50	①長さ 14.85、幅 7.07、厚さ 5.45、重量 649.95　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
28	薦編石	No.45	①長さ 15.15、幅 7.75、厚さ 4.95、重量 902.53　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
29	薦編石	No.51	①長さ 15.18、幅 6.61、厚さ 6.16、重量 766.62　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
30	薦編石	No.37	①長さ 16.85、幅 6.51、厚さ 6.60、重量 1,019.04　②流紋岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
31	薦編石	No.36	①長さ 15.58、幅 8.37、厚さ 7.29、重量 1,298.89　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		

第８表　Ｈ－9a 号住居址出土遺物観察表（2）

④Ｈ－9b 号住居址（第 18 ～ 20 図、第９・10 表、PL.　４・19・20）

位置　Ｅ－1、Ｆ－1グリッド。　**重複**　Ｈ－２・９a 号住居址、Ｍ－１号溝と重複する。新旧関係は古い方からＨ－9a 号住居址＜本遺構＜Ｈ－２号住居址＜Ｍ－１号溝となる。　**平面形態**　北側が調査区外となり全容は不明である。　**規模**　南北軸 2.75 m以上、深さ 0.46 m。　**主軸方位**　Ｎ -111°　－Ｗ。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　西壁に位置する。全長 0.96 m以上。焚口部の鳥居状石組みが残存する。焚口幅は 28 cmを測る。壁断面に明黄褐色粘質土と黒褐色土の混土がみられ、構築土に使用されたものと推定される。　**柱穴**　未検出。　**貯蔵穴**　未検出。　**ピット**　２基を検出した。Ｐ－1は径 52 × 42 cm、深さ 20 cmを測り、中層から半分

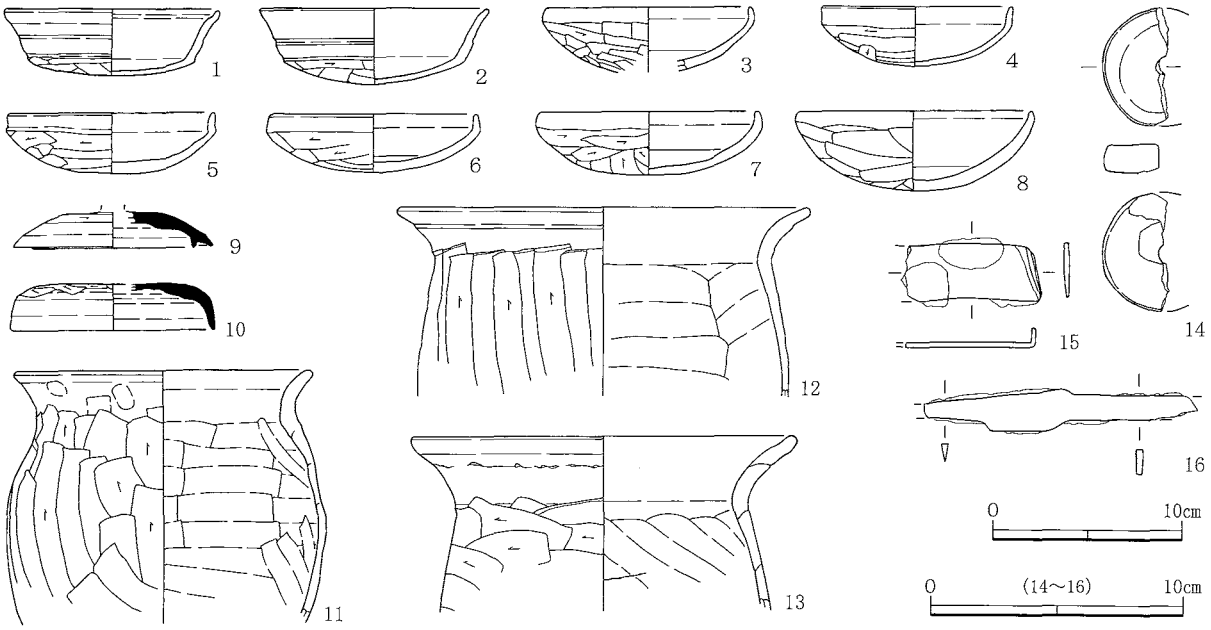
に割れた土製紡錘車（14）が出土した。　**床面の状態**　全体的に締まっている。貼床で黒褐色土を主体とする。　**壁溝**　東・南壁下にめぐり、南東隅は途切れる。幅８～14㎝、深さ４～６㎝。　**遺物**　土師器坏・甕・壺、須恵器坏・蓋・甕・壺、土製紡錘車、鉄製品、薦編石などが少量出土した。薦編石は床面直上での出土である。なお、重複するH－２号住居址出土の遺物で古墳時代に比定されるもの（３・４・６・10・11）については、本住居址に伴う遺物として扱った。　**時期**　７世紀第３四半期と推定される。



第18図　H－9b号住居址（1）

遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－9b住	Ⅰ	暗褐色土層7.5YR3/3	弱い	弱い	As-Aを多量含む。
	Ⅱ	暗褐色土層7.5YR3/3	弱い	弱い	As-B主体。
	Ⅲ	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	Ⅳ	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。
	Ⅴ	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	白色粒を多量、As-YPを中量含む。
	1	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを多量、焼土を微量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	炭化物粒を大量、明黄褐色土・焼土を中量、白色粒・As-YPを多量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	にぶい黄橙色土を多量、炭化物粒・白色粒・As-YPを中量、焼土を微量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	As-YPを中量、炭化物粒・白色粒を少量、焼土を微量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量、炭化物粒・焼土を微量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	7	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	As-YPを多量含む。
	8	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	明黄褐色土を多量、焼土・炭化物粒を中量、白色粒を少量含む。
	9	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	明黄褐色土・白色粒・炭化物粒・焼土を少量含む。
	10	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	明黄褐色土を少量、白色粒・炭化物粒を微量含む。
	11	明黄褐色土層10YR7/6	強い	ややあり	黒褐色土を多量、白色粒を少量、焼土を微量含む。
	12	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	明黄褐色土を中量、焼土・炭化物粒を少量含む。
	13	黄橙色土層10YR7/8	強い	ややあり	焼土を多量、黒褐色土・白色粒を少量含む。
	14	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	明黄褐色土を大量、焼土を微量含む。
	15	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・明黄褐色土を少量含む。
	16	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	明黄褐色土・白色粒を少量、焼土を微量含む。
	17	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを多量、炭化物粒・焼土を少量含む。
	18	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	明黄褐色土を多量、白色粒・炭化物粒・焼土を少量含む。
	19	黒色土層7.5YR2/1	あり	ややあり	明黄褐色土を多量、白色粒を少量、炭化物粒・焼土を微量含む。
	20	黒色土層7.5YR2/1	あり	ややあり	明黄褐色ブロックを多量、白色粒を少量含む。
	21	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土を少量含む。

第19図　H－9b号住居址（2）



第20図　H－9b号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	No.27	口径（11.3） 底径　－ 器高　3.5	①良好　②明褐色　③白色粒、黒色粒　④1/4	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。
2	土師器 坏	No.26、 1区	口径 12.2 底径　－ 器高　4.0	①良好　②橙色　③角閃石、白色粒、褐色粒　④2/3	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。 内外面ともに摩耗。
3	土師器 坏	H-2住一括	口径（11.0） 底径　－ 器高〈3.4〉	①良好　②橙色　③石英、白色粒 ④口縁部～体部1/4	外面　口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。
4	土師器 坏	H-2住一括	口径 10.1 底径　－ 器高　3.1	①良好　②橙色　③石英、白色粒 ④1/2	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。

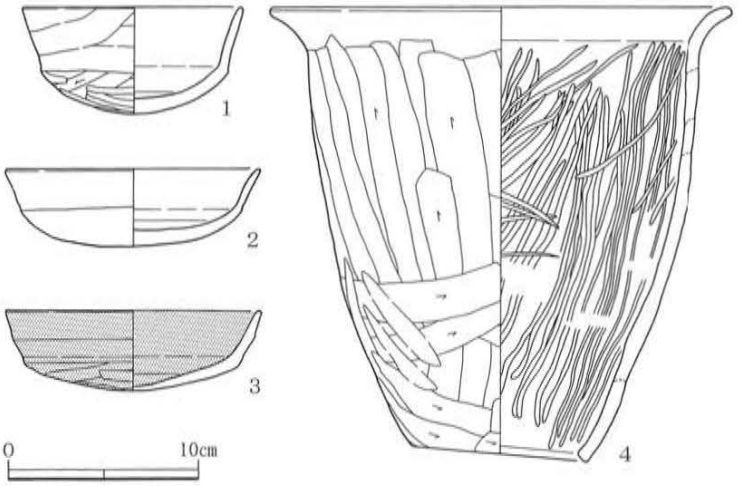
第9表　H－9b号住居址出土遺物観察表（1）

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
5	土師器 坏	No.24	口径（11.0） 底径　－ 器高　3.2	①良好　②明褐色　③白色粒 ④1/3	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。
6	土師器 坏	H-2住	口径（11.0） 底径　－ 器高　3.0	①良好　②橙色　③角閃石、白色粒　④1/5	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。 外面摩耗。
7	土師器 坏	No.52	口径 11.7 底径　－ 器高　3.3	①良好　②橙色　③白色粒、黒色粒　④2/3	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。
8	土師器 坏	1区	口径（12.4） 底径　－ 器高　4.2	①良好　②明褐色　③角閃石、白色粒　④2/3	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面　口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。
9	須恵器 蓋	No.30	口径（10.6） 底径　－ 器高〈1.9〉	①還元焔　②灰色　③白色粒 ④1/4、摘み部欠損	外面　ロクロナデ。天井部回転へラケズリ。 内面　ロクロナデ。
10	須恵器 蓋	H-2住No.4、3区	口径（10.8） 底径　－ 器高　2.4	①還元焔　②灰色　③白色粒 ④1/3	外面　ロクロナデ。天井部手持ちへラケズリ。 内面　ロクロナデ。
11	土師器 甕	H-2住No.15・4区	口径 15.8 底径　－ 器高〈13.3〉	①良好　②橙色　③片岩、雲母、白色粒、褐色粒　④口縁部～胴部中位2/3	外面　口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部縦方向のへラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部横・斜方向のへラナデ。
12	土師器 甕	No.22	口径（22.0） 底径　－ 器高〈10.0〉	①良好　②にぶい橙色　③雲母、白色粒、小礫　④口縁部～胴部上位1/6	外面　口縁部ヨコナデ、弱い段を有する。胴部上位に縦方向のへラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のへラナデ。
13	土師器 甕	No.53	口径 20.5 底径　－ 器高〈9.3〉	①良好　②にぶい黄橙色　③雲母、白色粒、褐色粒　④口縁部～胴部上位	外面　口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のへラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のへラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量（cm．g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
14	土製品 紡錘車	P-1中層	①直径（4.8×4.8）、孔径（0.75×0.75）、厚さ1.1、重量〈16.90〉　②焼成：良好、色調：浅黄橙色、胎土：白色粒　③1/2　④全面に丁寧なナデ。上面は非常に平滑。		
15	鉄製品 鎌	No.33	①長さ〈5.7〉、幅2.7、厚さ0.2、重量15.38　②鉄製　③刃部欠損　④柄装着部は折り曲がる。		
16	鉄製品 刀子	No.34	①全長11.1、茎長8.5、茎幅1.1、茎厚0.25、刀身幅0.8、刀身厚0.25、重量16.58　②鉄製　③両端部欠損 ④－		
17	鷹編石	No.48	①長さ12.10、幅6.16、厚さ3.69、重量369.03　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
18	鷹編石	No.47	①長さ13.35、幅5.67、厚さ5.24、重量627.83　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		
19	鷹編石	No.49	①長さ16.15、幅8.03、厚さ4.79、重量630.00　②安山岩　③完形　④－　⑤写真のみ		

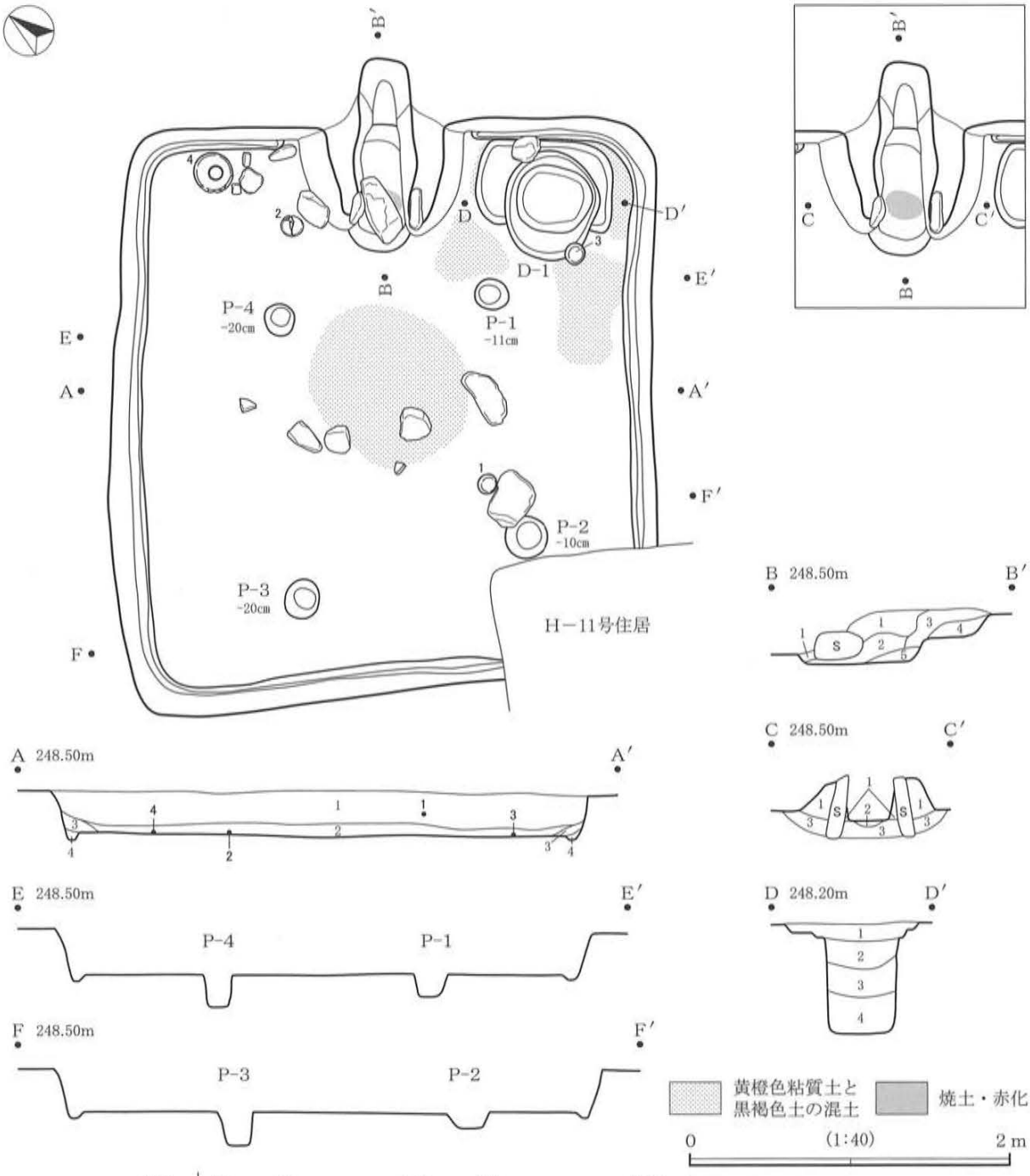
第10表　H－9b号住居址出土遺物観察表（2）

④H－10号住居址（第21・22図、第11表、PL. 4・5・20）

位置　E－2～3、F－2～3グリッド。　**重複**　H－11号住居址と重複し、本遺構が古い。　**平面形態**　方形。　**規模**　長軸3.50 m×短軸3.19 m×深さ0.30 m。　**主軸方位**　N－54°－E。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　北東壁の中央に位置する。全長1.10 m。焚口部の石組みと袖が残存する。焚口幅28 cmを測る。袖石には両側面の平らな厚さ6～9 cmの安山岩を使用している。燃焼部からは天井石が落ちた状態で出土した。袖構築土は黒色土を主体とした黄橙色粘質土との混土が用いられる。火床面は焼土化が顕著である。　**柱穴**　主柱穴を4基検出した。P－1は径21×19 cm、深さ11 cm、P－2は径27×26 cm、深さ10 cm、P－3は径25×21 cm、



第21図　H－10号住居址出土遺物



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H−10住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒を中量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	やや弱い	ややあり	褐色土・白色粒を少量含む。
カマド B-B′	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・黄橙色土を多量、炭化物粒を少量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、黄橙色土を中量、焼土・炭化物粒を微量含む。
	3	黄橙色土層10YR7/8	あり	ややあり	白色粒・黒褐色土を中量、焼土を少量、炭化物粒を微量含む。
	4	灰黄褐色土層10YR4/2	ややあり	ややあり	黒褐色土・焼土を中量、白色粒を少量含む。
	5	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒・白色粒を少量含む。
カマド C-C′	1	黒色土層10YR2/1	あり	ややあり	黄橙色土を中量、白色粒・As-YPを少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、白色粒・As-YPを少量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒を中量、As-YPを少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	白色粒・As-YPを微量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	白色粒・As-YPを中量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	やや弱い	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。

第22図　H-10号住居址

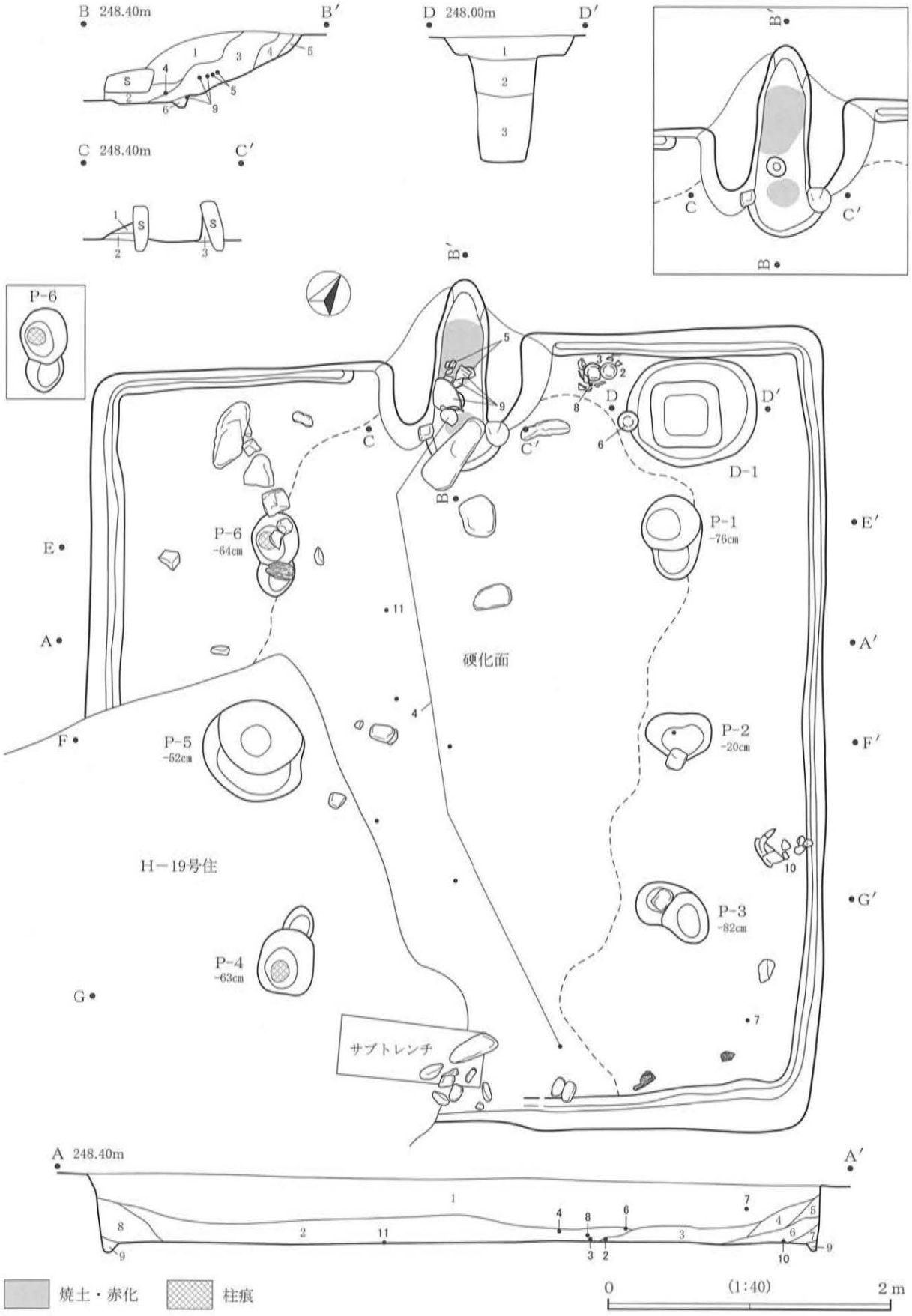
深さ 20 cm、P－4は径 20 × 19 cm、深さ 20 cmを測る。　**貯蔵穴**　カマドの右側に位置する（D－1）。平面形は楕円形を呈する。径 68 cm× 49 cm、深さ 69 cmを測る。貯蔵穴の外側には長径 85 ×短径 53 cm、深さ 6 cmの浅い長方形の窪みが検出され、蓋の痕跡と推定される。　**床面の状態**　全体的に締まっている。黒褐色土を主体とした貼床で、竪穴中央部と貯蔵穴周辺には黄橙色粘質土との混土が認められる。**壁溝**　全周する。幅 6 ～ 9 cm、深さ 4 ～ 5 cm。　**遺物**　土師器坏・甕・甑、須恵器甕などが少量出土した。床面直上の遺物は 2 ・ 3 ・ 4 があり、ほぼ完形である。 2 の坏・ 4 の甑はカマドの左脇から逆位の状態で、 3 の坏は貯蔵穴の南脇から正位の状態で出土した。竪穴中央にまとまる大形礫は覆土中層の出土で、 1 の完形の坏は礫と同レベルから正位の状態で出土した。　**時期**　6 世紀後半と推定される。

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	No. 1	口径 11.7 底径 － 器高 5.7	①普通 ②にぶい橙色 ③角閃石、白色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。
2	土師器 坏	No. 4	口径 13.5 底径 － 器高 4.1	①普通 ②にぶい赤褐色 ③片岩、白色粒、褐色粒 ④口縁部一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部は摩耗のため不明瞭。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。 内底面の器表面は小円形の剥離が多数あり。
3	土師器 坏	No. 3	口径 13.6 底径 － 器高 4.3	①普通 ②黒褐色 ③白色粒、黒色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。底部へラナデ。 内外面に黒色処理。外面体部～底部に小円形の剥離多数あり。
4	土師器 甑	No. 5	口径 24.6 底径 9.2 器高 23.9	①良好 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、褐色粒、小礫 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のヘラケズリ→下半横・斜方向のヘラケズリ、一部ヘラナデ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部横方向のヘラナデ→縦・斜方向のミガキ。下端部へラケズリ。

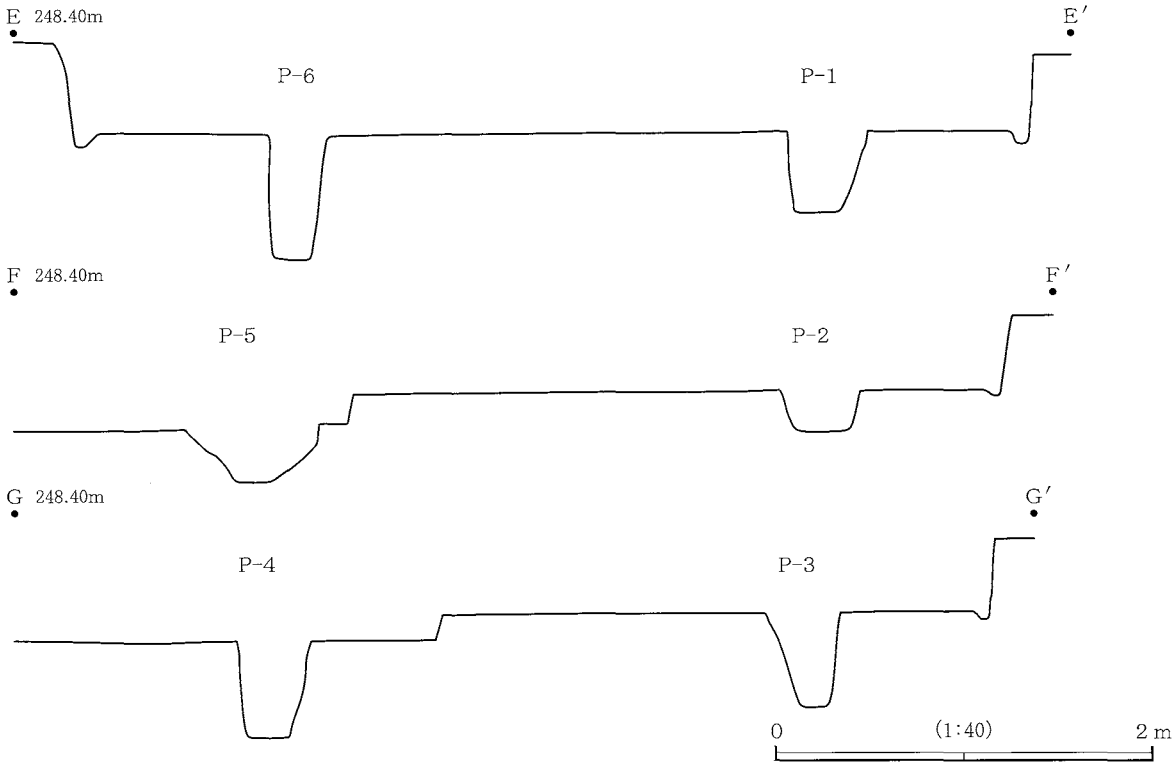
第 11 表　H－10 号住居址出土遺物観察表

⑤H－13 号住居址（第 23 ～ 26 図、第 12 ・ 13 表、PL. 5 ・ 6 ・ 20 ・ 21）

位置　G－2～3、H－2～3グリッド。　**重複**　H－4・14・19 号住居址と重複し、本遺構が最も古い。**平面形態**　北西－南東方向にやや長い縦長長方形。　**規模**　長軸 5.42 m×短軸 5.08 m×深さ 0.47 m。**主軸方位**　N －34°　－W。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。下層から床面付近には炭化材が散在している。　**カマド**　北西壁の中央に位置する。全長 1.35 m。焚口部の石組みと袖が残存する。焚口幅は 37 cmを測る。袖石には両側面の平らな厚さ 10 cmの安山岩を使用している。焚口部には天井石が落ちた状態で出土した。袖構築土は黒色土を主体とした黄橙色粘質土との混土が用いられる。火床面および煙道底面は焼土化が顕著である。燃焼部には支脚の痕跡とみられる小ピット（径 15 × 12 cm、深さ 5 cm）が検出される。　**柱穴**　主柱穴を 6 基検出した。P－1は径 59 × 42 cm、深さ 76 cm、P－2は径 46 × 33 cm、深さ 20 cm、P－3は径 57 × 40 cm、深さ 82 cm、P－4は径 64 × 39 cm、深さ 63 cm、P－5は 72 × 71 cm、深さ 52 cm、P－6は 59 × 33 cm、深さ 64 cmを測る。P－4・6は底に柱のアタリが確認された。　**貯蔵穴**　カマドの右側に位置する（D－1）。平面形は床面では楕円形を呈し、中層以下は方形となる。径 93 × 76 cm、深さ 88 cmを測る。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド手前から竪穴中央、カマド対面の壁下まで強く硬化している。貼床で黒褐色土を主体とする。　**壁溝**　全周する。幅 6 ～ 14 cm、深さ 2 ～ 4 cm。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器甕、石製紡錘車、薦編石などが少量出土した。床面直上の遺物は 2 ・ 3 ・ 10 がある。 2 ・ 3 の坏はカマド右脇から出土し、 2 は逆位、 3 は正位の状態であった。10 の甕は南東壁際から横位で出土した。11 の石製紡錘車は床面にめり込んだ状態であった。13 ～ 19 は時期が異なるもので、紛れ込みである。15 の灰釉陶器は大原 2 号窯式期に比定される。　**時期**　6 世紀後半と推定される。　**備考**　焼失住居。

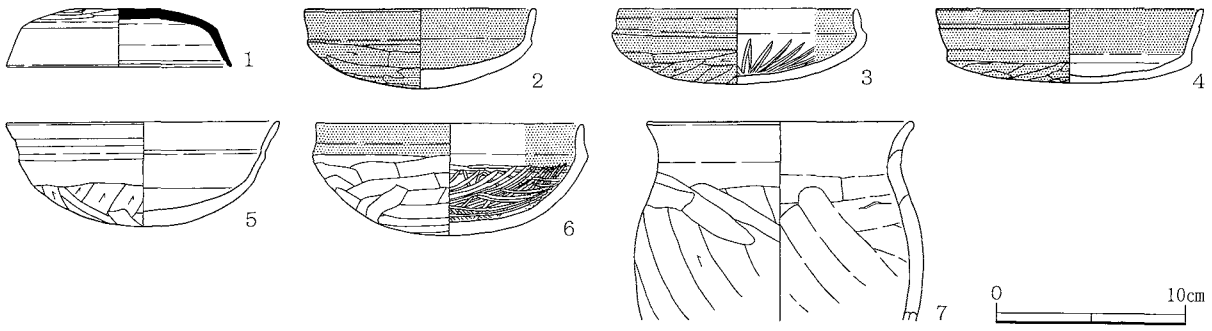


第23図　H－13号住居址（1）

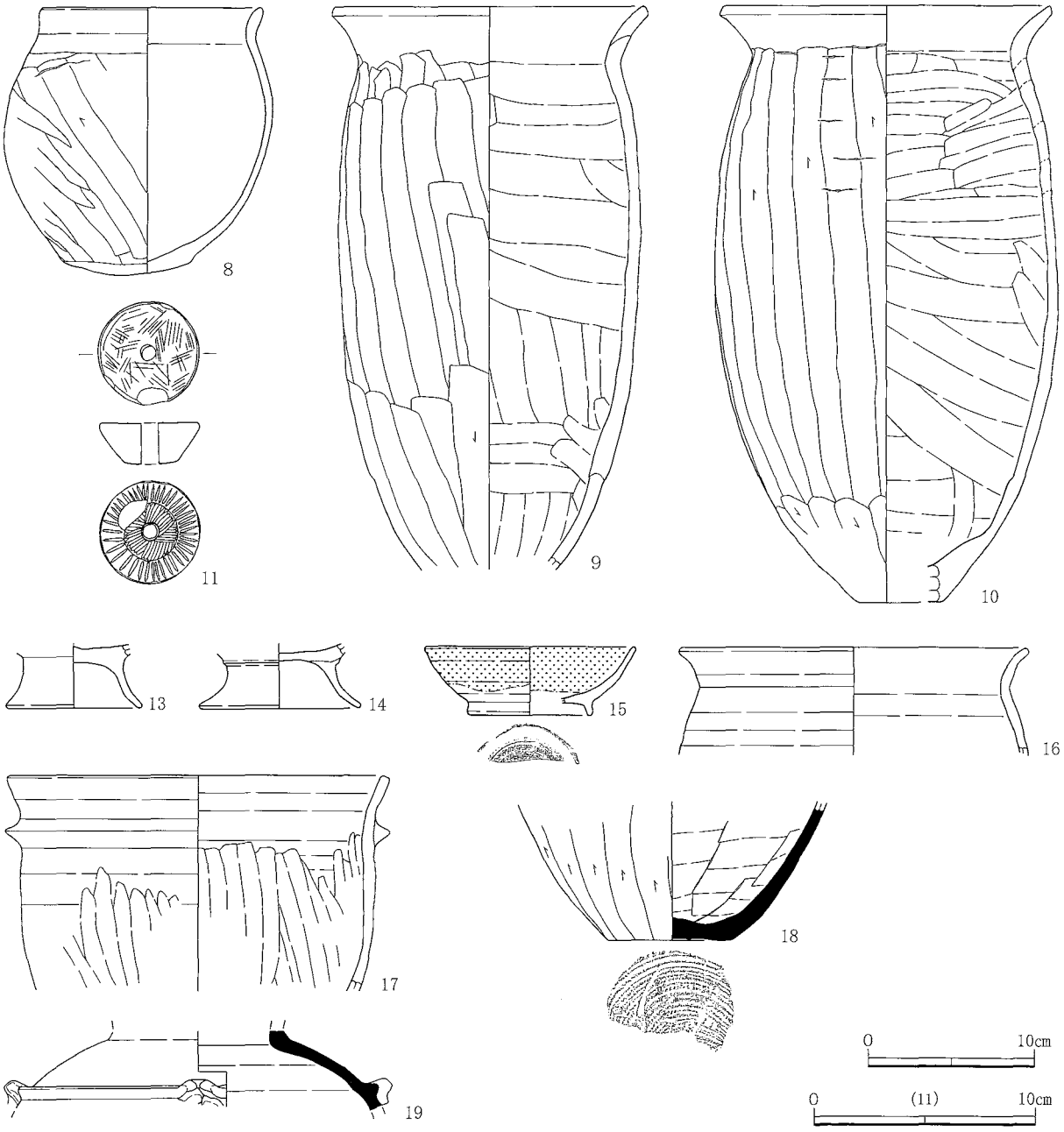


遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H−13住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒を多量、As-YPを少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	白色粒を多量、炭化物粒・As-YPを少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	炭化物を多量、白色粒・As-YPを少量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・炭化物粒を少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物を多量、白色粒・As-YPを少量含む。
	7	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・炭化物粒を少量含む。
	8	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	白色粒・炭化物粒を中量、As-YPを少量含む。
	9	黒色土層7.5YR2/1	やや弱い	ややあり	褐色土・白色粒を少量含む。
カマド B-B′	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、焼土・炭化物粒・白色粒を少量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒を少量含む。
	3	にぶい赤褐色土層5YR5/4	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒を多量、白色粒を少量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒・白色粒を少量含む。
	5	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を少量、炭化物粒・白色粒を微量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	焼土・炭化物粒を少量含む。
カマド C-C′	1	黒色土層7.5YR2/1	強い	ややあり	黄橙色土を中量、白色粒を少量、焼土を微量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	強い	ややあり	黄橙色土を中量、白色粒・焼土を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	強い	ややあり	黄橙色土・白色粒を少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を中量、白色粒を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	As-YPを多量、炭化物粒を少量含む。

第24図　H−13号住居址（2）



第25図　H−13号住居址出土遺物（1）



第26図　H-13号住居址出土遺物（2）

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 蓋	3区	口径（12.0） 底径　－ 器高　3.1	①還元焔　②灰色　③白色粒 ④1/4	外面　ロクロナデ。天井部に手持ちヘラケズリ。 内面　ロクロナデ。口縁部に横位沈線が1条めぐる。
2	土師器 坏	No.5	口径 12.4 底径　－ 器高　4.3	①ほぼ完形　②橙色　③白色粒、黒色粒　④ほぼ完形	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底面ヘラケズリ。 内面　口縁部～底部ヨコナデ。 内外面に黒色処理。内底面の器表面剥離。
3	土師器 坏	No.6	口径（12.6） 底径　－ 器高　4.0	①良好　②橙色　③白色粒、褐色粒　④3/4	外面　口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。体部～底部に放射状のミガキ。 内外面に黒色処理。
4	土師器 坏	No.9	口径（14.2） 底径　－ 器高　3.9	①良好　②にぶい黄橙色　③白色粒、褐色粒　④1/2	外面　口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。有段口縁。 内面　口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。 外面および内面口縁部に黒色処理。

第12表　H-13号住居址出土遺物観察表（1）

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
5	土師器 坏	No.28・29	口径 14.6 底径 ― 器高 5.5	①普通 ②橙色 ③白色粒、褐色粒 ④2/3	外面 口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半～底部へラケズリ。有段口縁。 内面 口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部へラナデ。
6	土師器 坏	No.4	口径 14.2 底径 ― 器高 5.9	①良好 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、褐色粒 ④ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。体部～底部に横・斜方向のミガキ。 内面および外面口縁部に黒色処理。
7	土師器 小形甕	No.8	口径 (14.2) 底径 ― 器高 〈10.5〉	①普通 ②にぶい黄褐色 ③白色粒、小礫 ④口縁部～胴部上半 1/6	外面 口縁部ヨコナデ。胴部に縦・斜方向のへラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部に横・斜方向のへラナデ。
8	土師器 小形甕	No.7・23・30	口径 (13.6) 底径 7.9 器高 16.1	①普通 ②橙色 ③白色粒、小礫 ④口縁部～胴部 2/3 欠損	外面 口縁部ヨコナデ。胴部に斜方向のへラケズリ。底部へラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部～底部へラナデ。
9	土師器 甕	No.24・26・31	口径 (19.1) 底径 ― 器高 〈33.9〉	①普通 ②にぶい黄橙色 ③片岩、白色粒、小礫 ④口縁部～胴部 1/2	外面 口縁部ヨコナデ。胴部に縦方向のへラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部に縦・横方向のへラナデ。
10	土師器 甕	No.2、4区	口径 20.2 底径 (5.1) 器高 35.9	①良好 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、褐色粒、小礫 ④胴部～底部 1/2 欠損	外面 口縁部ヨコナデ。胴部縦方向のへラケズリ。胴部上位は輪積み痕が顕著。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部横・斜方向のへラナデ。胴部上半と下半で工具の幅が異なる。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
11	石製品 紡錘車	No.17	①上面径 4.6×4.55、下面径 2.6×2.45、厚さ 1.9、重量 58.65 ②蛇紋岩 ③一部欠損 ④上面に擦痕多数。下面にミガキ。側面に放射状のミガキ。		
12	薦編石	3区	①長さ 8.58、幅 3.42、厚さ 2.47、重量 87.90 ②安山岩 ③完形 ④― ⑤写真のみ		
番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
13	須恵器 碗	H-13 住No.14	口径 ― 底径 (4.1) 器高 〈3.8〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、黒色粒 ④高台部 3/4	外面 高台部ロクロナデ。底面ナデ消し。 内面 高台部ロクロナデ。
14	須恵器 碗	H-13 住	口径 ― 底径 (9.6) 器高 〈3.9〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒 ④高台部 1/3	外面 高台部ロクロナデ。底面ナデ消し。 内面 高台部ロクロナデ。
15	灰釉陶器 碗	H-13 住	口径 (12.8) 底径 (7.3) 器高 4.1	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰オリーブ ③白色粒 ④1/4	外面 ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 灰釉漬け掛け。
16	ロクロ甕	H-13 住	口径 (21.2) 底径 ― 器高 〈6.5〉	①酸化焔 ②橙色 ③褐色粒 ④口縁部～胴部上位 1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
17	須恵器 羽釜	H-13 住	口径 (23.2) 底径 ― 器高 〈12.9〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、小礫 ④口縁部～胴部上半 1/4	外面 ロクロナデ。胴部に縦方向のへラナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。胴部に縦方向のへラナデ。
18	須恵器 甕	H-13 住No.11	口径 ― 底径 7.5 器高 〈8.3〉	①還元焔 ②灰色 ③石英、白色粒 ④胴部下位～底部 2/3	外面 胴部下位に縦方向のへラケズリ。底面回転糸切り。 内面 胴部下位に横方向のへラナデ。底部へラナデ。
19	須恵器 甕	H-13 住、H2 グリッド 3 面	口径 ― 底径 ― 器高 〈4.9〉	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒 ④肩部破片	外面 ロクロナデ。突帯 1 条、断面形は長方形でやや上を向く。突帯の上に耳を貼付。全体に自然釉付着。 内面 ロクロナデ。

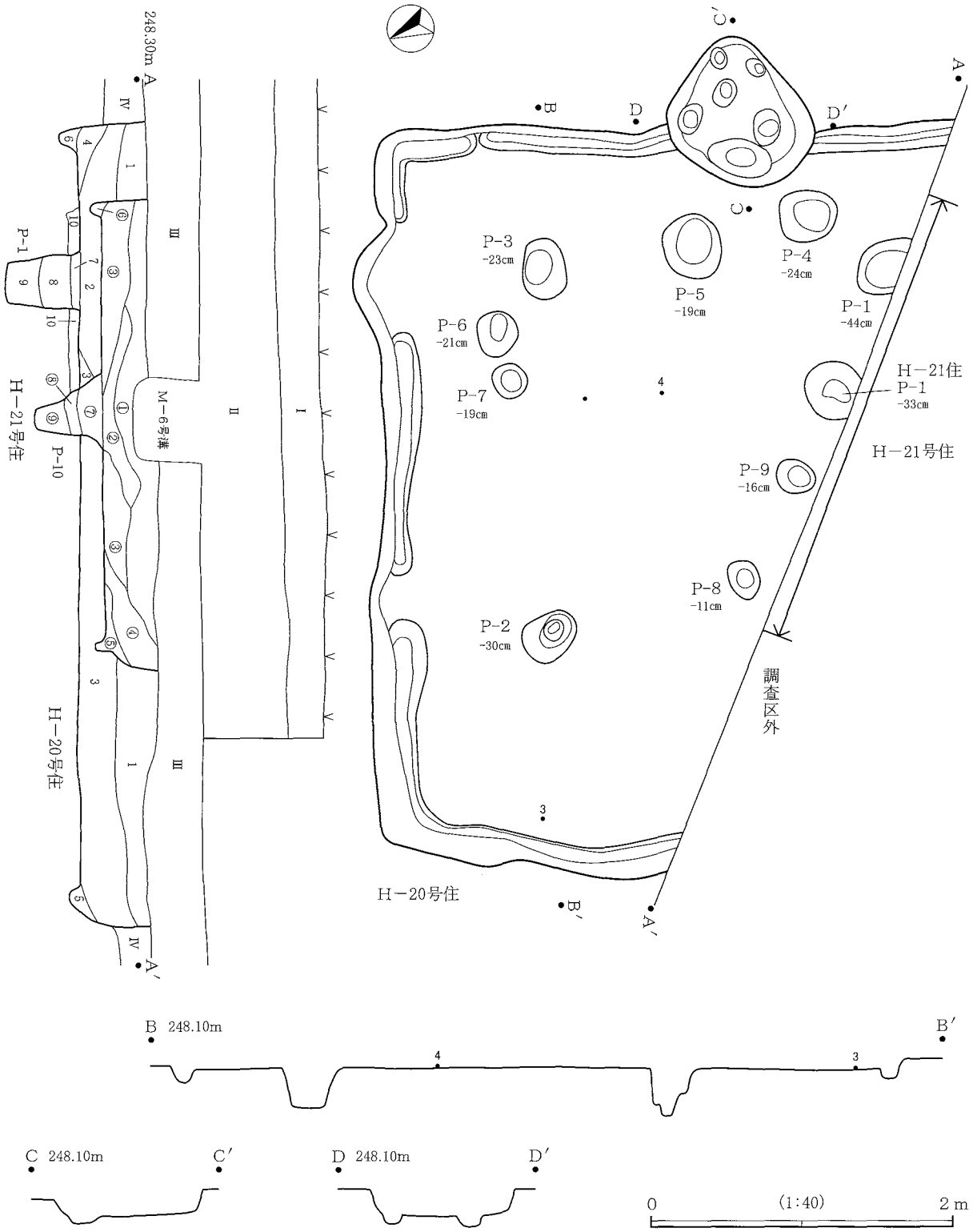
第 13 表 H-13 号住居址出土遺物観察表（2）

⑥H-20 号住居址（第 27 ～ 29 図、第 14 表、PL. 6・7・21）

位置 J-1～2、K-1～2グリッド。 **重複** H-18・21 号住居址、M-6号溝と重複する。新旧関係は古い方から本遺構＜H-18・21 号住居址＜M-6号溝となる。 **平面形態** 南西側が調査区外となり全容は不明である。 **規模** 長軸 4.72 m×短軸 3.55 m以上×深さ 0.26 m。 **主軸方位** N-119°-E。 **覆土** 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 東壁に敷設される。全長 0.95 m。掘り方での検出となり、小ピットが数ヵ所検出される。このうちセクションD－D′にかかるピットは袖石を設置した痕跡の可能性がある。 **柱穴** 4本主柱穴と想定され、3基を検出した。P-1は径 34×30 cm以上、深さ 44 cm、P-2は径 38×30 cm、深さ 30 cm、P-3は径 40×28 cm、深さ 23 cmを測る。 **貯蔵穴** 未検出。 **ピット** 6基を検出した（P-4～9）。P-4は径 39×34 cm、深さ 24 cm、P-5は径 43×39 cm、深さ 19 cm、P-6は径 30×26 cm、深さ 21 cm、P-7は径 23×22 cm、深さ 19 cm、P-8は径 26×20 cm、深さ 11 cm、P-9は径 27×22 cm、深さ 16 cmを測る。 **床面の状態** 全体的に締まっている。カマド周辺に褐灰色土を主体とした貼床が確認され

た。　**壁溝**　全周すると推測され、北・東壁下では部分的に途切れる。幅７～22㎝、深さ３～９㎝。

遺物　土師器壺、須恵器坏、動物型土製品、石製模造品、臼玉などがわずかに出土した。床面直上の遺物として３・４がある。３の動物形土製品は西壁際で、横位の状態で出土した。頭部から首部分のみ

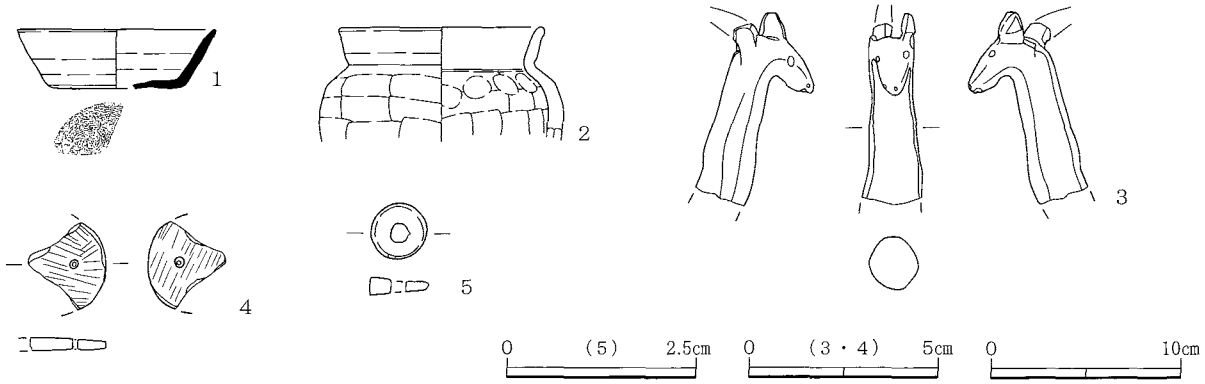


第27図　H-20・21号住居址（1）

遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－20住	Ⅰ	暗褐色土層7.5YR3/3	弱い	弱い	As-Aを多量含む。
	Ⅱ	暗褐色土層7.5YR3/3	弱い	弱い	As-B主体。
	Ⅲ	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。
	Ⅳ	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	白色粒を多量、As-YPを中量含む。
	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・焼土・白色粒・As-YPを少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒を少量、白色粒・As-YP・焼土を微量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	強い	ややあり	白色粒を多量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量、炭化物粒を微量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	やや弱い	ややあり	白色粒を微量含む。
	7	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	黄橙色土を少量、白色粒を微量含む。
	8	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・As-YPを少量含む。
	9	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。
	10	褐灰色土層7.5YR4/1	強い	ややあり	As-YPを少量、白色粒を微量含む。貼床。
H－21住	①	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒を多量、白色粒・As-YPを少量含む。
	②	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、焼土・炭化物粒を中量、白色粒を少量含む。
	③	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒を中量、白色粒・As-YPを少量含む。
	④	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	炭化物粒を中量、白色粒・As-YPを少量、焼土を微量含む。
	⑤	黒褐色土層7.5YR3/1	弱い	ややあり	炭化物粒を大量、白色粒を微量含む。
	⑥	黒褐色土層7.5YR3/2	弱い	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。
	⑦	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・As-YPを少量、白色粒を微量含む。
	⑧	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを少量、白色粒を微量含む。
	⑨	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒を少量含む。

第28図　H－20・21号住居址（2）

で、耳の後ろに角があることから雄鹿と判断した。割れ口は水平で、何かから剥離したものと考えられる。４の石製模造品は竪穴中央部で出土した。有孔円板とみられ、破片１片のみであった。５の臼玉はP－5の覆土中から、２の小形甕の破片はP－1の覆土中から出土した。１の須恵器坏は８世紀代に比定されるもので、紛れ込みである。　**時期**　古墳時代後期（６世紀後半ヵ）と推測される。



第29図　H－20号住居址出土遺物

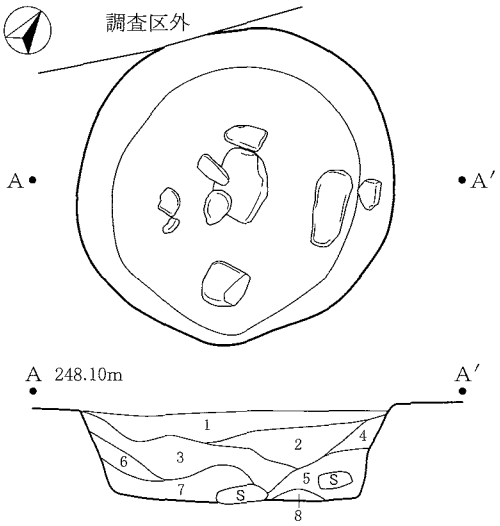
番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	一括	口径（10.5） 底径（6.8） 器高　3.1	①還元焔　②灰色　③白色粒 ④1/4	外面　ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面　ロクロナデ。
2	土師器 小形甕	P-1	口径（10.9） 底径　－ 器高〈5.9〉	①普通　②橙色　③白色粒、黒色粒　④口縁部～胴部上半1/4	外面　口縁部ヨコナデ。胴部上半に横方向のヘラナデ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上半に横方向のヘラナデ、指頭圧痕。
番号	器種	出土位置	①法量（cm．g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
3	動物形 土製品	No.2	①高さ〈5.0〉、長さ3.1、厚さ1.4、重量11.21　②焼成：良好、色調：にぶい褐色、胎土：白色粒　③頭部～頸部のみ、右耳欠損、左角欠損、右角の先端欠損　④雄鹿形。全体に丁寧なナデ。目と鼻は刺突により、口は切り込みにより作出される。首が長く作られる。		
4	石製 模造品	No.1	①長さ〈2.3〉、幅〈2.1〉、厚さ0.3、孔径0.2×0.2、重量1.99　②緑色岩類　③破片　④有孔円板ヵ。全体に丁寧な研磨。		
5	石製品 臼玉	P-5	①径0.7×0.7、厚さ0.2、孔径0.25×0.2、重量0.19　②滑石　③完形　④全面研磨		

第14表　H－20号住居址出土遺物観察表

（2）土坑

①D－7号土坑（第30図、PL. 14）

位置　D－1グリッド。　**重複**　H－1・8号住居址と重複する。新旧関係は古い方から本遺構＜H－8号住居址＜H－1号住居址となる。　**形態**　平面は円形、断面は逆台形状を呈する。　**規模**　長軸1.69 m×短軸1.66 m×深さ0.47 m。　**覆土**　自然堆積と推測される。下層は黄橙色土、上層は黒褐色土を主体とする。　**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕の破片が少量出土した。また、覆土下層から底面にかけて、大形の安山岩が上層から流れ込んだような状態で出土している。　**時期**　古墳時代と推定される。



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
D－7土	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを中量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を微量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒を少量、炭化物粒を微量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを微量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・褐灰色土を多量含む。
	7	黄橙色土層10YR	ややあり	ややあり	As-YPを多量、黒褐色土を少量含む。
	8	黄褐色土層7.5YR	ややあり	ややあり	黒褐色土を少量含む。

0　(1:40)　2 m

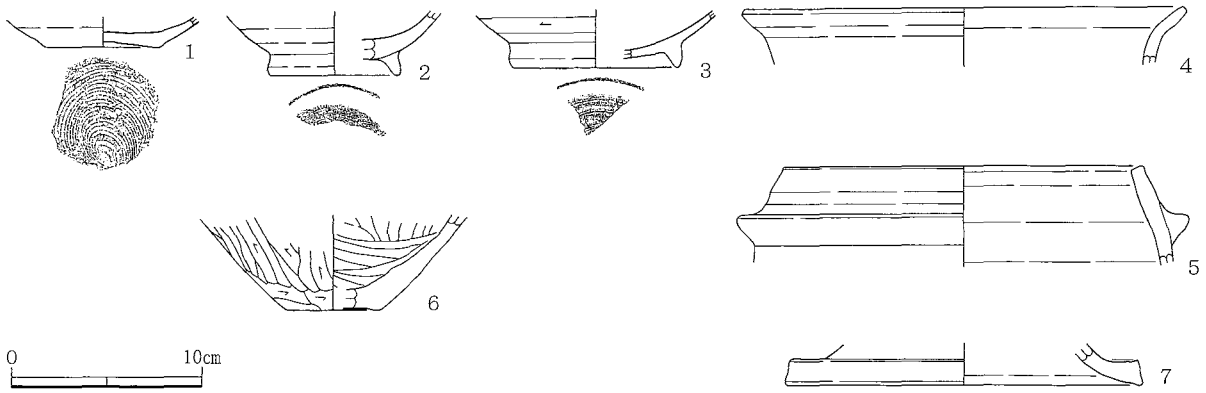
第30図　D－7号土坑

第3節　平安時代

（1）竪穴住居址

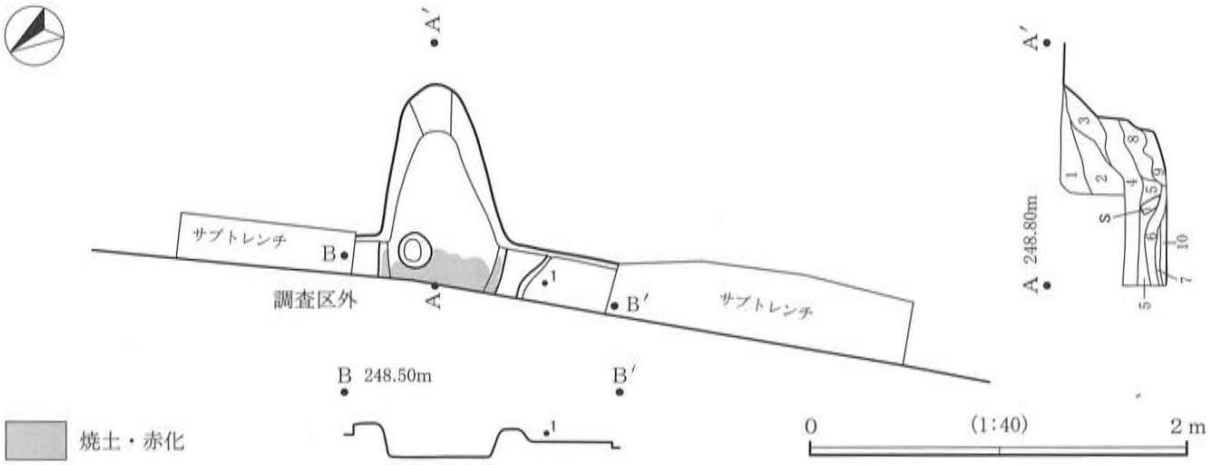
①H－1号住居址（第31・32図、第15表、PL. 7・21）

位置　D－1、E－1グリッド。　**重複**　D－7号土坑と重複し、本遺構が新しい。　**平面形態**　カマド以外は調査区外となるため全容は不明である。　**規模**　深さ0.44 m。　**主軸方位**　N－127°－E。



第31図　H－1号住居址出土遺物

覆土　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　南東壁に位置する。袖が残存し、浅黄橙色粘質土と黒褐色土の混土で構築される。火床面および内壁は焼土化が顕著である。右袖内には須恵器坏・碗の底部破片が４点入れ込まれていた。煙道部先端に大振りの安山岩が２点落ち込んでいたことから、石組みの可能性が指摘される。底面北寄りに小ピット（径18×17㎝、深さ３㎝）が検出される。　**遺物**　須恵器坏・碗・甕・甑・羽釜、灰釉陶器碗などが少量出土した。５・６の羽釜の破片はカマド内からの出土である。　**時期**　10世紀後半と推定される。



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H−1住カマド	1	黒褐色土層10YR3/2	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層10YR3/2	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒を多量、As-YPを少量含む。
	3	黒褐色土層10YR3/2	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを多量、炭化物粒を少量含む。
	4	黒色土層10YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒・焼土を少量含む。
	5	橙色土層7.5YR7/6	ややあり	ややあり	焼土を多量、黒褐色土を少量含む。
	6	浅黄橙色土層7.5YR8/4	ややあり	ややあり	黒褐色土を多量、焼土を少量含む。
	7	黒色土層N1.5/	ややあり	ややあり	焼土を微量含む。
	8	明黄褐色土層10YR7/6	ややあり	ややあり	黒褐色土を多量、焼土を少量含む。
	9	黒色土層10YR2/1	ややあり	ややあり	As-YPを少量、焼土を微量含む。
	10	浅黄橙色土層7.5YR8/4	ややあり	やや例い	黒褐色土を中量、焼土を少量含む。

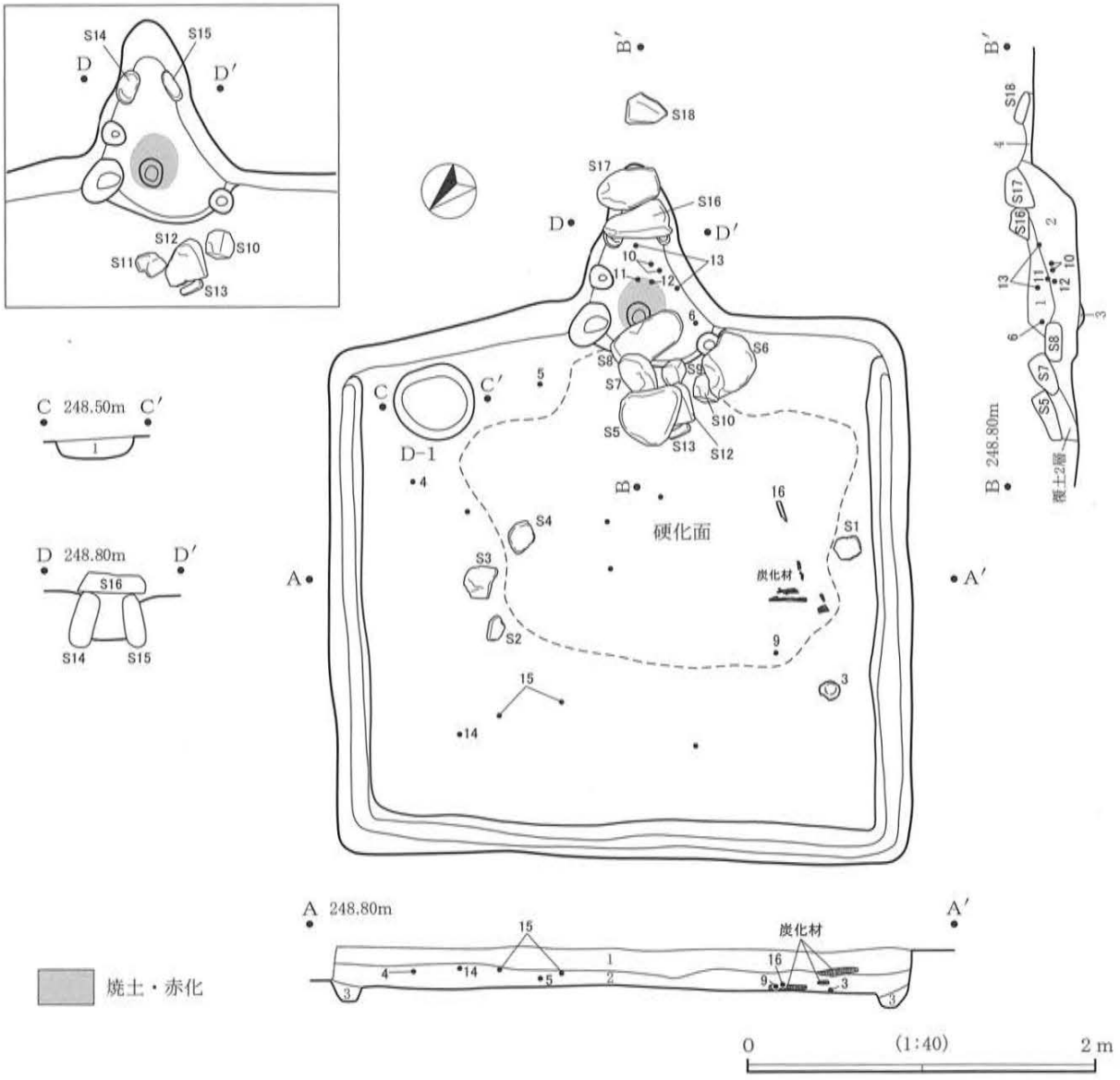
第32図　H－1号住居址

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器坏	No.1	口径　－ 底径（6.1） 器高〈1.6〉	①酸化焔　②橙色　③石英、白色粒、黒色粒、赤褐色粒　④体部下位～底部1/3	外面　ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面　ロクロナデ。
2	須恵器碗	2区	口径　－ 底径（7.0） 器高〈3.4〉	①酸化焔　②浅黄橙色　③石英、黒色粒　④体部下位～高台部1/8	外面　ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。
3	灰釉陶器碗	2区	口径　－ 底径（8.8） 器高〈3.1〉	①還元焔　②灰白色　③白色粒　④体部下位～高台部1/8	外面　ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。
4	ロクロ甕	2区	口径（23.6） 底径　－ 器高〈3.1〉	①普通　②にぶい橙色　③角閃石、白色粒　④口縁部1/8	外面　口縁部ヨコナデ。 内面　口縁部ヨコナデ。
5	須恵器羽釜	カマド	口径（19.0） 底径　－ 器高〈5.3〉	①酸化焔　②にぶい黄橙色　③石英、黒色粒　④口縁部1/8	外面　ロクロナデ。鍔貼付。 内面　ロクロナデ。
6	須恵器羽釜	カマド	口径　－ 底径（5.0） 器高〈5.0〉	①酸化焔　②にぶい黄橙色　③白色粒、黒色粒、褐色粒　④胴部下位～底部1/4	外面　ロクロナデの後、胴部下端に横方向のヘラケズリ→胴部下位に縦方向のヘラケズリ。底部ナデ。 内面　ロクロナデの後、胴部下端に横・斜方向のヘラナデ→胴部下位に縦方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。
7	須恵器甑	2区	口径　－ 底径（18.9） 器高〈2.2〉	①酸化焔　②褐灰色　③白色粒、黒色粒　④底部1/6	外面　ロクロナデ。 内面　ロクロナデ。

第15表　H－1号住居址出土遺物観察表

②H－2号住居址（第33・34図、第16表、PL. 7・8・21）

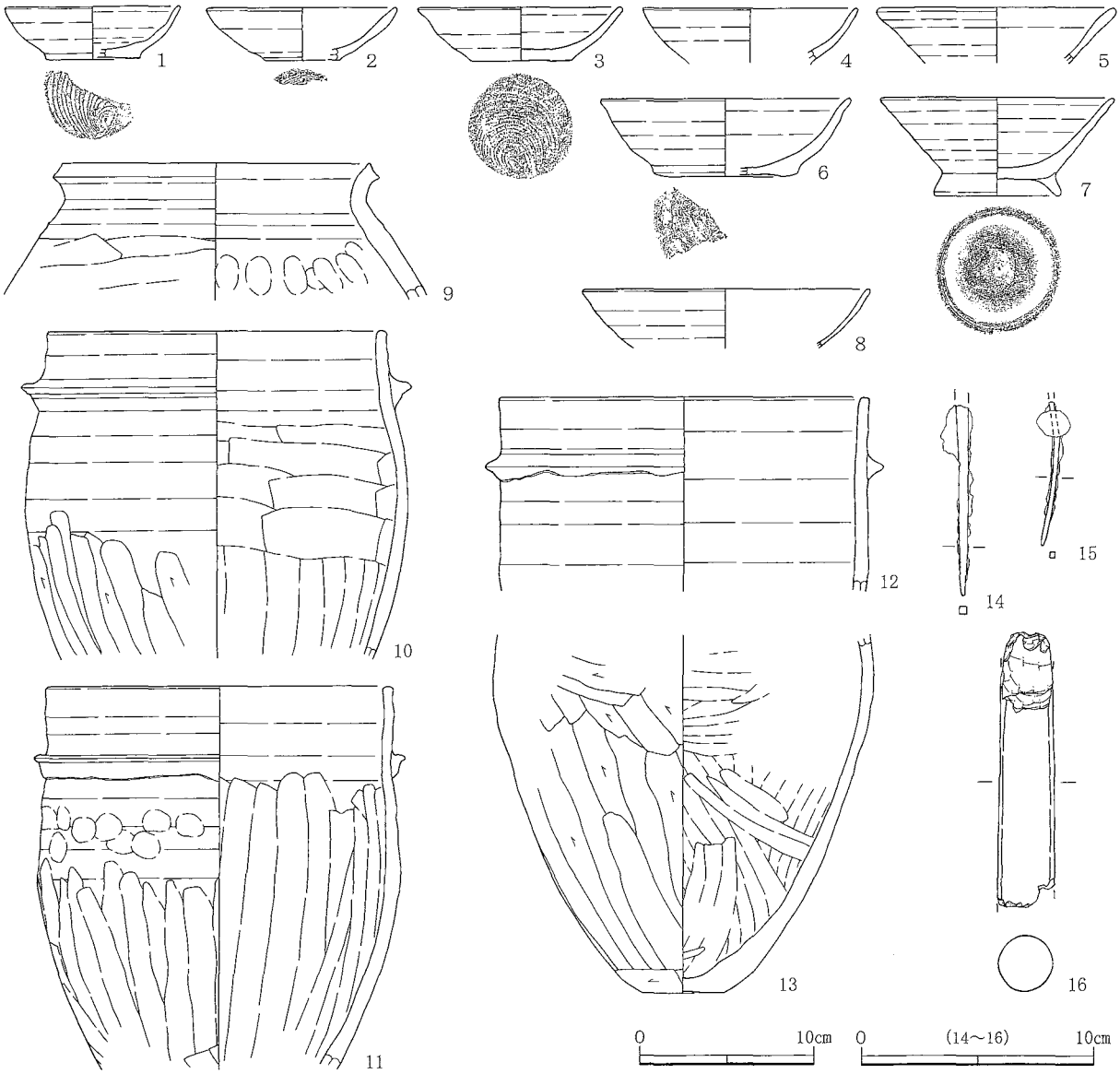
位置　E－1、F－1～2グリッド。　**重複**　H－9a・9b号住居址、M－2号溝と重複する。新旧関係は古い方からH－9a・9b号住居址＜本遺構＜M－2号溝となる。　**平面形態**　方形。　**規模**　長軸3.20m×短軸2.98m×深さ0.24m。　**主軸方位**　N－133°－E。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。竪穴の西側では、覆土中層から底面にかけて炭化材が出土する。　**カマド**　南東壁の中央に位置する。全長1.15m。石組みで、カマド手前には外された石が多数出土する。大半が安山岩で、凝灰岩質砂岩（S10・11）もみられる。石は被熱により変色し



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－2住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物を多量、黄橙色土を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
カマド	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を中量、焼土・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量含む。
	3	赤色焼土層10R4/6	やや弱い	弱い	
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量、炭化物粒を微量含む。

第33図　H－2号住居址

脆くなっている。煙道部先端のみ原位置を保っており（S14～16）、幅20㎝、底面から天井石までの高さ26㎝を測る。天井石（S16・17）は、長さ36～39㎝、幅22～23㎝、厚さ10～11㎝である。カマド覆土中の黒褐色土と黄橙色粘質土の混土は構築土と推測される。火床面は焼土化が顕著で、その中央には支脚の痕跡とみられる小ピット（径17×13㎝、深さ3㎝）が検出される。　**柱穴**　未検出。**貯蔵穴**　カマドの左側に位置する（D－1）。平面形は円形を呈し、径46×43㎝、深さ11㎝を測る。**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　カマド敷設面を除いて全周する。幅11～18㎝、深さ5～10㎝。　**遺物**　須恵器坏・碗・壺・羽釜、灰釉陶器碗、鉄釘、石棒などが多量に出土した。床面直上の遺物として3の須恵器坏、9の須恵器甕がある。10の羽釜はカマド出土で、H－4号住居址出土の口縁部破片1点と接合した。同じく13の羽釜も胴部の大形破片はカマドから出土し、胴部下位と底部の小破片5点はH－17号住居址から出土したものである。　**時期**　10世紀第4四半期と推定される。　**備考**　焼失住居。



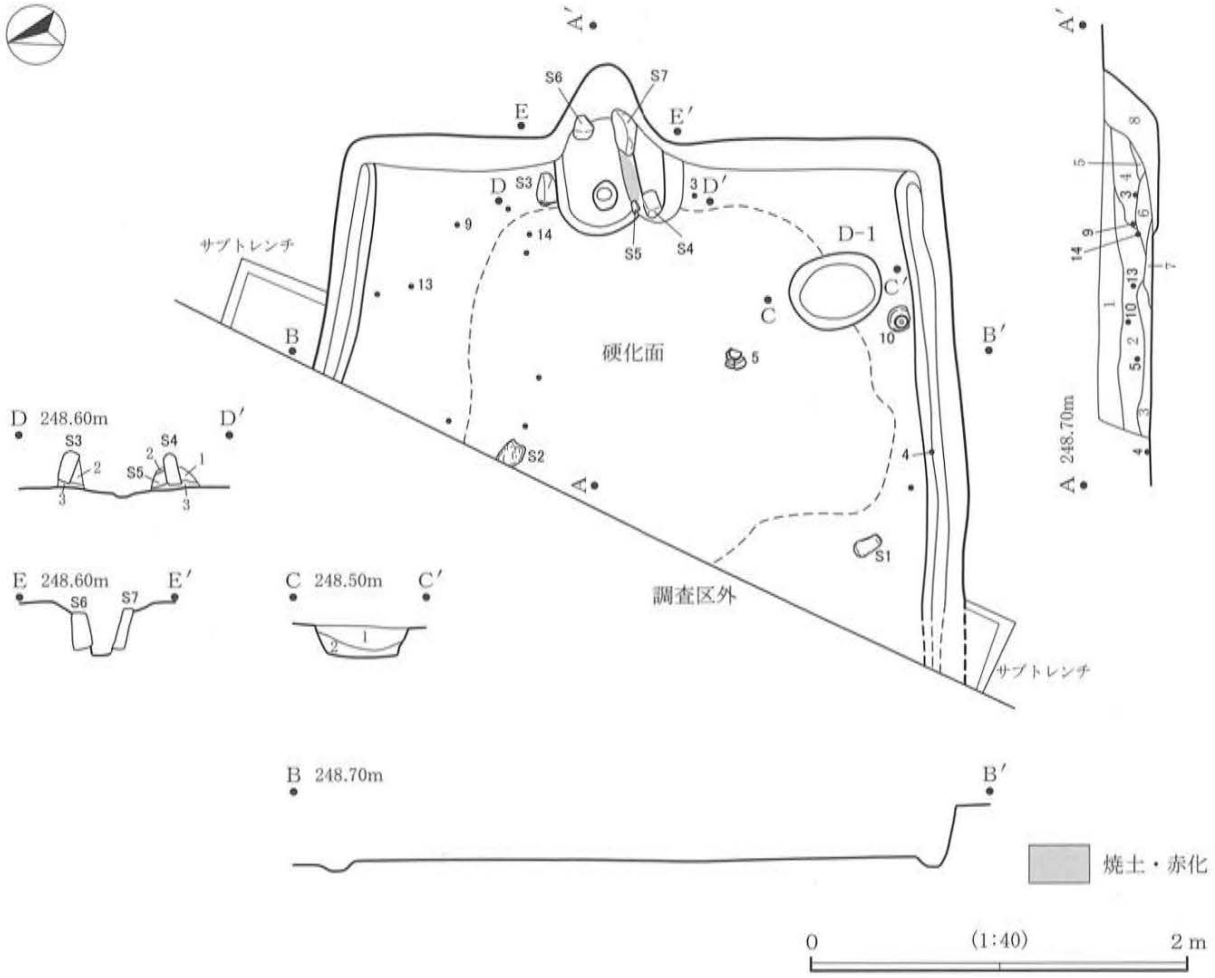
第34図　H－2号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	一括	口径 (10.1) 底径 (5.4) 器高 3.0	①酸化焔 ②明黄褐色 ③黒色粒、褐色粒 ④1/3	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 坏	1区、 H-17住	口径 (11.0) 底径 (4.2) 器高 3.0	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③角閃石、白色粒、褐色粒 ④1/5	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 坏	No.13	口径 11.9 底径 5.8 器高 3.1	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、褐色粒 ④口縁部1/3欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。 内外面にススが付着。
4	須恵器 坏	No.6	口径 (12.4) 底径 — 器高 〈3.2〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/5	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
5	須恵器 坏	No.7	口径 (13.8) 底径 — 器高 〈3.2〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
6	須恵器 坏	No.16	口径 (14.5) 底径 (8.4) 器高 4.0	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、黒色粒 ④1/7	外面 ロクロナデ。底面回転糸切りの後ナデ。 内面 ロクロナデ。
7	須恵器 碗	一括	口径 (13.5) 底径 7.1 器高 5.6	①酸化焔 ②明黄褐色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部1/2欠損	外面 ロクロナデ。底面回転糸切りの後ナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
8	灰釉陶器 碗	2区	口径 (16.6) 底径 — 器高 〈3.4〉	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
9	須恵器 甕	No.12	口径 (17.7) 底径 — 器高 〈7.8〉	①還元焔 ②黄灰色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/4	外面 ロクロナデの後、胴部上位ヘラナデ。 内面 ロクロナデの後、胴部上位ナデ、指頭圧痕。
10	須恵器 羽釜	No.20・22、 カマド、 H-4・17住	口径 19.6 底径 — 器高 〈18.7〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒 ④口縁部～胴部1/2	外面 ロクロナデの後、胴部中位にナデ→下半に縦方向のヘラケズリ。鍔貼付。 内面 ロクロナデの後、胴部下半に縦方向のヘラナデ→上半に横方向のヘラナデ。
11	須恵器 羽釜	No.19	口径 (20.0) 底径 — 器高 〈22.0〉	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④口縁部～胴部1/5	外面 ロクロナデの後、胴部上位に指頭圧痕、下半に縦方向のヘラナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデの後、胴部に縦方向のヘラナデ。
12	須恵器 羽釜	No.25、 カマド	口径 (21.3) 底径 — 器高 〈11.1〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④口縁部～胴部上半1/4	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
13	須恵器 羽釜	No.21・22、 H-17住	口径 — 底径 (4.8) 器高 〈20.5〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④胴部下半～底部1/4	外面 胴部は中位に斜方向、下半に縦方向、下端に横方向のヘラケズリ。底部ナデ。 内面 胴部は中位に横方向、下半に斜方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
14	鉄製品 釘	No.1	①長さ〈8.3〉、幅0.5、厚さ0.35、重量9.09 ②鉄製 ③上端部欠損 ④断面方形		
15	鉄製品 釘	No.2・3	①長さ〈6.2〉、幅1.5、厚さ0.3、重量3.59 ②鉄製 ③上端部欠損 ④断面方形		
16	石製品 石棒	No.14、 2区	①長さ〈11.95〉、幅〈2.5〉、厚さ2.4、重量117.36 ②緑泥片岩 ③両端部欠損 ④研磨による丁寧な加工。下端部に敲打痕あり。		

第16表 H－2号住居址出土遺物観察表

③H－3号住居址（第35・36図、第17・18表、PL. 8・22）

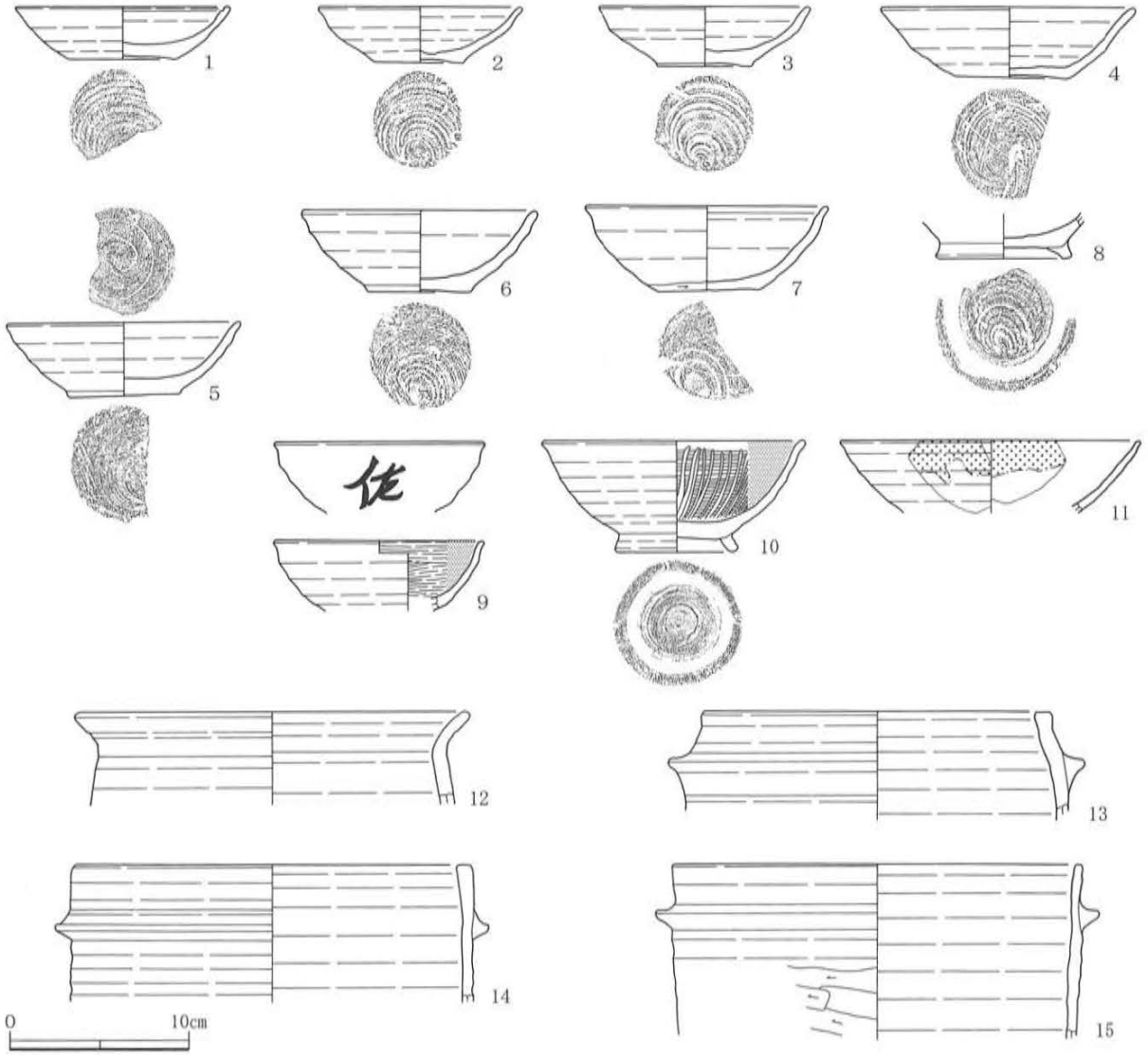
位置 F－1、G－1グリッド。 **重複** H－9a・12号住居址と重複し、本遺構が最も新しい。 **平面形態** 西側が調査区外となるため全容は不明である。 **規模** 南北軸3.26m×東西軸2.65m以上×深さ0.28m。 **主軸方位** N－102°－E。 **覆土** 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 東壁の中央北寄りに位置する。全長0.91m。焚口部の袖石(S3・4・5）と右袖、煙道部に据えられた石（S6・7）が残存する。石は全て安山岩で、被熱により赤く変色する。煙道部のS6とS7の幅は12cmを測る。袖構築土は下部に黒色土、上部に黄橙色粘質土主体の黒褐色土との混土を用いている。内壁は焼土化が顕著である。底面には小ピット(径16×13cm、深さ5cm）が検出される。 **柱穴** 未検出。 **貯蔵穴** カマドの右側に位置する(D－1)。平面形は楕円形を呈し、径50×39cm、深さ17cmを測る。 **床面の状態** 全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。 **壁溝** カマド敷設面を除いて全周すると推



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H−3住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を多量、白色粒を少量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒・炭化物粒を少量、焼土を微量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を大量、焼土・炭化物粒を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を大量、炭化物を多量、黄橙色土を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
	7	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
	8	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
カマド	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	やや弱い	黄橙色土を多量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	やや弱い	焼土を多量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒を少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒を少量、炭化物粒を微量含む。

第35図　H-3号住居址

定される。幅10～13㎝、深さ4～6㎝。　**遺物**　須恵器坏・碗・羽釜、灰釉陶器碗・壺、ロクロ甕などが少量出土した。床面直上の遺物は4の須恵器坏のみで、外底面に「×」の線刻がある。それ以外は概ね床面から5～20㎝上で出土した。3・5・10の須恵器坏は逆位の状態であった。9は内面黒色処理の須恵器碗で、外面に墨書が認められた。「佐」と判読できる。カマド内からは6の須恵器坏と12のロクロ甕が出土した。なお、3はH-2号住居址出土の破片と接合した。　**時期**　10世紀後半と推定される。



第36図　H-3号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	1区	口径 (12.0) 底径 (6.0) 器高 2.9	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③角閃石、白色粒 ④1/4	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 坏	2区	口径 (11.8) 底径 5.2 器高 3.3	①酸化焔気味 ②灰黄色 ③石英、白色粒 ④口縁部～体部3/4欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 坏	No.5、 1・2区、 H-2住	口径 (11.4) 底径 5.0 器高 3.1	①酸化焔 ②暗灰色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/3欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 坏	No.3、 2区	口径 (14.2) 底径 6.0 器高 4.0	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒 ④2/3	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り、「×」の刻書あり。 内面 ロクロナデ。
5	須恵器 坏	No.2、 2区	口径 (13.1) 底径 (6.3) 器高 4.1	①酸化焔 ②明黄褐色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④1/2	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。見込み回転ヘラケズリ。
6	須恵器 坏	カマド	口径 (13.2) 底径 5.8 器高 4.5	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④口縁部～体部3/4欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。 内外面にススが付着。
7	須恵器 坏	1区	口径 (13.6) 底径 (5.6) 器高 4.8	①酸化焔 ②褐灰色 ③白色粒、黒色粒 ④1/2	外面 ロクロナデの後、下端に横方向のヘラケズリ。底面回転糸切りの後ナデ。 内面 ロクロナデ。

第17表　H-3号住居址出土遺物観察表（1）

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
8	須恵器 碗	2区	口径 － 底径 (7.5) 器高 〈2.5〉	①酸化焔気味 ②灰白色 ③白色粒 ④高台部3/4	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
9	須恵器 碗	No.12、 1区	口径 11.8 底径 － 器高 〈3.9〉	①酸化焔 ②灰黄色 ③白色粒、褐色粒 ④口縁部～体部2/3	外面 ロクロナデ。体部に「佐」の墨書あり。 内面 ロクロナデの後、横方向のミガキ。 内面に黒色処理。
10	須恵器 碗	No.1	口径 (14.7) 底径 6.5 器高 6.2	①酸化焔 ②明黄褐色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部1/2欠損	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデの後、横方向のミガキ→放射状のミガキ。 内面に黒色処理。
11	灰釉陶器 碗	一括	口径 (16.8) 底径 － 器高 〈4.0〉	①還元焔 ②胎土：灰白色／釉薬：灰オリーブ色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
12	ロクロ甕	カマド	口径 (22.2) 底径 － 器高 〈5.2〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、小礫 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
13	須恵器 羽釜	No.13	口径 (19.5) 底径 － 器高 〈6.0〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、黒色粒、小礫 ④口縁部1/8	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
14	須恵器 羽釜	No.6	口径 (22.3) 底径 － 器高 〈7.6〉	①酸化焔気味 ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部1/8	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
15	須恵器 羽釜	2区	口径 (22.9) 底径 － 器高 〈9.6〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 ロクロナデ。胴部に横方向のヘラケズリ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。

第18表 H－3号住居址出土遺物観察表（2）

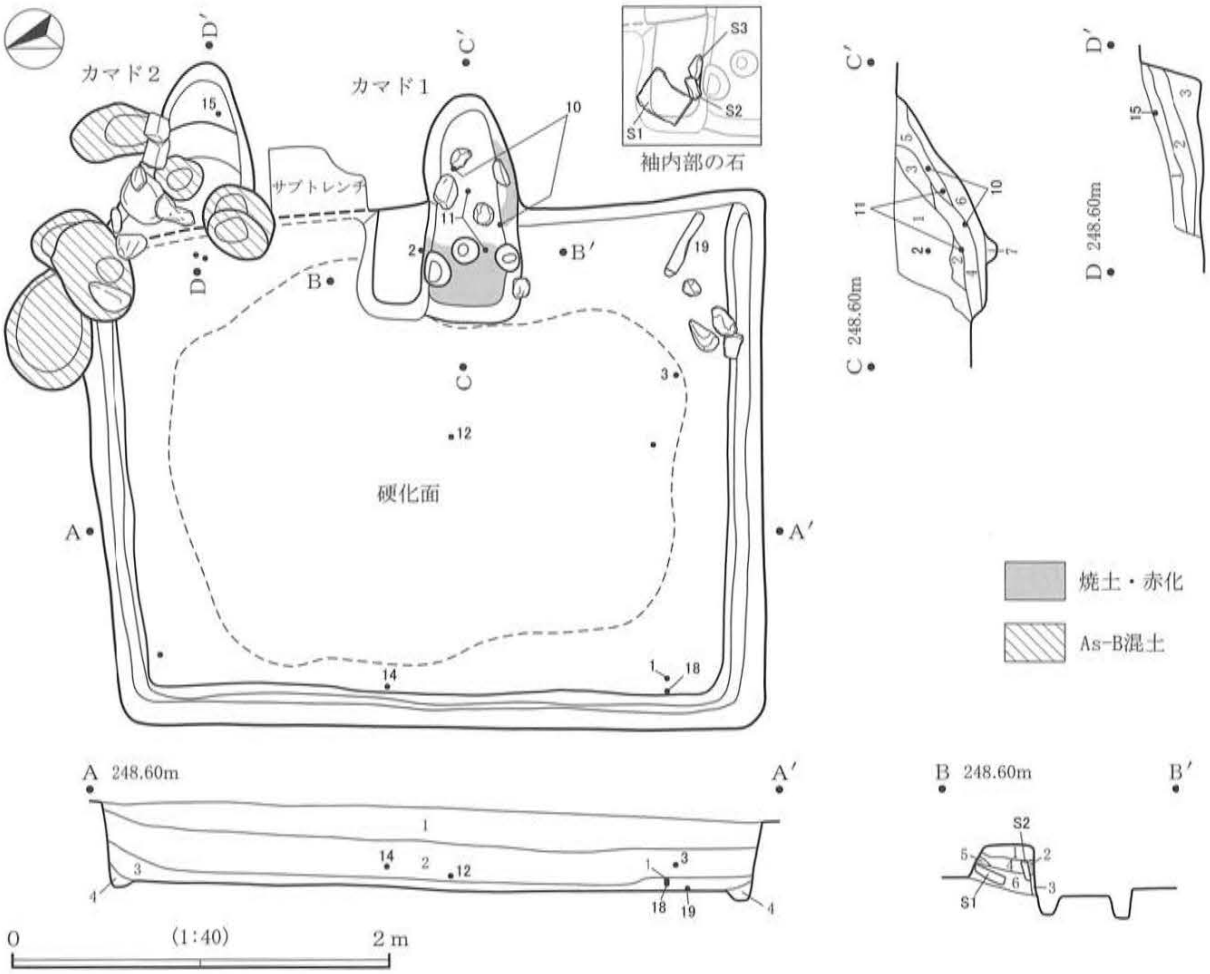
④H－4号住居址（第37・38図、第19・20表、PL. 8・9・22）

位置 H－3、I－3グリッド。 **重複** H－13・14・19号住居址、D－1号土坑と重複する。新旧関係は古い方からH－13・14・19号住居址＜本遺構＜D－1号土坑となる。 **平面形態** 南北にやや長い横長長方形。 **規模** 長軸3.40 m×短軸2.62 m×深さ0.43 m。 **主軸方位** N－108°－E。 **覆土** 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 東壁の中央（カマド1）および北隅（カマド2）に位置する。カマド2に構築材が残存していないことから、カマド2からカマド1への作り替えが想定される。カマド1は全長1.21 mである。左袖が残存し、構築土は下部が黒褐色土、上部が浅黄橙色粘質土で、内部には安山岩（S1～3）が埋め込まれる。火床面および内壁は焼土化が顕著である。底面には小ピットが3ヵ所検出される。中央のピット（径15×15 cm、深さ5 cm）は支脚の痕跡とみられる。カマド2は全長0.92 mである。カマド覆土中には黄橙色粘質土がみられ、構築土と推定される。As-B混入土のピットにより攪乱を受ける。 **柱穴** 未検出。 **貯蔵**

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	No.2	口径 11.3 底径 5.4 器高 3.3	①酸化焔気味 ②黄灰色 ③白色粒 ④完形	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 碗	No.13、掘り方	口径 (14.8) 底径 － 器高 〈5.2〉	①酸化焔気味 ②灰白色 ③海綿滑針、白色粒、褐色粒 ④口縁部～体部1/5	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 碗	No.4	口径 － 底径 7.9 器高 〈4.3〉	①酸化焔気味 ②灰白色 ③石英、白色粒 ④高台部	外面 ロクロナデ。底面回転糸切りの後、ナデ消し。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 碗	一括、 H-5	口径 (14.0) 底径 － 器高 〈4.2〉	①酸化焔 ②灰黄褐色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/6	外面 ロクロナデの後、体部上半に横方向のミガキ。 内面 ロクロナデの後、横方向のミガキ→放射状のミガキ。 内面に黒色処理。
5	須恵器 坏	1区、 H-13住No.15	口径 (13.3) 底径 － 器高 〈4.0〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、褐色粒 ④口縁部～体部1/3	外面 ロクロナデ。口縁部に横方向のミガキ。 内面 ロクロナデ。口縁部～体部に横方向→放射状のミガキ。 内面に黒色処理。
6	須恵器 碗	1区、一括	口径 － 底径 － 器高 〈3.5〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、褐色粒 ④体部～高台部上端	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデの後、放射状のミガキ。 内面に黒色処理。

第19表 H－4号住居址出土遺物観察表（1）

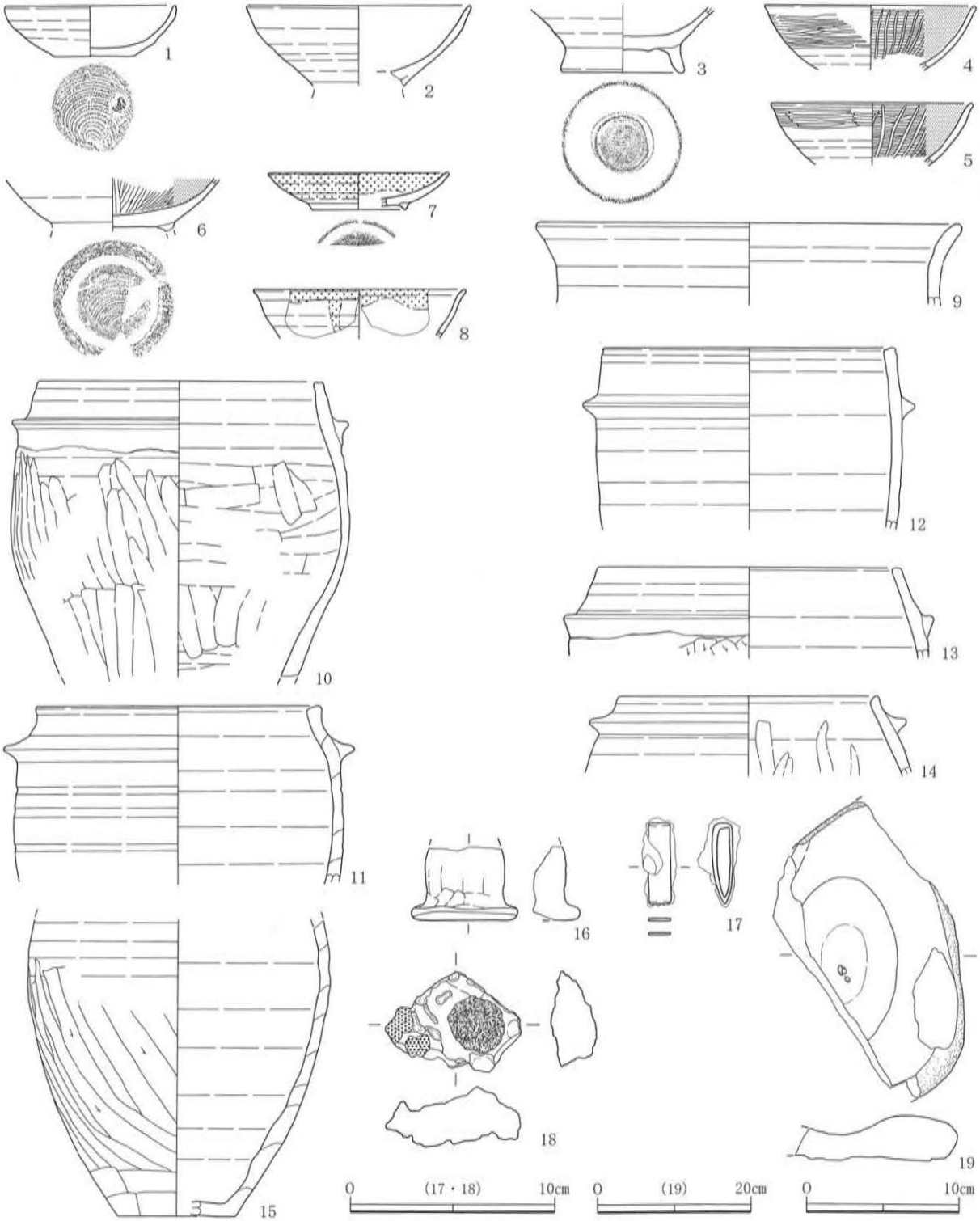
穴　未検出。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　カマド敷設面を除いて全周する。幅８～12㎝、深さ３～５㎝。　**遺物**　須恵器坏・碗・羽釜、灰釉陶器碗・皿、ロクロ甕、土製支脚、鉄製品、鉄滓、石皿などが多量に出土した。遺物は覆土中層～下層からの出土で、床面直上は19の石皿および周辺の大形礫の



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－4住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを多量、炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを多量、焼土を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
カマド B-B′	1	浅黄橙色土層10YR8/4	あり	ややあり	黒褐色土を少量含む。
	2	橙色焼土層5YR6/8	弱い	弱い	
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒を少量含む。
	4	黄橙色土層10YR8/8	あり	ややあり	
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	浅黄橙色土を少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
カマド C-C′	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を少量、炭化物粒・白色粒・As-YPを微量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、焼土を少量、炭化物粒・白色粒を微量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を大量、焼土を多量、炭化物粒を少量、白色粒を微量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒・黒褐色土を少量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・黄橙色土を少量、炭化物粒・白色粒を微量含む。
	6	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を少量、炭化物粒・白色粒を微量含む。
	7	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量含む。
カマド D-D′	1	黄橙色土層10YR7/6	強い	ややあり	黒褐色土を多量、焼土を微量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を少量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒を少量含む。

第37図　H－4号住居址

みである。カマド1からは2の須恵器碗や10・11の羽釜の破片が、カマド2からは15の羽釜の破片が出土した。16の土製品は被熱による摩耗が顕著で、カマド支脚と考えられる。なお、4の内面黒色処理の須恵器碗はH－5号住居址出土の破片と接合した。10の羽釜はH－2号住居址カマド掘り方出土の破片および、H－14号住居址P－1内出土の破片と接合した。　**時期**　10世紀第4四半期と推定される。



第38図　H－4号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
7	灰釉陶器 皿	4区、一括、J1グリッド3面	口径 (12.0) 底径 (6.2) 器高 2.4	①還元焔 ②胎土：灰白色／釉薬：灰白色 ③白色粒 ④1/5	外面 ロクロナデ。底面回転ナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
8	灰釉陶器 碗	4区	口径 (14.0) 底径 — 器高 〈3.2〉	①還元焔 ②胎土：灰白色／釉薬：灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
9	ロクロ甕	1区	口径 (28.0) 底径 — 器高 〈5.3〉	①普通 ②黒褐色 ③雲母、白色粒、黒色粒 ④口縁部1/8	外面 ヨコナデ。 内面 ヨコナデ。
10	須恵器 羽釜	No.10・21、H-2住カマド掘り方、H-14住P-1	口径 (18.6) 底径 — 器高 〈19.1〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、褐色粒 ④口縁部～胴部上半1/3	外面 ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。胴部に横・縦方向のヘラナデ。
11	須恵器 羽釜	No.9・11	口径 (18.8) 底径 — 器高 〈11.6〉	①酸化焔 ②灰黄色 ③石英、白色粒 ④口縁部～胴部上半1/3	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
12	須恵器 羽釜	No.5	口径 (19.2) 底径 — 器高 〈11.8〉	①酸化焔気味 ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/6	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
13	須恵器 羽釜	1区	口径 (20.0) 底径 — 器高 〈5.9〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部1/8	外面 ロクロナデ。胴部上位に縦・斜方向のヘラケズリ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
14	須恵器 羽釜	No.6	口径 (17.0) 底径 — 器高 〈5.2〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒、小礫 ④口縁部1/8	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。胴部上位に縦方向のヘラナデ。
15	須恵器 羽釜	No.17・20、H3グリッド3面	口径 — 底径 (7.6) 器高 〈19.3〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③片岩、白色粒、褐色粒 ④胴部～底部1/2	外面 ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラケズリ→下端は横方向のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
16	土製支脚	4区	口径 — 底径 (7.0) 器高 〈4.7〉	①普通 ②浅黄色 ③白色粒、褐色粒 ④破片	外面 ナデ。側面は被熱により器表面が剥離。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
17	鉄製品 不明	2区	①長さ4.5、幅1.1、厚さ0.25、重量13.00 ②鉄製 ③ほぼ完形 ④—		
18	鉄滓	No.1	①長さ4.9、幅6.8、厚さ3.0、重量80.55 ②鉄製 ③一部欠損 ④一部ガラス質化、銹化。		
19	石皿	No.22	①長さ〈38.6〉、幅〈25.5〉、厚さ6.0、重量7,900 ②緑泥片岩 ③1/2 ④板状礫を素材とする。皿面は擂鉢状に深く窪む。		

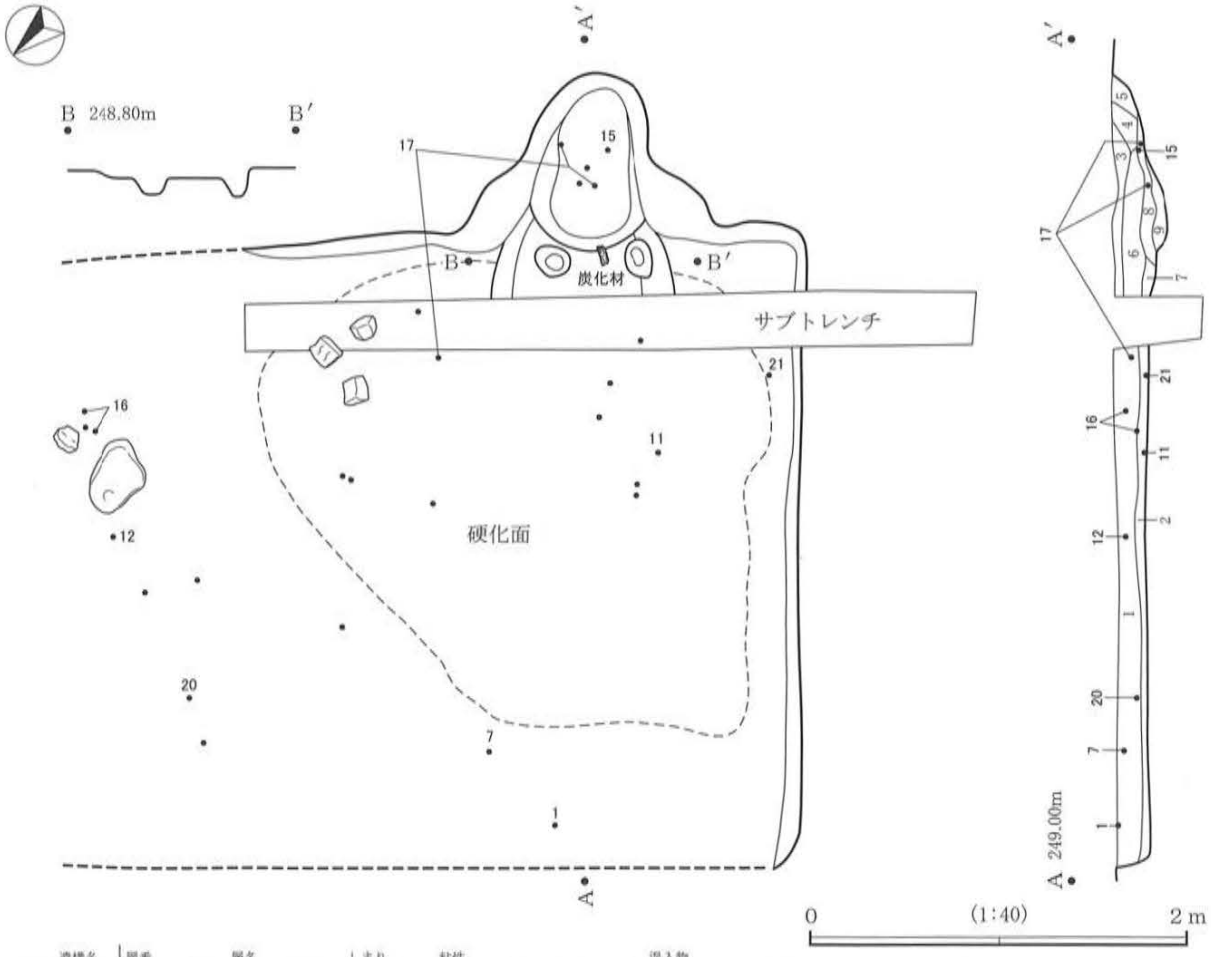
第20表 H－4号住居址出土遺物観察表（2）

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 高台付皿	No.12	口径 (13.6) 底径 (7.8) 器高 2.7	①還元焔 ②灰色 ③白色粒、黒色粒 ④1/4	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り後ナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 坏	カマド	口径 (10.1) 底径 (5.0) 器高 3.5	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色 ④1/5	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 坏	3・4区、一括	口径 (13.9) 底径 (6.6) 器高 4.6	①酸化焔 ②浅黄橙色 ③褐色粒 ④1/4	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 碗	H-6住	口径 (13.0) 底径 — 器高 〈3.4〉	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
5	須恵器 碗	1区	口径 (13.0) 底径 — 器高 〈4.2〉	①酸化焔 ②灰色 ③石英、白色粒 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
6	須恵器 碗	3区	口径 (13.8) 底径 — 器高 〈4.5〉	①酸化焔気味 ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
7	須恵器 碗	No.11	口径 — 底径 7.1 器高 〈2.2〉	①酸化焔気味 ②暗灰黄色 ③白色粒、小礫 ④高台部	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→高台貼付時に回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
8	須恵器 碗	3区	口径 — 底径 6.1 器高 〈2.4〉	①酸化焔 ②灰黄色 ③雲母、黒色粒 ④高台部3/4	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→高台貼付時に回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
9	須恵器 碗	3区	口径 — 底径 7.5 器高 〈2.5〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒 ④高台部1/2	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→高台貼付時に回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
10	灰釉陶器 皿	3区	口径 (13.0) 底径 — 器高 〈1.8〉	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰黄色 ③— ④口縁部～体部1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。

第21表 H－5号住居址出土遺物観察表（1）

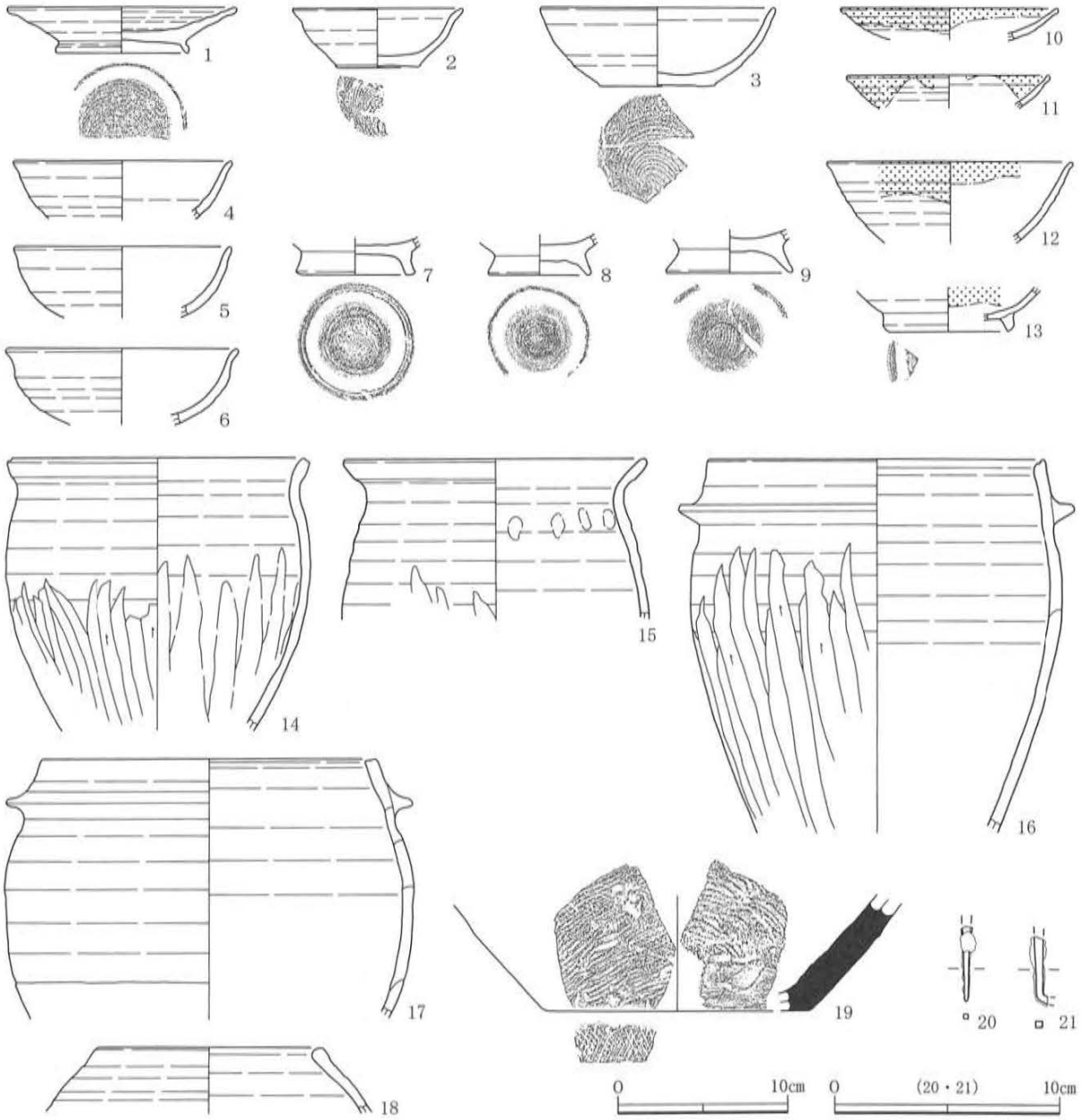
⑤H－5号住居址（第39・40図、第21～23表、PL. 9・22・23）

位置　C－1～2、D－1グリッド。　**重複**　H－7・8号住居址と重複し、本遺構が最も新しい。　**平面形態**　長方形と推測される。　**規模**　東西軸3.30 m×深さ0.18 m。　**主軸方位**　N－132°－E。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　南東壁の南寄りに位置する。全長1.08 m。掘り方での検出となり、袖石の痕跡とみられる小ピットが2本対になって確認される。カマド内に堆積する黄褐色粘質土と黒褐色土の混土が構築土と推測される。　**柱穴**　未検出。　**貯蔵穴**　未検出。　**床面の状態**　カマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　未検出。　**遺物**　須恵器皿・坏・碗・無頸壺・甕・羽釜、灰釉陶器皿・碗、ロクロ甕、鉄釘などが少量出土した。床面直上は11の灰釉陶器皿と21の鉄釘のみである。それ以外は概ね床面から5～20 cm上の出土である。カマドからは2の須恵器坏、14・15のロクロ甕、16・17の羽釜、19の須恵器甕の破片が出土した。16・17は覆土中の破片と接合している。1の須恵器皿は紛れ込みと考えられる。　**時期**　10世紀後半と推定される。



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－5住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・白色粒を多量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	As-YP・白色粒を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土を少量、炭化物粒・白色粒・As-YPを微量含む。
	4	にぶい黄褐色土層10YR4/3	ややあり	ややあり	黒褐色土を中量、焼土・炭化物粒を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
	5	黒褐色土層10YR3/2	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土・炭化物粒を少量、白色粒・As-YPを微量含む。
	6	黒褐色土層10YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・焼土を少量、黄橙色土・白色粒・As-YPを微量含む。
	7	黒褐色土層10YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を少量、焼土・炭化物粒・白色粒・As-YPを微量含む。
	8	黒褐色土層10YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、黄橙色土・炭化物粒・白色粒・As-YPを微量含む。
	9	黒色土層10YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を中量、白色粒を少量含む。

第39図　H－5号住居址



第40図　H－5号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
11	灰釉陶器 皿	No.2	口径（12.1） 底径　－ 器高〈1.9〉	①還元焔　②胎土：灰白色、釉薬：灰黄色　③－　④口縁部～体部 1/4	外面　ロクロナデ。 内面　ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
12	灰釉陶器 碗	H-6 住No.5	口径（14.6） 底径　－ 器高〈4.8〉	①還元焔　②胎土：灰白色、釉薬：灰黄色　③－　④口縁部～体部 1/8	外面　ロクロナデ。 内面　ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
13	灰釉陶器 碗	2 区	口径　－ 底径（7.0） 器高〈2.6〉	①酸化焔気味　②胎土：にぶい黄橙色、釉薬：灰白色　③－　④高台部 1/8	外面　ロクロナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。 内面に灰釉漬け掛け。
14	ロクロ甕	No.7、3 区、カマド	口径（18.0） 底径　－ 器高〈16.0〉	①酸化焔　②にぶい黄橙色　③白色粒、小礫　④口縁部～胴部 1/5	外面　ロクロナデ。胴部下半に縦方向のヘラケズリ。 内面　ロクロナデ。胴部下半に縦方向のヘラナデ。
15	ロクロ甕	No.16、カマド	口径（18.0） 底径　－ 器高〈9.4〉	①酸化焔　②にぶい黄橙色　③金雲母、白色粒、小礫　④口縁部～胴部上半 1/5	外面　ロクロナデ。胴部中位に縦方向のヘラケズリ。 内面　ロクロナデ。頸部に指頭圧痕。

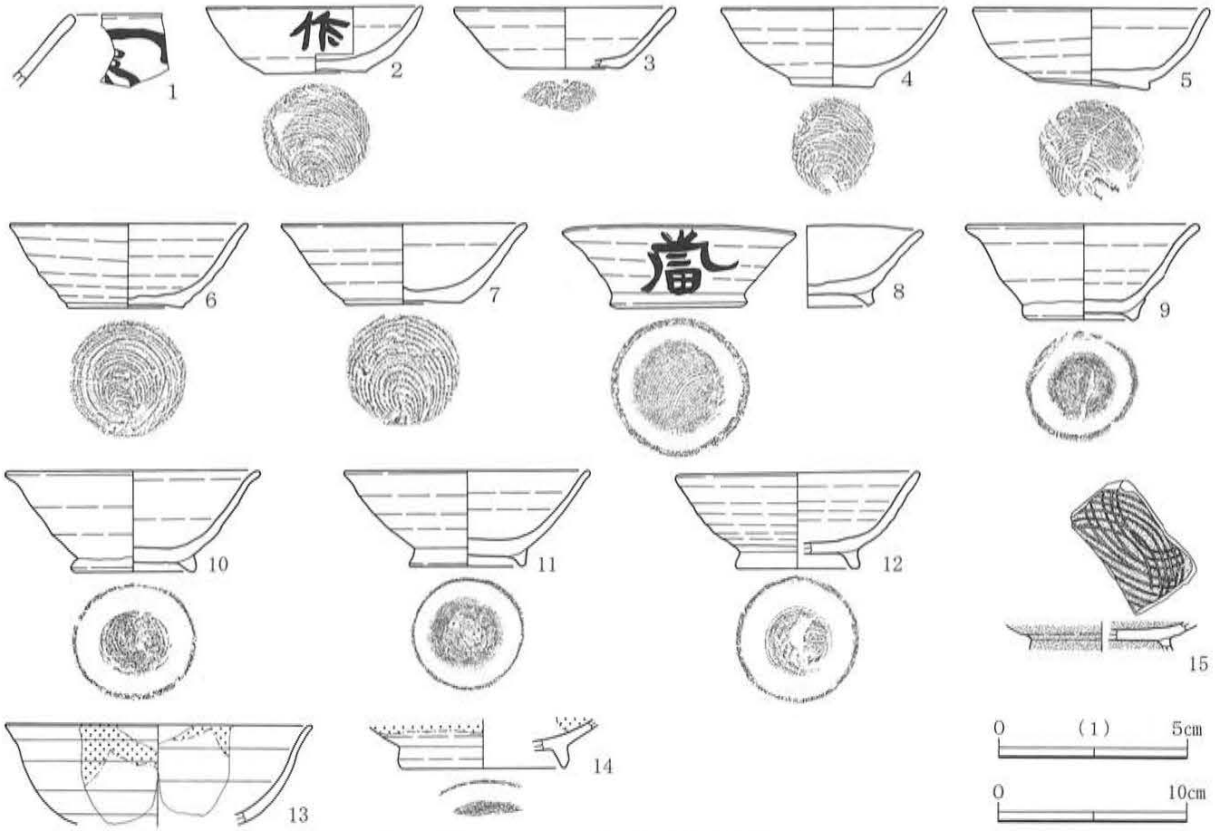
第22表　H－5号住居址出土遺物観察表（2）

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
16	須恵器 羽釜	カマド、3区、H-6住No.6・8	口径(19.8) 底径 — 器高〈21.9〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒、褐色粒 ④口縁部～胴部1/6	外面 ロクロナデ。胴部縦方向のヘラケズリ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
17	須恵器 羽釜	No.13・15・18、カマド	口径(19.9) 底径 — 器高〈15.2〉	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～胴部上半1/3	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
18	須恵器 無頸壺	1区、一括	口径(13.5) 底径 — 器高〈3.9〉	①還元焔 ②灰白色 ③黒色粒 ④口縁部1/8	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
19	須恵器 甕	カマド	口径 — 底径(16.0) 器高〈6.8〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④胴部下位～底部1/8	外面 平行タタキ。 内面 同心円の当て具痕。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
20	鉄製品 釘	H-6住No.1	①長さ〈3.4〉、幅0.3、厚さ0.2、重量1.38 ②鉄製 ③上端部欠損 ④断面方形		
21	鉄製品 釘	No.1	①長さ〈3.1〉、幅0.4、厚さ0.3、重量2.05 ②鉄製 ③両端部欠損 ④断面方形		

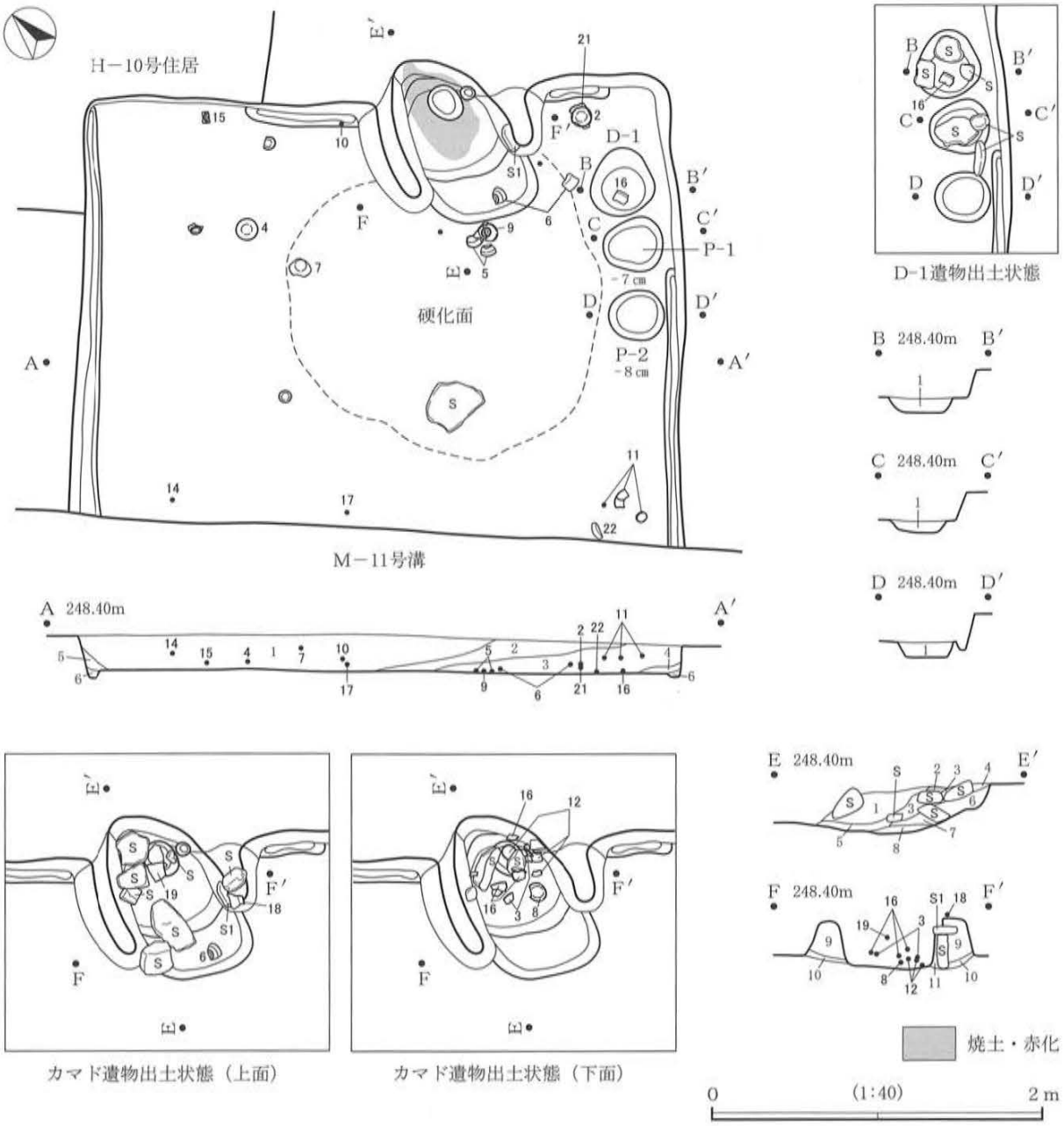
第23表 H－5号住居址出土遺物観察表（3）

⑥H－11号住居址（第41～43図、第24表、PL. 9・10・23）

位置 F－3～4グリッド。 **重複** H－10号住居址、M－11号溝、D－5号土坑と重複する。新旧関係は古い方からH－10号住居址＜本遺構＜M－11号溝、D－5号土坑となる。 **平面形態** 北西－南東方向にやや長い横長長方形。 **規模** 長軸3.58 m×短軸2.74 m以上×深さ0.20 m。 **主軸方位** N－43°－E。 **覆土** 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 北東壁の東寄りに位置する。壁に対して西へ122°傾く。全長0.84 m。両袖が残存し、構築土は下部が黒褐色土、上部が黄橙色粘質土と黒褐色土の混土である。右袖内には袖先端から奥側へ縦方



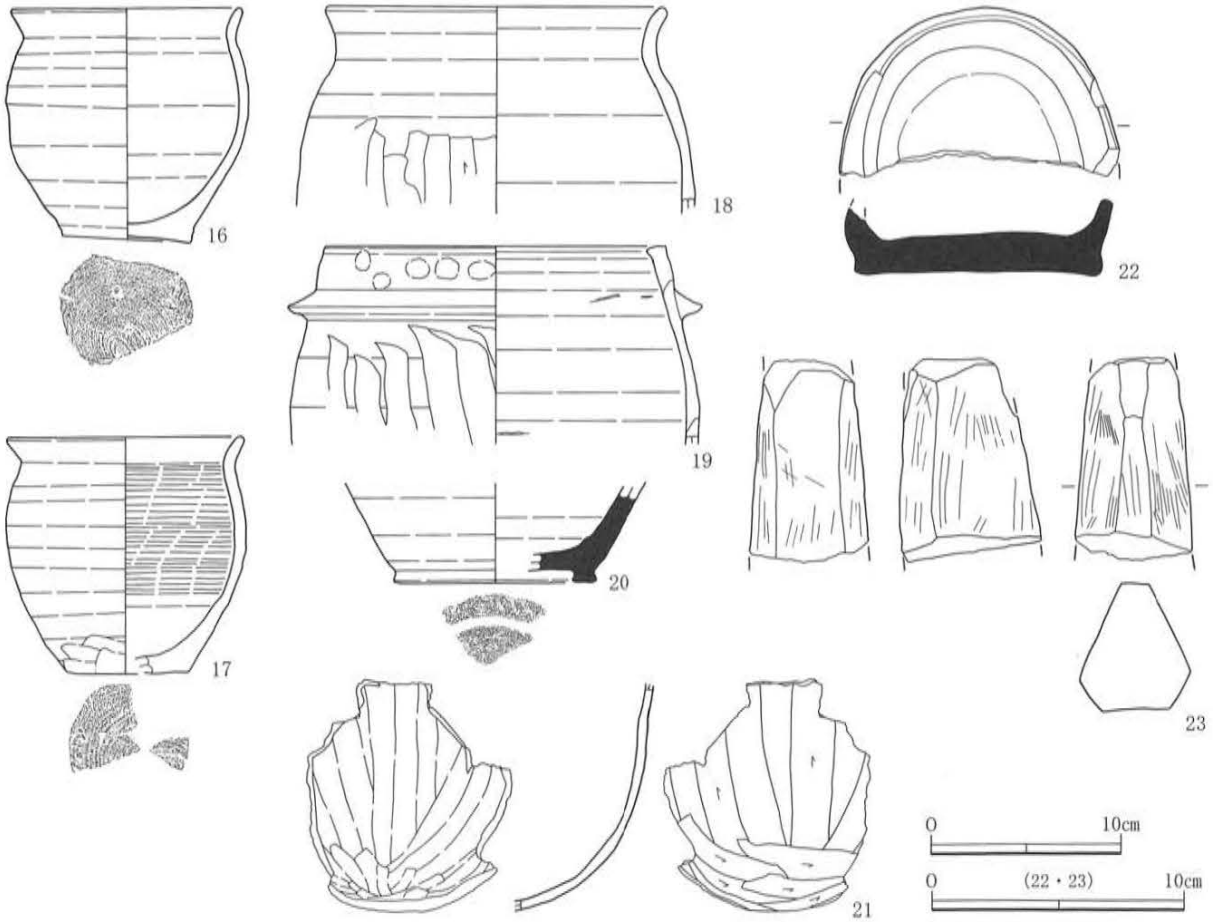
第41図 H－11号住居址出土遺物（1）



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－11住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YPを中量、焼土・炭化物粒を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/2	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒・焼土・炭化物粒を少量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	5	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを微量含む。
	6	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
カマド E-E′ F-F′	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を多量、白色粒を少量、焼土を微量含む。
	2	赤色焼土層7.5R4/6	弱い	弱い	
	3	にぶい黄褐色土層10YR5/3	やや弱い	ややあり	黄橙色土・焼土を少量、炭化物粒を微量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土を多量、白色粒を少量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・焼土を多量、白色粒を少量含む。
	6	黄橙色土層7.5YR8/8	ややあり	ややあり	焼土を多量、黒褐色土を中量、白色粒を微量含む。
	7	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・焼土を多量含む。
	8	黄橙色土層10YR8/8	やや弱い	ややあり	焼土を多量含む。
	9	黄橙色土層7.5YR8/8	ややあり	ややあり	黒褐色土を多量、白色粒・焼土を少量含む。
	10	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	11	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP少量、焼土・炭化材粒を微量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。
P-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。
P-2	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化物粒・白色粒・As-YPを少量、焼土を微量含む。

第42図　H－11号住居址

向に安山岩が３石並び、内壁側の面が垂直になるように設置されている。手前側２石の上にはS1が水平に乗せられている。燃焼部から煙道部の底面は焼土化が顕著で、小ピット（径22 cm× 19 cm、深さ５cm）が検出される（ＰＬ．10左下参照）。 **柱穴** 未検出。 **貯蔵穴** カマドの右側手前に位置する（Ｄ－１）。平面形は円形を呈し、径41 cm× 39 cm、深さ７cmを測る。 **ピット** ２基検出された（Ｐ－１～2）。貯蔵穴と同規模で２基並んで検出される。 **床面の状態** 全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ｖ層を地床とするが、硬化面部分は黄橙色粘質土と黒色土の混土の貼床である。 **壁溝** 部分的に途切れるが全周すると推測される。幅６～12 cm、深さ２～５cm。 **遺物** 須恵器坏・碗・壺・羽釜、灰釉陶器碗、緑釉陶器碗、土師器甕、ロクロ甕、風字硯、砥石などが少量出土した。床面直上の遺物には５の須恵器坏、９の須恵器碗、20の須恵器壺、22の風字硯、竪穴中央の大形礫がある。それ以外は概ね床面より４～12 cm上で出土した。カマドの右脇では床面より４cm上の位置で、21の土師器甕胴部片の上に２の須恵器坏が重ねられて出土した。21は８世紀代に比定され、周辺から持ち込まれたものと推測される。２は完形の墨書土器で、「作」と判読できる。墨書土器は他に２点（１・８）が確認されている。１は須恵器坏で２区下層から出土した。口縁部破片のため判読不明である。８の須恵器碗はカマド内から出土した。「当」の篆書体である「當」と判読できる。カマド内からは３の須恵器坏、12の須恵器碗、13の灰釉陶器碗、16のロクロ甕、19の羽釜、20の須恵器壺の破片が出土した。 **時期** 10世紀第３四半期と推定される。 **備考** 安中市高梨子森下遺跡の遺構外から「當」の刻書がある須恵器碗（10世紀）が出土している。



第43図　Ｈ-11号住居址出土遺物（2）

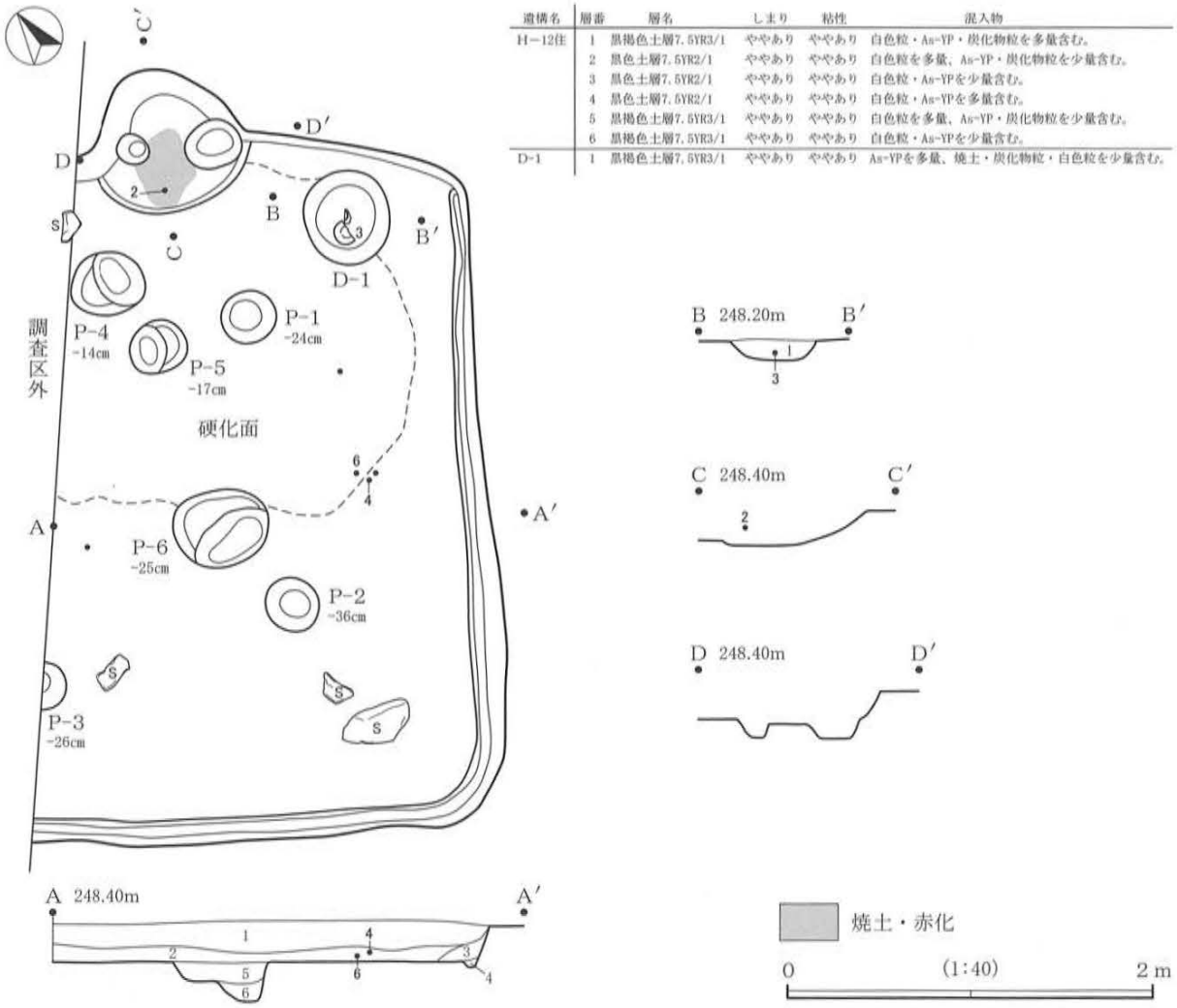
番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	2区	口径 － 底径 － 器高 〈1.9〉	①酸化焔 ②灰黄褐色 ③白色粒 ④口縁部破片	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 外面に墨書、判読不明。
2	須恵器 坏	No.26	口径 11.5 底径 5.5 器高 3.5	①酸化焔 ②黄灰色 ③角閃石、白色粒 ④ほぼ完形	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。 外面に墨書「作」。
3	須恵器 坏	No.33・42、1・2区	口径 11.8 底径 (6.0) 器高 3.2	①酸化焔 ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④1/2	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 坏	No.5	口径 12.1 底径 4.5 器高 4.2	①酸化焔 ②にぶい褐色 ③白色粒、黒色粒 ④完形	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
5	須恵器 坏	No.14・16、2区	口径 12.6 底径 6.1 器高 4.3	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③角閃石、白色粒 ④5/6	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
6	須恵器 坏	No.17・18、2区	口径 12.7 底径 6.3 器高 4.4	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部～体部1/4欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
7	須恵器 坏	No.4、1区	口径 (13.0) 底径 6.1 器高 4.2	①還元焔(軟質) ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/2欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
8	須恵器 碗	No.35	口径 12.6 底径 7.3 器高 4.3	①酸化焔 ②褐灰色 ③白色粒 ④口縁部1/5欠損	外面 ロクロナデ。底面静止糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 外面に墨書、「当」の篆書体。
9	須恵器 碗	No.15、2区	口径 12.4 底径 6.1 器高 5.0	①還元焔(軟質) ②灰黄色 ③白色粒 ④口縁部・高台部の一部を欠損	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→高台貼付時に全面ナデ。 内面 ロクロナデ。
10	須恵器 碗	No.3、1区	口径 (13.6) 底径 6.6 器高 5.3	①酸化焔 ②オリーブ黒色 ③角閃石、白色粒 ④口縁部～体部3/4欠損	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→高台貼付時に全面ナデ。 内面 ロクロナデ。
11	須恵器 碗	No.10・11・12	口径 13.0 底径 6.2 器高 5.0	①酸化焔 ②にぶい黄色 ③白色粒 ④口縁部～体部1/2欠損	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→高台貼付時に全面ナデ。 内面 ロクロナデ。
12	須恵器 碗	No.36・43・44	口径 13.4 底径 6.6 器高 5.2	①酸化焔 ②明黄褐色 ③白色粒 ④ほぼ完形	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り→高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
13	灰釉陶器 碗	カマド	口径 (16.4) 底径 － 器高 〈5.2〉	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④口縁部破片	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
14	灰釉陶器 碗	No.8	口径 － 底径 (8.7) 器高 〈2.5〉	①還元焔 ②胎土：灰黄色、釉薬：灰オリーブ色 ③白色粒 ④体部下位～高台部1/4	外面 ロクロナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
15	緑釉陶器 碗	No.1	口径 － 底径 － 器高 〈1.5〉	①還元焔 ②胎土：暗灰色、釉薬：暗オリーブ色 ③精緻 ④底部～高台部1/4	外面 ロクロナデ。体部ミガキ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。底面ミガキ。 内外面に緑釉。
16	小形 ロクロ甕	No.19・32・37・38、2区	口径 12.3 底径 6.9 器高 12.3	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒、黒色粒 ④3/4	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
17	小形 ロクロ甕	No.9、1～4区	口径 12.6 底径 6.5 器高 12.5	①酸化焔 ②灰黄褐色 ③白色粒 ④2/3	外面 ロクロナデ→胴部下端に横方向のヘラナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ→胴部上半に横方向のヘラナデ。
18	ロクロ甕	No.20	口径 (18.0) 底径 － 器高 〈10.8〉	①酸化焔 ②灰黄橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～胴部上位1/5	外面 ロクロナデ→胴部中位に縦方向のヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
19	須恵器 羽釜	No.24	口径 (18.2) 底径 － 器高 〈10.4〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、黒色粒、小礫 ④口縁部～胴部上位1/5	外面 ロクロナデ。口縁部に指頭圧痕。胴部に縦方向のヘラケズリ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
20	須恵器 壺	カマド	口径 － 底径 (10.7) 器高 〈5.3〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④胴部下位～底部1/4	外面 ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 高台底面は非常に平滑。
21	土師器 甕	No.27	口径 － 底径 － 器高 －	①良好 ②橙色 ③黒色粒、小礫 ④胴部破片	外面 胴部縦方向のヘラケズリ→下位に横方向のヘラケズリ。 内面 胴部縦方向のヘラナデ→下位に斜方向のヘラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
22	須恵器 風字硯	No.13	①長さ〈6.7〉、幅11.2、厚さ3.0、重量157.621 ②焼成：還元焔、色調：灰色、胎土：白色粒 ③頭部破片 ④頭部は丸みをもつ。馬蹄形状を呈すると推測される。硯面の縁辺に堤が付けられる。堤幅0.6～0.8cm、堤高1.5cm。ナデ調整。硯面は非常に平滑。		
23	砥石	1区	①長さ〈8.0〉、幅4.8、厚さ5.2、重量232.87 ②砥沢石 ③両端部欠損 ④6面すべてを使用。下面を除く5面は非常に平滑、擦痕多数。		

第24表 H-11号住居址出土遺物観察表

⑦H－12号住居址（第44・45図、第25表、PL. 11・23・24）

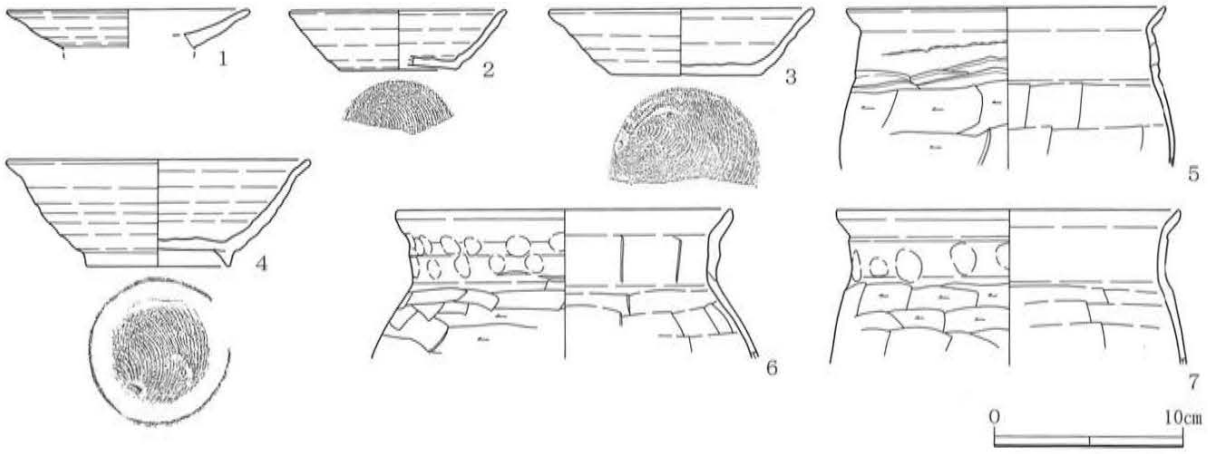
位置　G－1、H－1グリッド。　**重複**　H－3号住居址、D－4号土坑と重複し、本遺構が最も古い。　**平面形態**　西側が調査区外となるため全容は不明である。　**規模**　南北軸3.77 m×東西軸2.50 m以上×深さ0.22 m。　**主軸方位**　N－34°－E。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　北東壁に位置する。全長0.79 m。火床面は焼土化が顕著である。底面には石を設置した痕跡とみられる小ピットが2本対になって検出される。カマド覆土は炭化物粒・焼土を含む黒褐色土である。　**柱穴**　4本主柱穴と推定され、内2基を検出した。P－1は径31×29 cm、深さ24 cm、P－2は径30×30 cm、深さ36 cmを測る。　**貯蔵穴**　カマドの右側に位置する（D－1）。平面形は円形を呈し、径51×47 cm、深さ6 cmを測る。　**ピット**　4基を検出した（P－3～6）。P－3はやや位置がずれるが主柱穴の可能性もある。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　カマド敷設面を除いて全周すると推測される。幅5～9 cm、深さ3～5 cm。　**遺物**　須恵器皿・坏・碗、土師器甕などが少量出土した。床面直上の遺物は竪穴南西側の大形礫のみで、土器類は全て覆土下層からの出土である。カマド内から2の須恵器坏が、貯蔵穴下層から3の須恵器坏が出土した。1の須恵器高台付

遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－12住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を多量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを多量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒を多量、As-YP・炭化物粒を少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、焼土・炭化物粒・白色粒を少量含む。



第44図　H－12号住居址

皿と５の土師器甕は重複するＨ－３号住居址から出土した遺物だが、９世紀に比定されるため本住居址に記載した。　**時期**　９世紀後半と推定される。



第 45 図　Ｈ－12 号住居址出土遺物

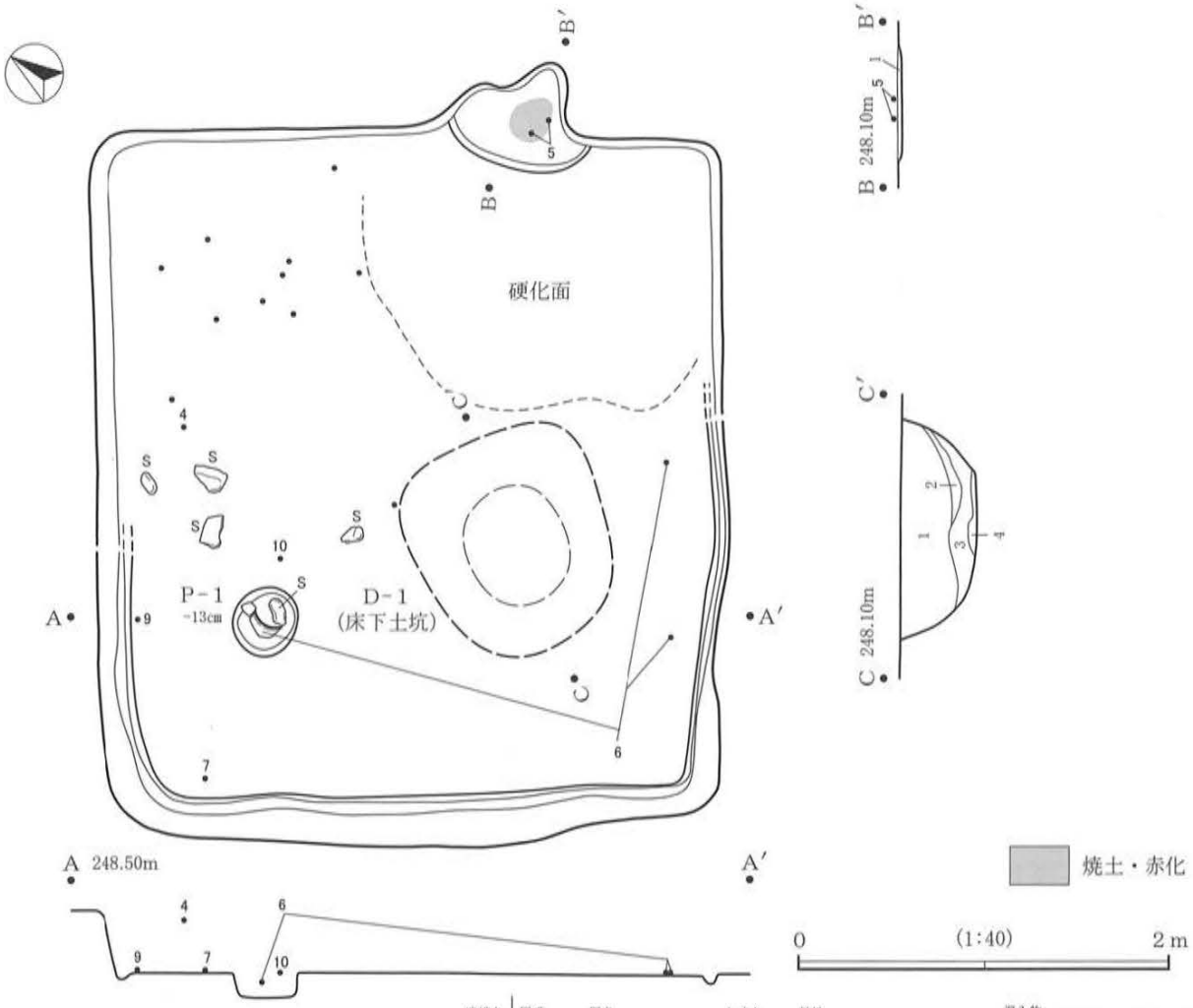
番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 高台付皿	H-3 住	口径（13.0） 底径　－ 器高〈2.0〉	①還元焔　②灰色　③白色粒 ④口縁部～体部 1/8	外面　ロクロナデ。 内面　ロクロナデ。
2	須恵器 坏	No.8	口径（11.5） 底径（6.0） 器高　3.1	①還元焔　②灰色　③白色粒、黒色粒　④ 1/4	外面　ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面　ロクロナデ。
3	須恵器 坏	No.6	口径 14.0 底径　7.9 器高　3.5	①酸化焔気味　②灰黄色　③白色粒、褐色粒　④ 1/2	外面　ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面　ロクロナデ。
4	須恵器 碗	No.2、1・2 区	口径（16.1） 底径　7.6 器高　5.6	①酸化焔気味　②灰白色　③白色粒　④口縁部～体部 2/3 欠損	外面　ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。
5	土師器 甕	H-3 住	口径（17.0） 底径　－ 器高〈8.4〉	①良好　②橙色　③角閃石、白色粒　④口縁部～胴部上位 1/5	外面　口縁部ヨコナデ。胴部上位横方向のヘラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上位横方向のヘラナデ。
6	土師器 甕	No.3、1 区	口径（18.0） 底径　－ 器高〈7.8〉	①良好　②橙色　③角閃石、白色粒　④口縁部～胴部上位 1/4	外面　口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部上位横方向のヘラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上位横方向のヘラナデ。
7	土師器 甕	1 区	口径（18.2） 底径　－ 器高〈8.1〉	①良好　②橙色　③白色粒、黒色粒　④口縁部～胴部上位 1/3	外面　口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部上位横方向のヘラケズリ。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上位横方向のヘラナデ。

第 25 表　Ｈ－12 号住居址出土遺物観察表

⑧Ｈ－14 号住居址（第 46 ～ 48 図、第 26 表、PL. 11・24）

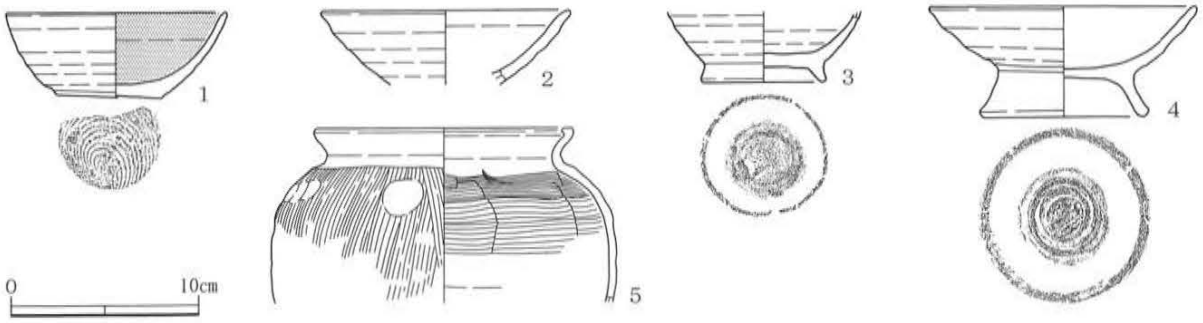
位置　Ｈ－２～３、Ｉ－２～３グリッド。　**重複**　Ｈ－４・13・19 号住居址と重複する。新旧関係は古い方からＨ－13 号住居址＜Ｈ－19 号住居址＜本遺構＜Ｈ－４号住居址となる。　**平面形態**　東西にやや長い縦長長方形。　**規模**　長軸 3.59 m×短軸 3.28 m×深さ 0.33 m。　**主軸方位**　Ｎ－54°－Ｅ。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　北東壁の東寄りに位置する。全長 0.58 m。竪穴の壁ラインより外側で顕著な焼土面が検出される。　**柱穴**　未検出。　**貯蔵穴**　未検出。　**床下土坑**　１基を検出した（Ｄ－１）。平面形は隅丸方形を呈し、径 118 × 102 cm、深さ 42 cmを測る。　**ピット**　１基を検出した。Ｐ－１は径 37 cm× 34 cm、深さ 13 cmを測る。覆土中層からロクロ甕（６）の口縁部破片が出土し、床面直上の破片と接合する。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド周辺は強く硬化している。基本層序Ｖ層を地床とする。　**壁溝**　竪穴の

西半分で検出される。東半分は残存状態が悪く不明瞭である。幅４～10 ㎝、深さ２～５㎝。　**遺物**
土師器甕、須恵器坏・碗・甕・羽釜、灰釉陶器碗・壺、ロクロ甕、羽口、鉄滓などが少量出土した。床面直上の遺物は７の羽釜、９の羽口、10 の鉄製品がある。カマド内からは５の粗いハケメが施される

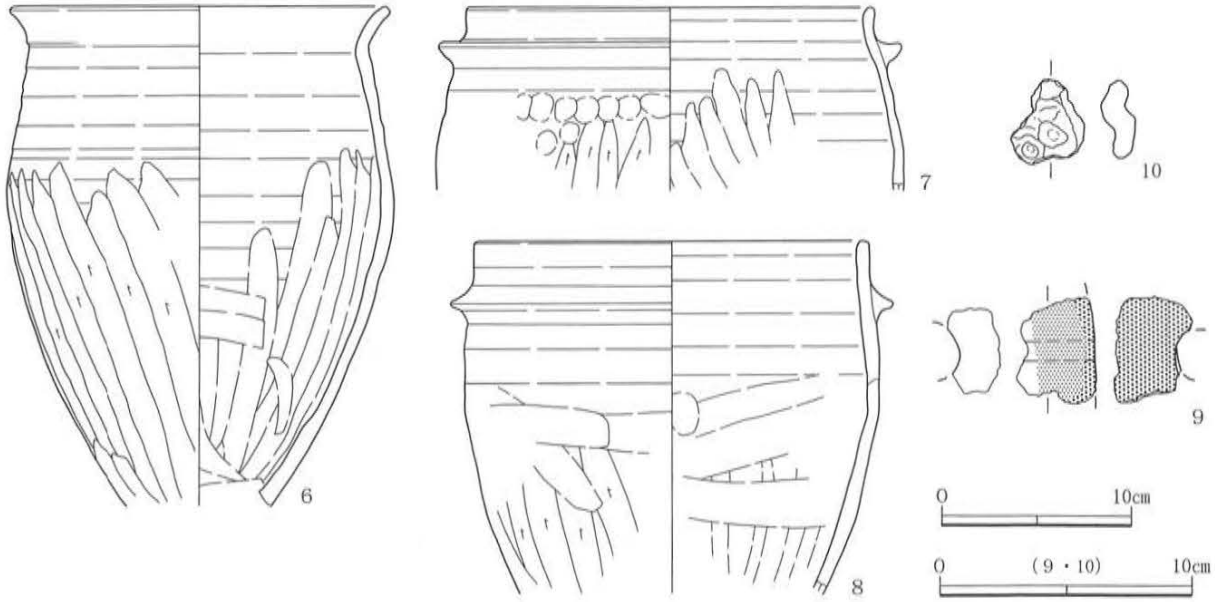


遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H-14住カマド	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・灰を多量、白色粒・As-YP・炭化物粒を少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を少量含む。
	2	にぶい黄橙色土層10YR7/4	ややあり	ややあり	黒褐色土を少量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を中量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	あり	ややあり	にぶい黄橙色土を多量含む。

第 46 図　H -14 号住居址



第 47 図　H -14 号住居址出土遺物（1）



第48図　H-14号住居址出土遺物（2）

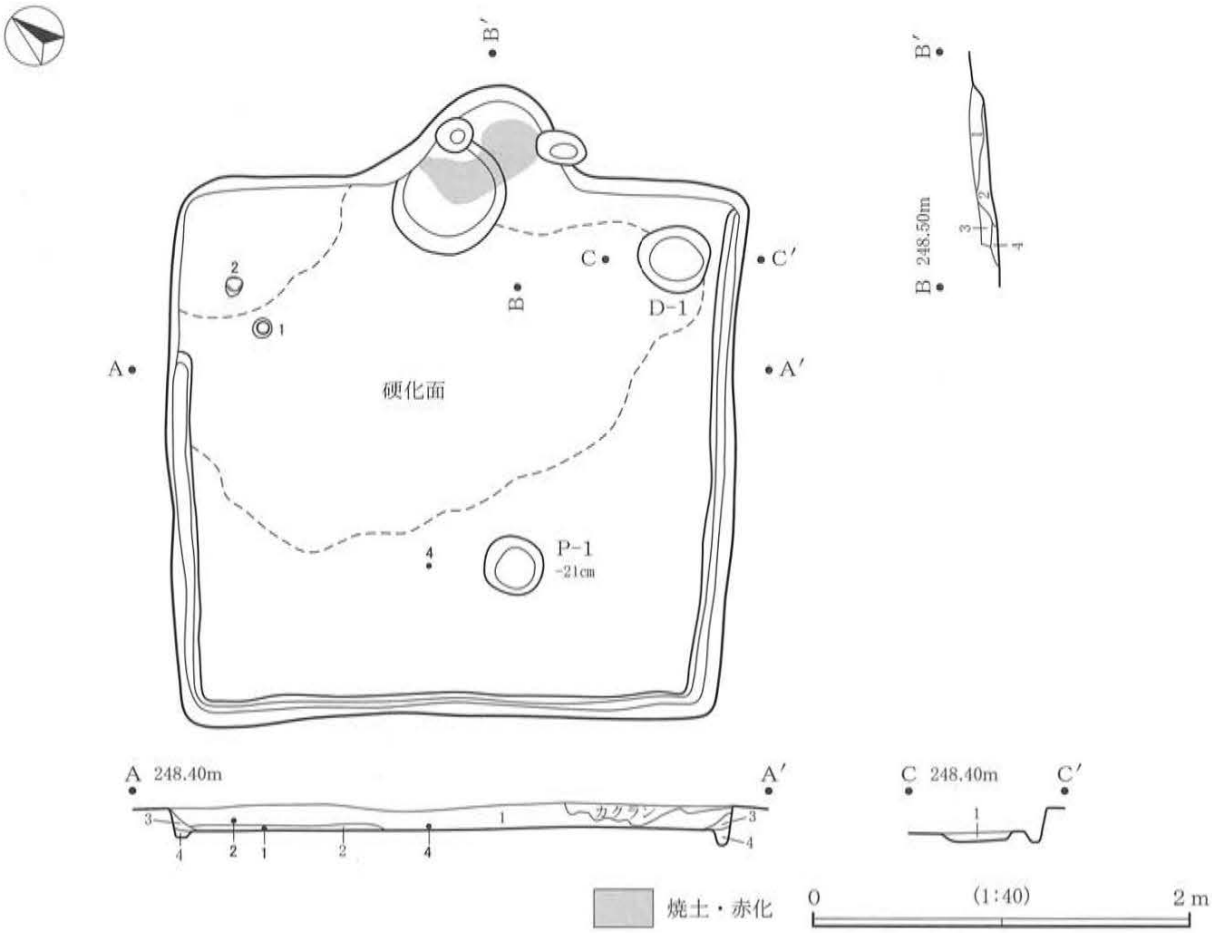
番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	4区	口径（11.8） 底径　5.7 器高　4.5	①酸化焔　②にぶい黄橙色　③白色粒　④1/4	外面　ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面　ロクロナデ。 内面に黒色処理。
2	須恵器 坏	一括	口径（13.3） 底径　－ 器高〈3.9〉	①酸化焔　②橙色　③白色粒、黒色粒　④口縁部～体部1/4	外面　ロクロナデ。 内面　ロクロナデ。
3	須恵器 碗	一括	口径　－ 底径　6.5 器高〈3.6〉	①酸化焔気味　②灰白色　③雲母、白色粒、小礫　④体部下半～高台部	外面　ロクロナデ。底面回転糸切りの後ナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。
4	須恵器 碗	No.22	口径（14.3） 底径　8.5 器高　5.8	①酸化焔気味　②灰白色　③白色粒、黒色粒、褐色粒　④口縁部～体部4/5欠損	外面　ロクロナデ。底面ナデ消し。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。
5	土師器 甕	No.7・8、一括	口径（13.8） 底径　－ 器高〈9.2〉	①良好　②にぶい黄橙色　③白色粒　④口縁部～胴部上半1/3	外面　口縁部ヨコナデ。胴部に縦方向の粗いハケメ。指頭圧痕。 内面　口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向の粗いハケメ、中位に横方向のヘラナデ。
6	ロクロ甕	No.5・6・28、4区、H-4・13住	口径（20.0） 底径　－ 器高〈26.3〉	①酸化焔　②にぶい黄橙色　③白色粒、褐色粒　④口縁部～胴部1/3	外面　ロクロナデ。胴部中位～下位に縦方向のヘラケズリ。 内面　ロクロナデ。胴部中位～下位に縦・横方向のヘラナデ。 破片単位で二次被熱を受ける。
7	須恵器 羽釜	No.1	口径（21.7） 底径　－ 器高〈9.6〉	①酸化焔　②にぶい橙色　③白色粒　④口縁部～胴部上半1/5	外面　ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラケズリ、指頭圧痕。鍔貼付。 内面　ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラナデ。
8	須恵器 羽釜	H-13住	口径（21.0） 底径　－ 器高〈18.5〉	①酸化焔　②黄灰色　③白色粒、黒色粒　④口縁部～胴部1/4	外面　ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラケズリ→横・斜方向のヘラナデ。鍔貼付。 内面　ロクロナデ。胴部に縦方向→横方向のヘラナデ。指頭圧痕。
番号	器種	出土位置	①法量（cm，g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
9	羽口	No.2	①長さ〈3.2〉、幅4.2、厚さ1.6、重量28.95　②色調：浅黄橙色、胎土：石英、白色粒　③破片　④ナデ整形。上面はガラス質、その下は熱変色。		
10	鉄滓	No.3	①長さ3.4、幅3.0、厚さ1.4、重量13.39　②鉄製　③完形　④－		

第26表　H-14号住居址出土遺物観察表

土師器甕が出土した。8の羽釜は重複するH-13号住居址から出土した遺物だが、10世紀に比定されるため本住居址に記載した。　**時期**　10世紀後半と推定される。

⑨H-15号住居址（第49・50図、第27表、PL. 11・24）

位置　H-2、I-2～3グリッド。　**重複**　D-6号土坑と重複し、本遺構が古い。　**平面形態**　方形。**規模**　長軸2.95 m×短軸2.73 m×深さ0.14 m。　**主軸方位**　N-53°-E。　**覆土**　自然堆積と推



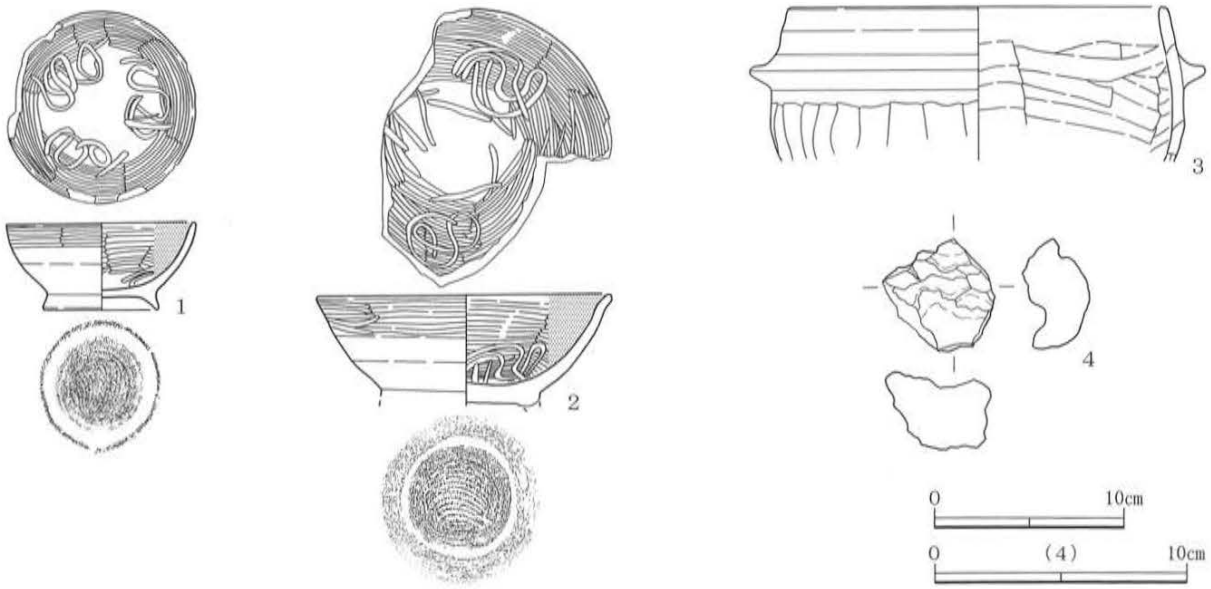
遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H−15住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	炭化材粒・As-YPを中量，焼土・白色粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	白色粒・As-YPを微量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
カマド	1	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒・黄橙色土を少量含む。
	2	にぶい橙色土層5YR7/4	ややあり	ややあり	褐灰色土を多量、焼土ブロック・炭化物粒を少量含む。
	3	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	焼土・黄橙色土を中量、炭化物粒を少量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを微量、炭化物粒を少量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。

第49図　H-15号住居址

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 碗	No.2	口径 10.1 底径 6.0 器高 4.6	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③石英、白色粒、黒色粒 ④口縁部1/4欠損	外面 ロクロナデ。口縁部に横方向のミガキ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。口縁部〜体部に横方向のミガキ→体部に螺旋状のミガキ。 内面に黒色処理。外面にスス付着。
2	須恵器 碗	No.1	口径 (15.7) 底径 − 器高 〈5.9〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③石英、白色粒、黒色粒 ④口縁部〜体部3/4欠損、高台部欠損	外面 ロクロナデ。口縁部に横方向のミガキ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。口縁部〜体部に横方向のミガキ→体部に螺旋状のミガキ。 内面に黒色処理。外面にスス付着。
3	須恵器 羽釜	4区	口径 (20.3) 底径 − 器高 〈8.1〉	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部〜胴部上位1/3	外面 ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラケズリ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。胴部に横方向のヘラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm，g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
4	鉄滓	No.3	①長さ4.5、幅4.5、厚さ3.1、重量62.28 ②鉄製 ③一部欠損 ④−		

第27表　H-15号住居址出土遺物観察表

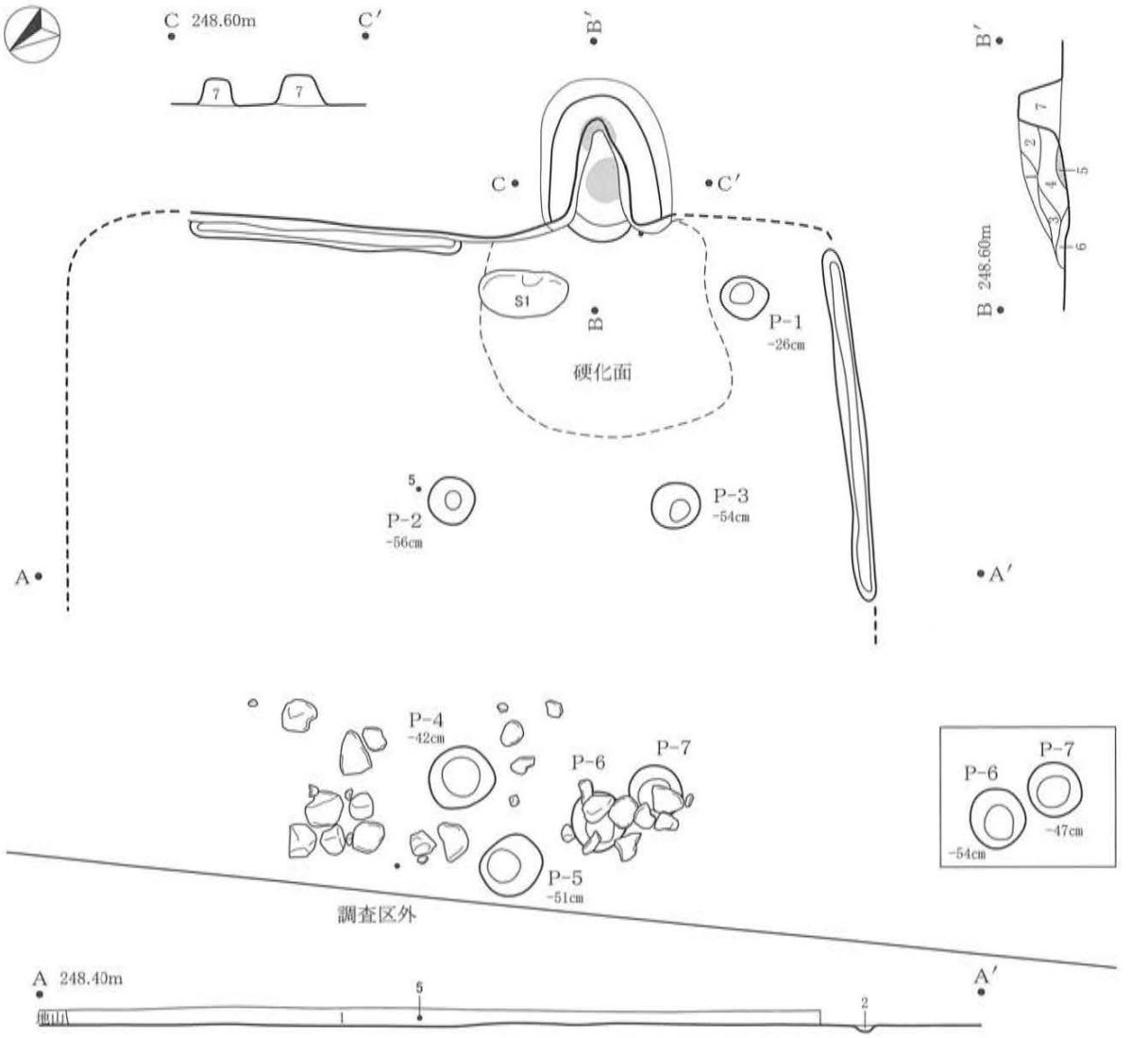
測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　北東壁の中央に位置する。全長 0.88 m。カマド内に堆積するにぶい橙色粘質土と褐灰色土の混土は構築土と推測される。竪穴の壁ラインより外側に顕著な焼土面が検出される。小ピットが２本対になって検出され（北側：径 20 × 18 cm、深さ５cm、南側：径 27 × 17 cm、深さ５cm）、石を設置した痕跡と推測される。　**柱穴**　未検出。　**貯蔵穴**　カマドの右側に位置する（D－１）。平面形は円形を呈し、径 38 × 35 cm、深さ４cmを測る。　**ピット**　１基を検出した。P－1は径 31 × 31 cm、深さ 21 cmを測る。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　カマド敷設面を除いてほぼ全周する。幅６～９cm、深さ３～５cm。　**遺物**　須恵器碗・羽釜、鉄滓などがわずかに出土した。床面直上の遺物には１の須恵器碗と４の鉄滓がある。１はほぼ完形で、逆位の状態で出土した。　**時期**　10 世紀後半と推定される。



第 50 図　H－15 号住居址出土遺物

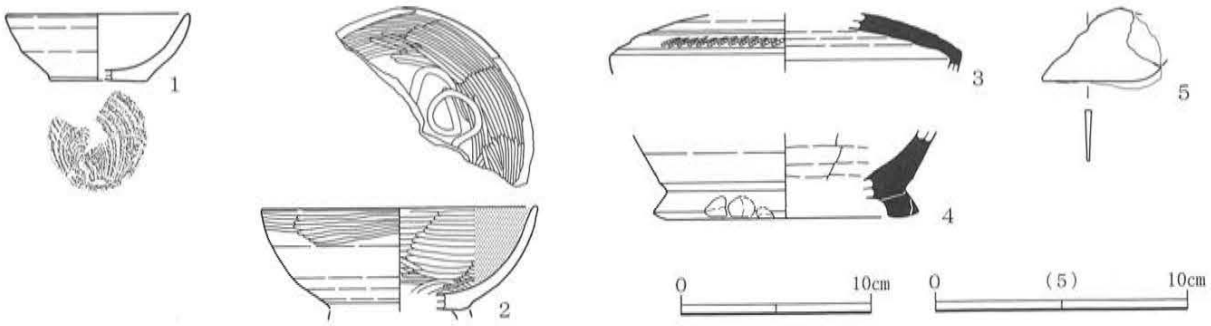
⑩H－16 号住居址（第 51・52 図、第 28 表、PL. 12・24）

位置　I－1～2、J－1グリッド。　**重複**　M－6号溝と重複し、本遺構が古い。　**平面形態**　掘り込みが捉えられず不明である。　**規模**　南北軸 3.85 m以上×東西軸 2.00 m以上×深さ 0.10 m。　**主軸方位**　N－118°－E。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　南東壁に位置する。全長 0.69 m。壁外を楕円状に掘り込み、その内側に黄橙色粘質土と黒褐色土の混土を貼り付けて成形している。焚口天井石と思われる安山岩（S1：長さ 50 cm、幅 26 cm、厚さ 14 cm）がカマド手前の床面上で出土しており、構築材には石も使用されていた可能性がある。火床面と煙道部内壁は焼土化が顕著である。　**柱穴**　未検出。　**貯蔵穴**　未検出。**ピット**　７基を検出した（P－1～7）。P－1を除いて深さ 40 ～ 50 cm台の深いピットであるが、P－4～７については確実に住居に伴うか不明である。　**床面の状態**　カマド周辺では硬化面を確認できるが、それ以外の締まりは弱い。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　南壁および東壁下で一部検出される。幅６～11 cm、深さ２～５cm。　**遺物**　須恵器坏・碗・壺、鉄製品などがわずかに出土した。１の須恵器坏と２の須恵



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H−16住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを中量、炭化物粒・白色粒を少量含む。
	2	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを中量含む。
カマド B-B′ C-C′	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・黄橙色土を少量含む。
	3	褐灰色土層10YR4/1	ややあり	ややあり	焼土を中量、炭化物粒を少量含む。
	4	にぶい赤褐色土層5YR5/4	ややあり	ややあり	焼土・黒褐色土を少量含む。
	5	橙色焼土層5YR7/8	弱い	弱い	
	6	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を少量含む。
	7	黄橙色土層7.5YR8/8	あり	ややあり	黒褐色土を多量、白色粒・焼土を少量含む。

第51図　H−16号住居址



第52図　H−16号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	カマド、 2区	口径 9.8 底径 5.1 器高 3.5	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④3/4	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 碗	カマド	口径 (14.7) 底径 — 器高 〈5.4〉	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒、褐色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 ロクロナデ。口縁部に横方向のミガキ。底面は調整不明。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。口縁部～体部に横方向のミガキ→体部に螺旋状のミガキ。 内面に黒色処理。
3	須恵器 長頸壺	3区	口径 — 底径 — 器高 〈3.1〉	①還元焔(やや軟質) ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④肩部破片	外面 ロクロナデ。肩部の横位沈線2条の間に、6条1単位の櫛歯状工具による刺突文。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 壺	掘り方	口径 — 底径 (12.9) 器高 〈4.5〉	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒 ④胴部下端～高台部 1/8	外面 ロクロナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。高台部に棒状工具による押圧。 内面 ロクロナデ。胴部下端に横方向のヘラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
5	鉄製品	No.1	①長さ〈4.8〉、幅2.9、厚さ0.3、重量13.67 ②鉄製 ③破片 ④—		

第28表 H-16号住居址出土遺物観察表

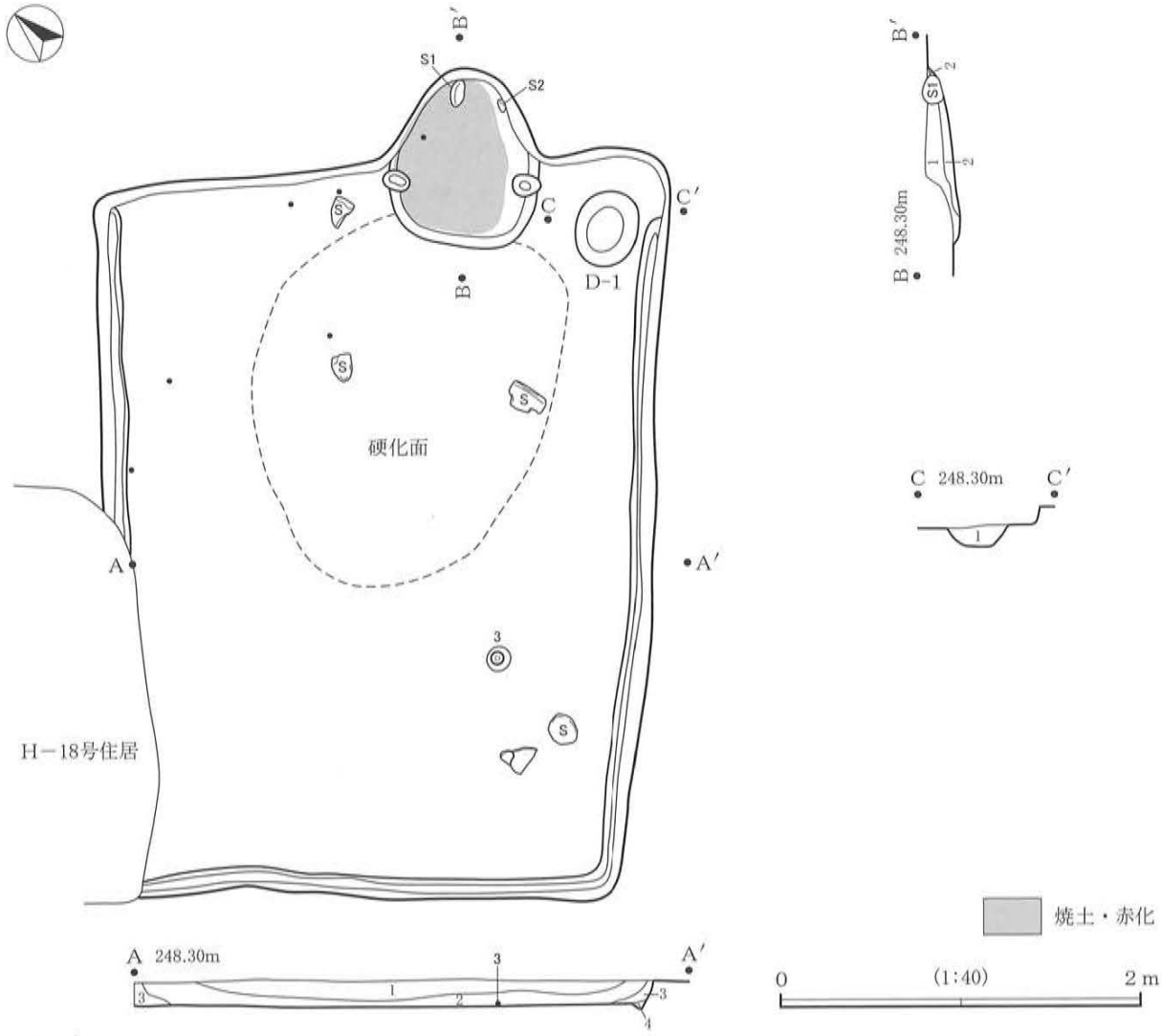
器碗はカマド内からの出土である。3・4の須恵器壺は紛れ込みである。なお、調査区際に自然礫が集中するが、竪穴の範囲が不明瞭なため、本住居址に伴うかは不明である。 **時期** 10世紀後半と推定される。

⑪H-17号住居址(第53・54図、第29表、PL. 12・24)

位置 J-3、K-3グリッド。 **重複** H-18号住居址、D-3号土坑と重複し、本遺構が最も古い。 **平面形態** 東西に長い縦長長方形。 **規模** 長軸3.93 m×短軸2.94 m×深さ0.15 m。 **主軸方位** N-47°-E。 **覆土** 自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。 **カマド** 北東壁の東寄りに位置する。全長0.98 m。煙道部に安山岩が2石設置される(S1・2)。同様に石を据えたと思われる小ピットが2基対になって検出される。底面は焼土化が顕著である(北側:径15×11 cm、深さ1 cm、南側:径16×12 cm、深さ2 cm)。 **柱穴** 未検出。 **貯蔵穴** カマドの右側に位置する(D-1)。平面形は楕円形を呈し、径42×35 cm、深さ9 cmを測る。 **床面の状態** 全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序V層を地床とする。 **壁溝** カマド敷設面を除いて全周すると推定される。幅4～8 cm、深さ2～4 cm。 **遺物** 須恵器坏・碗・羽釜、鉄滓などがわずかに出土した。2の須恵器坏はカマド内から出土した。3の完形の須恵器碗は床面直上より逆位の状態で出土した。 **時期** 10世紀後半と推定される。

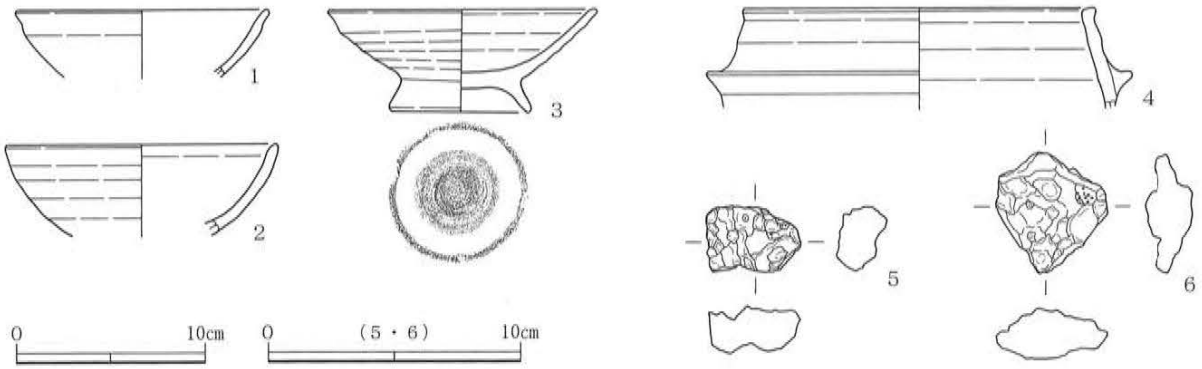
番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	4区	口径 (13.5) 底径 — 器高 〈3.5〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒、褐色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 坏	カマド、 カマド掘り方	口径 (14.6) 底径 — 器高 〈4.8〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/3	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 碗	No.2	口径 14.3 底径 7.2 器高 5.5	①酸化焔気味 ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④ほぼ完形	外面 ロクロナデ。底面ナデ消し。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 羽釜	J3グリッド2・3面	口径 (18.8) 底径 — 器高 〈5.2〉	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部 1/3	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
5	鉄滓	一括	①長さ2.7、幅3.8、厚さ2.0、重量26.25 ②鉄製 ③完形 ④—		
6	鉄滓	一括	①長さ4.8、幅4.5、厚さ2.0、重量39.75 ②鉄製 ③完形 ④—		

第29表 H-17号住居址出土遺物観察表



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－17住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YP・炭化物粒を少量含む。
	3	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	白色粒を微量、炭化物粒を少量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	白色粒・As-YPを少量含む。
カマド	1	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	黄橙色土を中量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	2	褐灰色土層7.5YR4/1	ややあり	ややあり	黄橙色土・焼土を中量，炭化物粒を少量，白色粒を微量含む。
D-1	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、白色粒・炭化物粒を少量含む。

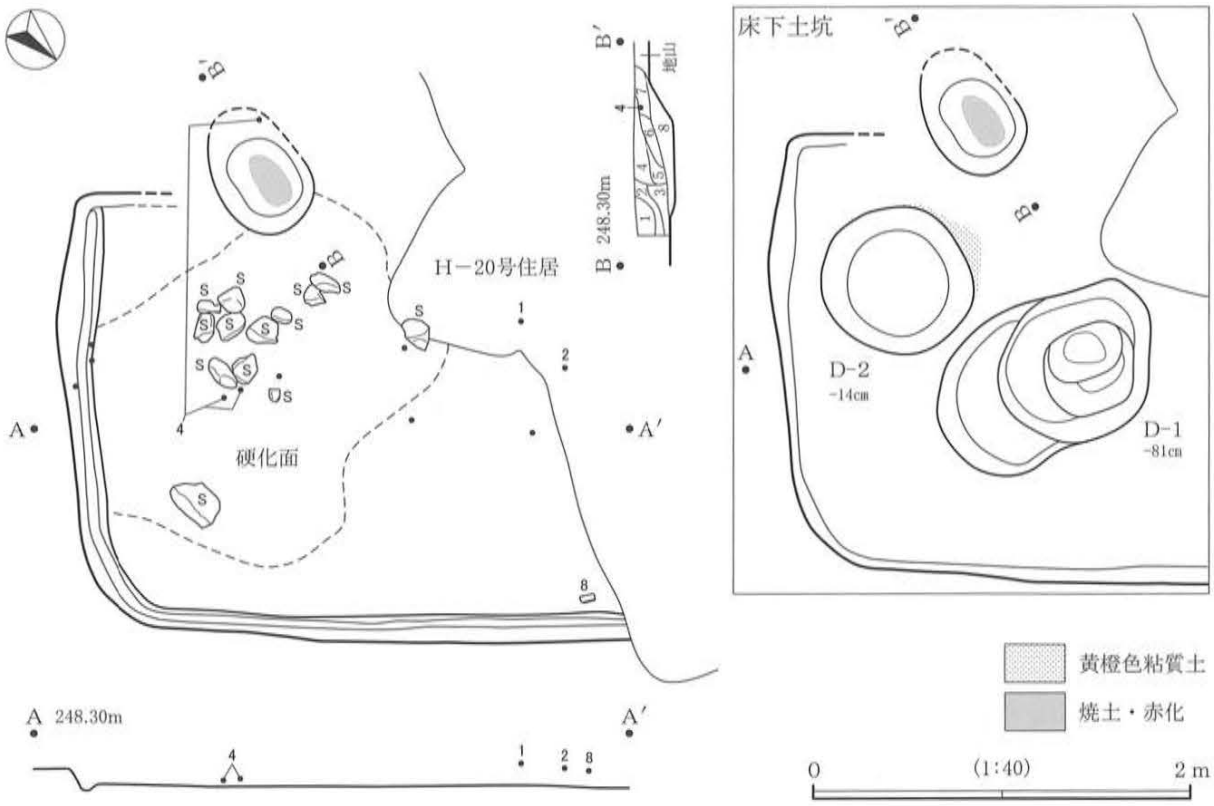
第 53 図　H－17 号住居址



第 54 図　H－17 号住居址出土遺物

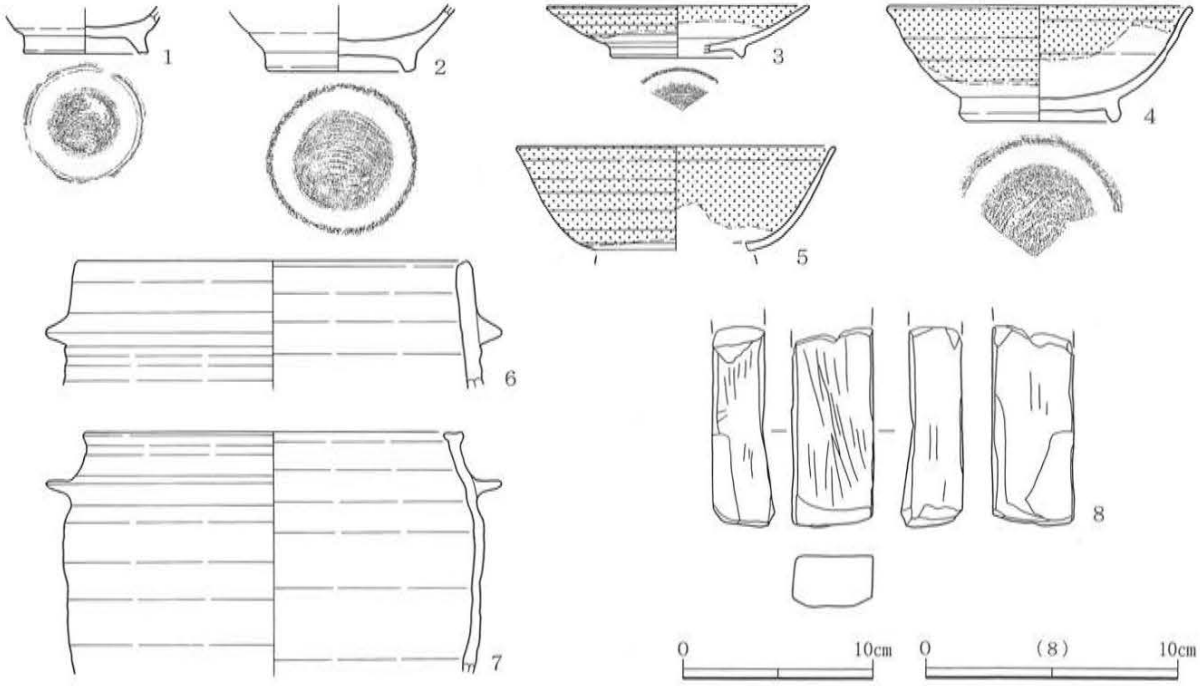
⑫H－18号住居址（第55・56図、第30表、PL. 13・25）

位置　J－2～3、K－2グリッド。　**重複**　H－17・20号住居址と重複し、本遺構が最も新しい。　**平面形態**　東西にやや長い横長長方形と推測される。　**規模**　長軸2.90 m以上×短軸2.31 m×深さ0.28 m。　**主軸方位**　N－134°－W。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　南西壁の東寄りに位置する。竪穴の壁に対して119°東に傾く。全長0.71 m。カマド手前の床面上から多数の安山岩が出土しており、構築材に石が使用されていた可能性がある。カマド覆土中の明黄褐色粘質土と黒褐色土の混土は構築土と推測される。底面は焼土化が顕著である。　**柱穴**　未検出。　**貯蔵穴**　未検出。　**床下土坑**　2基検出された（D－1・2）。D－1は平面楕円形を呈し、径118×79 cm、深さ81 cmを測る。D－2は平面円形を呈し、径81×79 cm、深さ14 cmを測る。D－1の覆土中から土器と鉄製品の破片が出土した。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド前から竪穴中央にかけて強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　カマド敷設面を除いて全周すると推測される。幅6～11 cm、深さ2～5 cm。　**遺物**　須恵器碗・羽釜、灰釉陶器皿・碗、砥石などが少量出土した。遺物は覆土中層～下層からの出土で、床面直上の遺物はみられない。カマド内からは4の灰釉陶器碗と7の羽釜が出土した。4は覆土下層の破片と接合している。　**時期**　10世紀第3四半期と推定される。



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－18住カマド	1	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、焼土・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。
	3	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒を少量含む。
	4	明黄褐色土層10YR7/6	ややあり	ややあり	黒褐色土を中量、焼土・炭化物粒を少量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を非常に多く、炭化物粒・As-YPを少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを中量、炭化物粒を少量含む。
	7	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒・黄橙色土を少量含む。
	8	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を多量、炭化物粒・白色粒・As-YPを少量含む。

第55図　H－18号住居址



第56図　H-18号住居址出土遺物

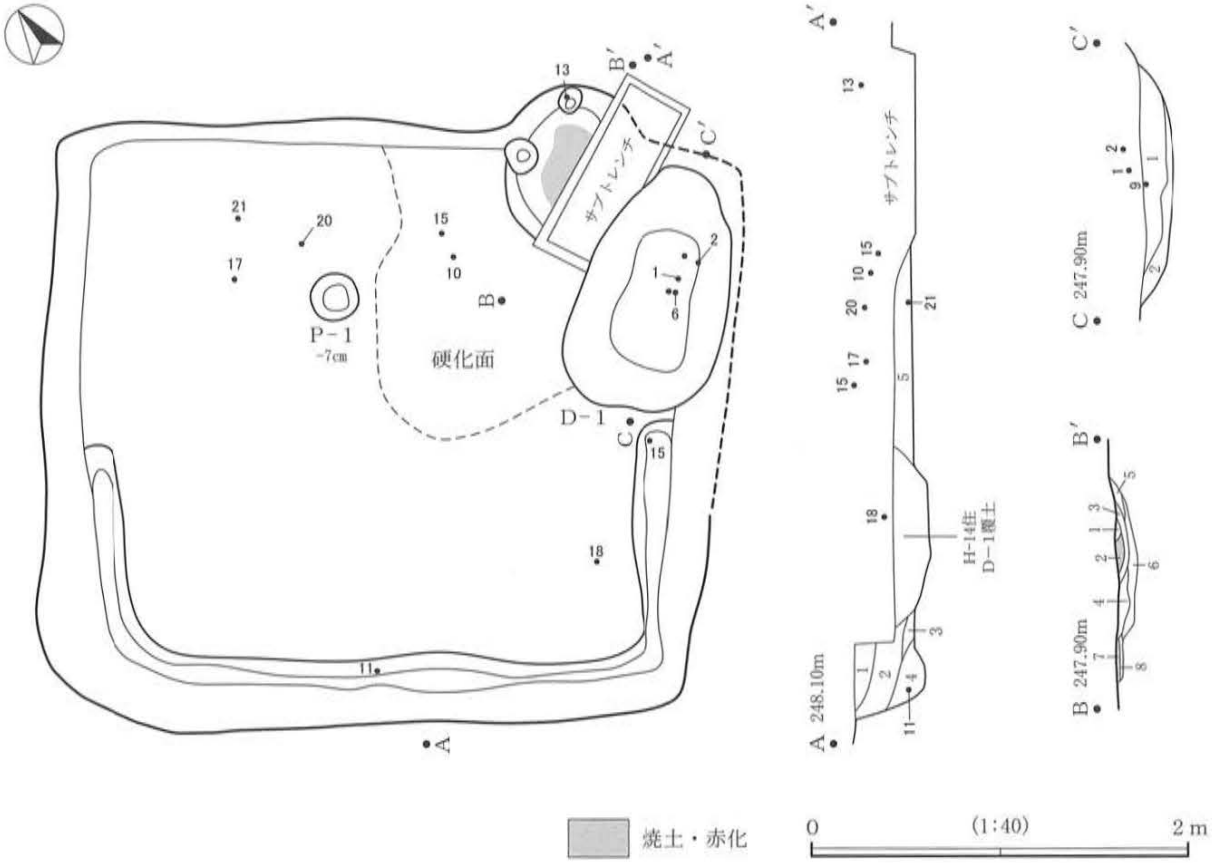
番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 碗	No.13	口径　－ 底径 (6.6) 器高 〈2.4〉	①酸化焔　②灰黄褐色　③白色粒 ④高台部	外面　ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。
2	須恵器 碗	No.11	口径　－ 底径　7.9 器高 〈3.5〉	①酸化焔　②灰黄色　③白色粒、小礫　④体部下位～高台部	外面　ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。
3	灰釉陶器 皿	一括	口径 (14.0) 底径 (6.9) 器高　2.7	①還元焔　②胎土：灰白色、釉薬：灰白色　③白色粒　④1/4	外面　ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。／内外面に灰釉漬け掛け。
4	灰釉陶器 碗	No.4・5・15	口径 (16.3) 底径 (8.0) 器高　6.1	①還元焔　②胎土：灰白色、釉薬：灰白色　③白色粒　④1/3	外面　ロクロナデ。底面不明瞭。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面　ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
5	灰釉陶器 碗	一括、J1グリッド3面	口径 (17.0) 底径　－ 器高 〈5.5〉	①還元焔　②胎土：灰白色、釉薬：灰白色　③白色粒、黒色粒　④口縁部～体部1/3	外面　ロクロナデ。体部下半に回転ヘラケズリ。 内面　ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
6	須恵器 羽釜	一括、J1グリッド3面	口径 (21.1) 底径　－ 器高 〈6.7〉	①酸化焔　②にぶい黄橙色　③白色粒　④口縁部～胴部上位1/3	外面　ロクロナデ。鍔貼付。 内面　ロクロナデ。
7	須恵器 羽釜	カマド	口径 (20.3) 底径　－ 器高 〈12.7〉	①酸化焔　②にぶい黄褐色　③石英、白色粒、黒色粒　④口縁部～胴部上半1/5	外面　ロクロナデ。鍔貼付。 内面　ロクロナデ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm.g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
8	砥石	No.14	①長さ〈8.0〉、幅3.3、厚さ2.0、重量99.10　②砥沢石　③上端部欠損　④砥面として4面を使用。非常に平滑。擦痕が認められる。		

第30表　H-18号住居址出土遺物観察表

⑬H-19号住居址（第57・58図、第31表、PL. 12・25）

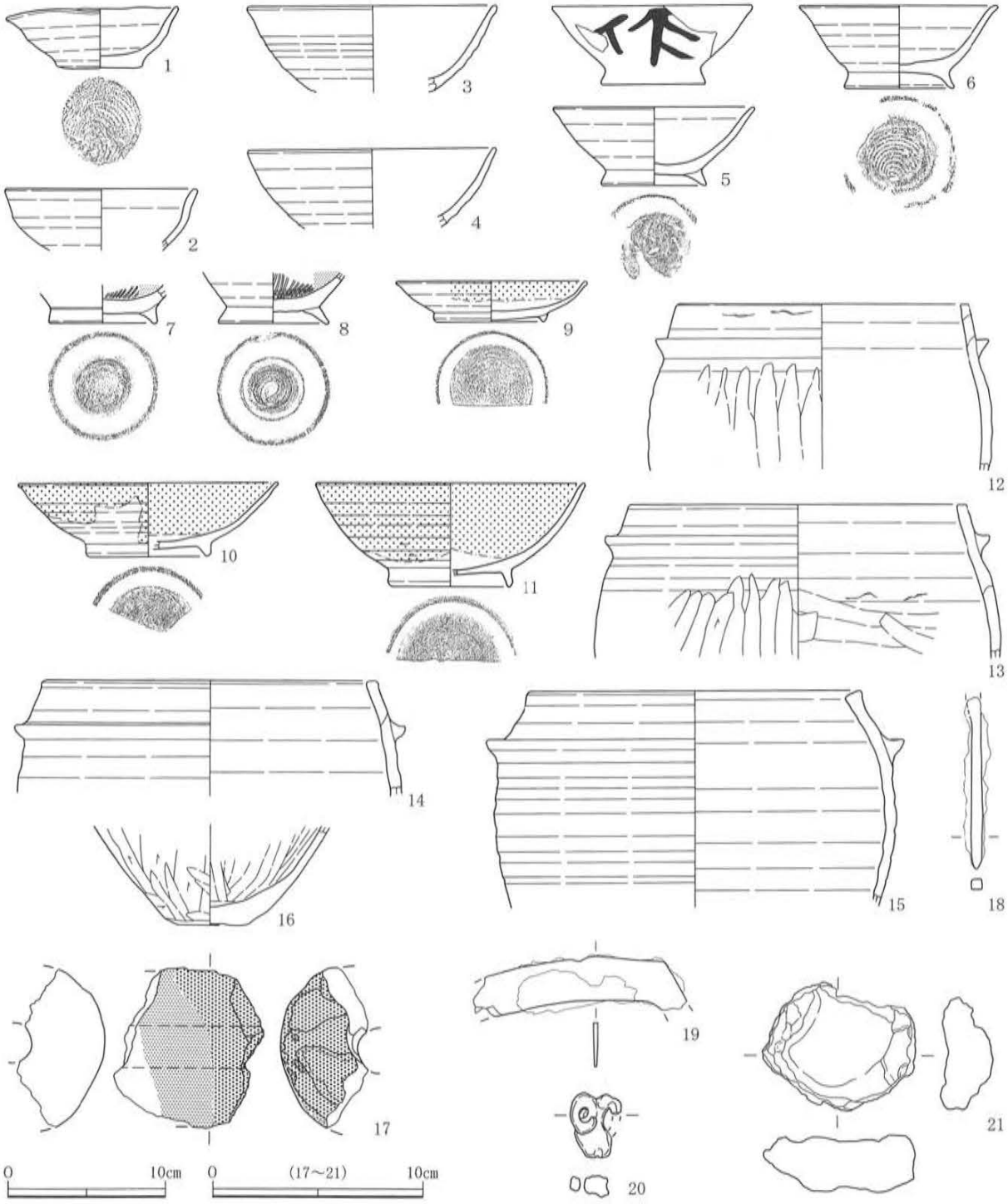
位置　H-2～3グリッド。　**重複**　H-4・13・14号住居址と重複する。新旧関係は古い方からH-13号住居址＜本遺構＜H-14号住居址＜H-4号住居址となる。　**平面形態**　東西にやや長い横長長方形。　**規模**　長軸3.09 m×短軸2.89 m×深さ0.31 m。　**主軸方位**　N-34°-E。　**覆土**　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**カマド**　北東壁の東寄りに位置する。全長0.85 m。石を据えた痕跡とみられる小ピットが2基検出される（西側：径18×

16 cm、深さ４cm、北側：径 14 × 11 cm、深さ 13 cm)。火床面は焼土化が顕著である。　**柱穴**　未検出。　**貯蔵穴**　カマドの右側のD－1が相当すると思われる。平面形は楕円形を呈し、径 131 × 81 cm、深さ 17 cmを測る。　**ピット**　１基を検出した（P－1)。径 25 × 25 cm、深さ７cmを測る。　**床面の状態**　全体的に締まっており、特にカマド周辺が強く硬化している。基本層序Ⅴ層を地床とする。　**壁溝**　竪穴の南半分をめぐる。幅９～19 cm、深さ２～７cm。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・碗・羽釜、灰釉陶器碗・皿、羽口、鉄製品、鉄滓などが少量出土した。床面直上の遺物は 21 の鉄滓のみである。カマド内からは 13 の羽釜破片が、D－1からは１・２の須恵器坏・碗、６の須恵器碗、19 の鉄製品が出土した。５の須恵器碗は墨書土器で、「作」と判読できる。　**時期**　10 世紀第３四半期と推定される。



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
H－19住	1	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	As-YPを中量、白色粒・炭化物粒を少量含む。
	2	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YPを多量、炭化物粒を少量含む。
	3	黒褐色土層7.5YR3/1	あり	ややあり	As-YPを少量、炭化物粒を微量含む。
	4	黒色土層7.5YR2/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を少量含む。
	5	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	As-YP・炭化物粒を微量含む。
カマド掘り方	1	黒色土層7.5YR2/1	やや弱い	ややあり	
	2	赤色焼土層10R5/6	なし	なし	
	3	にぶい橙色土層2.5YR6/4	やや弱い	ややあり	黒褐色土を 多量含む。
	4	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土・炭化物粒を少量含む。
	5	にぶい赤褐色土層2.5YR5/4	やや弱い	ややあり	黒褐色土・炭化物粒を少量含む。
	6	黒褐色土層7.5YR3/1	ややあり	ややあり	焼土を微量含む。
	7	黒色土層7.5YR2/1	あり	ややあり	焼土を少量含む。
	8	浅黄橙色土層10YR8/4	ややあり	ややあり	
D－1	1	暗褐色土層7.5YR3/3	やや弱い	ややあり	As-YP・炭化物粒を多量、焼土を微量含む。
	2	褐灰色土層7.5YR4/1	やや弱い	ややあり	As-YP・炭化物粒を多量、焼土を少量含む。

第 57 図　H－19 号住居址



第58図　H-19号住居址出土遺物

⑭H-21号住居址（第27・28・59図、第32表、PL. 13・25）

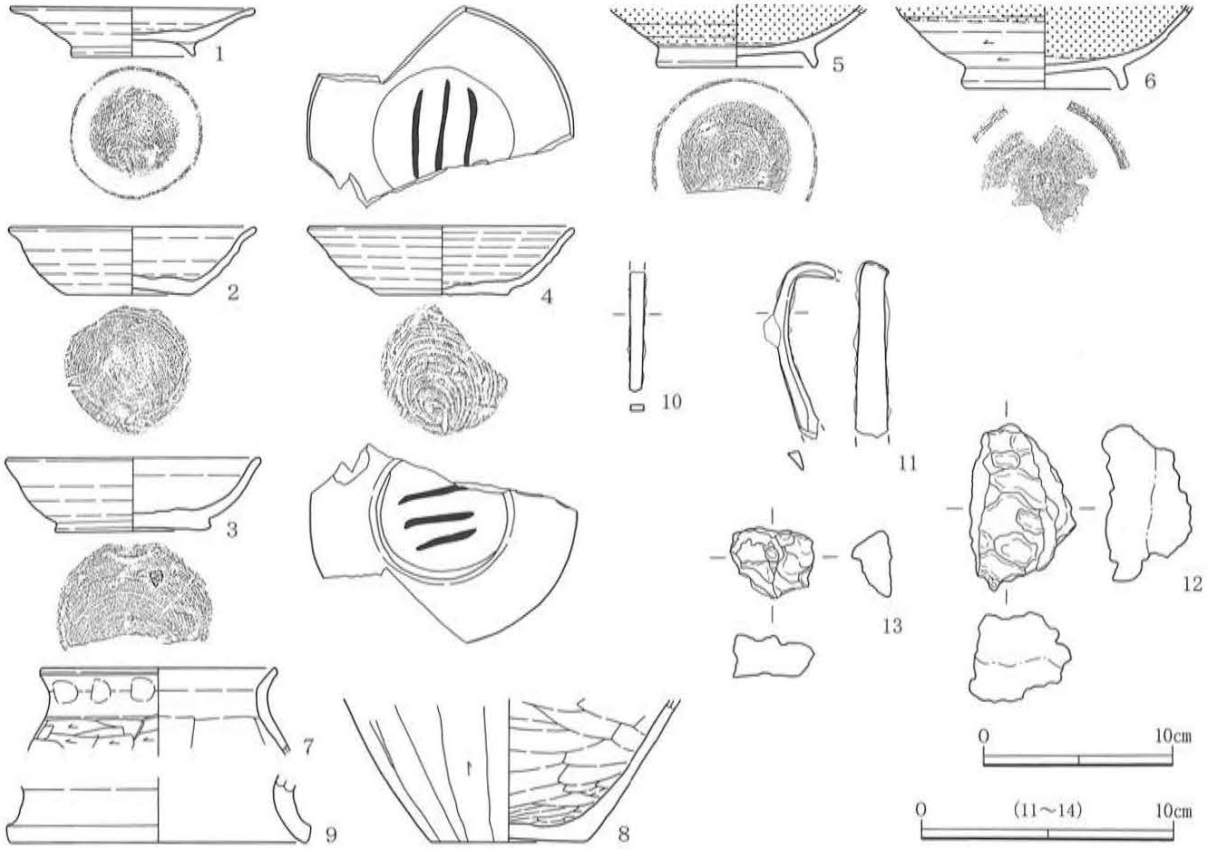
位置　J-1～2、K-1～2グリッド。　**重複**　H-20号住居址、M-6号溝と重複する。新旧関係は古い方からH-20号住居址＜本遺構＜M-6号溝となる。　**平面形態**　H-20号住居址と入れ子状に重複し、南壁断面のみの確認となったため不明である。　**規模**　北西－南東軸2.96 m、深さ0.36 m。

覆土　自然堆積と推測される。As-YP・白色粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。　**ピット**

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 坏	No.7	口径 11.0 底径 5.4 器高 3.9	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③雲母、白色粒、小礫 ④口縁部一部欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 碗	No.6、 1・2区	口径（12.3） 底径 － 器高〈3.9〉	①還元焔（やや軟質） ②灰白色 ③石英、白色粒 ④口縁部～体部1/2	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 碗	2区	口径（15.9） 底径 － 器高〈5.4〉	①還元焔（やや軟質） ②灰白色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～体部1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 碗	1区	口径（15.8） 底径 － 器高〈5.0〉	①還元焔（やや軟質） ②灰白色 ③黒色粒 ④口縁部～体部1/3	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
5	須恵器 碗	2区	口径（12.8） 底径（6.6） 器高 5.0	①酸化焔 ②灰黄色 ③雲母、白色粒、黒色粒 ④1/3	外面 ロクロナデ。底面回転糸切りの後ナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 外面に墨書。「作」か。
6	須恵器 碗	No.9	口径（12.7） 底径（6.9） 器高 5.3	①酸化焔気味（やや軟質） ②灰黄色 ③白色粒、黒色粒 ④1/2	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
7	須恵器 碗	2区	口径 － 底径 6.9 器高〈2.4〉	①酸化焔 ②橙色 ③白色粒、褐色粒 ④体部下位1/5、高台部完形	外面 ロクロナデ。底面ナデ消し。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。体部～底面に放射状のミガキ。 内面に黒色処理。
8	須恵器 碗	1区	口径 － 底径 7.0 器高〈3.2〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③雲母、白色粒 ④体部下位1/6、高台部完形	外面 ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。体部は放射状のミガキ。底面は一方向のミガキ。 内面に黒色処理。
9	灰釉陶器 皿	2区	口径（12.2） 底径 6.9 器高 2.5	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④1/3	外面 ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。／内外面に灰釉漬け掛け。
10	灰釉陶器 碗	H-14住No.19	口径（16.6） 底径（7.5） 器高 4.6	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④1/4	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
11	灰釉陶器 碗	No.3	口径（17.2） 底径（7.5） 器高 6.5	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④1/3	外面 ロクロナデ。体部下位に回転ヘラケズリ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。／内外面に灰釉漬け掛け。
12	須恵器 羽釜	2区	口径（18.5） 底径 － 器高〈10.5〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上半1/8	外面 ロクロナデ。胴部に横方向のヘラナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。胴部ヘラナデだが不明瞭。
13	須恵器 羽釜	H-14住No.9	口径（21.4） 底径 － 器高〈9.8〉	①還元焔 ②灰白色 ③白色粒、小礫 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 ロクロナデ。胴部に縦方向のヘラケズリ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。胴部に横方向のヘラナデ。
14	須恵器 羽釜	1区	口径（21.5） 底径 － 器高〈7.3〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位1/8	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
15	須恵器 羽釜	H-14住No.20、H-4・13住	口径（21.4） 底径 － 器高〈13.6〉	①酸化焔 ②にぶい黄橙色 ③白色粒、小礫 ④口縁部～胴部上半1/3	外面 ロクロナデ。鍔貼付。 内面 ロクロナデ。
16	須恵器 羽釜	No.4、 H2グリッド面3	口径 － 底径 4.5 器高〈6.3〉	①酸化焔 ②にぶい橙色 ③白色粒 ④胴部下位～底部	外面 胴部に縦・横方向のヘラケズリ→縦・斜方向のヘラナデ。底部ヘラケズリ。 内面 胴部に縦方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。
番号	器種	出土位置	①法量（cm．g） ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
17	羽口	H-14住No.26	①長さ〈7.2〉、幅7.6、厚さ4.2、重量172.67 ②色調：浅黄橙色、胎土：石英、白色粒 ③破片 ④ナデ整形。上面はガラス質、その下は熱変色。		
18	鉄製品 不明	No.1	①長さ〈8.2〉、幅0.5、厚さ0.5、重量11.40 ②鉄製 ③端部欠損 ④断面方形		
19	鉄製品 不明	D-1	①長さ〈10.4〉、幅2.4、厚さ0.2、重量11.40 ②鉄製 ③両端部欠損 ④鎌ヵ		
20	鉄製品 不明	H-14住No.13	①長さ3.1、幅2.5、厚さ1.2、重量9.58 ②鉄製 ③一部欠損 ④－		
21	鉄滓	No.2	①長さ6.2、幅7.5、厚さ2.8、重量148.25 ②鉄製 ③一部欠損 ④－		

第31表　H－19号住居址出土遺物観察表

壁断面で1基を検出した（P－1）。径38×35cm以上、深さ33cmを測る。　**床面の状態**　概ね水平で、基本層序Ⅴ層を地床としている。　**壁溝**　壁断面で確認される。幅7～8cm、深さ5～6cm。　**遺物**　須恵器坏・碗・高台付皿・羽釜・甑、灰釉陶器皿・碗、土師器甕、鉄製品、鉄滓などが少量出土した。4は須恵器坏で内外底面に墨書が認められる。「三」ないし「川」と判読できる。なお、7の土師器甕と8の羽釜はH－18号住居址出土の破片と接合している。　**時期**　9世紀末～10世紀初頭と推定される。



第59図　H-21号住居址出土遺物

番号	器種	出土位置	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器 高台付皿	No.9	口径 13.0 底径 6.5 器高 2.7	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部1/3欠損	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。
2	須恵器 坏	No.8	口径 (13.2) 底径 6.6 器高 3.6	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部～体部2/3欠損	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 坏	一括	口径 (13.6) 底径 8.2 器高 3.9	①還元焔（やや軟質） ②灰白色 ③白色粒 ④2/3	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 坏	一括	口径 (14.2) 底径 6.8 器高 3.6	①酸化焔 ②オリーブ黒色 ③チャート ④2/3	外面 ロクロナデ。底面右回転糸切り。 内面 ロクロナデ。 外底面および内面見込みに墨書。「三」ないし「川」か。
5	灰釉陶器 碗	No.5	口径 － 底径 8.2 器高 〈3.2〉	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④体部～高台部2/3	外面 ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。／内外面に灰釉ハケ塗り。
6	灰釉陶器 碗	一括	口径 － 底径 (8.3) 器高 〈4.4〉	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：明灰オリーブ色 ③白色粒 ④体部～高台部1/4	外面 ロクロナデ。体部下位に回転ヘラケズリ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。／内外面に灰釉ハケ塗り。
7	土師器 甕	一括、 H-18住	口径 (12.6) 底径 － 器高 〈4.6〉	①良好 ②明褐色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～胴部上位1/4	外面 口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部上位に横方向のヘラケズリ。 内面 口縁部ヨコナデ。胴部上位に横方向のヘラナデ。
8	須恵器 羽釜	No.7、 H-18住掘り方	口径 － 底径 8.3 器高 〈7.5〉	①酸化焔 ②浅黄橙色 ③白色粒、黒色粒 ④胴部下位～底部	外面 胴部に縦方向のヘラケズリ。底部ナデ消し。 内面 胴部に横方向のヘラナデ。底部ヘラナデ。
9	須恵器 甑	K1グリッド3面	口径 － 底径 (16.1) 器高 〈3.5〉	①酸化焔 ②褐灰色 ③白色粒、黒色粒 ④脚部1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
番号	器種	出土位置	①法量(cm，g) ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
10	鉄製品	No.3	①長さ〈4.7〉、幅0.6、厚さ0.2、重量2.45 ②鉄製 ③端部欠損 ④鉄鏃ヵ、断面長方形		
11	鉄製品	No.4	①長さ〈7.0〉、幅1.3、厚さ0.5、重量12.25 ②鉄製 ③両端部欠損 ④刀装金具ヵ		
12	鉄滓	一括	①長さ6.6、幅4.3、厚さ3.6、重量120.23 ②鉄製 ③完形 ④サビ膨れ		
13	鉄滓	一括	①長さ3.8、幅3.4、厚さ1.7、重量21.66 ②鉄製 ③一部欠損 ④－		

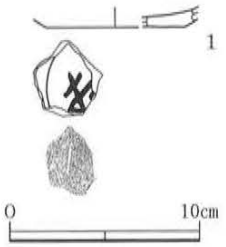
第32表　H-21号住居址出土遺物観察表

第4節　中世

（1）溝

①M－1号溝（第60・61図、第33表、PL．14・26）

位置　D－1～4、E－1～2グリッド。　**重複**　H－8・9b号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　北西－南東方向へ直線的に走向する。断面形は逆台形状を呈する。底面は概ね水平で、凹凸がみられる。　**規模**　上端幅62～96㎝、下端幅47～82㎝、深さ26～40㎝。　**走向方位**　N－67°－W。　**覆土**　As-Bを含む黒褐色土である。断面観察から2回の掘り返しが確認できる。古い方からM－1 a→b→cとなる。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器、縄文土器の破片、薦編石が少量出土した。1の須恵器坏は外底面に墨書が認められるが、判読は不明である。　**時期**　中世と想定される。



第60図　M－1号溝出土遺物

②M－2号溝（第62図、PL．14）

位置　E－1～2グリッド。　**重複**　H－2・8号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　北西－南東方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ2.66m、上端幅71～76㎝、下端幅55～62㎝、深さ20～24㎝。　**走向方位**　N－58°－W。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏、須恵器坏・甕、縄文土器の破片が微量出土した。　**時期**　中世と想定される。

③M－3号溝（第62図、PL．14）

位置　C－3グリッド。　**形態**　北西－南東方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ3.35m、上端幅65～71㎝、下端幅49～56㎝、深さ18～22㎝。　**走向方位**　N－50°－W。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏、須恵器坏・甕、縄文土器の破片が微量出土した。　**時期**　中世と想定される。

④M－4号溝（第62図、PL．14）

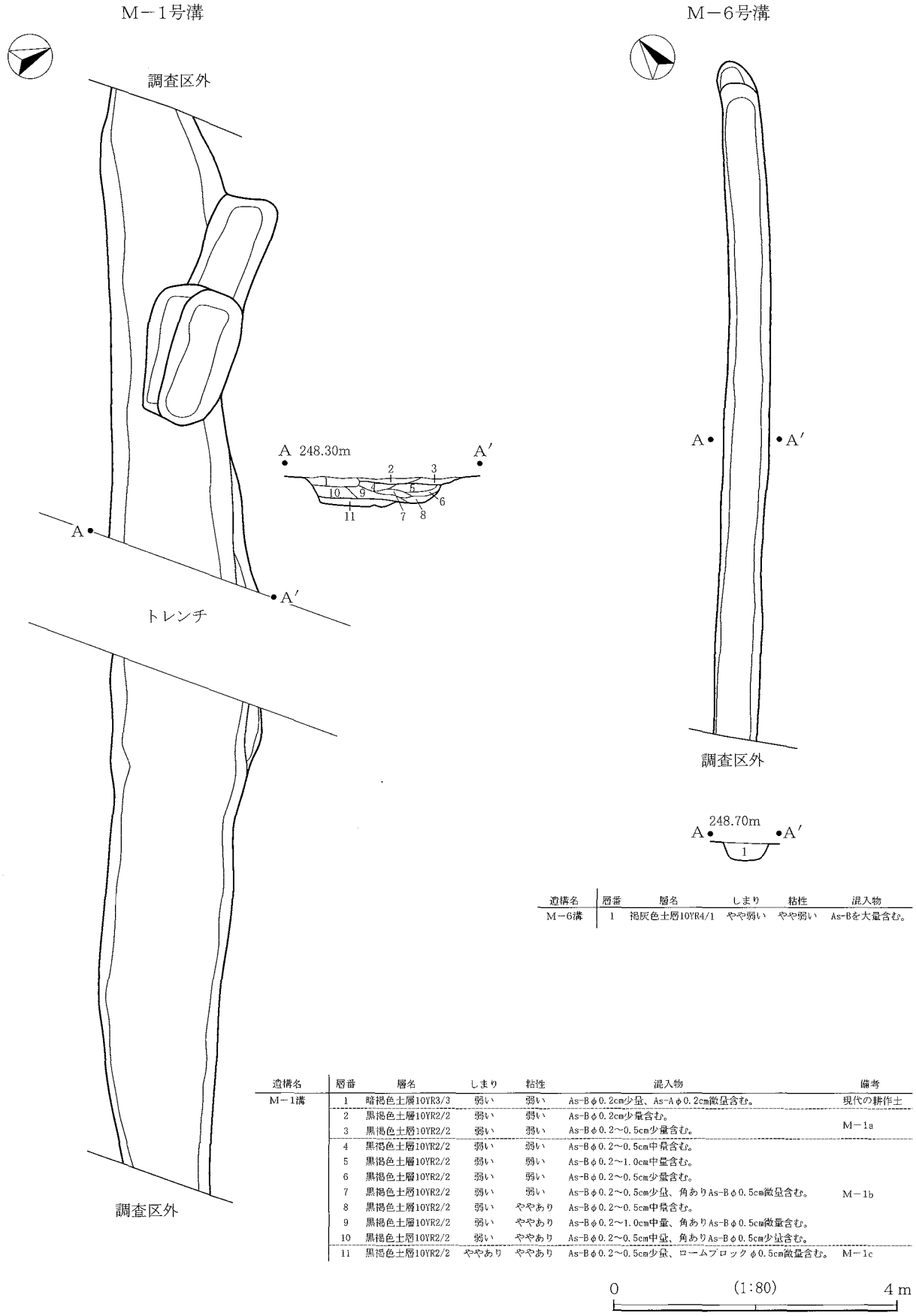
位置　C－2～3グリッド。　**形態**　北西－南東方向へ直線的に走向する。断面形は浅い箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ2.43m、上端幅48～59㎝、下端幅36～50㎝、深さ11～15㎝。　**走向方位**　N－54°－W。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。**遺物**　なし。　**時期**　中世と想定される。

⑤M－5号溝（第62図、PL．14）

位置　A－3、B－3グリッド。　**形態**　北東－南西方向へ走向する。断面形は浅い箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ2.14m、上端幅60～63㎝、下端幅48～51㎝、深さ12～14㎝。　**走向方位**　N－46°－E。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	須恵器坏	東側	口径　－ 底径（7.3） 器高〈1.1〉	①酸化焔　②橙色　③白色粒、褐色粒　④底部破片	外面　ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面　ロクロナデ。 外底面に墨書、判読不明。
番号	器種	出土位置	①法量（cm．g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
2	薦編石	西側	①長さ14.35、幅5.61、厚さ5.20、重量585.99　②砂岩　③完形　④－　⑤写真のみ		

第33表　M－1号溝出土遺物観察表

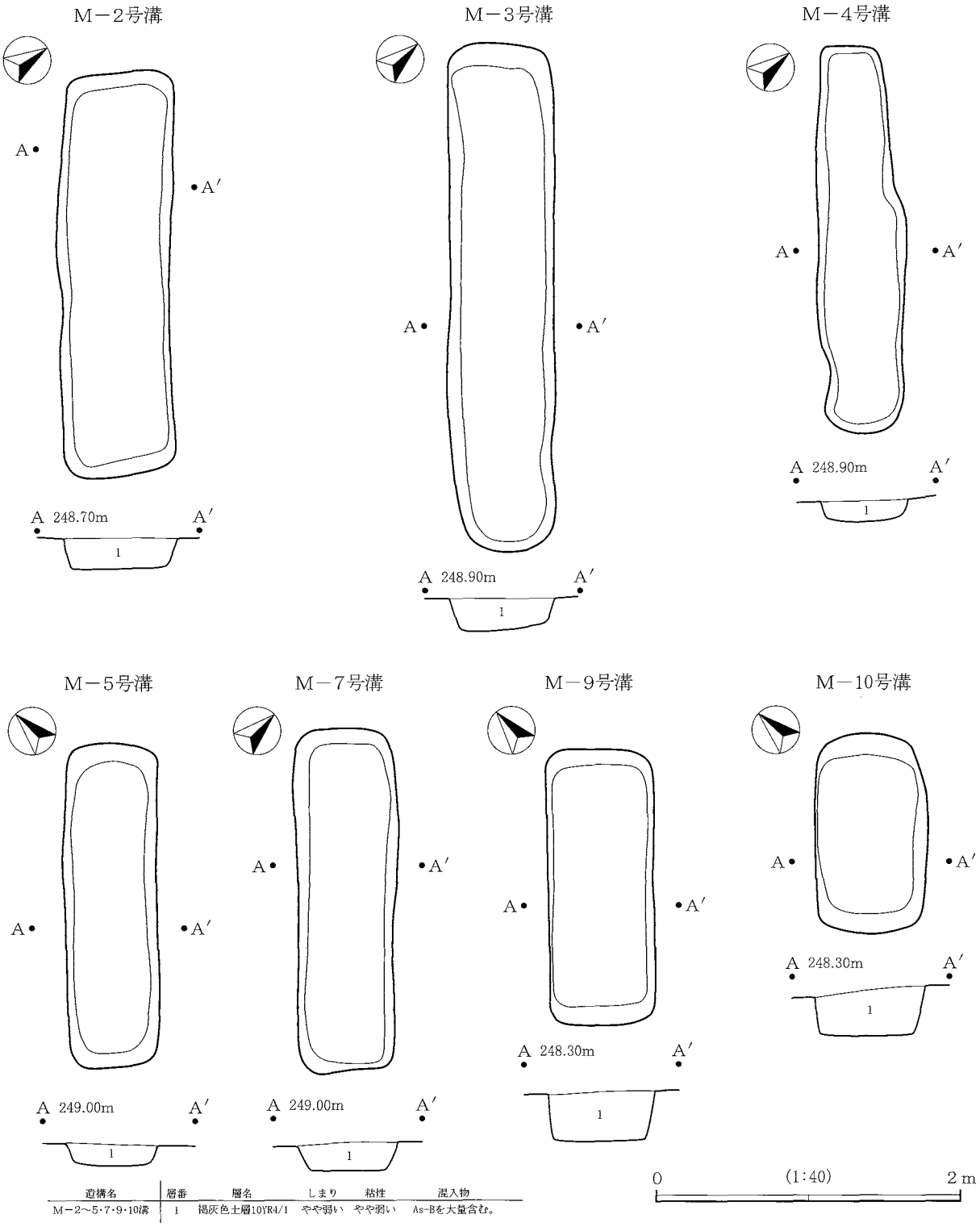


遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
M－6溝	1	褐灰色土層10YR4/1	やや弱い	やや弱い	As-Bを大量含む。

遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物	備考
M－1溝	1	暗褐色土層10YR3/3	弱い	弱い	As-Bφ0.2cm少量、As-Aφ0.2cm微量含む。	現代の耕作土
	2	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bφ0.2cm少量含む。	M－1a
	3	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bφ0.2～0.5cm少量含む。	
	4	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bφ0.2～0.5cm中量含む。	
	5	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bφ0.2～1.0cm中量含む。	
	6	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bφ0.2～0.5cm少量含む。	
	7	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bφ0.2～0.5cm少量、角ありAs-Bφ0.5cm微量含む。	M－1b
	8	黒褐色土層10YR2/2	弱い	ややあり	As-Bφ0.2～0.5cm中量含む。	
	9	黒褐色土層10YR2/2	弱い	ややあり	As-Bφ0.2～1.0cm中量、角ありAs-Bφ0.5cm微量含む。	
	10	黒褐色土層10YR2/2	弱い	ややあり	As-Bφ0.2～0.5cm中量、角ありAs-Bφ0.5cm少量含む。	
	11	黒褐色土層10YR2/2	ややあり	ややあり	As-Bφ0.2～0.5cm少量、ロームブロックφ0.5cm微量含む。	M－1c

0 (1:80) 4m

第61図　M－1・6号溝



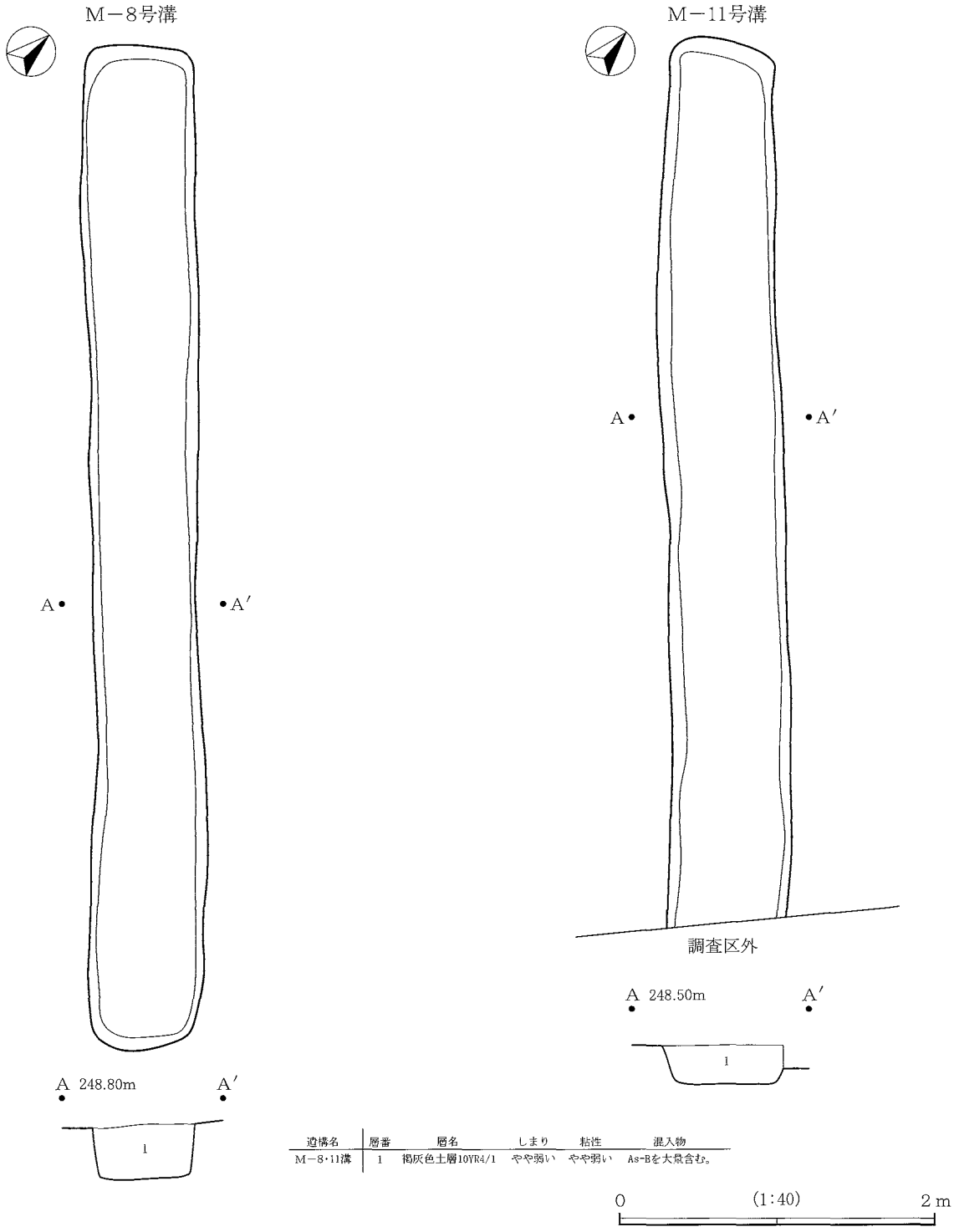
遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
M－2～5・7・9・10溝	1	褐灰色土層10YR4/1	やや弱い	やや弱い	As-Bを大量含む。

第62図　M－2～5・7・9・10号溝

測される。　**遺物**　土師器甕の破片が微量出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑥M－6号溝（第61図、ＰＬ．14）

位置　H－1、I－1～2、J－1～2、K－1～2グリッド。　**重複**　H－16・20号住居址と重複し、本遺



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
M－8・11溝	1	褐灰色土層10YR4/1	やや弱い	やや弱い	As-Bを大量含む。

第63図　M－8・11号溝

構が新しい。　**形態**　北東－南西方向へ直線的に走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ4.76 m、上端幅53～67 cm、下端幅38～48 cm、深さ25～32 cm。　**走向方位**　N -41°　－E。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕の破片が微量出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑦M－7号溝（第62図、ＰＬ．15）

位置　Ｃ－2グリッド。　**重複**　Ｈ－7号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　北西－南東方向へ走向する。断面形は浅い箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ2.15ｍ、上端幅63～69㎝、下端幅50～54㎝、深さ12～19㎝。　**走向方位**　Ｎ－46°－Ｗ。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏の破片が微量出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑧M－8号溝（第63図、ＰＬ．15）

位置　Ｆ－1～2グリッド。　**重複**　Ｈ－9a号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　北西－南東方向へ直線的に走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ6.38ｍ、上端幅66～75㎝、下端幅56～63㎝、深さ32～38㎝。　**走向方位**　Ｎ－49°－Ｗ。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器、縄文土器の破片が少量出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑨M－9号溝（第62図、ＰＬ．15）

位置　Ｂ－2グリッド。　**重複**　Ｈ－7号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　北東－南西方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ1.82ｍ、上端幅70～72㎝、下端幅61～62㎝、深さ31～36㎝。　**走向方位**　Ｎ－43°－Ｅ。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏、縄文土器の破片が微量出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑩M－10号溝（第62図、ＰＬ．15）

位置　Ａ－1グリッド。　**形態**　北東－南西方向へ走向する。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ1.32ｍ、上端幅72～75㎝、下端幅58～66㎝、深さ25～27㎝。　**走向方位**　Ｎ－47°－Ｅ。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　土師器甕、須恵器甕、灰釉陶器、縄文土器の破片が微量出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑪M－11号溝（第63図）

位置　Ｆ－3～4グリッド。　**重複**　Ｈ－11号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　北西－南東方向へ直線的に走向し、南東側は調査区外となる。断面形は箱状を呈する。底面は概ね水平で、やや凹凸がみられる。　**規模**　長さ5.60ｍ以上、上端幅67～76㎝、下端幅53～65㎝、深さ21～29㎝。　**走向方位**　Ｎ－42°－Ｗ。　**覆土**　As-Bを大量に含む褐灰色土で、人為堆積と推測される。　**遺物**　なし。　**時期**　中世と想定される。

（2）土坑

①D－1号土坑（第64図、PL．13）

位置　Ｈ－3グリッド。　**重複**　Ｈ－4号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　平面は円形、断面は浅い箱状を呈する。　**規模**　長軸0.86ｍ×短軸0.81ｍ×深さ0.22ｍ。　**覆土**　As-Bを含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕、灰釉陶器、縄文土器の破片が少量出土した。　**時期**　中世と想定される。

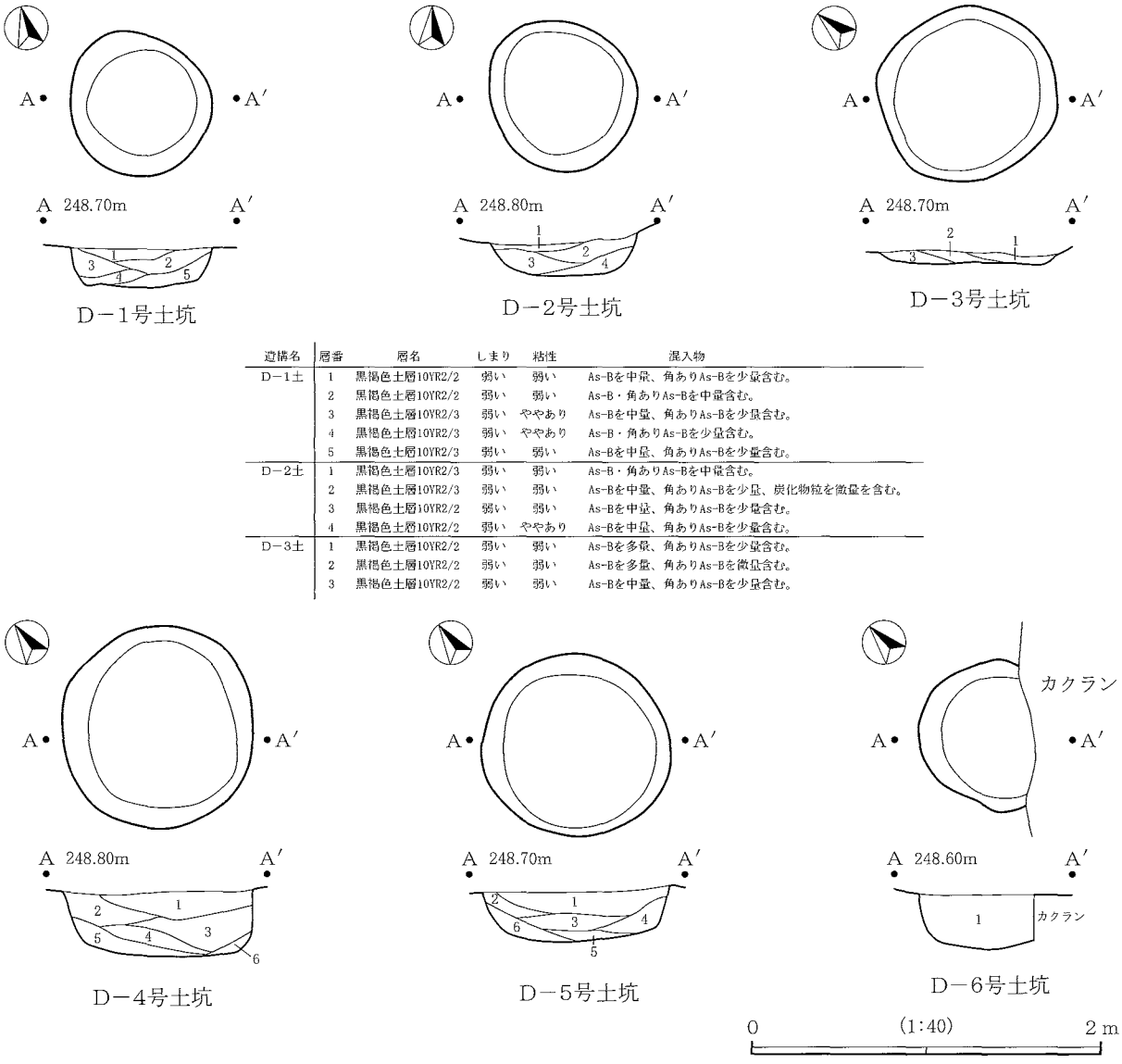
②D－2号土坑（第64図、ＰＬ．13）

位置　Ｈ－1グリッド。　**形態**　平面は円形、断面は浅い箱状を呈する。　**規模**　長軸0.89ｍ×短軸

0.84 m×深さ 0.18 m。　**覆土**　As-B を含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。　**遺物**　土師器甕、須恵器坏・甕の破片がわずかに出土した。　**時期**　中世と想定される。

③D－３号土坑（第 64 図、ＰＬ．13）

位置　J－3グリッド。　**重複**　H－17 号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　平面は円形、断面は皿状を呈する。　**規模**　長軸 1.04 m×短軸 1.01 m×深さ 0.08 m。　**覆土**　As-B を含む黒褐色土



遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
D－1土	1	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
	2	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-B・角ありAs-Bを中量含む。
	3	黒褐色土層10YR2/3	弱い	ややあり	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
	4	黒褐色土層10YR2/3	弱い	ややあり	As-B・角ありAs-Bを少量含む。
	5	黒褐色土層10YR2/3	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
D－2土	1	黒褐色土層10YR2/3	弱い	弱い	As-B・角ありAs-Bを中量含む。
	2	黒褐色土層10YR2/3	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量、炭化物粒を微量を含む。
	3	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
	4	黒褐色土層10YR2/2	弱い	ややあり	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
D－3土	1	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを多量、角ありAs-Bを少量含む。
	2	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを多量、角ありAs-Bを微量含む。
	3	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。

遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物
D－4土	1	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
	2	黒褐色土層10YR2/2	弱い	ややあり	As-B・角ありAs-Bを少量含む。
	3	黒褐色土層10YR2/3	弱い	弱い	角ありAs-Bを多量、As-Bを中量含む。
	4	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
	5	黒褐色土層10YR2/2	ややあり	ややあり	As-Bを少量含む。
	6	黒褐色土層10YR2/2	ややあり	ややあり	As-Bを少量含む。
D－5土	1	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
	2	黒褐色土層10YR2/2	弱い	ややあり	As-B・角ありAs-Bを少量含む。
	3	黒色土層10YR2/1	ややあり	ややあり	As-Bを少量含む。
	4	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-B・角ありAs-Bを中量含む。
	5	黒褐色土層10YR2/2	弱い	ややあり	As-Bを中量、角ありAs-Bを微量含む。
	6	黒褐色土層10YR2/2	弱い	弱い	As-Bを中量、角ありAs-Bを少量含む。
D－6土	1	褐灰色土10YR4/1	やや弱い	やや弱い	As-Bを大量含む。

第 64 図　D－1～6号土坑

で、自然堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕・羽釜が少量出土した。　**時期**　中世と想定される。

④D－４号土坑（第64図、ＰＬ．13）

位置　Ｈ－1グリッド。　**重複**　Ｈ-12号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　平面は円形、断面は箱状を呈する。　**規模**　長軸1.16ｍ×短軸1.10ｍ×深さ0.37ｍ。　**覆土**　As-Bを含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。　**遺物**　土師器甕、須恵器坏・甕・羽釜、灰釉陶器の破片がわずかに出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑤D－５号土坑（第64図、ＰＬ．13）

位置　Ｆ－3～4グリッド。　**重複**　Ｈ-11号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　平面は円形、断面は箱状を呈する。　**規模**　長軸10.8ｍ×短軸1.04ｍ×深さ0.29ｍ。　**覆土**　As-Bを含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕の破片がわずかに出土した。　**時期**　中世と想定される。

⑥D－６号土坑（第64図、ＰＬ．13）

位置　Ｉ－2グリッド。　**重複**　東側を攪乱に壊される。Ｈ-15号住居址と重複し、本遺構が新しい。　**形態**　平面は円形と推測され、断面は箱状を呈する。　**規模**　長軸0.88ｍ×短軸0.67ｍ以上×深さ0.30ｍ。　**覆土**　As-Bを含む黒褐色土で、自然堆積と推測される。　**遺物**　土師器坏・甕、須恵器坏・甕の破片がわずかに出土した。　**時期**　中世と想定される。

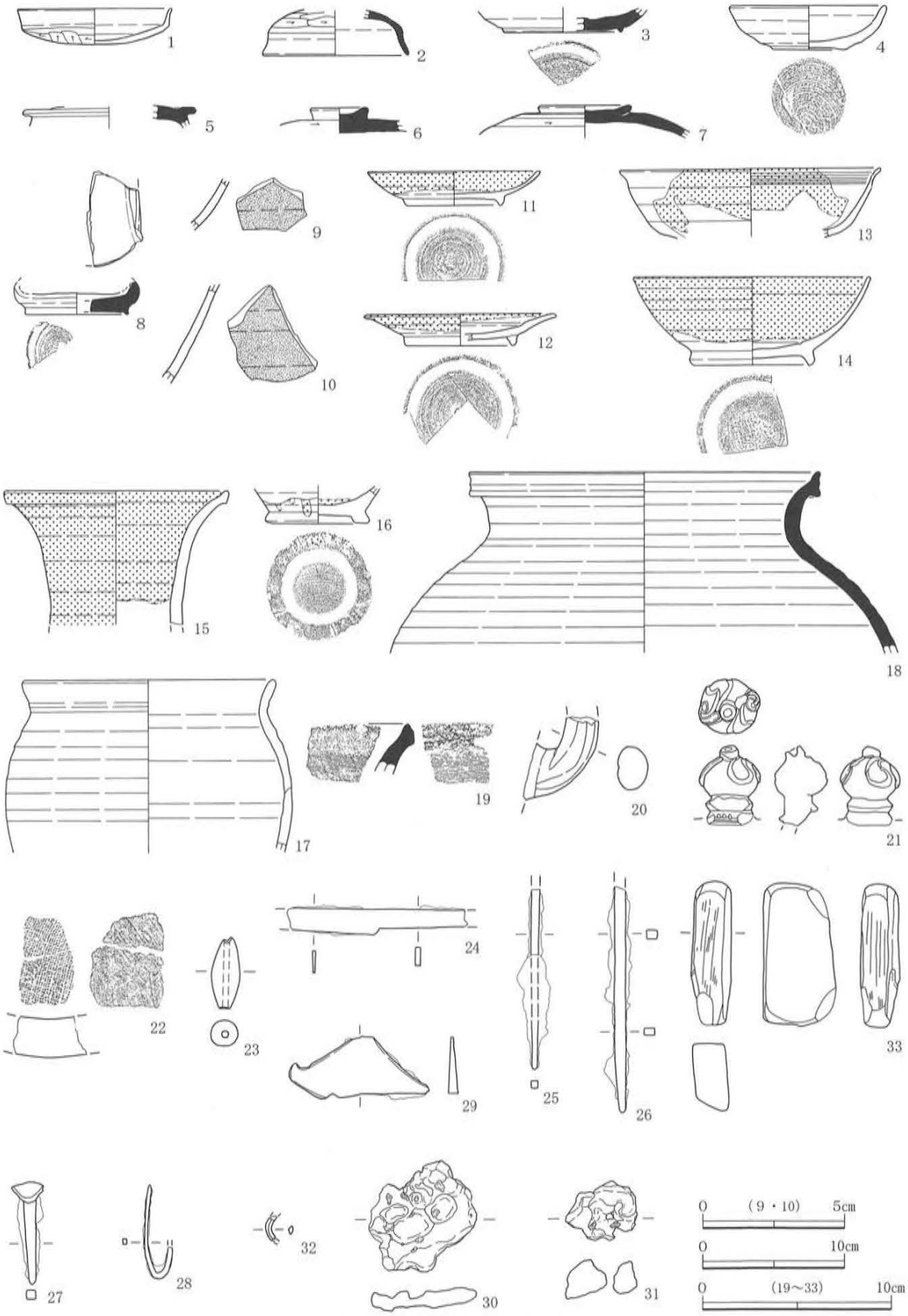
第５節　遺構外出土遺物　（第65図、第34・35表、ＰＬ．26）

グリッド出土遺物を主体とし、その他に表土・攪乱出土の遺物および、遺構出土のうち明らかに紛れ込みである遺物を対象とした。縄文時代の遺物として21の深鉢の突起が認められた。後期中葉の加曽利Ｂ式期に比定される。弥生時代の遺物は本調査区内では確認できなかった。

古墳時代は土師器の坏・甕・壺・甑、須恵器の坏・蓋・甕・壺などが認められた。時期は大半が竪穴住居址と同じ後期である。１の土師器坏、２の須恵器蓋は７世紀後半に比定される。20は土師器甑の把手部分である。

奈良時代の遺物には３・５・６・７がある。これらは７世紀末～８世紀の上野地域に特徴的な形態の須恵器である。３は削り出し高台の坏で、７世紀末～８世紀初頭にかけて限定的な技法である。５は上野型有蓋短頸壺蓋で、天井端部に凸帯および鍔を有する形態である。８世紀第１四半期に祖形が現れ、第２四半期にかけて完成されたと想定されている。６・７は環状摘みを有する坏蓋で、７世紀末に出現し、８世紀には広域に供給されている。

平安時代は土師器坏・甕、須恵器皿・坏・碗・蓋・甕・壺・羽釜、ロクロ甕、灰釉陶器皿・碗・壺、緑釉陶器碗などが認められた。この時期の出土量が最も多い。特に、竪穴住居址が密集するＩ・Ｊ・Ｋグリッドに10世紀代の遺物が集中している。４は須恵器坏で10世紀後半に比定される。８は須恵器耳皿である。９・10は緑釉陶器碗の体部破片である。11～16は灰釉陶器である。11の皿と13の碗は大原２号窯式期、12の段皿と14の碗は虎渓山１号窯式期に比定される。土器以外では、瓦、土錘、砥石、銅製品、鉄製品、鉄滓などが認められた。22は平瓦で、凹面に布目圧痕がみられる。



第65図　遺構外出土遺物

番号	器種	出土位置	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴
1	土師器 坏	H-4 住 3・4 区	口径 (11.0) 底径 － 器高 2.5	①普通 ②橙色 ③角閃石、白色粒 ④1/3	外面 ロ縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面 ロ縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラケズリ。
2	須恵器 蓋	G3 グリッド 2 面	口径 (10.5) 底径 － 器高 〈3.2〉	①還元焔（やや軟質） ②灰白色 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/4	外面 ロクロナデ。天井部手持ちヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。
3	須恵器 高台付坏	H-4 住 4 区	口径 － 底径 (8.4) 器高 〈1.7〉	①還元焔 ②灰色 ③黒色粒 ④体部下位～高台部 1/4	外面 ロクロナデ。底面ナデ。高台削り出し。 内面 ロクロナデ。
4	須恵器 坏	I4 グリッド 2・3 面	口径 11.2 底径 5.2 器高 3.1	①酸化焔気味 ②灰黄色 ③白色粒 ④口縁部 1/3 欠損	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。 内面 ロクロナデ。
5	須恵器 有蓋 短頸壺蓋	K2 グリッド 2 面	口径 － 底径 － 器高 〈1.6〉	①酸化焔気味 ②灰黄色 ③白色粒 ④天井部 1/5	外面 ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。天井部端部に鍔貼付。 内面 ロクロナデ。 天井部径 (12.3) cm。
6	須恵器 蓋	深トレンチ	口径 － 底径 － 器高 〈1.8〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒 ④摘み部～天井部	外面 ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。環状摘み貼付。 内面 ロクロナデ。 摘み径 4.1 cm。
7	須恵器 蓋	F1 グリッド 2 面	口径 － 底径 － 器高	①酸化焔 ②にぶい褐色 ③白色粒、黒色粒 ④摘み部～天井部 1/4	外面 ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。環状摘み貼付。 内面 ロクロナデ。 摘み径 (6.6) cm。
8	須恵器 耳皿	H2 グリッド 2 面	口径 － 底径 (7.3) 器高 〈2.3〉	①還元焔 ②灰白色 ③黒色粒 ④1/3	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台削り出し。 内面 ロクロナデ。
9	緑釉陶器 碗	J2 グリッド 2 面	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：緑色 ③－ ④体部破片	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に緑釉。
10	緑釉陶器 碗	J2 グリッド 2 面	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：緑色 ③－ ④体部破片	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に緑釉。
11	灰釉陶器 皿	J4 グリッド 3 面	口径 (12.2) 底径 6.8 器高 2.4	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④2/3	外面 ロクロナデ。底面回転糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
12	灰釉陶器 段皿	E3 グリッド 3 面、試掘 2 トレンチ	口径 (13.6) 底径 (7.6) 器高 2.2	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④2/3	外面 ロクロナデ。底面回転ヘラケズリ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉漬け掛け。
13	灰釉陶器 碗	I3 グリッド 2 面	口径 (18.6) 底径 － 器高 〈4.8〉	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：明灰オリーブ色 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/5	外面 ロクロナデ。体部下位に回転ヘラケズリ。 内面 ロクロナデ。口縁部に横位沈線 3 条。 内外面に灰釉漬け掛け。
14	灰釉陶器 碗	J1 グリッド 3 面	口径 (16.8) 底径 (8.2) 器高 6.2	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰白色 ③白色粒 ④1/4	外面 ロクロナデ。底面ナデ。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。見込みに横位沈線 1 条。 内外面に灰釉漬け掛け、釉薬は薄い。
15	灰釉陶器 壺	E1 グリッド 3 面、F3 グリッド 2 面	口径 (16.0) 底径 － 器高 〈9.4〉	①還元焔 ②胎土：灰白色、釉薬：灰オリーブ色 ③黒色粒 ④口縁部～頸部 1/3	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。 内外面に灰釉。
16	灰釉陶器 壺	J1 グリッド 2 面	口径 － 底径 7.4 器高 〈2.6〉	①還元焔 ②胎土：灰色、釉薬：灰オリーブ色 ③白色粒 ④胴部下端～高台部	外面 ロクロナデ。底面静止糸切り。高台貼付時に周縁回転ナデ。 内面 ロクロナデ。 内底面および外面に灰釉。
17	ロクロ甕	I2 グリッド 3	口径 (18.0) 底径 － 器高 〈12.2〉	①酸化焔 ②浅黄橙色 ③白色粒、褐色粒 ④口縁部～胴部上半 1/4	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
18	須恵器 甕	J2 グリッド 2 面、K2 グリッド 2 面	口径 (24.9) 底径 － 器高 〈12.7〉	①還元焔 ②灰色 ③白色粒、黒色粒 ④口縁部～胴部上位 1/3	外面 ロクロナデ。 内面 ロクロナデ。
19	須恵器 甕	H-4 住	口径 － 底径 － 器高 －	①還元焔 ②灰黄色 ③石英、小礫 ④口縁部破片	外面 ロクロナデ。9 条 1 単位の櫛歯状工具による波状文を 2 段以上。 内面 ロクロナデ。9 条 1 単位の櫛歯状工具による波状文を 1 段。
20	土師器 甑	G3 グリッド 2 面	口径 － 底径 － 器高 －	①良好 ②にぶい黄橙色 ③角閃石、白色粒 ④把手部	外面 ナデ。
21	縄文土器 深鉢	H-14 住	口径 － 底径 － 器高 －	①良好 ②浅黄色 ③角閃石、白色粒 ④突起部	算盤玉状の突起。低い隆帯と沈線の組み合わせにより文様を施す。頭頂部に低い円筒状の貼付文あり、中央に穴があく。加曽利Ｂ式。
番号	器種	出土位置	①法量（cm，g） ②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考		
22	平瓦	F3 グリッド 2 面	①厚さ 2.1 ②土製、焼成：酸化焔気味、色調：褐灰色、胎土：白色粒、砂粒 ③破片 ④凹面：布目圧痕、凸面：ヘラナデ。		
23	土錘	J2 グリッド 2 面	①長さ 3.8、幅 1.5、厚さ 1.4、重量 7.32 ②焼成：良好、色調：浅黄色、胎土：黒色粒 ③完形 ④ナデ。		
24	鉄製品 刀子	E3 グリッド 2 面	①長さ 〈9.7〉、刀身幅 1.2、刀身厚 0.2、茎幅、茎厚 0.3、重量 12.01 ②鉄製 ③両端部欠損 ④－		

第 34 表　遺構外出土遺物観察表（1）

番号	器種	出土位置	①法量（cm，g）②材質 ③残存 ④成・整形技法の特徴 ⑤備考
25	鉄製品 鉄鏃	C1 グリッド２面	①長さ〈9.6〉、幅 4.0、厚さ 4.5、重量 12.93 ②鉄製 ③茎部のみ ④断面方形
26	鉄製品 鉄鏃	I2 グリッドNo.1	①長さ〈12.0〉、幅 0.6、厚さ 0.5、重量 15.49 ②鉄製 ③茎部のみ ④断面方形
27	鉄製品 釘	K2 グリッド２面	①長さ 5.5、幅 5.0、厚さ 5.0、重量 9.44 ②鉄製 ③ほぼ完形 ④断面方形
28	鉄製品 不明	調査区一括	①長さ 5.1、幅 0.2、厚さ 0.2、重量 3.35 ②鉄製 ③端部欠損 ④断面方形、Ｊ字状を呈する
29	鉄製品 火打金	J2 グリッド２面No.1	①長さ 3.2、幅 7.5、厚さ 0.5、重量 32.69 ②鉄製 ③ほぼ完形 ④－
30	鉄滓	K1 グリッド３面	①長さ 5.9、幅 5.8、厚さ 1.3、重量 36.69 ②鉄製 ③一部欠損 ④流動滓
31	鉄滓	K2 グリッドNo.6	①長さ 3.2、幅 3.9、厚さ 2.1、重量 30.39 ②鉄製 ③完形 ④木炭痕あり
32	銅製品 不明	H3 グリッド３面	①長さ〈1.3〉、幅 0.6、厚さ 0.3、重量 0.432 ②銅製 ③両端部欠損 ④弧状を呈する
33	砥石	J2 グリッド２面	①長さ 7.7、幅 2.1、厚さ 2.0、重量 107.40 ②粘板岩 ③一部欠損 ④長側面２面を砥面、短側面２面を磨面として使用。４面とも非常に平滑。

第 35 表　遺構外出土遺物観察表（2）

第６章　成果と問題点

（１）古墳時代の土器ついて（第 66 図）

国衙中割遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居址が７棟検出された。資料は少ないが、土師器坏・甕を基準に分類し、概ね以下のⅠ～Ⅳ期に分けて記述したい。

Ⅰ期　Ｈ－７号住居址の１棟が該当する。土師器坏・甕・壺、須恵器甕が出土している。坏は内面の調整からＡ：放射状のミガキが施されるもの（１～３）、Ｂ：ミガキが多用されるもの（４～６）に大別される。Ａは平底気味の底部から内彎する形態（１）と、丸底で体部が浅く、口縁部との境に稜をもつ形態（２・３）がある。２は口縁部が内彎気味に開き、３は外反する。Ｂは丸底で、体部と口縁部の境に稜をもち、口縁部が外反する形態である。４は口唇部に平坦面をもつ。内外面とも口縁部に横方向のミガキが施され、内面には黒色処理が施される。胎土は精緻で焼成も良好である。５・６は内面調整に口縁部横方向のミガキ、体部～底部放射状のミガキが施される。６は口縁部が長く、底部中央が尖り気味である。

甕は口縁部が「く」の字状に外反する。頸部から胴部上位への屈曲度合から、胴部中位にわずかな膨らみをもつ長胴甕と考えられる。壺は口縁部中位に弱い段を有する。

Ⅱ期　Ｈ－9a 号住居址の１棟が該当する。土師器坏・高坏・小形壺・甕・壺、須恵器坏身が出土している。坏はⅠ期のＢ系統（３・４・６）と、須恵器模倣坏の範疇で捉えられるもの（２・５）がみられる。Ｂ系統はⅠ期に比べ器高が低くなる。３・４は内面に黒色処理が施される。３は体部が扁平で、口縁部との境に明瞭な稜をもたない。口縁部は外反した後、上位でやや内彎する。６はＨ－７住6と同系譜と考えられ、外面口縁部にも斜方向のミガキが施される。模倣坏は丸底で、体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部形態は２が直立後に上位でやや外反し、５が内彎気味に開く。５は内外面に黒色処理が施される。高坏は短脚と長脚がある。９は坏Ｂ系統と同じく、内底面ミガキで黒色処理が施される。

甕は胴部に膨らみをもたない長胴甕と、胴部が大きく張る胴張甕がある。底部は両者とも平底を呈する。長胴甕は口縁部が「く」の字状に外反し、最大径を胴部中位にもつ。外面調整は縦方向のヘラケズリである。須恵器の坏身は受部が上方へのび、たちあがりは内傾する。TK10 型式と推定される。

Ⅲ期　H－10・13・20号住居址の３棟が該当するが、H－20号住居址は出土遺物が土師器の小形甕のみで、この期に積極的に入れる根拠は弱い。土師器坏・鉢・小形甕・甕・甑、須恵器坏蓋が出土している。坏はⅡ期同様、須恵器模倣坏の範疇で捉えられるもので、坏身模倣（H－13住3）や有段口縁坏（H－13住4）がみられる。内外面に黒色処理を施すものが多い。鉢は大形で、模倣坏の形態と連動する。

甕は平底の長胴甕である。口縁部が「く」の字状に外反し、最大径をⅡ期同様、胴部中位にもつ。胴部の外面調整は縦方向のヘラケズリである。大形甑は底部が筒抜け状を呈し、胴部はわずかに膨らみをもつ。須恵器坏蓋は扁平な天井部から口縁部が外傾する形態である。外面天井部に手持ちヘラケズリが施される。

Ⅳ期　H－8・9b号住居址の２棟が該当する。土師器は坏・鉢・小形甕・甕が出土し、須恵器は坏身・坏蓋・鉢・高坏・瓶・提瓶・平瓶・長頸壺・甕など、多様な器種がみられる。坏については、模倣坏の口径が11～12㎝前後、器高が３～４㎝前後になり、全体的に小型化する。また新たに、底部から口辺部にかけて内彎する丸底の坏が出現する。口縁部の形態は、(a) 短く「く」の字状に内屈するもの、(b) 短く内彎するもの、(c) 短く直立するものがある。法量にも差が生じ、口径が① 10㎝前後（小）、② 11～13㎝（中）、③ 13～15㎝（大）、④ 15㎝以上に分化する。なお、H－8住22は内面ミガキ調整で、黒色処理が施されるものである。

甕は長胴甕と胴張甕がある。長胴甕はⅢ期に比べて、口縁部が長く屈曲も強い。最大径を口縁部にもつようになる。底部は平底が主流だが、H－8住61のような丸底も見られる。胴部の外面調整は縦方向のヘラケズリが施される。

須恵器坏蓋は、A：口縁部が外傾し摘みをもたないもの、B：口縁部に返り、天井部に摘みをもつものの２種類がある。Aは天井部が丸みをもつものと、扁平なものがみられる。法量は口径が① 10㎝以下、② 10～12㎝、③ 12㎝以上となる。Bは小形のみで、口径は10㎝前後である。摘みは欠損しているが擬宝珠形と考えられる。須恵器坏身は丸底で受部をもつものと、平底で口縁部にかけて内彎気味に立ち上がるものがある。受部をもつ坏は、口径10～11㎝前後の小形と、口径15～16㎝前後の大形がある。H－8住37は器厚が薄く、焼成が堅緻である。

実年代について　明確な実年代を求めることは難しいが、須恵器の年代観や、土師器坏・甕に対する先学の研究成果を援用すると、Ⅰ期に６世紀初頭、Ⅱ期に６世紀中頃、Ⅲ期に６世紀後半、Ⅳ期に７世紀第３四半期の年代観が与えられよう。

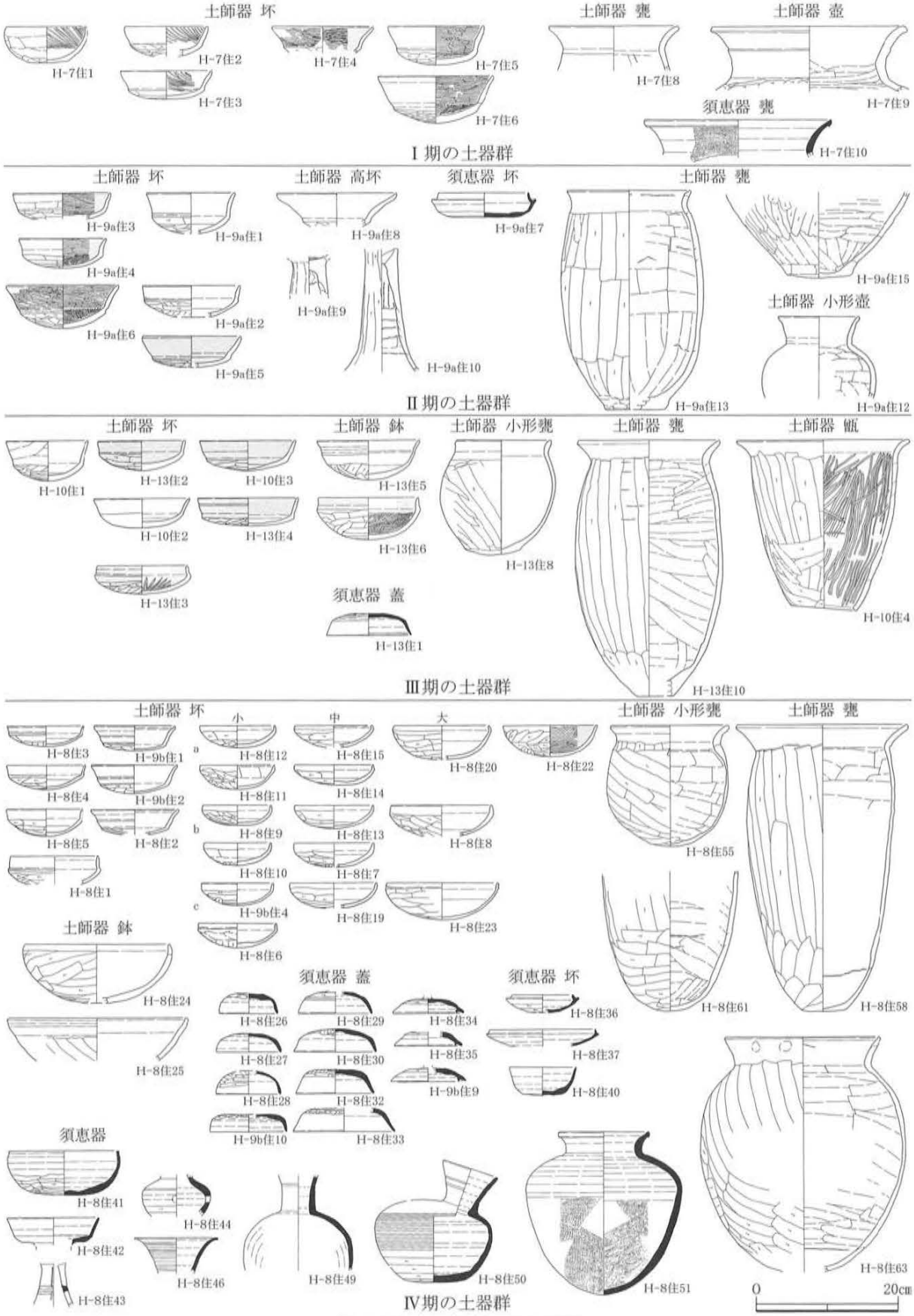
（２）古代の土器について（第68図）

平安時代は14棟の竪穴住居址が検出された。須恵器坏・碗、土師器甕を基準に分類し、概ね以下のⅤ～Ⅶ期に分けて記述したい。

Ⅴ期　H－12号住居址の１棟が該当する。須恵器高台付皿・坏・碗、土師器甕が出土している。須恵器は還元焔焼成で、灰色を呈す堅緻なものが主体である。須恵器坏は平底で、体部が直線的に開く形態である。底径は口径の1/2よりやや大きい。外底面の調整は回転糸切り未調整である。須恵器碗は体部に丸みをもって立ち上がり、口縁部が外反する。身が深く、高台は断面三角形を呈する。

土師器甕は「コ」の字状口縁甕で、口縁部の屈曲は明瞭である。胎土は精選され、器厚は薄い。胴部外面は上位に横方向のヘラケズリが施される。

Ⅵ期　H－21号住居址の１棟が該当する。須恵器高台付皿・坏・羽釜・甑、灰釉陶器碗、土師器甕が



第66図　古墳時代の土器群

出土している。須恵器は皿・坏が還元焔焼成が主体で、甑・羽釜は酸化焔焼成が主体である。須恵器坏は平底で、体部に丸みをもって立ち上がり、口縁部が外反する。底径は口径の 1/2 より大きいか同程度である。外底面の調整は回転糸切り未調整である。灰釉陶器碗は、高台の稜がやや不明瞭な三日月状を呈し、釉薬は刷毛塗りである。大原２号窯式期に比定される。

土師器甕は「コ」の字状口縁甕だが、Ｖ期より口縁部の屈曲が弱く、器厚が厚い。

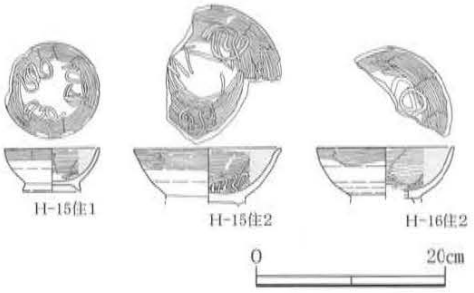
Ⅶ期　Ｈ－１～5･11･14 ～ 19 号住居址の 12 棟が検出された。須恵器坏･碗･甕･羽釜･甑、灰釉陶器皿･碗、緑釉陶器碗、ロクロ甕などが出土している。須恵器坏・碗の形態や胎土などから前半・後半に細別できるものもあり、前半にはＨ－３・11・14・18・19 号住居址、後半にはＨ－２・4号住居址が該当する。

Ⅶ期前半については、須恵器は酸化焔焼成が主体となる。坏は平底で、体部から口縁部にかけて外反するもの、内彎気味に開くもの、内彎して立ち上がり上位で強く外反するものがみられる。底径は口径の 1/2 より小さい。外底面の調整は回転糸切り未調整である。法量は口径 11 ～ 14 cm前後、器高４～５cm前後で、全体的には小振りのものが多い。碗は高台の作りが粗雑になり、歪んで潰れたものが多い。体部は直線的に開くものと、内彎気味に立ち上がるものがあり、口縁部は端部で外反する。これらの須恵器坏・碗をＡ系統とすると、当該期には従来の須恵器と異なる胎土・作りのものが伴い、これをＢ系統とする。Ｂ系統の坏・碗は、胎土が密で丁寧な作りが特徴で、焼成は酸化焔である。坏は体部が内彎気味に立ち上がり、口縁端部で外反する形態が多い。底径は口径の 1/2 よりやや小さいか同程度である。外底面の調整は回転糸切り未調整である。法量は口径 12 ～ 14 cm前後、器高３～５cm前後であり、Ａ系統で確認された小振りの坏はみられない。碗は高台が正円に近く、丁寧に貼り付けられている。「ハ」の字状に開き、断面三角形を呈する。Ｈ－14 住４は高台が高く長い形態である。黒色土器も確認される。坏と碗があり、碗は内面に横方向のミガキが施される。Ｈ－3住 10 は横方向のミガキの後に放射状のミガキが施されている。また、内底面に螺旋状暗文が施文される一群も確認される（第 67 図）。

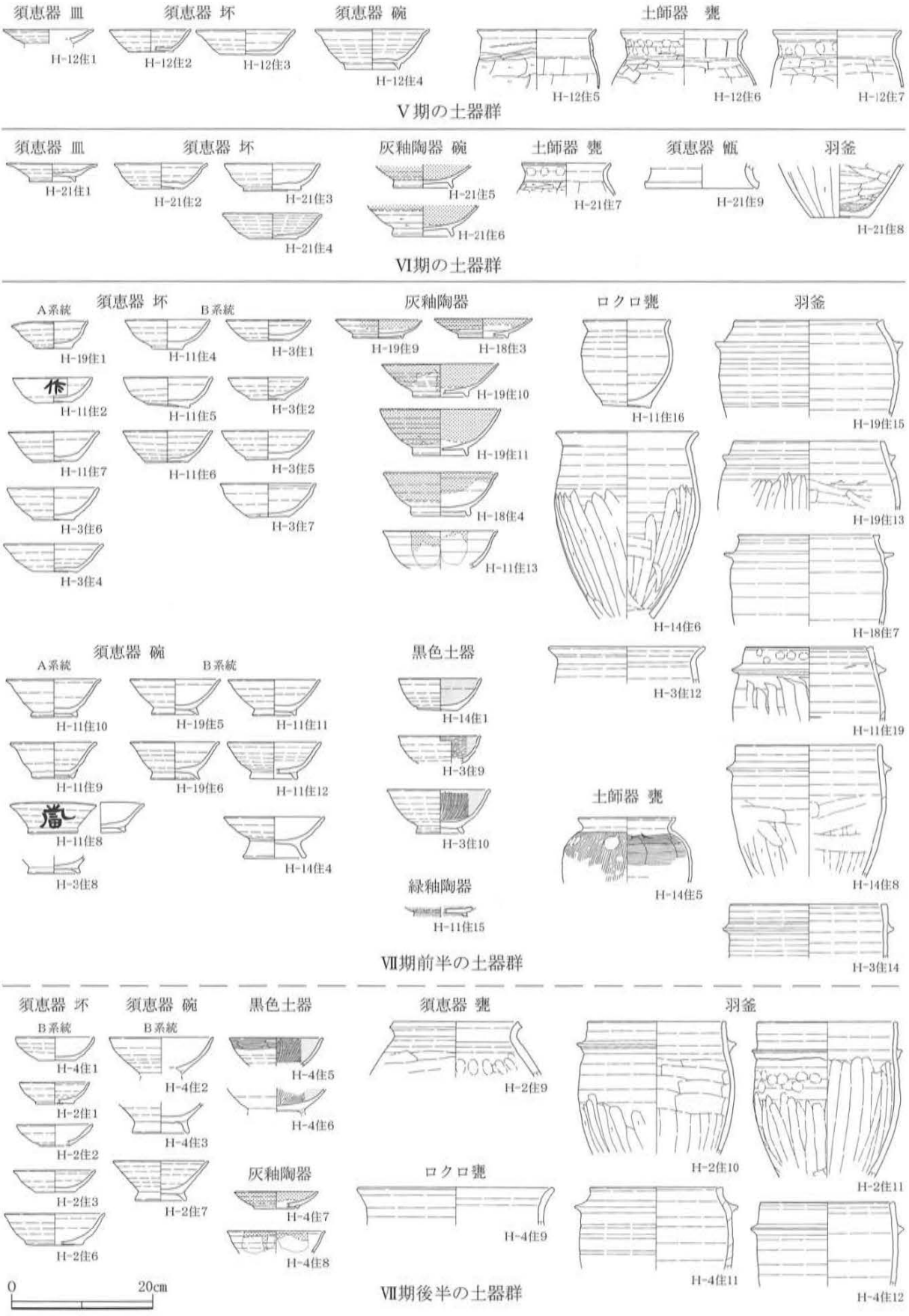
羽釜は、概ね２形態に大別することができる。（Ａ）胴部上位が張るもので、口縁部が内傾し、口唇部は肥厚する。（Ｂ）胴部が張らないもので、口縁部が直立またはやや内傾する。鍔はやや上向きか水平で、断面は三角形を呈する。外面調整はロクロ成形のみのものと、ロクロ後に縦方向のヘラケズリを施すものがある。ロクロ甕には小形と大形がある。小形はロクロ成形で、外底面の調整は回転糸切り未調整である。大形はロクロ成形後、胴部にヘラケズリを施すものがみられる。

灰釉陶器は皿と碗が確認され、釉薬は全て漬け掛けである。Ｈ－19 住９・10・11 は底部が水平でなく、やや下がり気味である。皿の高台は低く断面三角形を呈する。碗は口縁部の器厚がやや薄く、体部の腰に張りがない。Ｈ－19 住 11 の高台は稜がゆるやかである。Ｈ－18 住３の皿は口縁部が直線的に開き、高台は低く断面三角形を呈する。Ｈ－11 住 13・Ｈ－18 住4の碗は、体部の腰が張るもので、高台の稜は丸みをもち明瞭でない。Ｈ－11・18 号住居址は虎渓山１号窯式期に比定される。Ｈ－19 号住居址はＨ－18 号住居址よりやや古い様相を示す。

Ⅶ期後半については、須恵器坏･碗はＢ系統のみとなる。坏は口径 10 ～ 11 cm前後、器高３cm前後のものが多く、前半に比べて小型化する。碗は前半に比べ高台がやや高いものが認められる（Ｈ－4住３）。黒色土器碗は後半でも確認されている。羽釜は前半との顕著な差異は見い出せない。



第 67 図　螺旋状暗文の黒色土器


須恵器 皿
須恵器 坏
須恵器 碗
土師器 甕
H-12住1
H-12住2
H-12住3
H-12住4
H-12住5
H-12住6
H-12住7
V期の土器群
須恵器 皿
須恵器 坏
灰釉陶器 碗
土師器 甕
須恵器 甑
羽釜
H-21住1
H-21住2
H-21住3
H-21住4
H-21住5
H-21住6
H-21住7
H-21住9
H-21住8
VI期の土器群
須恵器 坏
A系統
B系統
灰釉陶器
ロクロ甕
羽釜
H-19住1
H-11住4
H-3住1
H-19住9
H-18住3
H-19住10
H-11住16
H-19住15
H-11住2
H-11住5
H-3住2
H-19住11
H-11住7
H-11住6
H-3住5
H-18住4
H-19住13
H-3住6
H-3住7
H-11住13
H-3住4
H-14住6
H-18住7
須恵器 碗
A系統
B系統
黒色土器
H-3住12
H-11住10
H-19住5
H-11住11
H-14住1
H-11住19
H-11住9
H-19住6
H-11住12
H-3住9
土師器 甕
H-11住8
H-3住10
H-14住4
H-14住5
H-14住8
H-3住8
緑釉陶器
H-11住15
H-3住14
VII期前半の土器群
須恵器 坏
須恵器 碗
黒色土器
須恵器 甕
羽釜
B系統
B系統
H-4住1
H-4住2
H-4住5
H-2住9
H-2住1
H-4住6
H-4住3
H-2住10
H-2住11
H-2住2
H-2住3
H-2住7
灰釉陶器
ロクロ甕
H-4住7
H-4住9
H-2住6
H-4住8
H-4住11
H-4住12
0
20cm
VII期後半の土器群

第68図　古代の土器群

灰釉陶器は皿と碗が確認され、釉薬は漬け掛けである。皿は高台が低く、断面三角形を呈する。碗は口縁部が外反する。虎渓山１号窯式期の新段階に比定される。

実年代について　灰釉陶器の年代観や先学の研究成果を援用すると、Ⅴ期に９世紀第３四半期、Ⅵ期に９世紀末葉～10世紀初頭、Ⅶ期は10世紀後半（Ⅶ期前半：10世紀第３四半期、Ⅶ期後半：10世紀第４四半期）の年代観が与えられよう。

Ｈ-14号住居址5の土師器甕について　Ⅶ期前半に相当する住居址のカマド内から出土した甕である。球胴形を呈し、口縁端部を内側に折り返す器形で、胴部内外面に粗いハケメ調整が施される。色調は在地の土師器甕に比べて白く、胎土に夾雑物が少ない。須恵器の酸化焔焼成のような焼き上がりである。本地域では当該期にこのような土師器甕を伴うことはない。搬入品とみられ、猿投窯の東山72号窯式期に出現する「伊勢型鍋」と呼ばれる甕と考えられる。

（３）Ｈ-11号住居址にみられる土師器甕破片について

Ｈ-11号住居址は10世紀第３四半期に比定される。カマドの右脇、床面より４㎝上の位置から「作」の墨書土器が出土し、その下には土師器甕の胴部破片（Ｈ-11住21）が敷かれていた。墨書土器は完形の須恵器坏（Ｈ-11住２）で、正位の状態であった。土師器甕は胴部下半から底部にかかる破片で、木の葉のようなカーブを描いている。割れ口はシャープで摩耗していない。墨書土器や他の出土土器とは型式学的に差が認められ、胎土や器形・調整などから８世紀に比定される。時期の異なる遺物が出土した場合、大抵は埋没過程や後世の攪乱などによる紛れ込みであるが、本事例はその出土状況から、住居廃棄時に何処から意図的に持ち込んで、墨書土器とセットにして置いたものと推測される。

時期の異なる土器が竪穴住居址から出土する事例は、安中市向原Ⅲ遺跡でも認められる。８世紀のＨ－５号住居址の覆土下層から、６世紀の完形の土師器坏が出土している。報告書では、「廃棄」による混在の可能性もあるが、共伴している可能性も否定できない、との見解が示されている（井上・三浦2007）。

（４）鹿形土製品について（第69図）

最後に、本遺跡出土の特殊遺物、鹿の意匠をした土製品について触れたい。本資料はＨ-20号住居址の床面直上より横倒しの状態で出土した。頭部のみで首の下は欠損している。耳の後ろに角の表現があるため、雄鹿と判断した。長さ3.1㎝、高さ5.0㎝を測る。調整は全体的に丁寧なナデが施されている。眼および鼻は刺突により、口は切り込みにより作り出される。首は長く表現されている。胎土は精緻で、焼成も良好である。首の下の割れ口が水平であることから、胴体との接合部で欠損したものか、あるいは土器から剥離したものと推測される。Ｈ-20号住居址は、土器の出土量がごくわずかで時期決定が難しいが、土師器小形甕の形態から古墳時代後半（６世紀後半）と推定される。鹿形土製品とともに、床面直上から有孔円板の破片が、Ｐ－５覆土中から臼玉が出土しており、住居廃絶時の祭祀行為に係わる可能性も考えられよう。

欠損部の下に何が付くかを推測すると、上に記したように、胴体または土器の可能性が考えられる。まず、単体の土製品と仮定して、動物形の土製品の出土例を探ると、鹿形の土製品に触れることができるのは時代を遡った弥生時代後期になる。東京都板橋区の四葉地区遺跡（1）、静岡県沼津市の雌鹿塚遺跡（2）、愛知県名古屋市の高蔵遺跡（3）出土の３例が知られている。しかし、古墳時代では犬・猪・

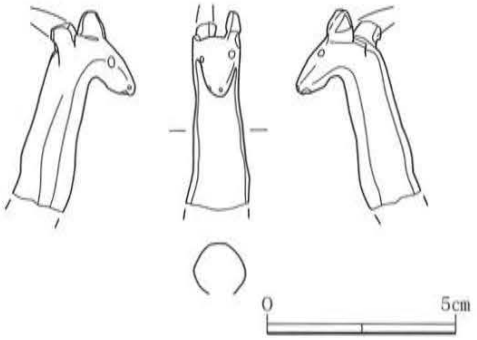
猿などの土製模造品はあるものの（入江 2009）(4)、確実な鹿形はみられない。

一方、動物形の意匠が付けられた土器としては、装飾付きの須恵器が挙げられる。古墳時代後期に作られ、台付き壺の肩部に人物や動物の小像、小壺を付けた装飾須恵器はよく知られている。これらの小像は狩りや角力、踊りなどの情景を表しているものが多く、鹿の小像は狩りの場面などで確認される。装飾付き須恵器の器種には、装飾台付き壺以外にも様々なものがみられる。そのなかで、鹿の装飾が施された器種には瓶や壺・壺蓋のセットなどがある。瓶には鹿の把手が孔の上や脇に付くもの（5）や、鹿の小像が肩に飾られるもの（6）がある。壺・壺蓋のセットは、鹿の小像が壺の肩部および壺蓋の摘み頂部に付けられている（7）。瓶に付く「鹿の把手」は、頭から首までの意匠で胴体はない。頭部には角や耳が付けられ、眼や鼻は刺突で、口は切り込みで表現される。首は長く作られ、首の根本が瓶本体と接合している。これらと本資料を比較すると、顔の表現や首の形状・長さなど似ている点が多い。さらに、壺蓋に付けられた鹿も首が長く表現されており、本資料との共通点がみられる。土師器に鹿形の装飾が付く例が存在するかは浅学のため不明であるが、須恵器の事例から類推すれば、本資料が土師器の蓋・坩・瓶・壺などに付けられていた可能性も否定できないと思われる。

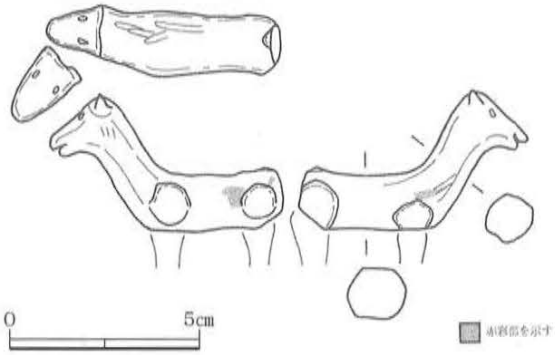
このほか、古墳時代における鹿意匠の遺物としては埴輪や鏡がある。埴輪は鹿形の形象埴輪がみられ、装飾須恵器と同様、狩りの場面を表していることが多い。県内では高崎市太子塚古墳（5世紀末）で、矢が刺さり血を流している鹿の埴輪が出土している（8）。また、高崎市剣崎長瀞西遺跡3号墳では鹿線刻の円筒埴輪が出土している（9）。鏡は伝高崎市八幡原町出土の「狩猟文鏡」がある（10）。4世紀後半～5世紀中葉に比定される仿製鏡で、内区に4人の人物と犬・鹿が描かれる。狩猟の光景と考えられたところから「狩猟文鏡」と名付けられたが、神饌を奉持し、神人共食の宴を開く情景とする説も有力である。

上述したような装飾付き須恵器・埴輪・鏡などは、その多くが古墳への供献や祭祀に用いられたものである。本遺跡が帰属する国衙遺跡群は古墳群を内包している。本遺跡でこのような資料が出土する意味も、古墳群と古墳群に関わる人々の集落といった関係性のなかで、解釈していくことができるのではないだろうか。

国衙中割遺跡出土 鹿形土製品

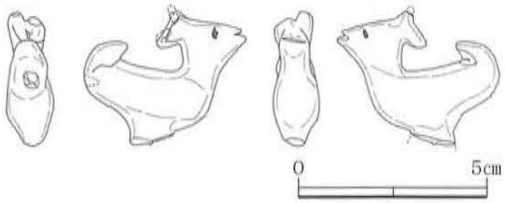


四葉地区遺跡出土 鹿形土製品



（山村 1992 より転載）

雌鹿塚遺跡出土 鹿形土製品



（沼津市教育委員会 1990 より転載）

第69図　鹿意匠の土製品

【註】

（1）四葉地区遺跡例は西部台地Ｂ区 12 号環濠の覆土上層より出土し、弥生時代後期後半の前野町式土器が供伴している。長さ 6.2 ㎝、高さ 3.5 ㎝を測る。眼・口・耳・尾が表現され、性別は不明である。角はないが、尾が小さく上方にはねる表現などから鹿と判断されている。四肢は胴部との接合箇所で欠損している。体部は丁寧に磨かれ、その上に赤彩がされる（山村 1992）。

（2）雌鹿塚遺跡例はＭ－12 グリッドより出土している。同遺跡出土の弥生時代後期の土器と胎土が同一であるため、同時代に帰属するとされている。長さ 4.5 ㎝、高さ 3.5 ㎝を測る。雄鹿で、眼・口・角・尾・肛門が表現され、細部は細いヘラ状の工具で仕上げられている。下部に接合した痕跡が残るため、土器の口縁などに付着していたものと推測されている（沼津市教育委員会 1990）。

（3）高蔵遺跡例は報告書にあたることができず、詳細は不明である。山村 1992 に掲載された写真からは、頭部が強調され、何かから剥離したように見える。

（4）土製模造品の中で、土馬は動物形とは別の種類として扱われる。早いところでは古墳時代中期には出現するようであるが、多くは終末期～奈良・平安時代に多い（入江 2009）。

（5）奈良県御所市出土、京都大学文学部博物館所蔵（６世紀）や、福井県大飯郡高浜町二子山３号古墳出土、高浜町教育委員会蔵（６世紀）の例がある（菱田 1996）。

（6）京都府中郡峰山町大耳尾１号墳出土、峰山町教育委員会蔵（６世紀）の例がある（菱田 1996）。

（7）大阪府岸和田市馬塚古墳出土、東京国立博物館蔵（６世紀）の例がある（菱田 1996）。

（8）朝日新聞社　2008『発掘された日本列島 2008』文化庁

（9）黒田　晃　2003『剣崎長瀞西遺跡１』高崎市教育委員会、高崎市市史編さん委員会　1999『新編　高崎市史　資料編１　原始古代Ⅰ』高崎市

（10）高崎市市史編さん委員会　1999『新編　高崎市史　資料編１　原始古代Ⅰ』高崎市

参考・引用文献

安中市市史刊行委員会　2001『安中市史』第四巻　原始古代中世資料編

安中市市史刊行委員会　2003『安中市史』第二巻　通史編

井上慎也・三浦京子　2007『向原Ⅲ遺跡』安中市教育委員会

入江俊行　2009「古墳時代祭祀における土製模造品の出現と展開」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第 13 集　帝京大学山梨文化財研究所

大川　清・鈴木公雄・工楽善通　1996『日本土器事典』雄山閣出版株式会社

神谷佳明　1997「律令制成立期の須恵器の系譜－群馬県－」『東国の須恵器』古代生産史研究会

壁　伸明・常深　尚　2008『高梨子地区遺跡群』安中市教育委員会

小西雅徳ほか　2001『四葉地区遺跡』板橋区立郷土資料館

坂口　一　1986「古墳時代後期の土器の編年」『群馬文化』208 号　群馬県地域文化研究協議会

坂口　一・三浦京子　1984「Ⅳ　住居共伴土器の相対年代」『中尾（遺物篇）』　群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団

坂口　一・三浦京子　1986「奈良・平安時代の土器編年」『群馬県史研究』第 24 号　群馬県史編さん委員会

中沢　悟　1997「矢田遺跡周辺における古墳時代後期から平安時代の土器について」『矢田遺跡Ⅶ』　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

沼津市教育委員会　1990『雌鹿塚遺跡発掘調査報告書Ⅱ　遺物編』

服部敬史ほか　1992『南多摩窯跡群』東京造形大学宇津貫校地内埋蔵文化財発掘調査団

菱田哲郎　1996『歴史発掘⑩　須恵器の系譜』株式会社講談社

松井田町誌編さん委員会　1985『松井田町誌』上・下巻

三浦京子　1988「群馬県における平安時代後期の土器様相」『群馬の考古学』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

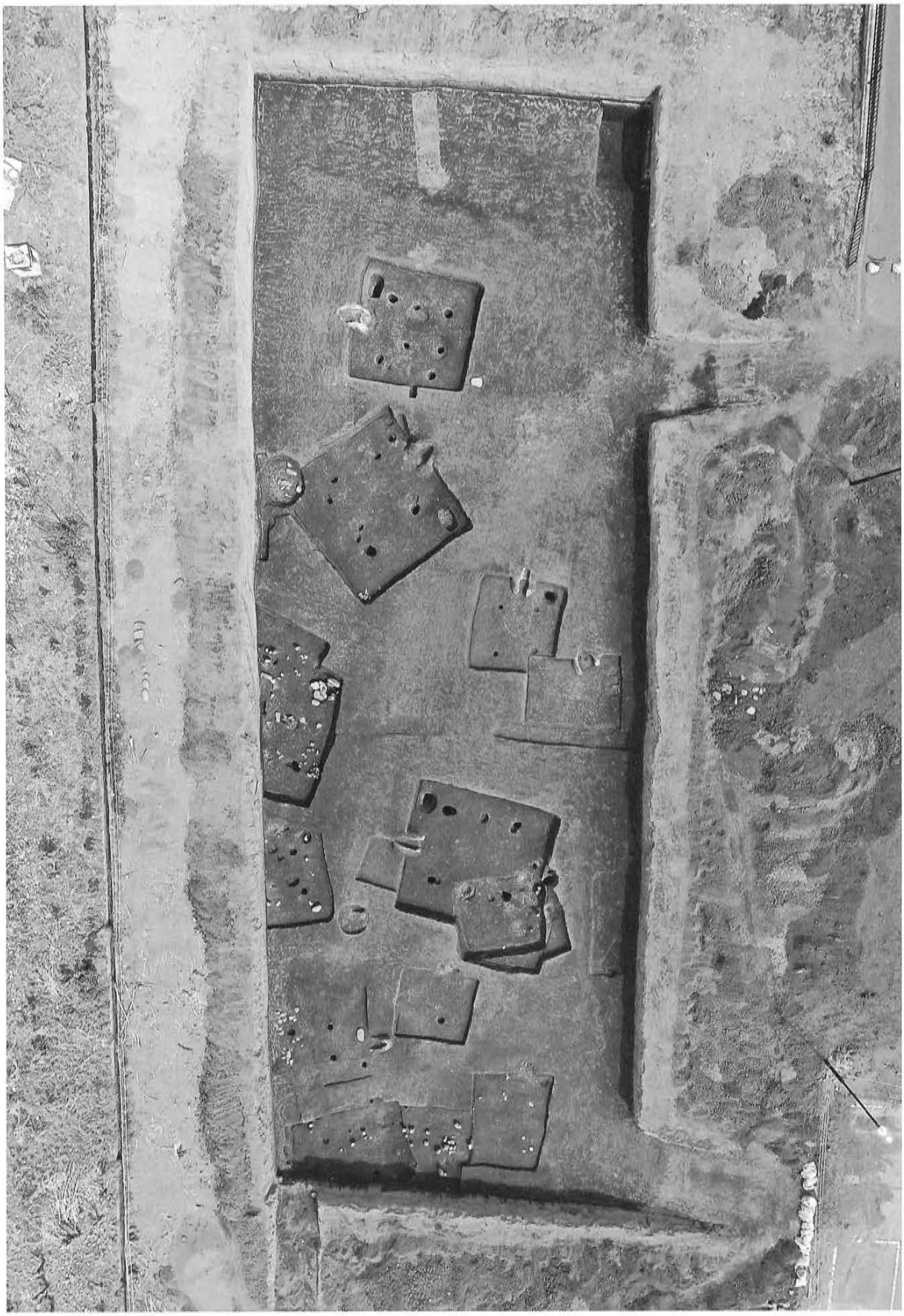
三浦京子　1990「群馬県における８～11 世紀の黒色土器について」『東国土器研究』第３号　東国土器研究会

三浦京子　2014「第４章まとめ２遺物」『白倉上野遺跡（下小塚Ⅴ遺跡）』甘楽町教育委員会

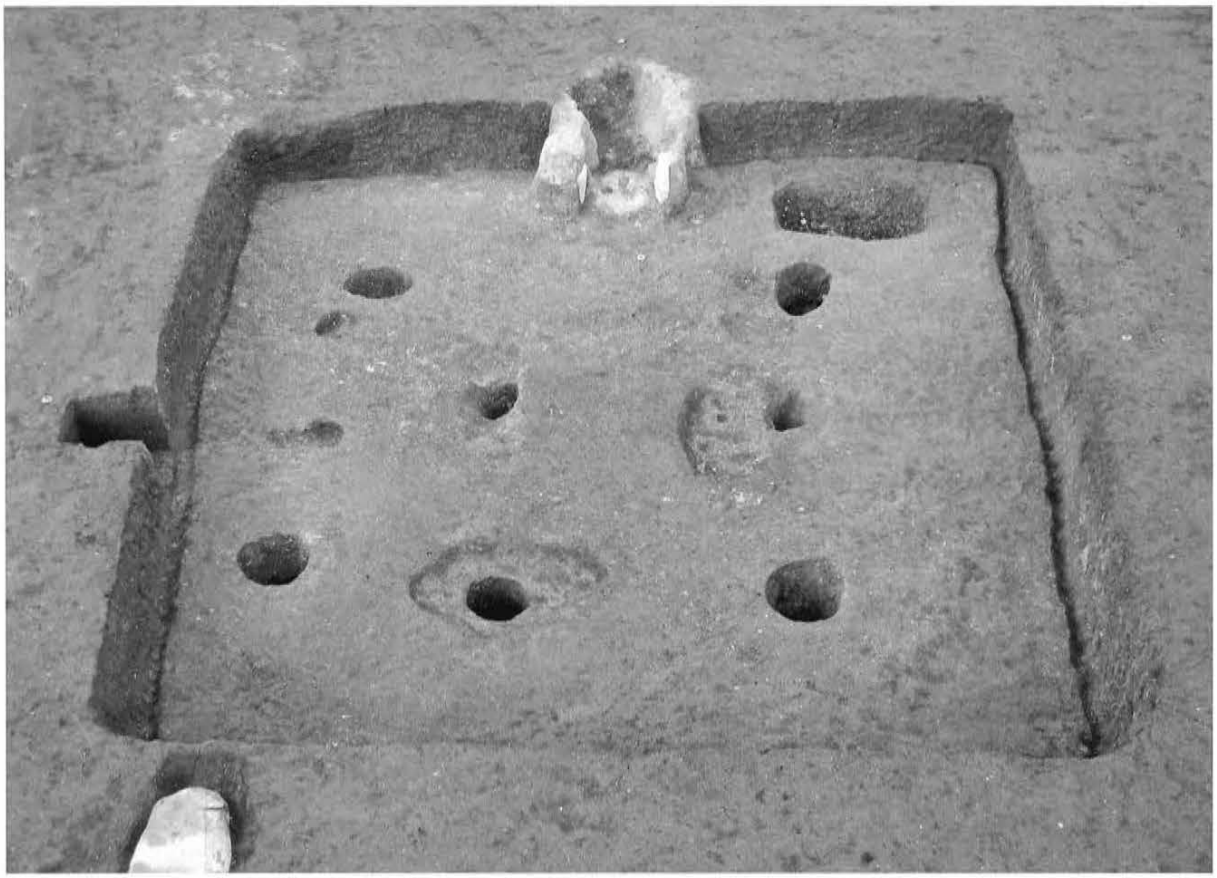
三浦京子　2016「Ⅶ－３．三本木Ⅲ遺跡の古代土器について」『落合Ⅱ遺跡２・平塚遺跡２・三本木Ⅱ遺跡２・三本木Ⅲ遺跡２』　安中市教育委員会

山村貴輝　1992「東京都板橋区四葉地区遺跡出土のシカ形土製品」『考古学雑誌』第 77 巻　第３号

写　真　図　版



国衙中割遺跡　全景（上が北東）

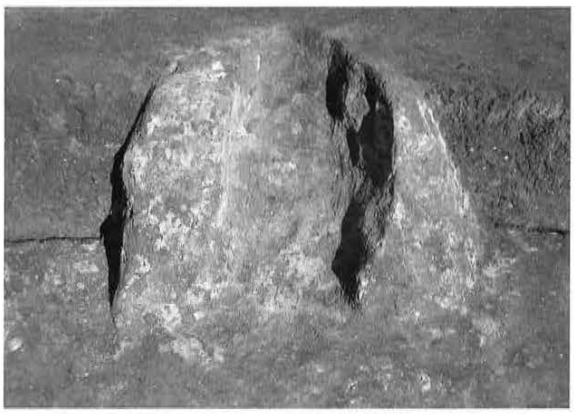


H－7号住居址 完掘状況（南東から）

H－7号住居址 遺物出土状況（北東から）

H－7号住居址 カマド完掘状況（南東から）

H－8号住居址 遺物出土状況（西から）



H－8号住居址 カマド完掘状況（西から）

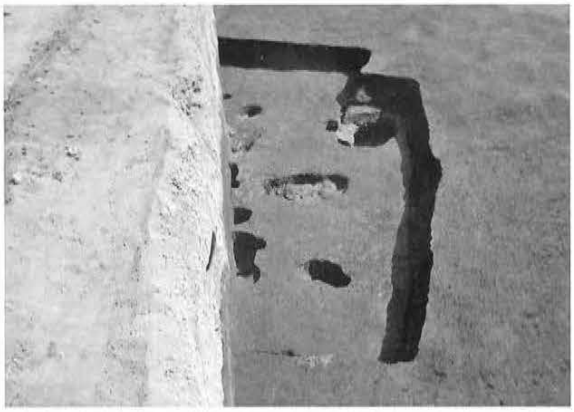
H－8号住居址 完掘状況（西から）

H－8号住居址 遺物出土状況（西から）

H－8号住居址 遺物出土状況（南東から）

H－8号住居址 遺物出土状況（東から）

H－8号住居址 P－5遺物出土状況（西から）



H－9a・9b 号住居址 完掘状況（南西から）

H－9a・9b 号住居址 遺物出土状況（北東から）

H－10 号住居址 遺物出土状況（南西から）

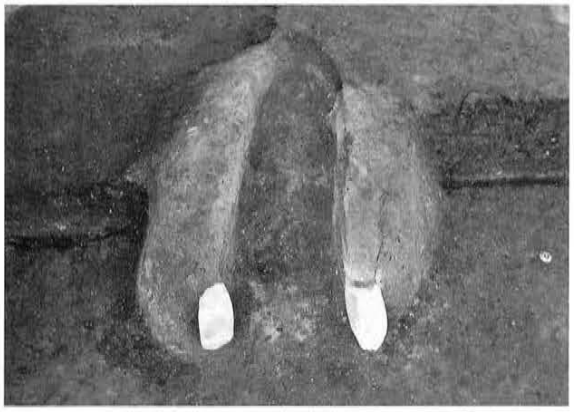
H－10 号住居址 カマド完掘状況（南西から）

H－10 号住居址 完掘状況（南西から）

H -10 号住居址 遺物出土状況（西から）

H -10 号住居址 遺物出土状況（南西から）

H -13 号住居址 完掘状況（南東から）



H -13 号住居址 カマド完掘状況（南東から）

H -13 号住居址 カマド遺物出土状況（南東から）

H -13 号住居址 遺物出土状況（南東から）

H -13 号住居址 遺物出土状況（南東から）

H -20 号住居址 遺物出土状況（北西から）

H -20 号住居址 遺物出土状況（南西から）

H -20 号住居址 遺物出土状況（西から）

H -20 号住居址 遺物出土状況（南西から）

H -20 号住居址 カマド完掘状況（北西から）

H－20 号住居址 完掘状況（北西から）

H－1号住居址 完掘状況（北西から）

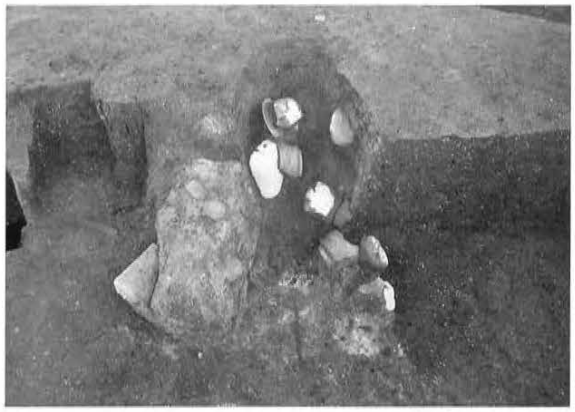
H－2号住居址 カマド完掘状況（北西から）

H－2号住居址 カマド遺物出土状況（北西から）

H－2号住居址 遺物出土状況（北西から）

H－3号住居址 完掘状況（西から）

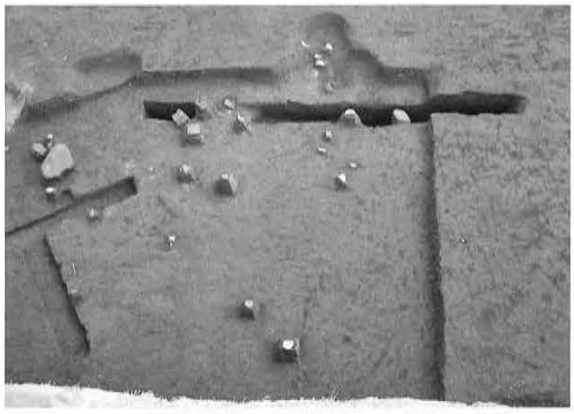
H－3号住居址 カマド完掘状況（西から）



H－4号住居址 カマド遺物出土状況（北西から）

H－4号住居址 カマド完掘状況（北西から）

H－4号住居址 完掘状況（北西から）



H－5号住居址 完掘状況（北西から）

H－5号住居址 カマド完掘状況（北西から）

H－11号住居址 完掘状況（南西から）

H－11号住居址 遺物出土状況（北西から）

H－11 号住居址 カマド礫出土状況（南から）

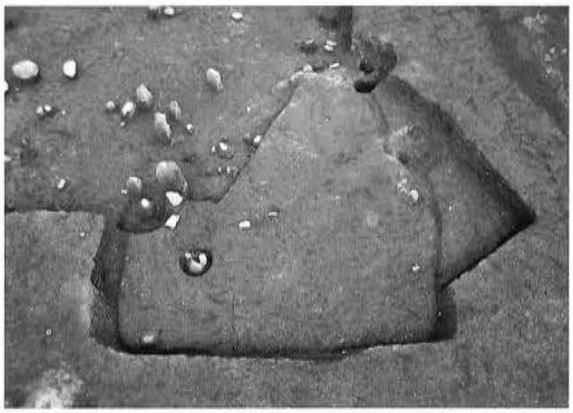
H－11 号住居址 カマド完掘状況（南から）

H－11 号住居址 カマド遺物出土状況（南から）

H－11 号住居址 右袖内礫出土状況（北西から）

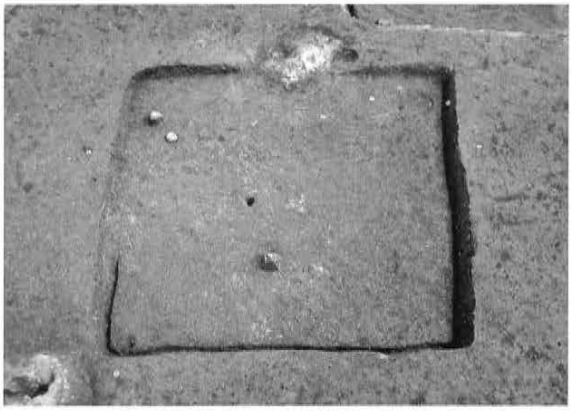
H－11 号住居址 遺物出土状況（南西から）

H－12 号住居址 完掘状況（南西から）



H－14 号住居址 完掘状況（南西から）

H－14 号住居址 P－1遺物出土状況（南西から）

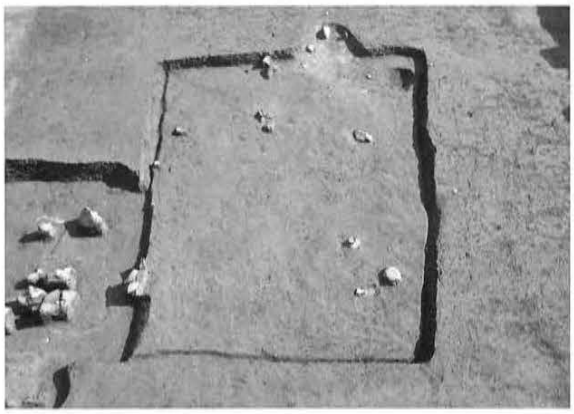


H－15 号住居址 完掘状況（南西から）

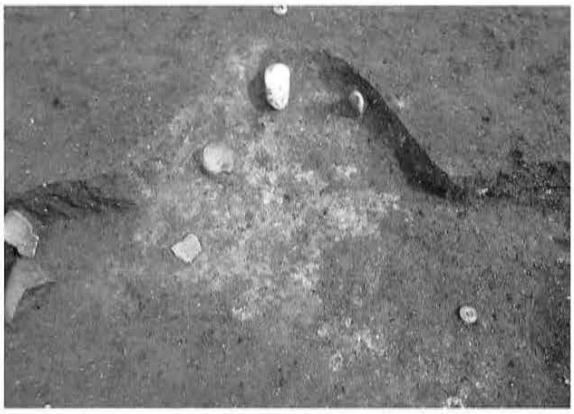
H－15 号住居址 遺物出土状況（南西から）

H -16 号住居址 完掘状況（北西から）

H -16 号住居址 カマド完掘状況（北西から）



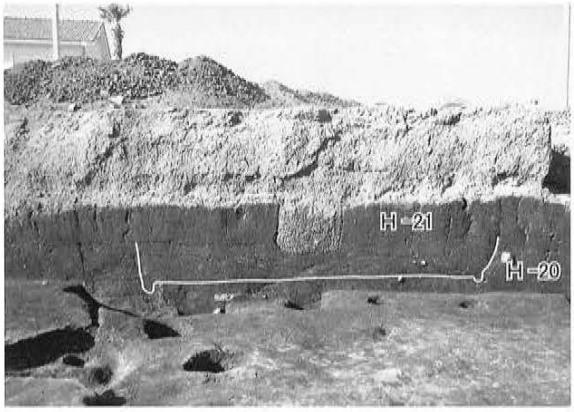
H -17 号住居址 完掘状況（南西から）



H -17 号住居址 カマド完掘状況（南西から）

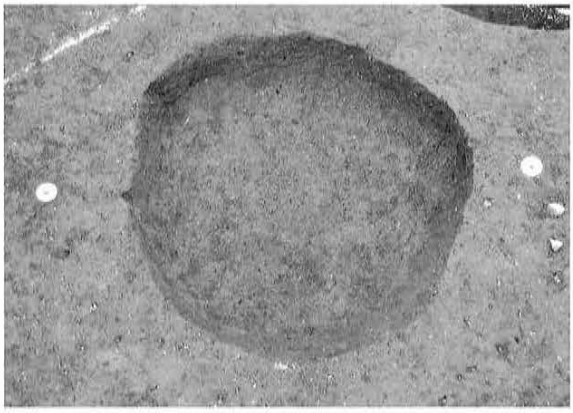
H -19 号住居址 完掘状況（北西から）

H－18 号住居址 完掘状況（北東から）

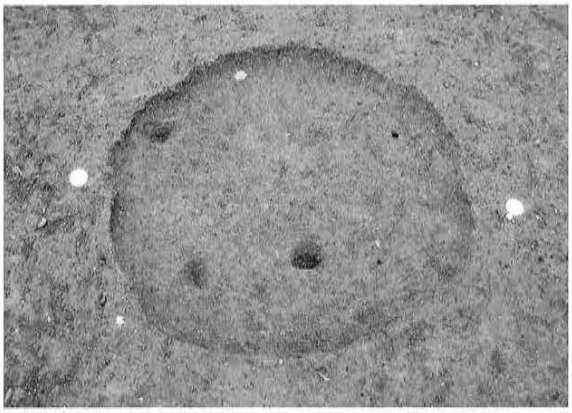


H－21 号住居址 セクション（北東から）

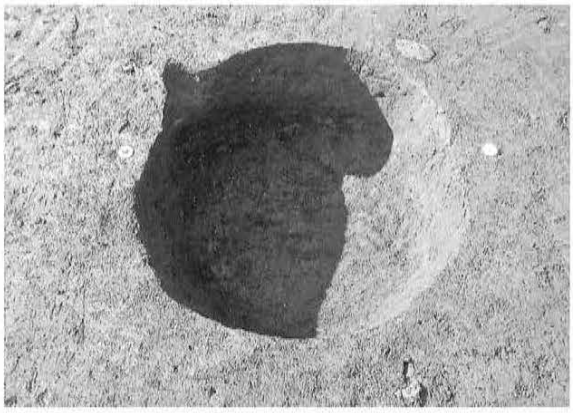
D－1号土坑 完掘状況（南から）



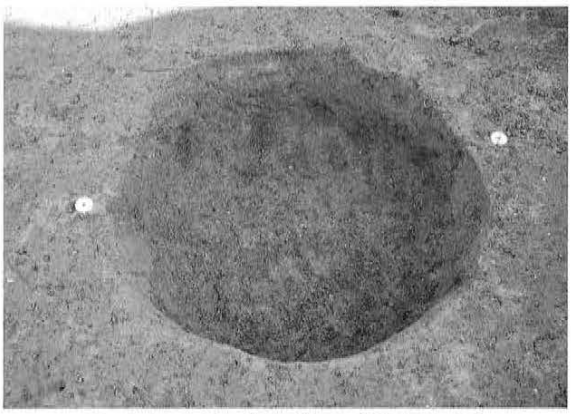
D－2号土坑 完掘状況（南から）



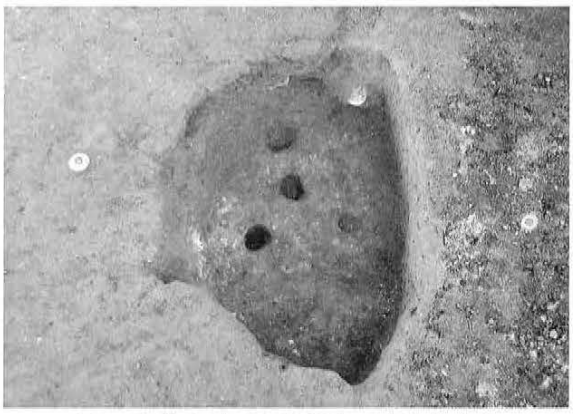
D－3号土坑 完掘状況（南西から）



D－4号土坑 完掘状況（南西から）



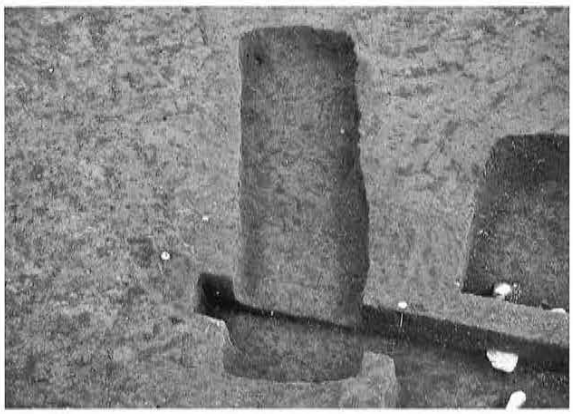
D－5号土坑 完掘状況（南西から）



D－6号土坑 完掘状況（南西から）

D－7号土坑 完掘状況（南西から）

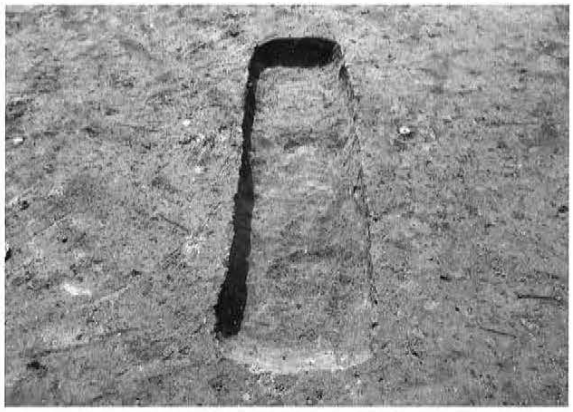
M－1号溝 完掘状況（南東から）



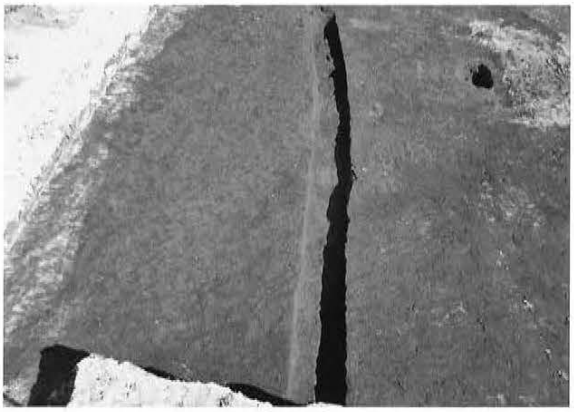
M－2号溝 完掘状況（北西から）

M－4号溝 完掘状況（南東から）

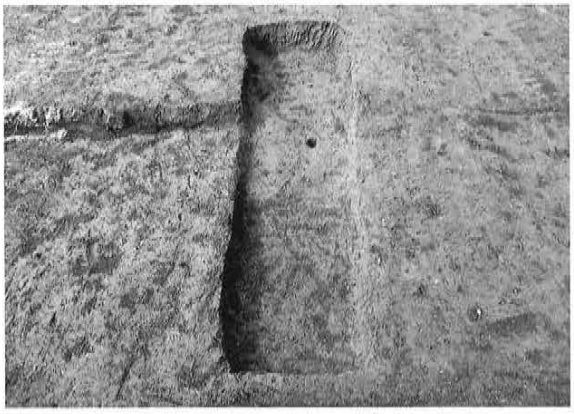
M－3号溝 完掘状況（南東から）



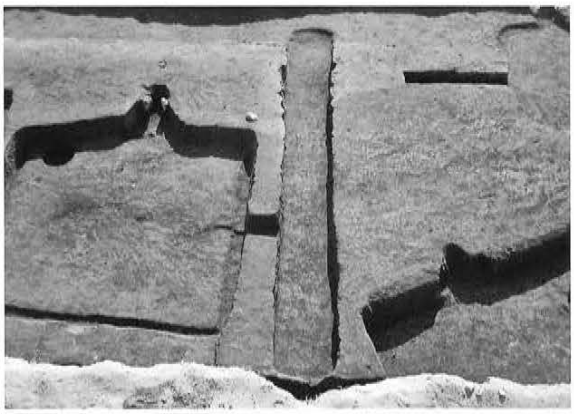
M－5号溝 完掘状況（北東から）



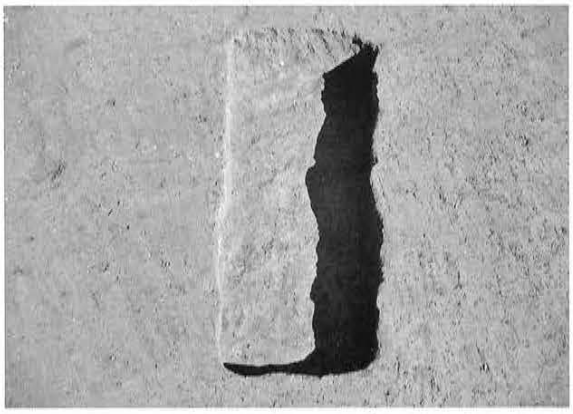
M－6号溝 完掘状況（南西から）



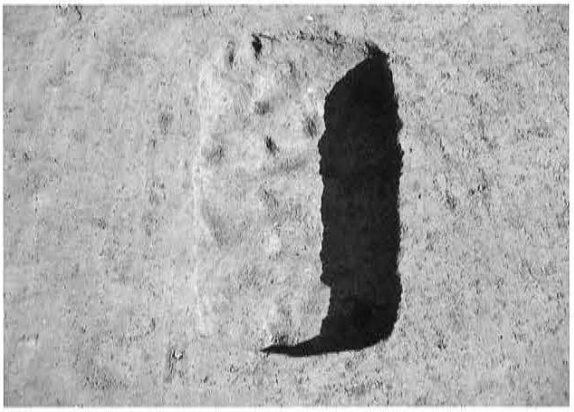
M－7号溝 完掘状況（南東から）



M－8号溝 完掘状況（北西から）



M－9号溝 完掘状況（南西から）



M－10 号溝 完掘状況（南西から）

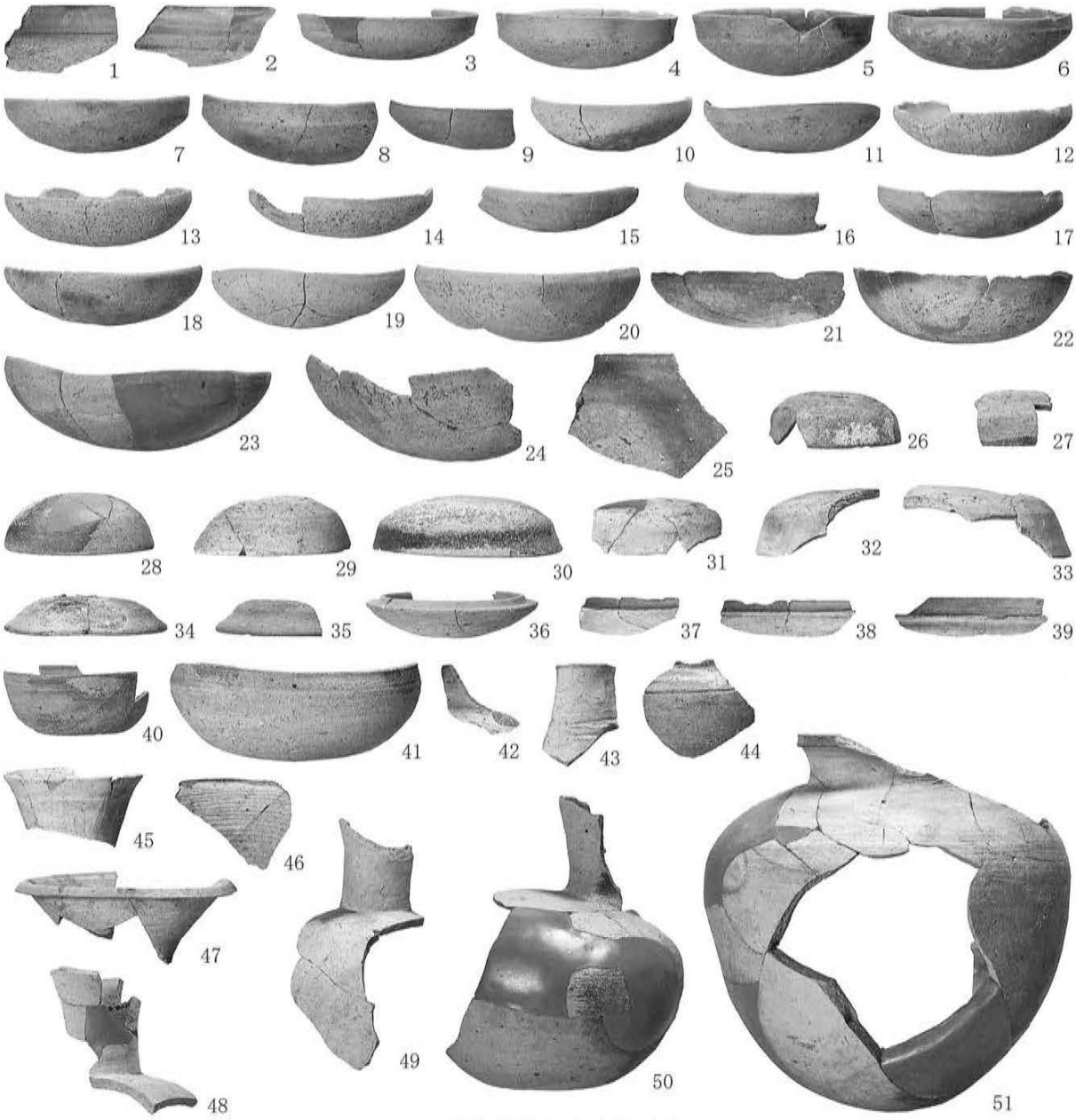
基本層序（北東から）

調査状況 H－2号住居址（北から）

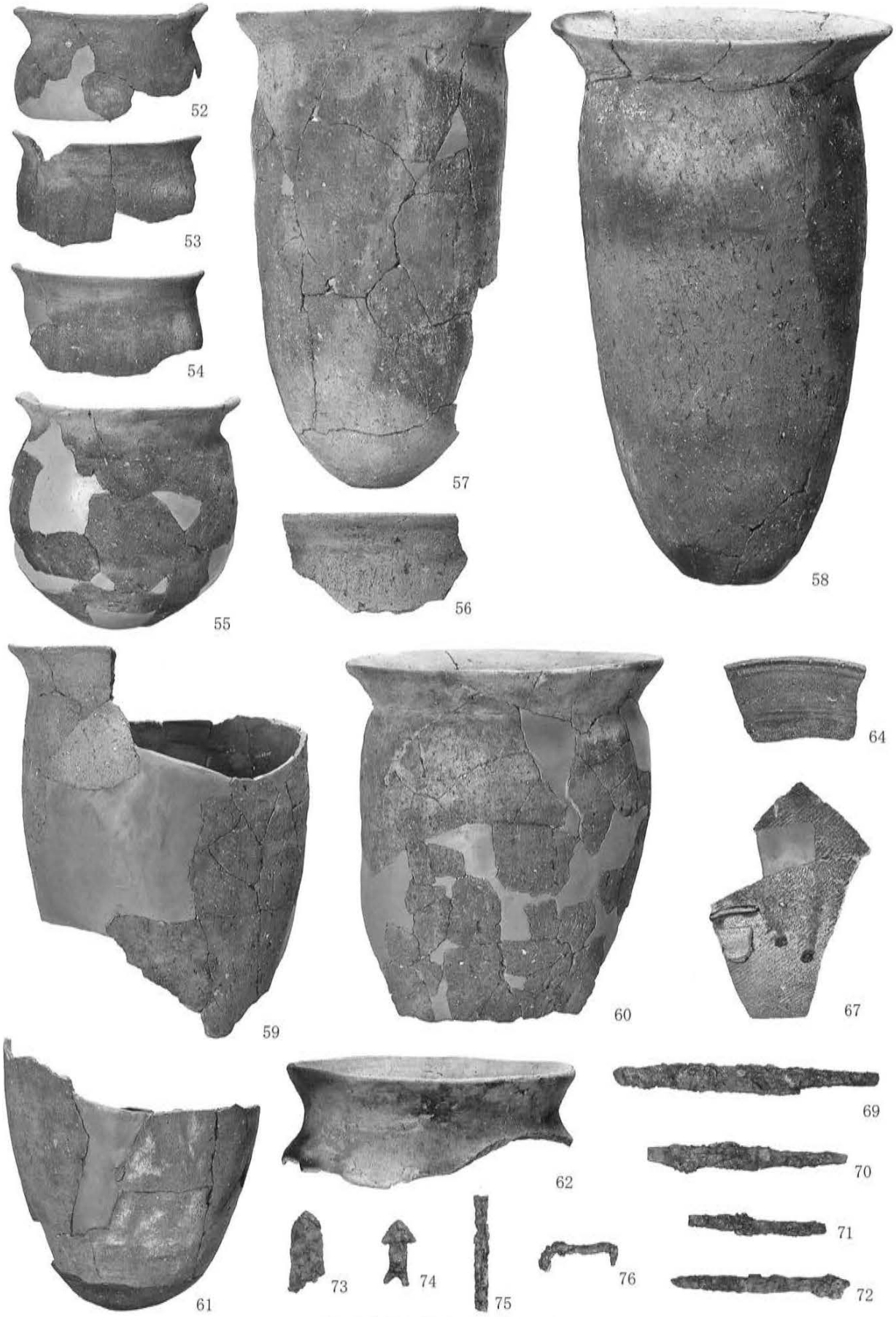
調査状況 H－7号住居址（東から）

調査状況 H－20 号住居址（北西から）

H－7号住居址出土遺物

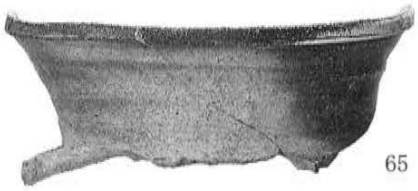


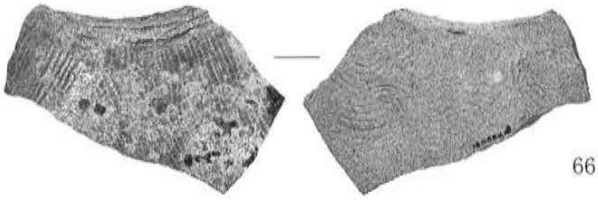
H－8号住居址出土遺物（1）

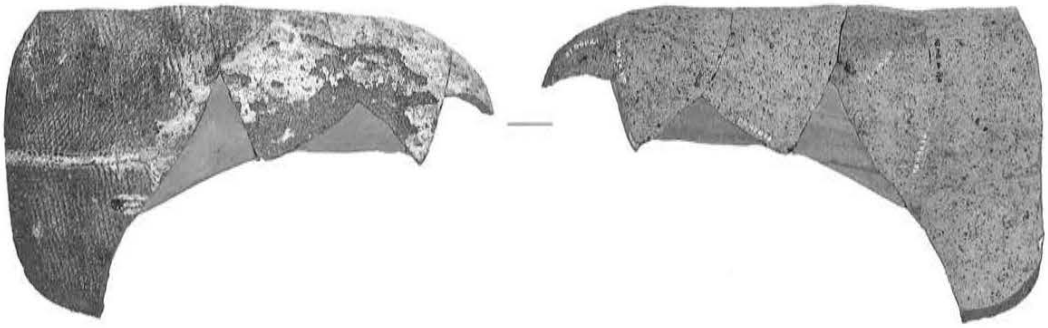


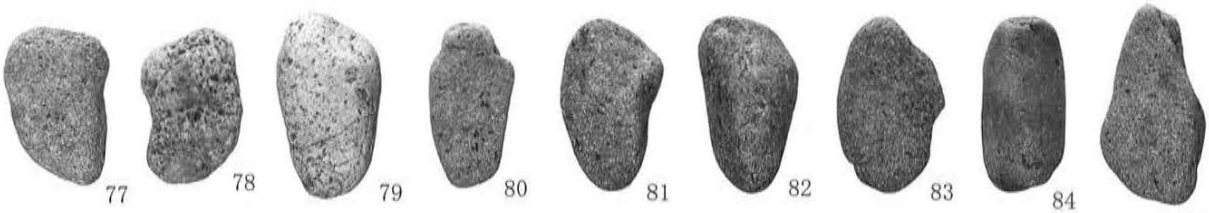
H－8号住居址出土遺物（2）

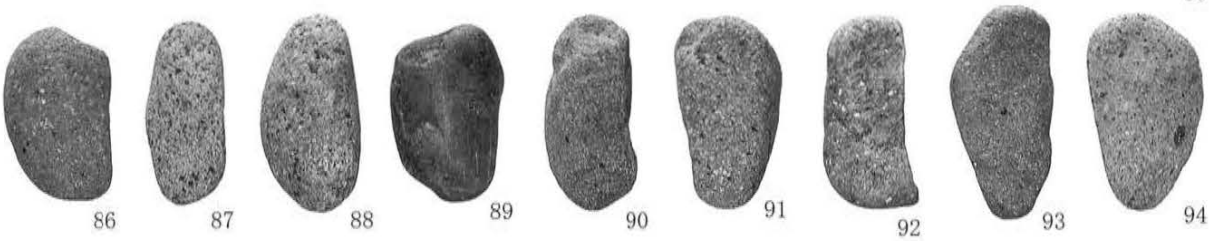
63

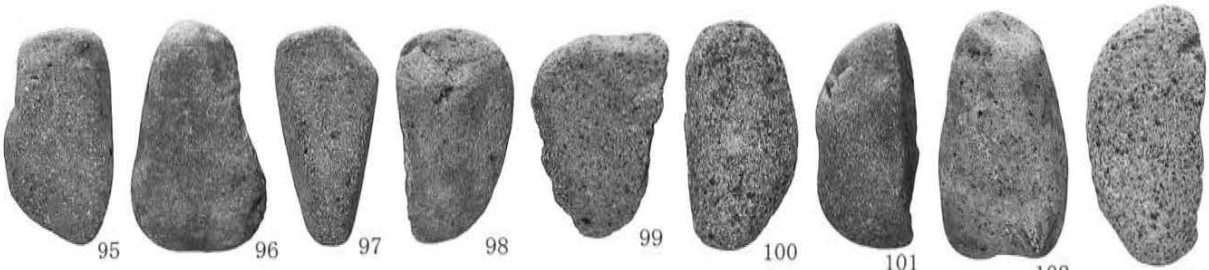

65


66

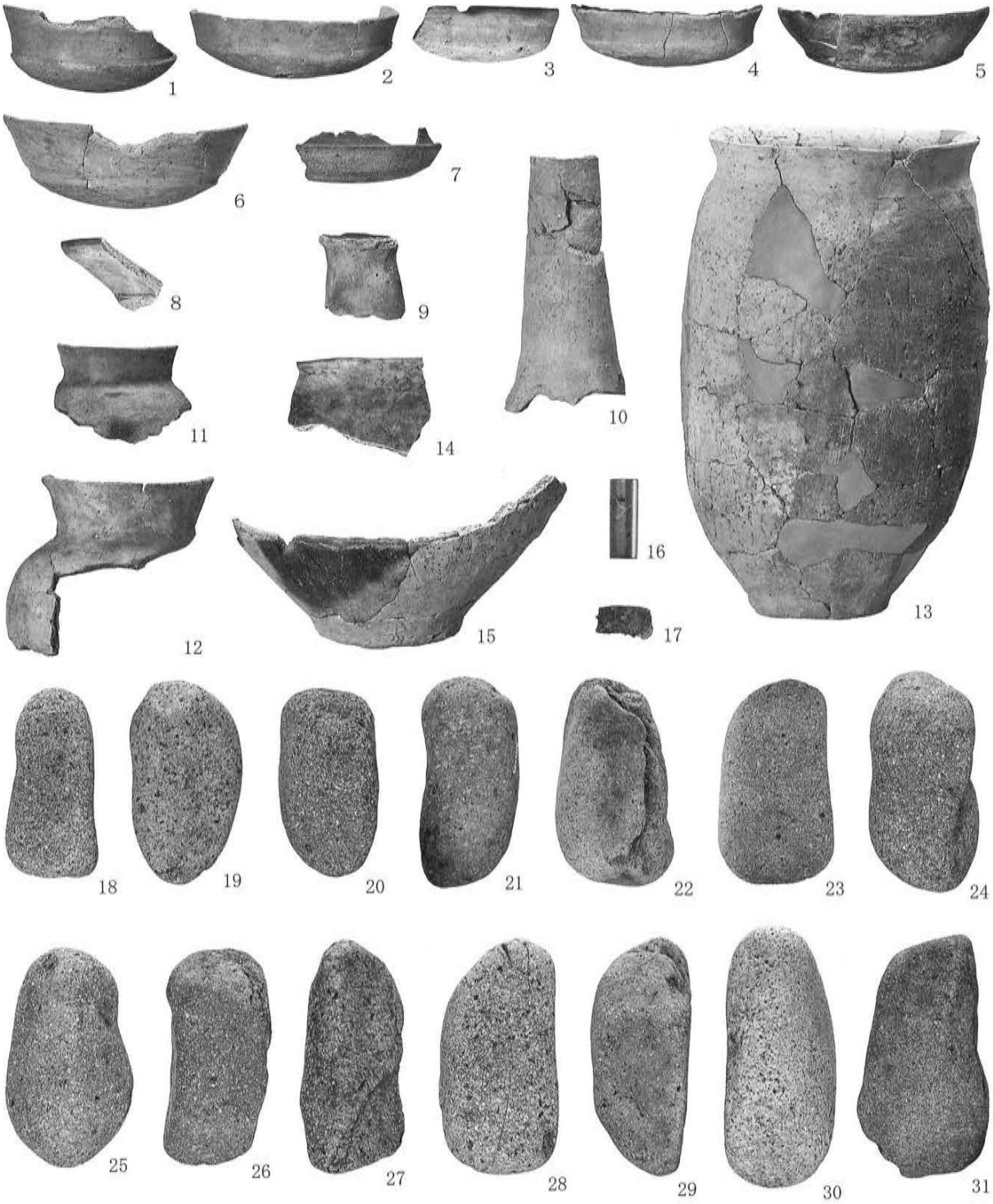

68


77 78 79 80 81 82 83 84 85

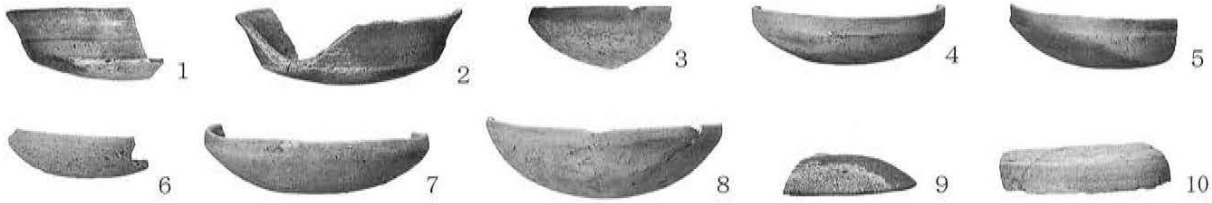

86 87 88 89 90 91 92 93 94


95 96 97 98 99 100 101 102 103

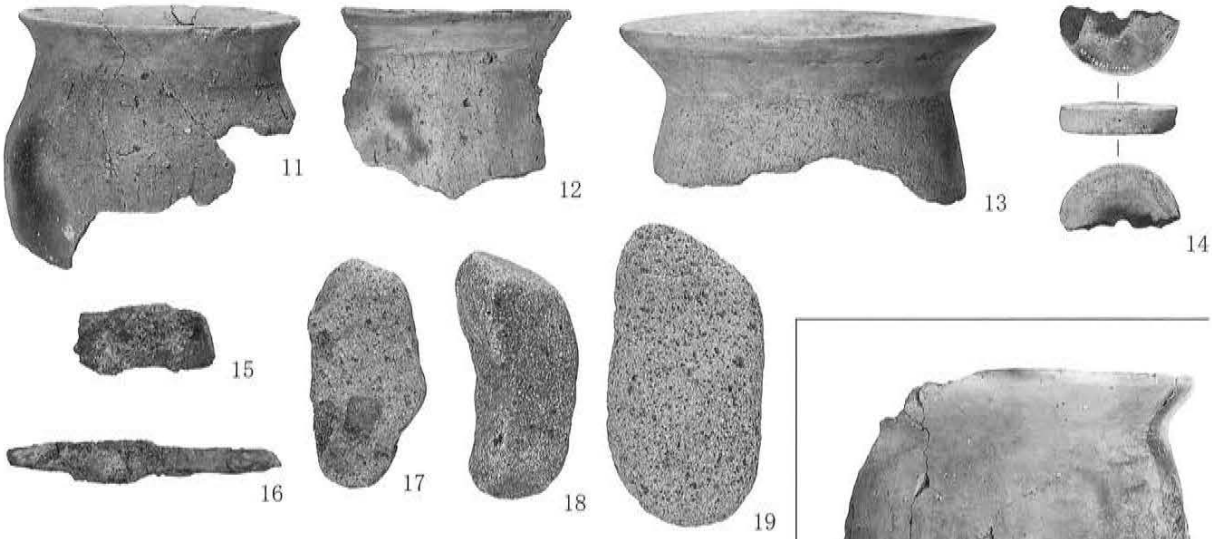
H－8号住居址出土遺物（3）



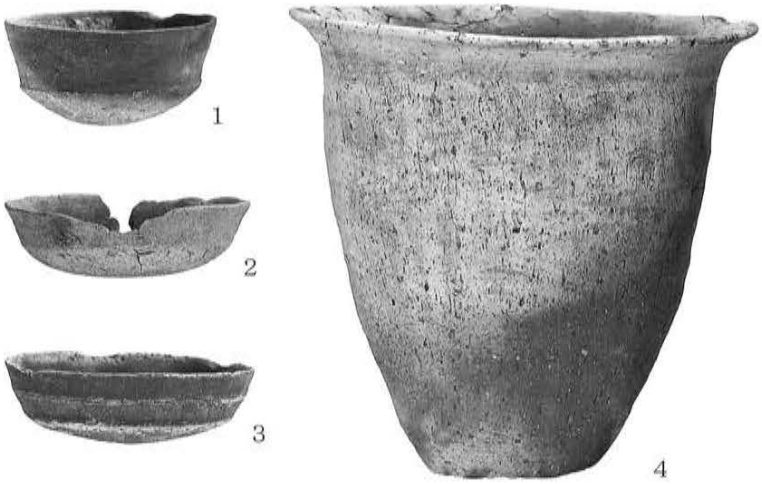
H－9a 号住居址出土遺物



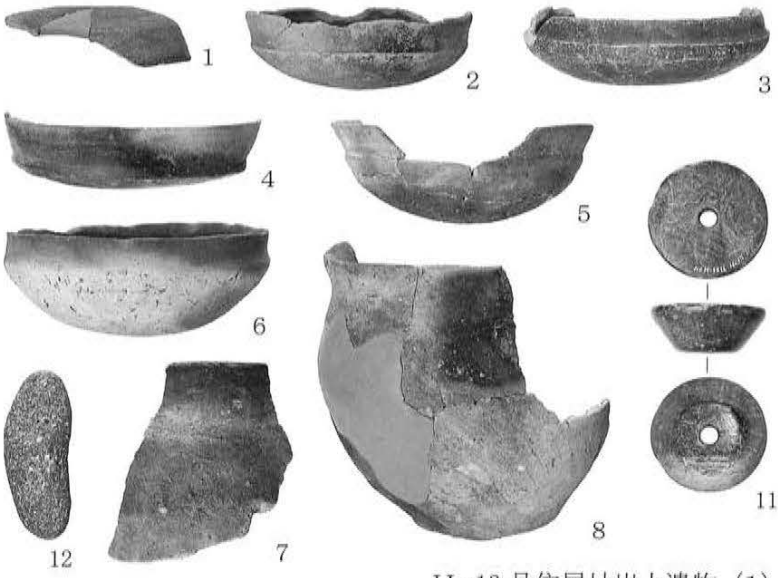
H－9b 号住居址出土遺物（1）



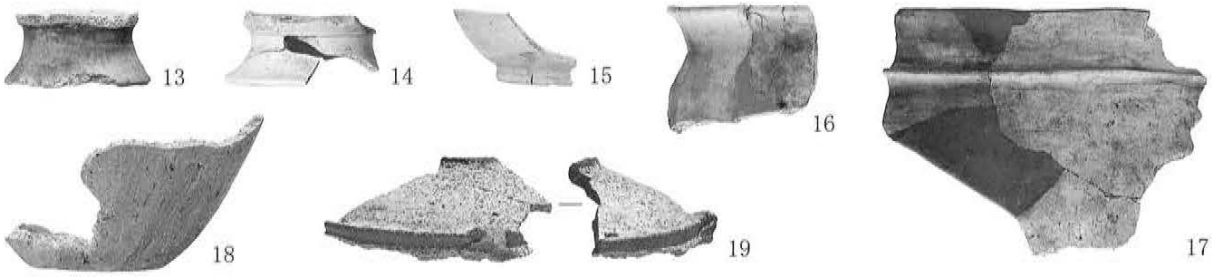
H－9b 号住居址出土遺物（2）



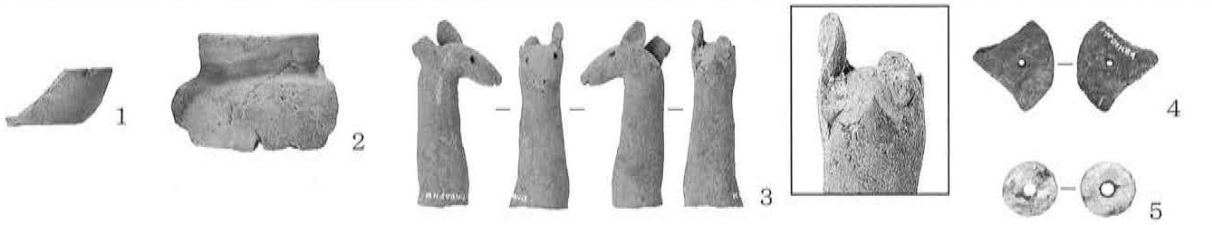
H－10 号住居址出土遺物



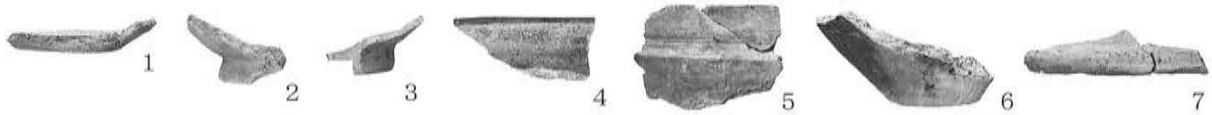
H－13 号住居址出土遺物（1）



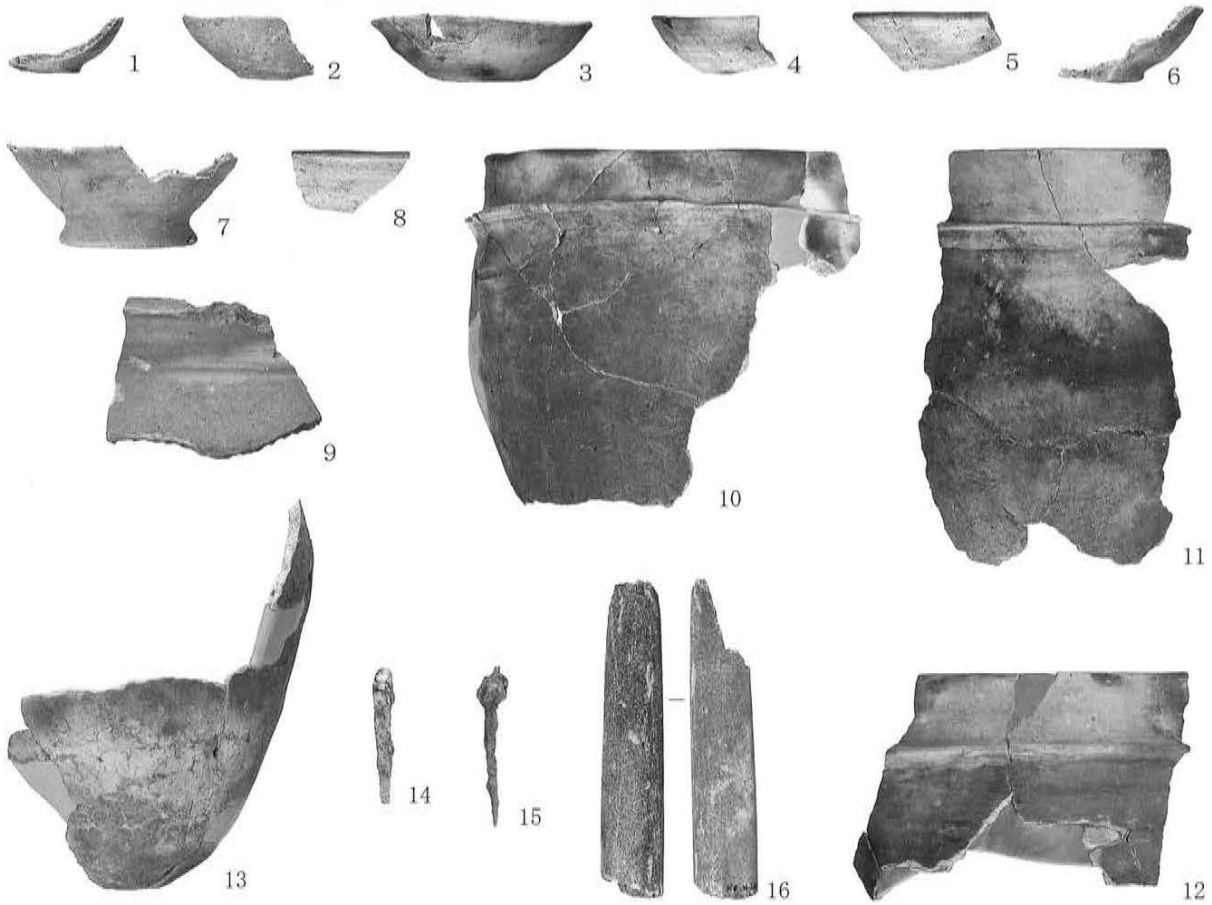
H－13 号住居址出土遺物（2）



H－20 号住居址出土遺物

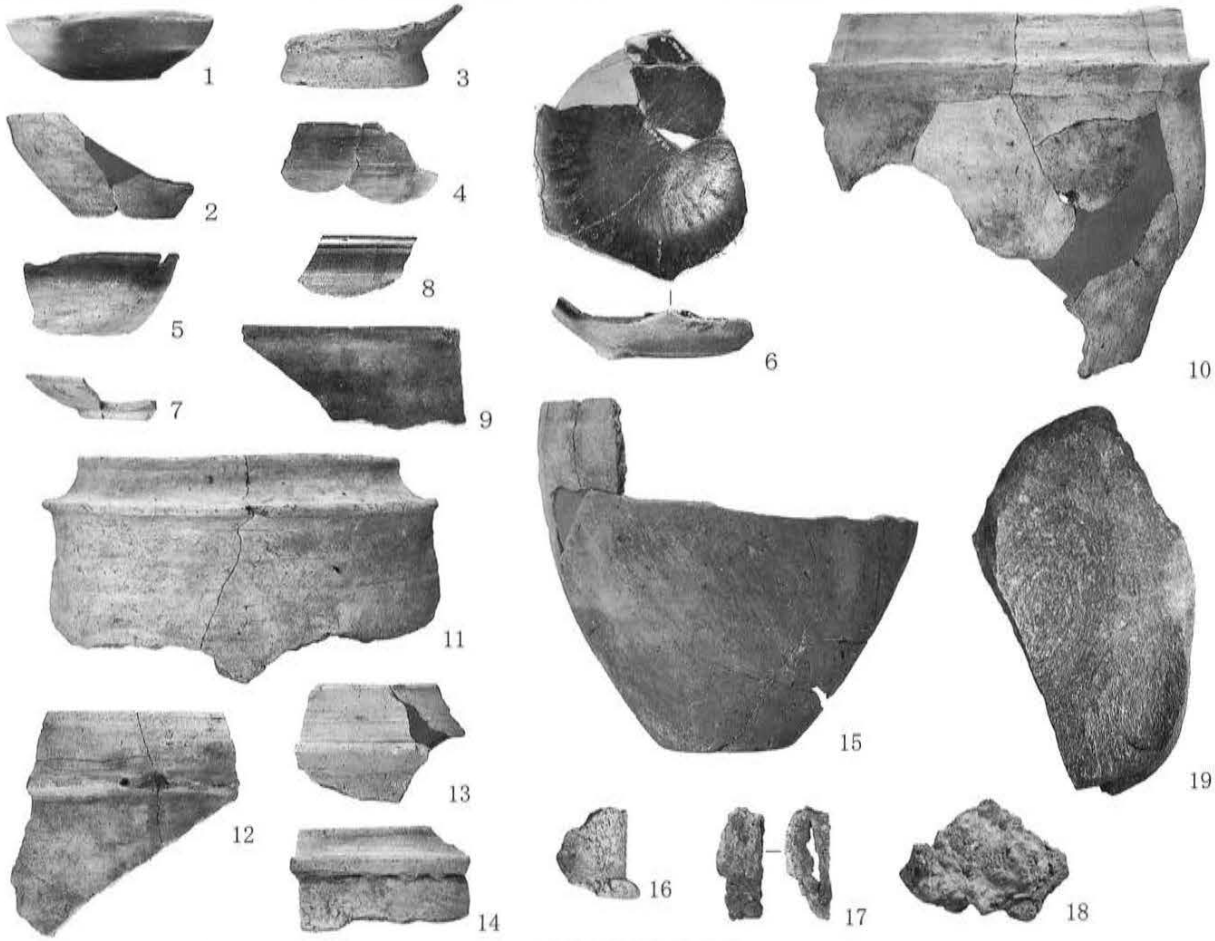


H－1号住居址出土遺物

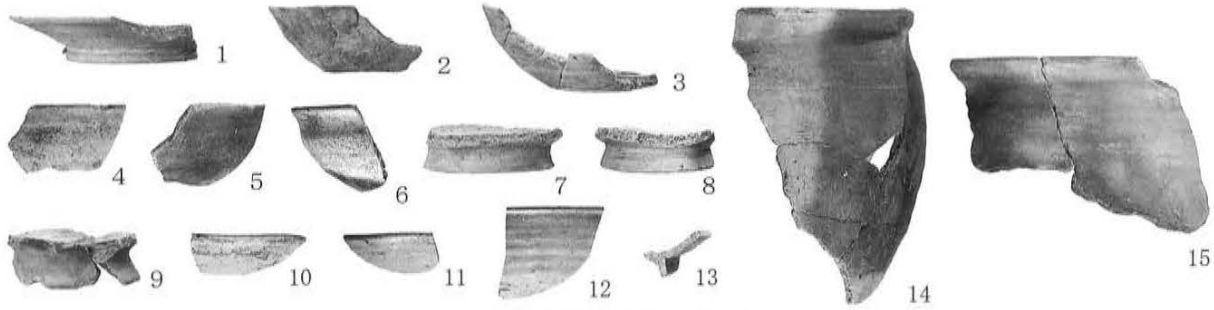


H－2号住居址出土遺物

H－3号住居址出土遺物

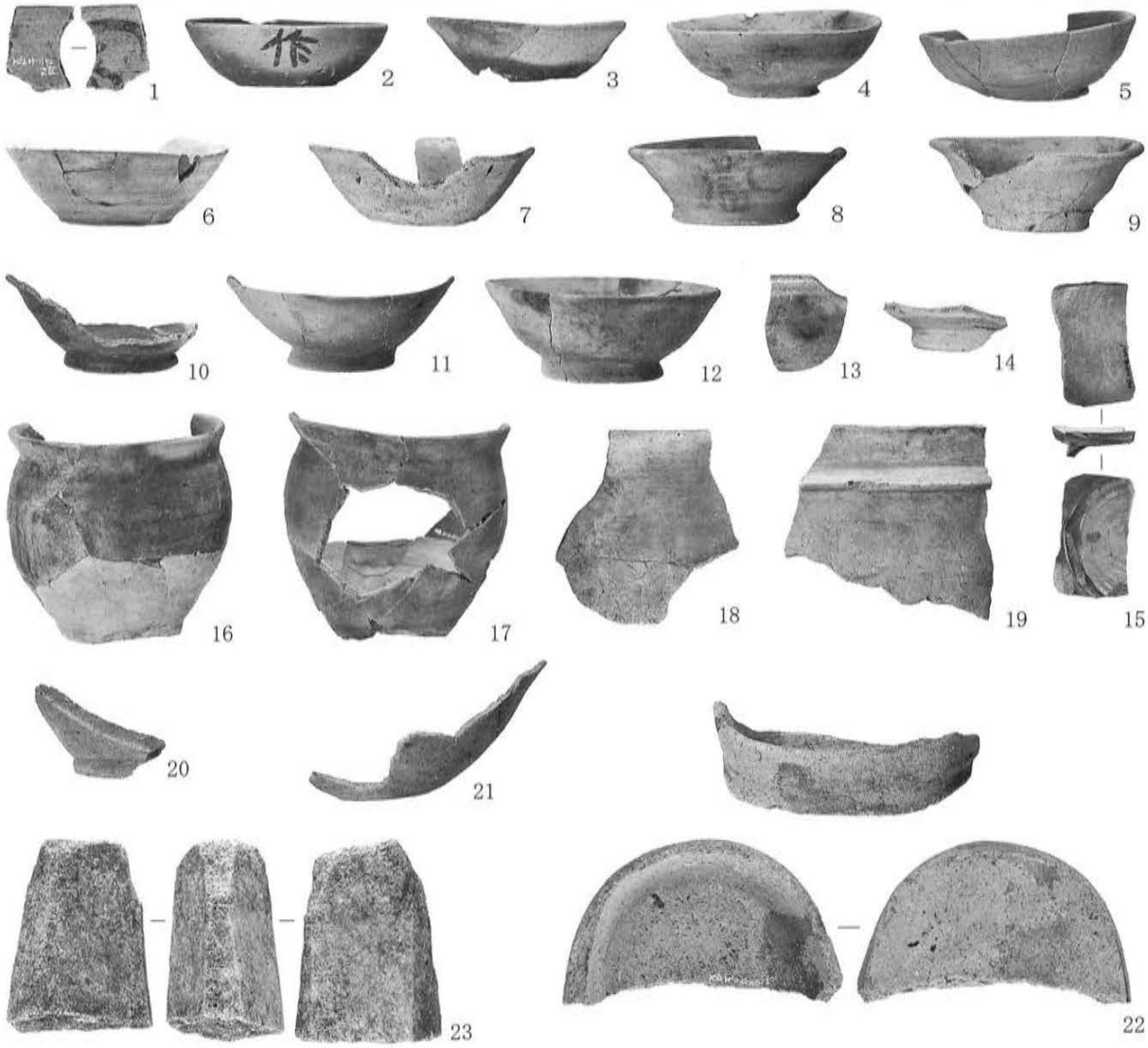


H－4号住居址出土遺物



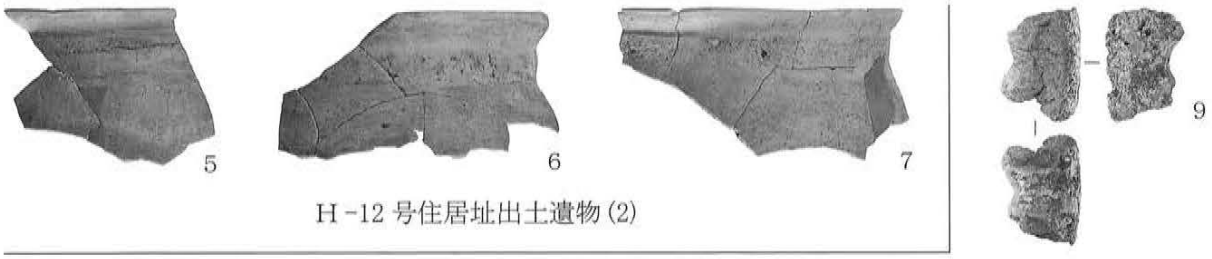
H－5号住居址出土遺物（1）

H－5号住居址出土遺物（2）

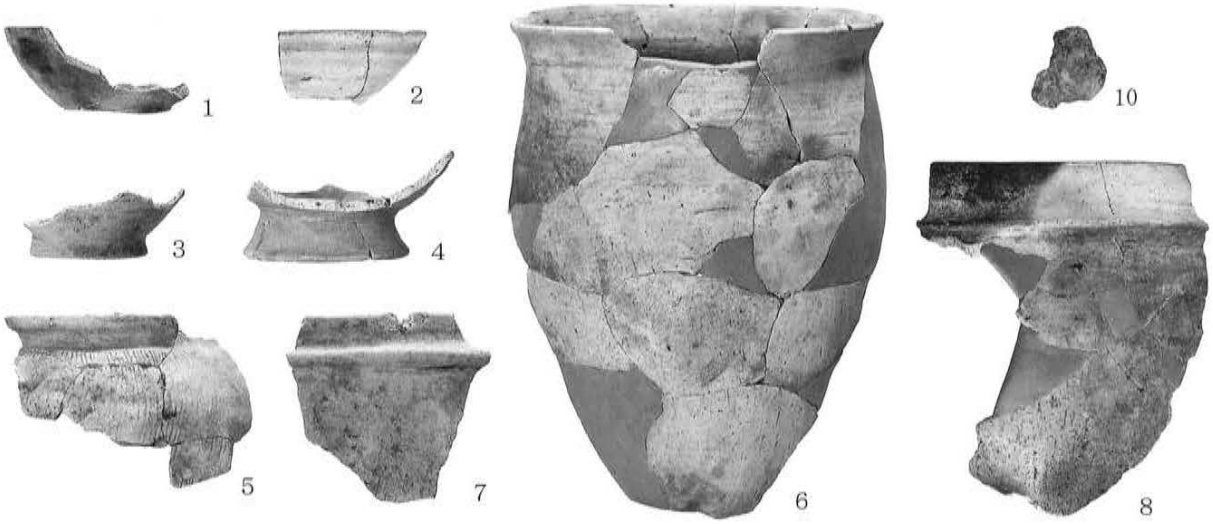


H－11 号住居址出土遺物

H－12 号住居址出土遺物（1）

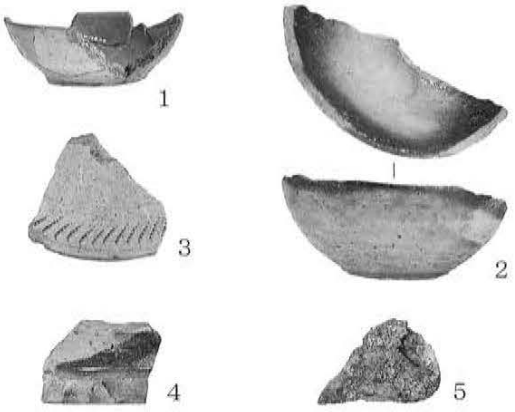


H－12 号住居址出土遺物 (2)

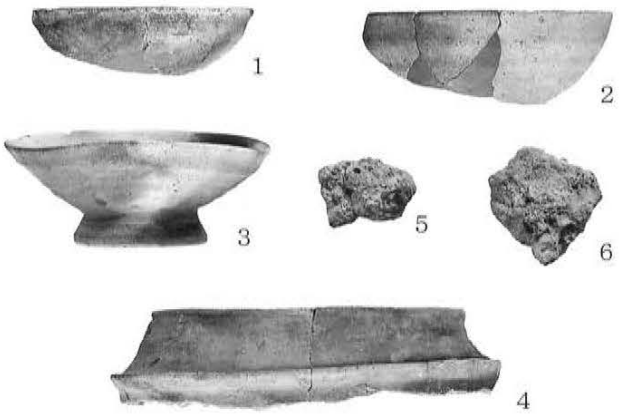


H－14 号住居址出土遺物

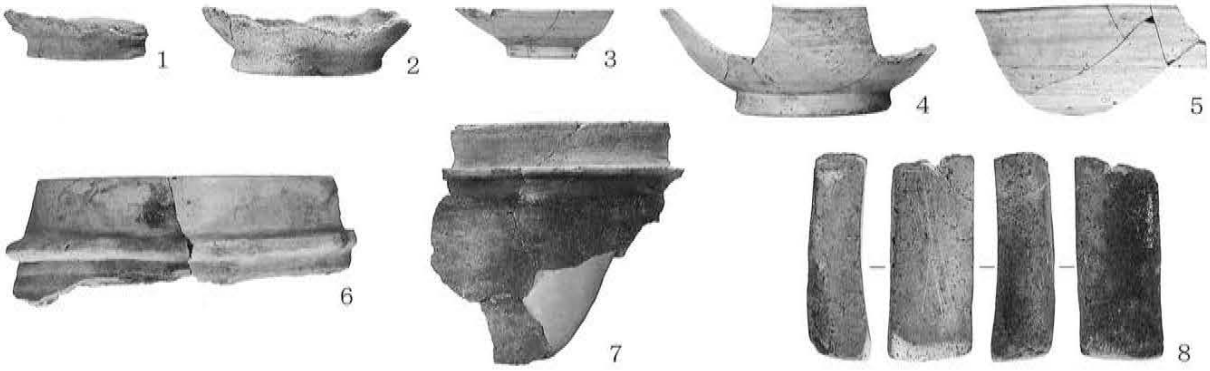
H－15 号住居址出土遺物



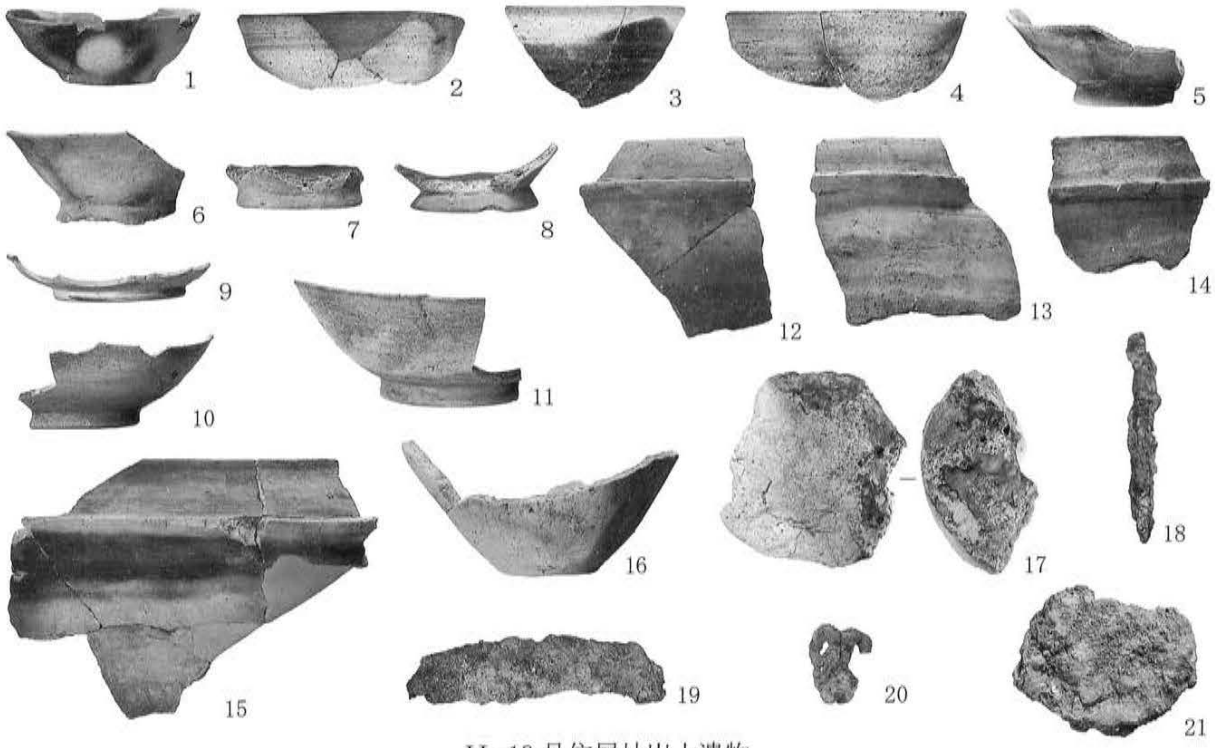
H－16 号住居址出土遺物



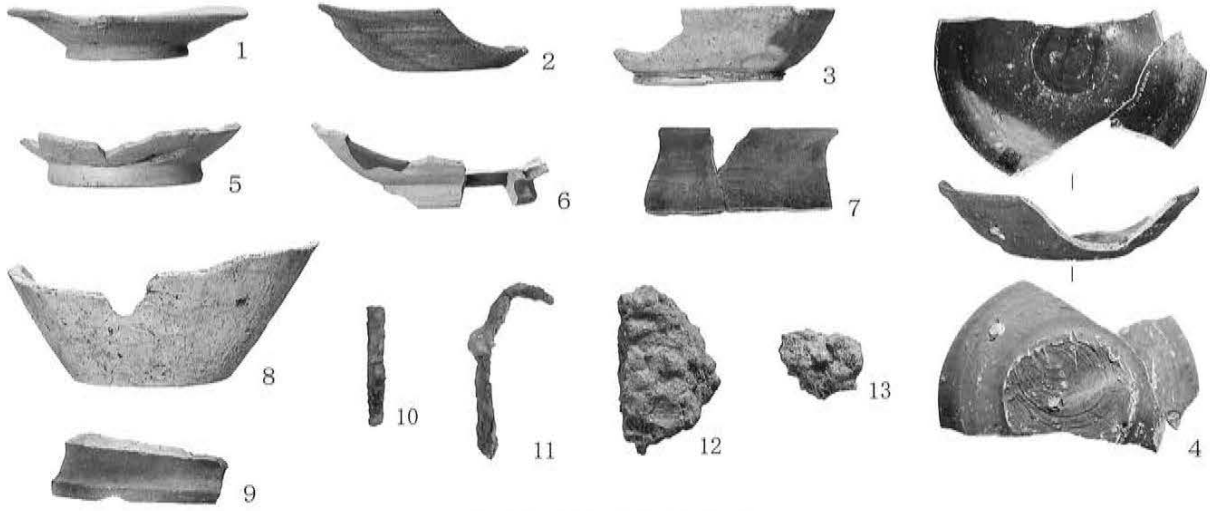
H－17 号住居址出土遺物



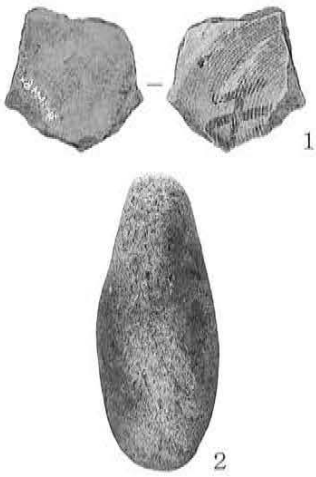
H－18 号住居址出土遺物



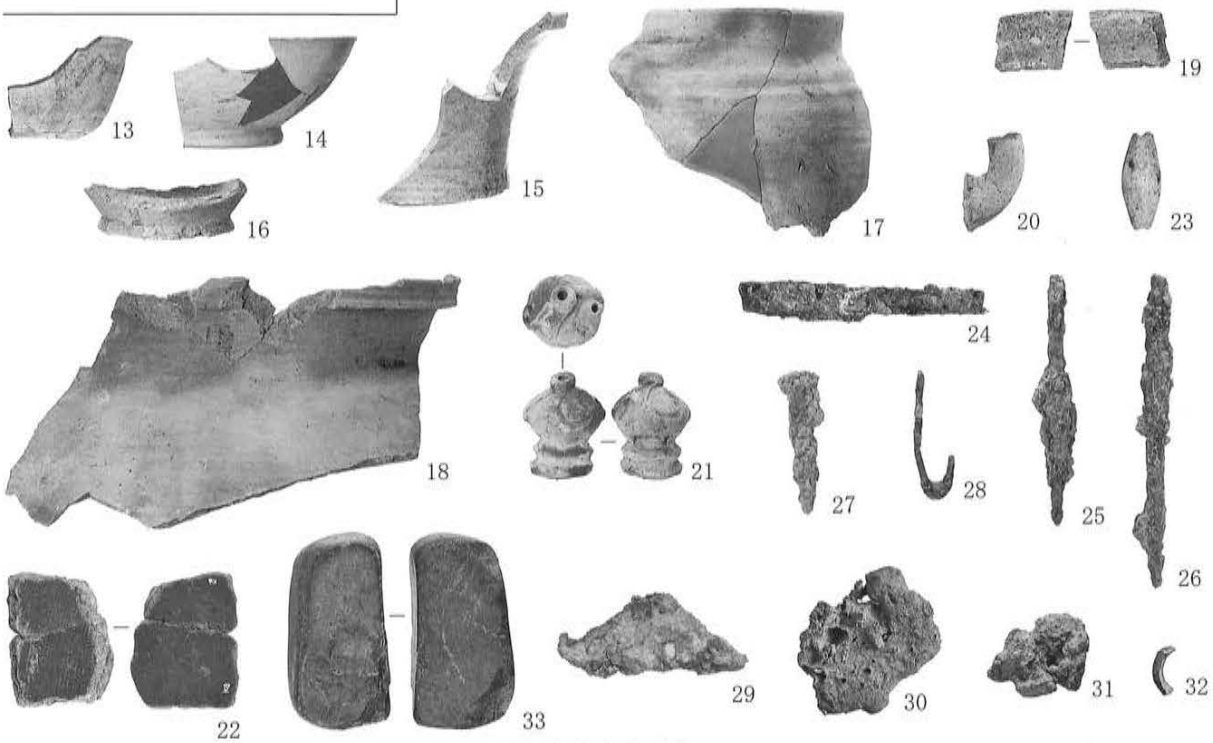
H－19 号住居址出土遺物



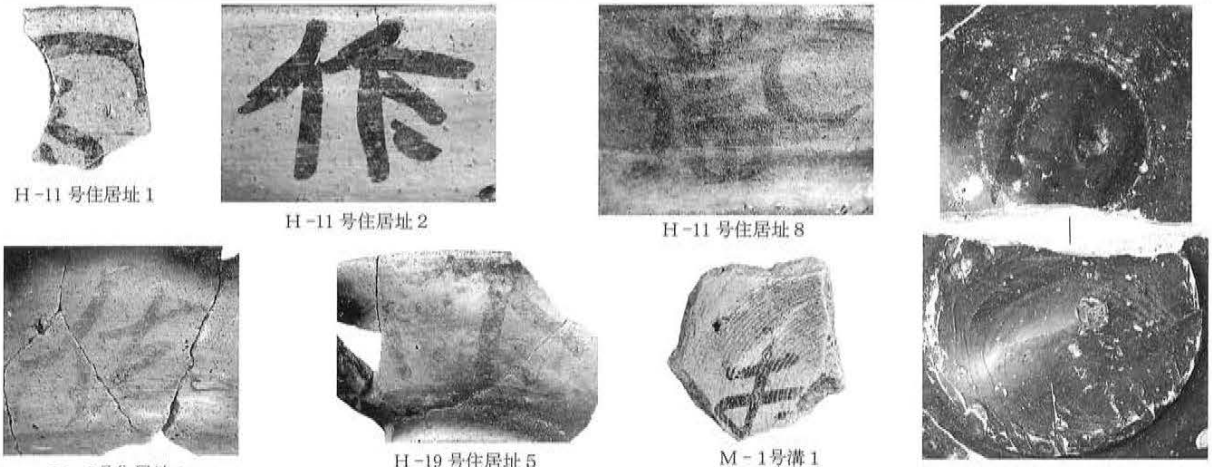
H－21 号住居址出土遺物



M－1号溝出土遺物



遺構外出土遺物



H－11 号住居址 1

H－11 号住居址 2

H－11 号住居址 8

H－3号住居址 9

H－19 号住居址 5

M－1号溝 1

H－21 号住居址 4

墨書赤外線写真

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	こくがなかわりいせき
書名	国衙中割遺跡
副書名	九十九地区生涯学習センター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	千田茂雄・有山径世
編集機関	安中市教育委員会
編集機関所在地	379-0292　群馬県安中市松井田町新堀 245　　TEL027-382-1111
発行年	西暦 2018 年（平成 30 年）３月 31 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
国衙中割遺跡（こくがなかわり）	安中市松井田町国衙字中割（あんなかしまついだまちこくがあざなかわり）115 － 1 他（ほか）	102113	K８	36° 32′ 46″	138° 81′ 41″	20150105 ～ 20160331	約 732 ㎡	九十九地区生涯学習センター建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
国衙中割遺跡	集落	古墳時代 平安時代 中世	竪穴住居址７棟 土坑１基 竪穴住居址 14 棟 溝 11 条 土坑６基	縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・風字硯・土製支脚・布目瓦・土製品（紡錘車・土錘・動物形）・石製品（管玉・模造品・臼玉・紡錘車）・鉄製品・羽口・鉄滓・銅製品・砥石・石棒・石皿・薦編石・炭化種子	古墳時代および平安時代の集落遺跡。 古墳時代後期のＨ-20 号住居址から鹿形土製品が出土。 平安時代の竪穴住居址から墨書土器、風字硯、灰釉陶器、緑釉陶器などが出土。

国衙中割遺跡

－九十九地区生涯学習センター建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成 30 年３月 28 日　印刷
平成 30 年３月 31 日　発行

編集・発行　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀 245

印　　刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町 67 番地